秋田県文化財調査報告書第449集

堂ノ沢遺跡

－一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－

２０１０・３

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市白坂(しろざか)遺跡出土の
「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

堂ノ沢遺跡

－一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－

２０１０・３

秋田県教育委員会

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、県北地域においては国道７号の混雑緩和、大館能代空港へのアクセス向上、生活圏中心都市間の連携強化等を目的とした一般国道７号鷹巣大館道路建設事業が行われております。本教育委員会では、これらの地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に先立って、平成20年度に大館市において実施した堂ノ沢遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、縄文時代中期と後期の集落跡や土坑墓群等が検出され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所、大館市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成22年３月

秋田県教育委員会

教育長　根　岸　　均

例　　言

1　本書は、平成20(2008)年度に行った大館市堂ノ沢遺跡(略号２ＤＮＳ)の発掘調査報告書で、一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書の１冊目である。

2　調査結果については、埋蔵文化財センター年報等で概要を報告しているが、本報告書をもって正式なものとする。

3　発掘調査から報告書作成に当たり、以下の業務については委託により実施した。

グリッド杭打設：株式会社北部測量設計

空中撮影：株式会社北日本朝日航洋

石器実測・デジタルトレース：株式会社アルカ

土器実測・デジタルトレース：特定非営利活動法人　歴史・環境・まちづくり(NPO法人CUBIS)

4　本書の原稿執筆及び編集は、谷地薫と長谷川幹子が行った。

5　本報告書の作成にあたり、次の方々から御指導、御助言をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。(敬称略、五十音順)

板橋範芳　和泉昭一　榎本剛治　小山内透　嶋影壮憲　滝内亨　武田喜代一　田村栄

凡　　例

1　本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「大館」、「早口」、「鷹巣東部」、「扇田」、1/50,000地形図「大館」、「鷹巣」及び国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所提供の１/1,000工事用図面である。

2　平面図の方位は、世界測地系平面直角座標第Ｘ系の座標北である。原点(ＭＡ50)における磁北は、座標北から７度00分20秒西偏する。

3　遺構に使用した略記号は下記のとおりである。

ＳＤ：溝跡、ＳＩ：竪穴住居跡、ＳＫ：土坑、ＳＮ：焼土遺構、ＳＱ：配石遺構

4　挿図にはそれぞれスケールを付して縮尺を表示した。

5　土層の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』2003年版に拠った。

8　挿図中のスクリーントーンは、図中に凡例を付した。

目　　次

序
例言・凡例・目次・挿図目次・表目次・図版目次
第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
第２章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　発掘調査の概要 …… 6
　第１節　遺跡の概観 …… 6
　第２節　調査の方法 …… 6
　第３節　調査の経過 …… 8
第４章　調査の記録 …… 9
　第１節　基本層序 …… 9
　第２節　縄文時代・弥生時代の検出遺構と遺物 …… 9
　第３節　縄文時代・弥生時代の遺構外出土遺物 …… 86
　第４節　時代不明の検出遺構と遺物 ……119
　第５節　時代不明の遺構外出土遺物 ……126
第５章　まとめ ……141
図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　工事計画図 …… 2
第３図　大館盆地の縄文時代遺跡分布図 …… 4
第４図　グリッド配置図 …… 7
第５図　遺構配置図 …… 10
第６図　基本土層図（１）51ライン …… 11
第７図　基本土層図（２）ＬＴライン、ＭＡライン …… 12
第８図　ＳＩ03竪穴住居跡 …… 14
第９図　ＳＩ04竪穴住居跡 …… 15
第10図　ＳＩ30竪穴住居跡 …… 17
第11図　ＳＩ38竪穴住居跡 …… 18
第12図　ＳＩ55竪穴住居跡 …… 20
第13図　ＳＩ57竪穴住居跡 …… 21
第14図　ＳＩ58竪穴住居跡 …… 22
第15図　ＳＩ80竪穴住居跡 …… 24
第16図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（１） …… 25
第17図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（２） …… 26
第18図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（３） …… 27
第19図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（４） …… 28
第20図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（５） …… 29
第21図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（６） …… 30
第22図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（７） …… 31
第23図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（８） …… 32
第24図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（９） …… 33

第25図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(10) …… 34
第26図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(11) …… 35
第27図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(12) …… 36
第28図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(13) …… 37
第29図　SK01土坑、SK05土坑・SK42土坑 …… 39
第30図　SK06土坑・SK33土坑、SK07土坑 …… 40
第31図　SK10土坑、SK12土坑・SK13土坑 …… 41
第32図　SK14土坑、SK15土坑 …… 42
第33図　SK16土坑 …… 43
第34図　SK17土坑・SK22土坑 …… 45
第35図　SK19土坑、SK20土坑 …… 46
第36図　SK21土坑・SK35土坑・SK43土坑 …… 47
第37図　SK23土坑、SK24土坑、SN25焼土遺構 …… 49
第38図　SK27土坑・SK34土坑、SK28土坑・SK29土坑 …… 50
第39図　SK31土坑・SQ09配石遺構、SK36土坑、SK39土坑 …… 51
第40図　SK40土坑、SK41土坑・SK77土坑・SK78土坑 …… 54
第41図　SK48土坑・SK49土坑・SK54土坑 …… 55
第42図　SK50土坑・SN26焼土遺構、SK51土坑 …… 56
第43図　SK52土坑、SK56土坑・SK81土坑・SK84土坑 …… 57
第44図　SK61土坑、SK62土坑・SK112土坑、SK63土坑 …… 59
第45図　SK64土坑、SK65土坑、SK66土坑 …… 61
第46図　SK67土坑、SK74土坑、SK75土坑、SK79土坑 …… 62
第47図　SK68土坑・SK69土坑・SK70土坑・SK71土坑・SK73土坑 …… 63
第48図　SK82土坑・SK83土坑・SK91土坑、SK85土坑 …… 65
第49図　SK86土坑、SK87土坑、SK88土坑・SK60土坑 …… 67
第50図　SK89土坑、SK90土坑 …… 69
第51図　SK94土坑、SK95土坑 …… 71
第52図　SK96土坑、SK97土坑 …… 73
第53図　SK105土坑、SK110土坑 …… 74
第54図　SK115土坑、SK117土坑、SN92焼土遺構 …… 75
第55図　SN121焼土遺構、SN122焼土遺構 …… 81
第56図　遺構内出土土器(１) …… 82
第57図　遺構内出土土器(２) …… 83
第58図　遺構内出土土器(３) …… 84
第59図　遺構内出土土器(４) …… 85
第60図　遺構内出土土器(５) …… 86
第61図　遺構内出土土器(６) …… 87
第62図　遺構内出土土器(７) …… 88
第63図　遺構内出土土器(８) …… 89
第64図　遺構内出土土器(９) …… 90
第65図　遺構内出土土器(10) …… 91
第66図　遺構内出土土器(11) …… 92
第67図　遺構内出土土器(12) …… 93
第68図　遺構内出土土器(13) …… 94
第69図　遺構内出土土器(14) …… 95
第70図　遺構内出土土器(15) …… 96
第71図　遺構内出土土器(16) …… 97
第72図　遺構内出土土器(17) …… 98
第73図　遺構内出土土器(18) …… 99
第74図　遺構内出土土器(19) …… 100
第75図　遺構内出土石器(１) …… 101
第76図　遺構内出土石器(２) …… 102
第77図　遺構内出土石器(３) …… 103
第78図　遺構内出土石器(４) …… 104
第79図　遺構外出土土器(１) …… 109
第80図　遺構外出土土器(２) …… 110
第81図　遺構外出土土器(３) …… 111
第82図　遺構外出土土器(４) …… 112
第83図　遺構外出土土器(５) …… 113
第84図　遺構外出土石器(１) …… 115
第85図　遺構外出土石器(２) …… 116
第86図　遺構外出土石器(３) …… 117
第87図　遺構外出土石器(４) …… 118
第88図　SK02土坑、SK59土坑、SK106土坑、SK120土坑、SN11焼土遺構 …… 121
第89図　SN46焼土遺構、SN114焼土遺構、SD47溝跡 …… 123
第90図　SN37焼土遺構、SQ93配石遺構、SQ104配石遺構 …… 124
第91図　SD119溝跡 …… 125
第92図　遺構内外出土製鉄関連遺物 …… 127
第93図　縄文時代時期別遺構変遷図 …… 143

表　目　次

第１表　大館盆地の縄文時代遺跡一覧表 …… 5
第２表　竪穴住居跡一覧表(１)・(２) …… 128・129
第３表　土坑一覧表(１)～(４) …… 128～131
第４表　遺構内出土土器観察表(１)～(４) …… 132～135
第５表　遺構外出土土器観察表(１)・(２) …… 136・137
第６表　石器観察表 …… 138
第７表　石器器種別出土点数一覧表 …… 139
第８表　同一個体土器の遺構間出土状況一覧表 …… 140

図　版　目　次

図版１
１　遺跡全景航空写真（南から）
２　遺跡全景航空写真（北東から）
図版２
１　遺跡近景（東から）
２　土坑群検出状況（東から）
図版３
１　ＳＩ03竪穴住居跡完掘状況（南西から）
２　ＳＩ04竪穴住居跡完掘状況（南東から）
３　ＳＩ30竪穴住居跡完掘状況（南から）
４　ＳＩ04、ＳＩ30竪穴住居跡完掘状況（東から）
５　ＳＩ38竪穴住居跡完掘状況（南西から）
６　ＳＩ55竪穴住居跡完掘状況（東から）
７　ＳＩ57竪穴住居跡完掘状況（北西から）
８　ＳＩ58竪穴住居跡、ＳＫ82・83・91土坑完掘状況（南から）
図版４
１　ＳＩ80竪穴住居跡完掘状況（西から）
２　ＳＩ80竪穴住居跡検出状況（南から）
３　ＳＩ80竪穴住居跡炉跡完掘状況（南から）
４　ＳＩ80竪穴住居跡祭壇状遺構完掘状況（東から）
５　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土状況（南東から）
図版５
１　ＳＫ01土坑完掘状況（東から）
２　ＳＫ05土坑完掘状況（南東から）
３　ＳＫ06・33土坑完掘状況（北から）
４　ＳＫ07土坑完掘状況（南から）
５　ＳＫ10土坑完掘状況（東から）
６　ＳＫ12土坑完掘状況（南から）
７　ＳＫ13土坑断面土層（南から）
８　ＳＫ13土坑完掘状況（南から）
図版６
１　ＳＫ14土坑完掘状況（南東から）
２　ＳＫ15土坑完掘状況（南から）
３　ＳＫ16土坑完掘状況（南東から）
４　ＳＫ19土坑完掘状況（南東から）
５　ＳＫ20土坑完掘状況（北東から）
６　ＳＫ21・35・43土坑完掘状況（南東から）
７　ＳＫ23土坑完掘状況（東から）
８　ＳＫ24土坑完掘状況（北東から）
図版７
１　ＳＫ27・34土坑、ＳＫ28・29土坑完掘状況（南から）
２　ＳＫ34土坑完掘状況（南西から）
３　ＳＫ36土坑遺物出土状況（南から）
４　ＳＫ39土坑完掘状況（東から）
５　ＳＫ40土坑検出状況（北東から）
６　ＳＫ40土坑完掘状況（北から）
７　ＳＫ42土坑完掘状況（北から）
８　ＳＫ48・49土坑完掘状況（南東から）
図版８
１　ＳＫ50土坑完掘状況（東から）
２　ＳＫ51土坑完掘状況（南東から）
３　ＳＫ52土坑完掘状況（南西から）
４　ＳＫ54土坑完掘状況（東から）
５　ＳＫ61土坑完掘状況（東から）
６　ＳＫ62土坑完掘状況（南東から）
７　ＳＫ63土坑完掘状況（東から）
８　ＳＫ64土坑完掘状況（東から）
図版９
１　ＳＫ65土坑遺物出土状況（西から）
２　ＳＫ65土坑完掘状況（北から）
３　ＳＫ66土坑完掘状況（南から）
４　ＳＫ67土坑完掘状況（南から）
５　ＳＫ68・69土坑完掘状況（東から）
６　ＳＫ70・71土坑完掘状況（東から）
７　ＳＫ74土坑完掘状況（東から）
８　ＳＫ75土坑完掘状況（南東から）
図版10
１　ＳＫ77・78・41土坑完掘状況（南東から）
２　ＳＫ79土坑完掘状況（南から）
３　ＳＫ85土坑完掘状況（南から）
４　ＳＫ86土坑完掘状況（南から）
５　ＳＫ87土坑完掘状況（南から）
６　ＳＫ88土坑完掘状況（東から）
７　ＳＫ89土坑完掘状況（東から）
８　ＳＫ90土坑完掘状況（東から）
図版11
１　ＳＫ94土坑完掘状況（北西から）
２　ＳＫ95土坑断面土層（南から）
３　ＳＫ96土坑断面土層（南から）
４　ＳＫ97土坑断面土層（南から）
５　ＳＫ105土坑完掘状況（東から）
６　ＳＫ110土坑完掘状況（東から）
７　ＳＫ115土坑断面土層（北から）
８　ＳＱ09配石遺構精査状況（東から）
図版12
１　ＳＫ02土坑断面土層（南東から）
２　ＳＫ106土坑完掘状況（北から）
３　ＳＫ112土坑完掘状況（南東から）
４　ＳＮ26焼土遺構検出状況（北から）
５　ＳＮ114焼土遺構断面土層（南から）
６　ＳＱ93配石遺構精査状況（東から）
７　ＳＱ104配石遺構精査状況（南から）
８　ＳＤ119溝跡完掘状況（北から）
図版13
１　ＳＩ04竪穴住居跡出土土器
２　ＳＩ38竪穴住居跡出土土器
３　ＳＩ30竪穴住居跡出土土器
４　ＳＩ30竪穴住居跡出土土器
５　ＳＩ55竪穴住居跡出土土器
６　ＳＩ30竪穴住居跡出土土器　人面突起
７　ＳＩ55竪穴住居跡出土土器
８　ＳＩ55竪穴住居跡出土土器
図版14
１　ＳＩ80竪穴住居跡出土土器
２　ＳＩ80竪穴住居跡出土土器
３　ＳＫ16土坑出土土器
４　ＳＫ23土坑出土土器
５　ＳＫ36土坑出土土器
６　ＳＫ36土坑出土土器
７　ＳＫ36土坑出土土器
８　ＳＫ36土坑出土土器
図版15
１　ＳＫ36土坑出土土器
２　ＳＫ62土坑出土土器
３　ＳＫ65土坑出土土器
４　ＳＫ85土坑出土土器
５　遺構外出土土器
６　遺構外出土土器
７　遺構外出土土器
８　遺構外出土土器
図版16
１　遺構内出土土器（１）
２　遺構内出土土器（２）
図版17
１　遺構内出土土器（３）
２　遺構内出土土器（４）
３　遺構内出土土器（５）
図版18
１　遺構内出土土器（６）
２　遺構内出土土器（７）
図版19
１　遺構内出土土器（８）
２　遺構内出土土器（９）
図版20
１　遺構内出土石器（１）
２　遺構内出土石器（２）
図版21
１　遺構外出土土器（１）
２　遺構外出土土器（２）
図版22
１　遺構外出土土器（３）
２　遺構外出土土器（４）
図版23
１　遺構外出土石器
２　遺構内外出土製鉄関連遺物

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

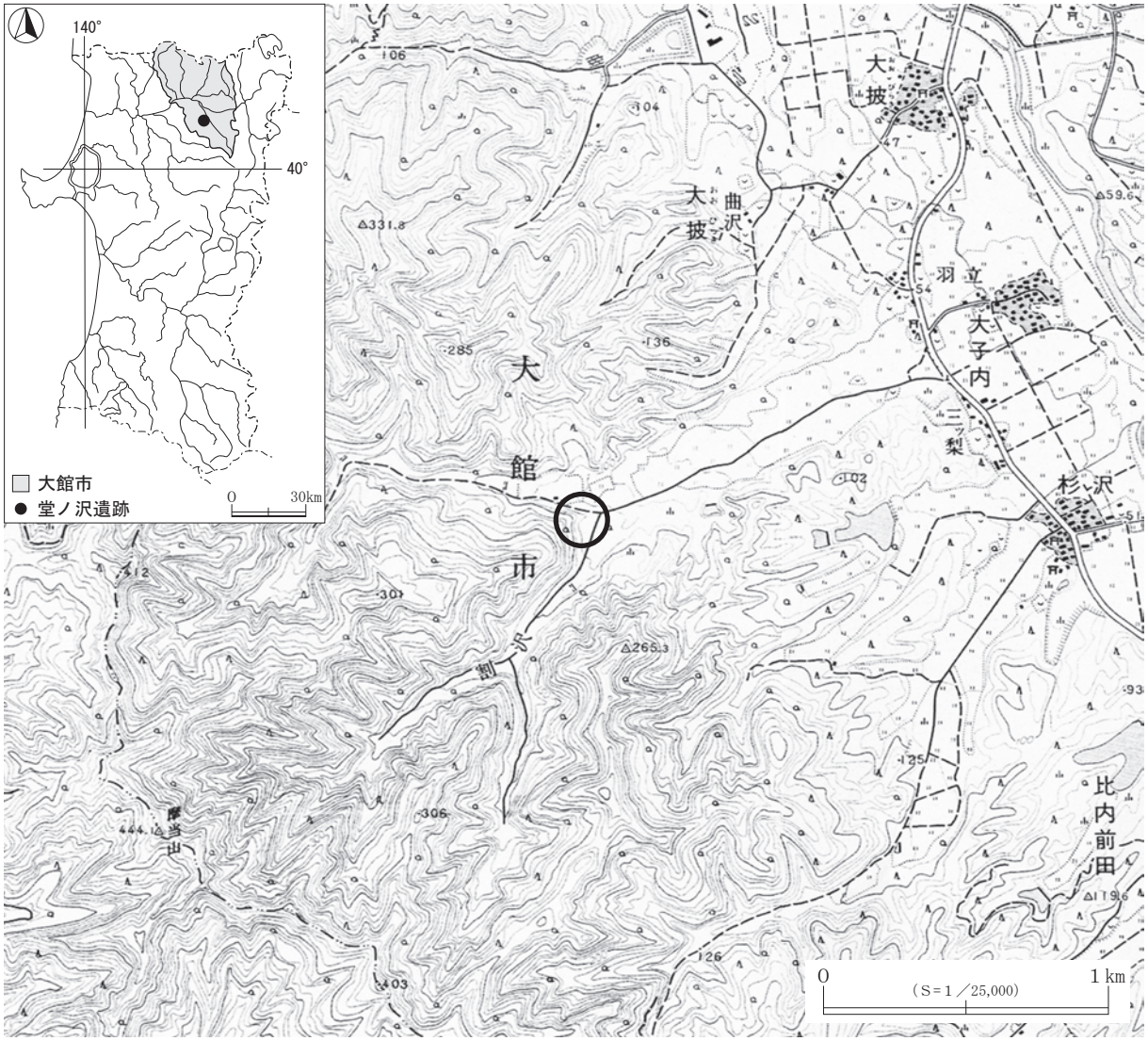
一般国道７号鷹巣大館道路は、大館能代空港へのアクセス向上、国道７号の混雑緩和、生活圏中心都市間(北秋田市～大館市)の連携強化等を目的に計画された自動車専用道路である。事業区間は、北秋田市脇神から大館市櫃崎まで、総延長は13.9㎞である。平成17年度から北秋田市栄－大館市櫃崎間(L=8.3㎞)の建設事業が開始された。平成19年度には、あきた北空港I.C－北秋田市栄間(L=5.6㎞)の延伸が事業化された。

この建設事業に伴い秋田県教育委員会は、平成19年５月～12月に北秋田市栄から大館市出川までの遺跡分布調査を行い、区間内に周知の遺跡２か所、堂ノ沢遺跡など新発見の遺跡３か所を確認した。これらの遺跡の取り扱いについて、国土交通省と秋田県教育委員会が協議し、堂ノ沢遺跡については記録保存の措置をとることとなった。

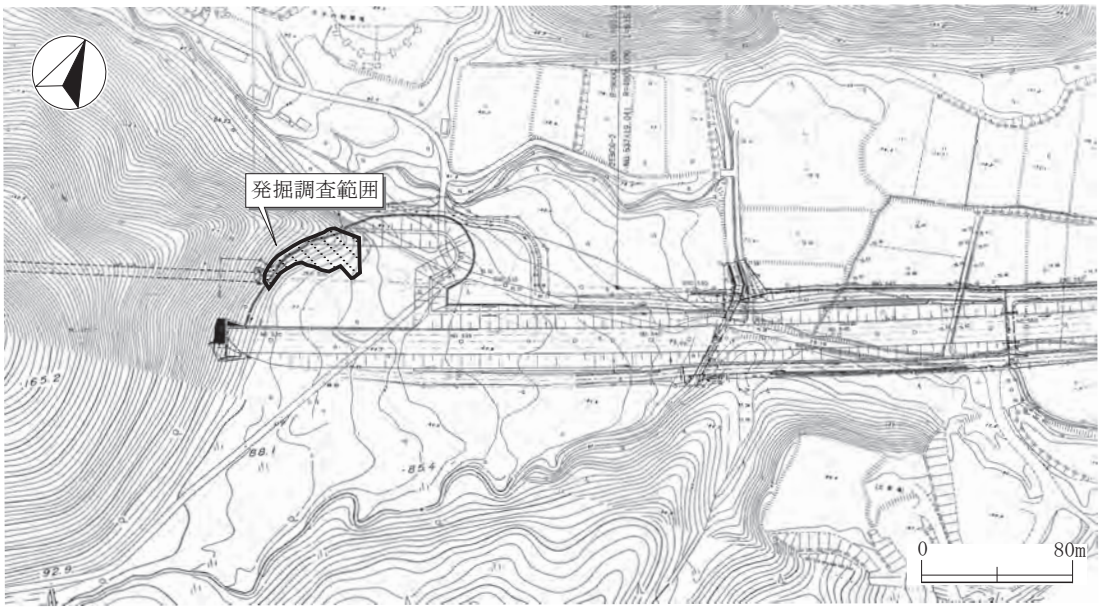
秋田県教育委員会は、平成19年12月25日～26日に確認調査を行い、工事範囲内の850㎡については発掘調査が必要であることを国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所長に通知した。堂ノ沢遺跡の発掘調査は、調査実施のための諸条件整備後、平成20年５月21日から８月５日まで、秋田県埋蔵文化財センターが実施した。

第２節　調査要項

遺　跡　名	堂ノ沢遺跡(どうのさわいせき)
遺跡略号	２ＤＮＳ
遺跡所在地	秋田県大館市大子内字堂ノ沢53ほか
調査期間	平成20年５月21日～８月５日
調査面積	850㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	谷地　薫　(秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　主任学芸主事)
	長谷川幹子(秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　調査・研究員)
総務担当者	時田　慎一(秋田県埋蔵文化財センター中央調査班　主任専門員)
調査協力機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
	大館市教育委員会



第１図　遺跡位置図



第２図　工事計画図

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

堂ノ沢遺跡は、秋田県大館市大子内字堂ノ沢に所在する(第１図)。北緯40度13分50秒、東経140度29分18秒である。遺跡が所在する大館市は秋田県の北東部に位置し、平成17年に旧比内町、旧田代町と合併して面積913.7㎢、人口約８万２千人となった県北の拠点都市である。遺跡は、ＪＲ奥羽本線の大館駅から南西約8.5㎞、大子内集落から南西に約1.9㎞の山間にある。遺跡の北東約2.4㎞には大館市指定天然記念物「出川のけやき」、東北東約1.5㎞には忠犬ハチ公の生家がある。

大館市の地形は、断層により形成された陥没盆地である大館盆地、盆地を囲む山地、山麓沿いに分布する扇状地、盆地内の河川沿いに広がる沖積低地からなる。山地は、北西に白神山地、東に高森山地、南西に摩当山地がある。盆地内を流れる主要河川は、南東から北西に流下する米代川及びその支流河川である。米代川右岸には、盆地北西部を南流する山田川、北部を南流する下内川とその支流花岡川及び大森川、中央部を西流する長木川があり、これらの河川が形成した河岸段丘が発達している。米代川左岸には、引欠川、犀川が南東から北西に流下し、盆地西部で米代川と合流している。

大館盆地の西端は、摩当山地北東から連続する比内丘陵地である。この丘陵地には、摩当山地に源を発する小河川によって開析された東西方向の浸食谷が平行に並ぶ。堂ノ沢遺跡が所在する割沢もその一つで、大子内集落のある引欠川低地から西に長さ約1.3㎞、幅約250ｍの谷底低地が入り込み、その最奥部に突き出た丘陵上に遺跡が立地する(第２図)。

遺跡の立地する丘陵の表層地質は、河成二次堆積物で、礫層の上に小礫層、粗砂層、シルト層が堆積し、その上を厚さ約１ｍの黄褐色火山灰土が覆っている。剥片石器の原材料となる頁岩は、新第３紀の大滝層に含まれている。大滝層は油田地帯の女川層に酷似し、硬質泥岩と凝灰岩の互層を成して大館盆地北方の高森山地に広く分布する。

第２節　歴史的環境

堂ノ沢遺跡発掘調査では、主に縄文時代中期後葉～晩期前葉の遺構、遺物を検出した。

大館盆地の縄文時代遺跡は、早期後葉以降、米代川とその支流の河岸段丘や低丘陵地上に分布する(第３図)。早期の貝殻条痕文土器を伴う竪穴住居跡が根下戸道下遺跡(4-126)、坂下Ⅱ遺跡(4-157)で発見されたほか、鳶ケ長根Ⅳ遺跡(4-123)など各地で貝殻条痕文土器が出土している。盆地西端部の下野Ⅱ遺跡(4-164)では土坑墓群が調査され、堂ノ沢遺跡でも土器片が２点出土した。

早期末以降円筒下層ａ式期までの間は集落遺跡が未発見で土器出土例もきわめて少ない。前期の円筒下層a式期以降になると、池内遺跡(4-68)、山館上ノ山遺跡(4-71)など、大量の出土遺物を伴う集落遺跡が営まれ、前期円筒土器も盆地内の各地で出土している。

中期円筒上層式期の集落遺跡は、大館盆地東縁の段丘上に立地する餌釣館遺跡(4-69)、山館上ノ山遺跡(4-71)等が発掘調査されている。盆地西縁では堂ノ沢遺跡が初例である。餌釣館遺跡では、堂ノ

沢遺跡と同様に円筒上層式土器と大木式土器が出土した。

中期後葉～末の集落遺跡は、米代川河畔の本道端遺跡(12-19)、支流山田川の河岸段丘上に立地する鳴滝遺跡(4-41)、盆地東端の玉林寺跡(4-56)等が発掘調査されている。この時期は、一般に集落遺跡数の増加が顕著であるが、大館盆地での発見例は多くない。

後期の集落遺跡は、塚ノ下遺跡(4-53)、寒沢遺跡(4-74)、萩峠遺跡(4-81)が発掘調査されている。塚ノ下遺跡からは、両眼に天然アスファルトを塗布した土偶が出土した。寒沢遺跡は、集落内に配石遺構があり、竪穴住居跡内に豊富な器種の土器が遺棄されていた。貯蔵穴又は墓坑と推定されるフラスコ状土坑群は、男神遺跡、萩峠遺跡などで調査されている。

晩期の集落遺跡は、家ノ後遺跡(4-147)がある。家ノ後遺跡では、後期末～晩期初頭の竪穴住居跡、土坑墓群、粘土採掘坑が発掘調査され、段丘崖の捨て場から多量の遺物が出土した。山館上ノ山遺跡(4-71)、谷地中遺跡(4-151)では、晩期のフラスコ状土坑群が調査された。両遺跡とも副葬土器から土坑墓と推定できる土坑もあるが、規模が大きく副葬品がないなど貯蔵穴か墓坑かを判断することが難しい土坑も多い。

第３図　大館盆地の縄文時代遺跡分布図

晩期末から弥生前期の集落遺跡は、諏訪台Ｃ遺跡(4-51)がある。大館盆地では、弥生時代遺跡の発見例は未だ少ないが、堂ノ沢遺跡で弥生前期と後期の土器片が少数出土したことから、今後、さらに遺跡が発見される可能性もある。

引用・参考文献

秋田県　『土地分類基本調査　大館』　1986(昭和61)年

大館市史編纂委員会　『大館市史　第１巻』　1979(昭和54)年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(北秋田地区版)』　2006(平成18)年

第１表　大館盆地の縄文時代遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	時期	遺構・遺物等
4-10	釈迦池	前期・中期・後期・晩期	竪穴遺構、縄文土器、石器、弥生土器
4-11	橋桁	後期・晩期	縄文土器
4-13	福館橋桁野	前期・中期・晩期	竪穴住居跡、縄文土器
4-18	根井下	前期	縄文土器
4-19	十三森	前期・晩期	縄文土器
4-20	七ッ館	晩期	縄文土器、石器、石製品、土製品
4-22	狼穴	前期	縄文土器、岩偶
4-23	釈迦内中台Ⅰ	早期・前期	土坑、縄文土器、石器
4-24	釈迦内中台Ⅱ		
4-31	松木	前期	縄文土器
4-32	鍛冶屋敷	後期	縄文土器、石器
4-34	沼館	後期	縄文土器
4-35	赤石沢Ⅰ		縄文土器
4-36	赤石沢Ⅱ		縄文土器
4-37	長瀞Ⅱ		縄文土器
4-38	長瀞Ⅰ	中期～晩期	縄文土器、石器
4-41	鳴滝	中期・後期・晩期	竪穴住居跡、フラスコ状ピット、組石土坑、縄文土器、石器、土製品、石製品、統縄文土器
4-43	餅田屋敷添	前期	不整円形土坑、縄文土器
4-44	片山館コ		統縄文時代竪穴遺構
4-49	芦田子上岱	前期	縄文土器
4-50	大茂内	前期・中期	縄文土器
4-51	諏訪台	前期、中期、後期、晩期	竪穴住居跡、配石遺構、縄文土器、石器、弥生土器
4-52	小茂内沢		縄文土器
4-53	塚ノ下	前期、後期	竪穴住居跡、フラスコ状ピット、石囲炉、縄文土器、土偶、石器
4-54	茂内	前期	縄文土器
4-56	玉林寺跡	中期	竪穴住居跡、土坑、縄文土器
4-57	小雪沢	晩期	縄文土器、石鏃
4-63	太平山	晩期	縄文土器、土製品
4-65	扇田道下	中期・後期	縄文土器
4-66	萩ノ台Ⅰ	中期・後期	縄文土器
4-67	萩ノ台Ⅱ	前期・中期	縄文土器
4-68	池内	前期・中期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状ピット、縄文土器、石器
4-69	餌釣館	中期	竪穴住居跡、縄文土器
4-71	山館上ノ山	前期・中期・後期・晩期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状ピット、縄文土器、石器
4-72	竜毛岱	中期・後期	縄文土器
4-73	兎沢		縄文土器
4-74	寒沢	早期・後期	竪穴住居跡、配石遺構、縄文土器、石器
4-75	冷水山根	前期・中期・後期	縄文土器、石器
4-76	野沢岱Ⅰ	早期・前期	縄文土器
4-77	野沢岱Ⅱ	中期	縄文土器、石器
4-78	野沢岱Ⅲ	早期、前期、中期、後期	竪穴住居跡、土坑、縄文土器、青竜刀形石器、磨製石器
4-79	野沢岱Ⅳ		縄文土器、石器
4-80	下聖	前期・中期・後期	縄文土器
4-81	萩峠	後期	竪穴住居跡、縄文土器
4-96	バッコ沢	晩期	縄文土器、石器
4-99	本宮上ノ山		縄文土器
4-100	本宮中台		縄文土器
4-101	下野	後期・晩期	縄文土器、石匙、磨製石器
4-106	林ノ上		石器
4-107	曲沢		縄文土器
4-114	山根岱		縄文土器
4-118	宮袋	晩期	縄文土器
4-120	沢口	後期	縄文土器、弥生土器
4-121	鳶ケ長根Ⅱ	晩期	土坑、縄文土器、石器
4-122	鳶ケ長根Ⅲ	晩期	竪穴住居跡、土坑、縄文土器、石器
4-123	鳶ケ長根Ⅳ	早期・前期・後期・晩期	竪穴住居跡、埋甕炉、埋設土器、土坑、縄文土器、弥生土器
4-124	岩神		縄文土器
4-125	芋掘沢	前期・中期	石蓋甕棺、縄文土器
4-126	根下戸道下	早期、後期	土坑、Ｔピット、縄文土器
4-130	道目木		縄文土器
4-131	根下戸Ⅰ		縄文土器、石器
4-132	根下戸Ⅱ		Ｔピット
4-133	根下戸Ⅲ	前期	縄文土器、石器
4-134	二つ森Ⅱ		縄文時代土坑、Ｔピット、弥生時代土坑墓、縄文土器、石器、弥生土器
4-135	狼穴Ⅱ	前期	竪穴住居跡、土坑、Ｔピット、縄文土器、石器
4-136	狼穴Ⅲ	早期、前期、中期、後期	土坑、縄文土器、石器
4-137	狼穴Ⅳ	早期、前期、中期	土器埋設遺構、土坑、縄文土器
4-138	二つ森		縄文土器、石器
4-141	小館町		縄文土器、石器
4-142	蛇沢口		縄文土器、石器
4-143	諏訪台Ｄ		縄文土器、石器
4-144	餌釣	中期	竪穴住居跡、土坑、焼土、縄文土器、石器
4-145	上野	早期、前期、中期、後期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑、屋外炉、焼土、溝跡、縄文土器、石器、土製品、石製品
4-146	上聖	前期、中期、後期、晩期	土坑、焼土、配石、縄文土器、石器
4-147	家ノ後	晩期	竪穴住居跡、土坑、土坑墓、焼土、溝跡、粘土採掘坑、捨て場、縄文土器、石器、土製品、石製品
4-148	寒沢Ⅱ		屋外炉、捨て場、縄文土器、石器、土製品、石製品
4-149	中山		竪穴住居跡、堀立柱建物跡、土坑、立石、溝跡、縄文土器、石器、土製品
4-150	陳場岱Ⅱ	前期、中期、後期	竪穴住居跡、フラスコ状土坑、縄文土器、石器
4-151	谷地中	晩期	土坑、フラスコ状土坑、柱穴様ピット
4-152	田ノ沢山	前期、後期、晩期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑、土器埋設遺構、焼土、柱穴様ピット、縄文土器
4-153	野崎	早期、前期、中期	竪穴住居跡、土坑、焼土、縄文土器、石器
4-154	田ノ沢	前期	縄文土器
4-155	男神	前期～後期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑、捨て場、縄文土器、石器
4-156	坂下Ⅰ		土坑
4-157	坂下Ⅱ	早期、前期、後期	竪穴住居跡、土坑、焼土遺構、縄文土器、石器
4-158	栗木山	前期・中期・後期	土坑、縄文土器、石器、
4-159	繋沢Ⅱ	晩期	縄文土器
4-160	和台Ⅰ	中期	縄文土器、石器
4-161	和台Ⅱ		縄文土器
4-164	下野Ⅱ	早期	土坑墓、縄文土器、石器
12-10	味噌内	後期	配石遺構、縄文土器
12-11	宿内中岱	前期・後期	縄文土器
12-13	横沢	早期・中期	竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑、縄文土器、板状土偶
12-14	大岱	前期	縄文土器
12-15	横沢Ⅱ	前期	縄文土器
12-17	長岡城		石器
12-19	本道端	早期・前期・中期・晩期	竪穴住居跡、土坑、集石遺構、縄文土器
12-22	長内沢	前期	縄文土器
12-27	片貝	晩期	縄文土器
12-28	二つ森	晩期	縄文土器
12-29	寺崎Ⅰ	晩期	縄文土器
12-30	寺崎Ⅱ	晩期	縄文土器
12-31	五輪台Ⅰ	晩期	縄文土器
12-32	五輪台Ⅱ	晩期	縄文土器
12-34	一通	晩期	縄文土器
12-35	畑沢	晩期	縄文土器
12-36	水無		フラスコ状土坑
12-37	二つ森Ⅱ		竪穴住居跡、フラスコ状土坑
15-8	柏木	統縄文	竪穴住居跡、組石土坑墓
15-10	下館		
15-21	向家下館		縄文土器

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

堂ノ沢遺跡は、大館市と北秋田市の境界にそびえる標高444mの摩当山の北東麓に位置し、米代川水系引欠川の支流割沢川とその小支谷の合流部で南北を挟まれ、東側に突き出た嘴状の低丘陵上に立地する(第１～３図)。この低丘陵は東西約30m、南北約20mの規模である。西側は急峻な山地の斜面に連続し、上面の東西約10m、南北約15mの狭い平坦面と、南、東、北の斜面からなる。割沢川に面した南斜面と丘陵先端部が尾根状に東に延びる東斜面は、傾斜が比較的緩い。林道造成によって掘削された北斜面、後世の掘削が入った南斜面及び東斜面の裾部は、人工的な急崖となっている。

平坦面は、北西から南東に緩く傾斜し、西側の最奥部で標高90.6m、平坦面の中央付近で90.2m、平坦面東端付近で89.6mである。調査前は杉林で、調査直前に伐採搬出され、直径50㎝を超える大木の切り株が数多く残されていた。遺跡西側の山地中腹には小祠があり、その参道が丘陵東端から平坦面を通り山地の急斜面に続いていた。参道沿いに特に大木が多いことから、かつては参道沿いに杉並木が保存されていたことが窺える。山地の斜面に続く南西斜面は雑木林であった。

本来の遺跡範囲はこの低丘陵全体で、大きく掘削された北斜面と、南、東斜面の下部にも遺構、遺物が分布していたと推測される。平坦面の北西、西、南西側は山地の急斜面となるが、地形、堆積土及び試掘結果から、遺構、遺物は分布せず、遺跡の範囲外と考えられる。

堂ノ沢遺跡の立地する丘陵は、工事計画では摩当山を貫通するトンネルの大館側出入口の地点に当たる(第２図)。丘陵地全体が掘削又は盛土の対象となっていたことから、残存する遺跡範囲全域を対象に発掘調査を実施した。

発掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡８棟、土坑72基、焼土遺構４基、配石遺構１基、時代不明(平安時代以降)の土坑７基、焼土遺構５基、溝跡２条、配石遺構２基を検出した。遺物は、縄文土器(早期、前期、中期、後期、晩期)、弥生土器(前期、後期)、石器、フイゴ羽口、鉄滓が出土した。

縄文時代中期後葉の竪穴住居跡は平坦面の最奥部と南斜面、後期の竪穴住居跡は東斜面と南斜面に分布する。縄文時代の土坑は、南斜面、東斜面上部、北斜面上部と平坦面に分布し、東斜面上部では重複が著しい。平坦面の中央部には分布空白域がある。

平安時代以降の遺構は平坦面に分布し、埋土には火山灰や軽石を含む。フイゴ羽口と鉄滓は、遺跡内広範囲の表土中から散在して出土した。

第２節　調査の方法

１　発掘調査

調査はグリッド法で行った。調査対象範囲内で、世界測地系平面直角座標第Ｘ系上の任意の点(Ｘ＝25673.542、Ｙ＝-29363.067)を設定し、これをグリッド原点のＭＡ50とした。この点を通る座標系の南北方向に南北基線と、これに直交する東西基線を設定し、両基線に平行する4mごとの線の

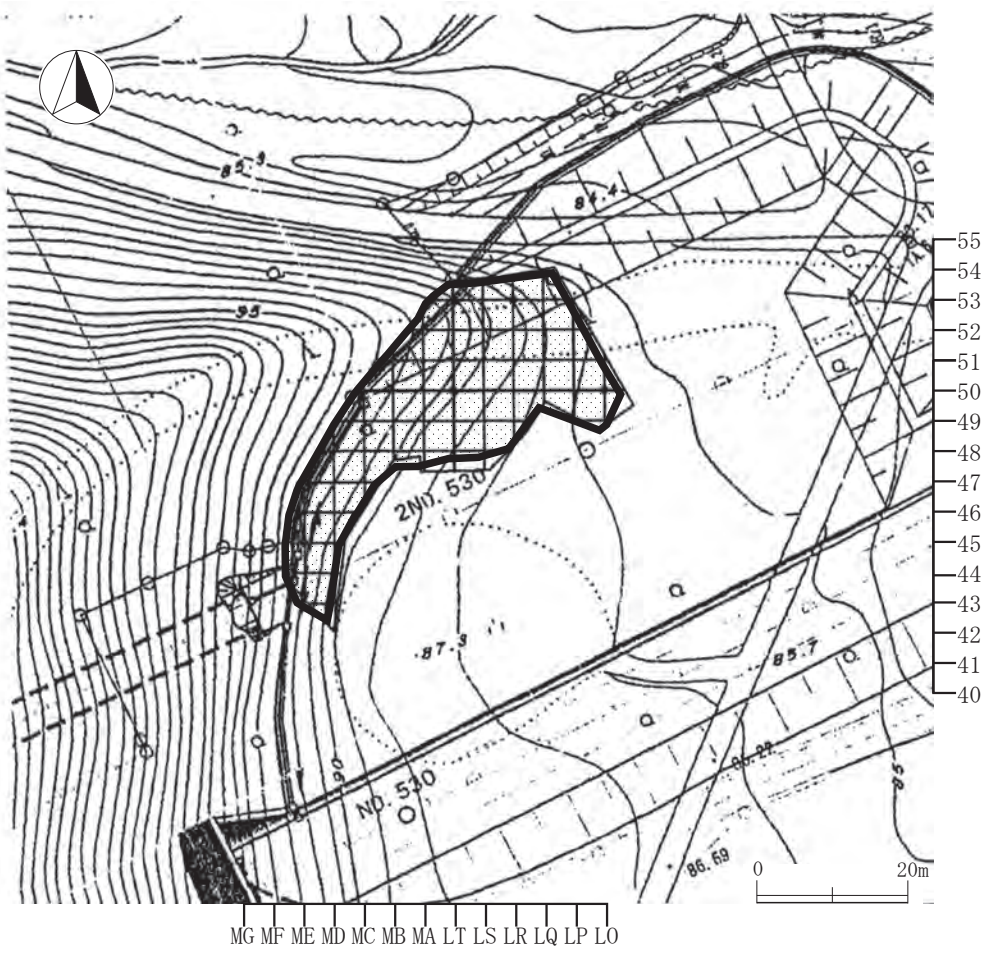
交点に方眼杭を打設して4m×4mのグリッドを設定した。原点を通る南北線をＭＡ、東西線を50とし、南北線はアルファベットＡ～Ｔ２文字の組み合わせで東から西に昇順、東西線は２桁数字で南から北に昇順となるように、各方眼杭に記号を付した。グリッドの呼称は、各グリッドの南東隅の方眼杭の記号を用いた(第４図)。方眼杭のうち４本には、遺跡付近の水準点から標高を移動した。

遺構は、検出順に種別を示す記号と通し番号を付けた。精査の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。遺構精査は、二分法又は四分法により、断面土層の観察、写真撮影、断面図作成後に完掘した。土層注記のうち、しまりと粘性については、度合いの強い方より３～１の数値で表記した。完掘後、写真撮影と平面図作成を行った。

遺構内出土遺物は、出土遺構名・層位・遺物番号・出土年月日を記入して全点ドット方式で、遺構外出土遺物はグリッド・層位・出土年月日を記入してグリッド単位で取り上げた。

平面図及び断面図は、原則として1/20の縮尺で作成した。平面図は、グリッド杭を基準とした簡易遣り方測量により作成した。

写真撮影は、35㎜のモノクロ及びリバーサルフィルム並びにデジタルカメラを使用した。遺構写真は、原則として検出状況、断面土層、完掘状況の順で撮影し、適宜遺物出土状況等も加えた。航空写真は、ラジコン・ヘリコプターに搭載した６×６モノクロ及びリバーサルフィルムカメラで撮影した。



第４図　グリッド配置図

２　整理作業

発掘現場で作成した図を第１原図とし、平面図と断面図の整合及び遺物の平面・垂直分布描出を行った図を第２原図とした。遺物は、洗浄、注記、点数把握、個別観察、個体識別を行った後、報告書掲載遺物の選別を行い、接合・復元、実測、拓本採拓を行った。復元土器９点、石器29点の実測は外部委託した。製図・編集は、Adobe社「PhotoshopCS3」、「IllustratorCS3」を使用してデジタルトレース及びデジタル編集を行った。遺物写真は35mmモノクロフィルムで撮影した。

第３節　調査の経過

発掘調査は、平成20年５月21日～８月５日まで、調査員２名、作業員13名の体制で実施した。調査に先立ち、５月14日～26日に水準杭及び方眼杭打設を行った。

発掘作業は、表土除去から遺構精査まで、スコップや移植ゴテなどを使用して全て人力で掘削を行った。確認調査時に南西部の急斜面でフラスコ状土坑１基（SK01）を検出していたことから、この区域から調査に着手し、その後北側に調査範囲を広げて遺構検出と遺構精査を行った。南西部では他に遺構がなく地形と堆積層から遺構が分布する可能性がきわめて低いと判断されたことから、一部はトレンチ調査とした。

調査着手後、工事工程との調整で、調査対象区域のうち南部を６月末で先行して分割引き渡しすることになり、概ね51ラインより南側の遺構精査、記録撮影を優先して行った。この範囲では、竪穴住居跡（ＳＩ03、ＳＩ04、ＳＩ30、ＳＩ38、ＳＩ57等）やフラスコ状土坑の検出が相次ぎ、土坑（SK36）から縄文後期の復元可能土器５個体がまとまって出土するなど、遺構分布が濃密であった。南半部の遺構精査がほぼ終了した６月25日に航空写真撮影を行った。

６月28日、遺跡見学会を開催し、120名の来跡者に遺跡を公開した。翌日、北鹿新聞、大館新報、秋田魁新報に記事が掲載された。

６月30日、調査の終了した調査区南部を国土交通省に引き渡し、境界フェンスの設置と切土工事が始まった。この後、フェンス際まで盛土工事となり、重機の振動と騒音に苦労することとなった。

７月に入り、調査は51ライン以北の粗掘、遺構検出、遺構精査に移った。この範囲では直径50㎝を超える大木の切り株が数多く残っており、人力による抜根に難儀した。51ライン以南から連続して土坑の検出が相次ぎ、中には後期末の完形小型深鉢が倒立状態で出土した土坑（SK65）もあった。

７月上旬、平坦面最奥部で遺物が集中する箇所を精査し、竪穴住居跡（ＳＩ80）であることが判明した。埋土中からは円筒上層ｅ式土器と大木８a式土器が出土した。平坦面の北端では、底面直径２m以上、深さ1.6m以上の大型フラスコ状土坑を４基（SK95、SK96、SK97、SK110）検出した。

７月下旬、ＳＩ80竪穴住居跡は、長軸西端部に溝と柱穴からなる祭壇状遺構があることが判明、埋土中からは復元可能な大木８a式のキャリパー形深鉢１個体が出土した。

８月１日、検出した全遺構の精査、実測を終了。大館郷土博物館板橋館長ほか３名が来跡し、大館盆地の縄文時代遺跡について教示をいただく。８月４日、撤収作業とともに、調査区全体の完掘写真撮影を行い、８月５日、国土交通省に現場を引き渡して発掘調査を終了した。

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

遺跡の基本層位図は、東に突出する丘陵を縦断する51ラインと横断するＭＡライン及びＬＴラインで作成した(第５図、第６図、第７図)。基本層序は次のとおりである。

Ｉ－ａ層　表土。黒褐色シルト。腐植土。地表面付近は植物根により孔隙が多い。

Ｉ－ｂ層　盛土。砂礫混じりの暗褐色シルト。平坦面の中央付近が最も厚く層厚約30㎝。平坦面に広く分布し、東西方向に低い土塁状に堆積している。

Ｉ－ｃ層　盛土以前の旧表土。黒褐色土シルト。軽石を含む。10世紀以降の表土。

Ｉ－ｄ層　Ｉ－ｃ層中に構築されたＳＮ47焼土遺構周辺に部分的に堆積し、Ｉ－ｃ層にＳＮ47焼土遺構に由来する炭化物が混入する部分。

Ｉ－ｅ層　Ｉ－ｃ層最下部のⅡ－ａ層との層界付近で、Ⅱ－a層の火山灰がＩ－ｃ層にブロック状に混入する部分。火山灰層が残る地点付近に部分的に堆積する。

Ⅱ－ａ層　大湯浮石層。軽石と火山灰の堆積層。平坦面中央部から西側に堆積する。南斜面にはない。東斜面では、ＳＩ55竪穴住居跡が埋没しきっていない窪地に厚く堆積していた。

Ⅱ－ｂ層　大湯浮石層直下の暗褐色土層。平安時代前期の降灰時の旧表土。Ⅱ－ａ層とともに部分的に堆積する。

Ⅱ－ｃ層　火山灰を含まない、黒褐色シルト。縄文時代～平安時代前期の旧表土。遺構外遺物の包含層。

Ⅲ層　地山漸移層。暗褐色シルト。層上面が遺構検出面。

Ⅳ層　地山。黄褐色ローム。黄褐色軽石を含む。

Ｉ－ａ層及びＩ－ｃ層、Ⅱ－ｃ層、Ⅲ層は、平坦面全面及び斜面の遺構外にも堆積している。他の層は部分的堆積である。東斜面は、削平が地山まで及んでおり、Ｉ－ａ層直下にⅣ層が露出している。

第２節　縄文時代・弥生時代の検出遺構と遺物

１　竪穴住居跡

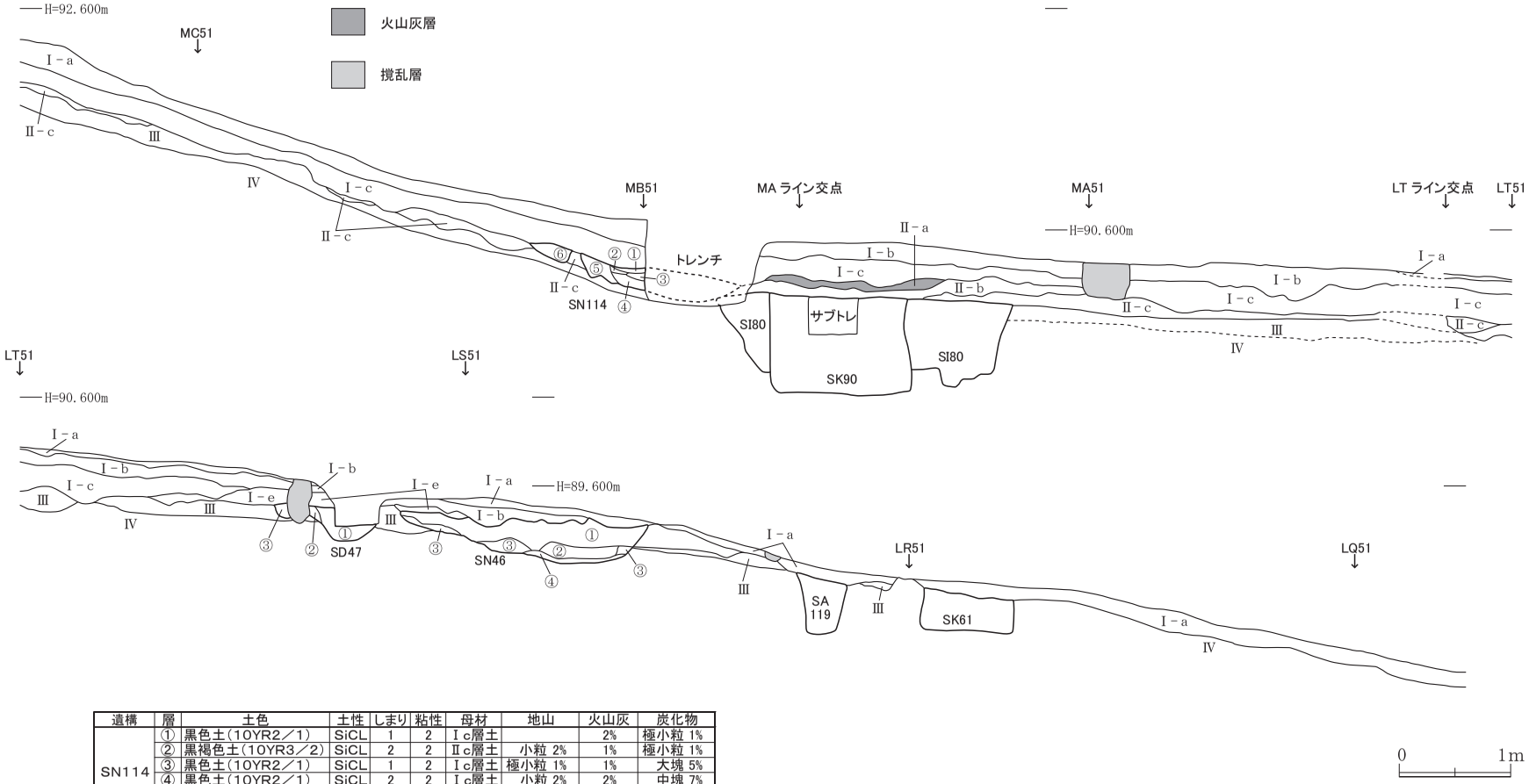
縄文時代の竪穴住居跡８棟を検出した。中期後葉の竪穴住居跡は平坦面の最奥部１棟と南斜面１棟、後期中葉～後葉の竪穴住居跡は東斜面１棟、南斜面３棟、平坦面東縁に１棟が分布する。東斜面と南斜面の竪穴住居跡は、斜面上部側の約半分のみが残存する。

各竪穴住居跡の属性は第２表に集約して掲載した。出土遺物の属性は第４表(土器)及び第６表(石器)に記載した。出土土器の個体識別をした結果、遺構間で同一個体破片が出土したものは、第８表に破片点数を掲載した。

MAライン
51ライン
LTライン
MA54
LQ54
MC50
LP50
ME49
MA49
LS48
MC47
MD45
ME42
88.0m
90.0m
92.0m
SK96
SK95
SK110
SK97
SK94
SK106
SK115
SA119
SQ104
SK71
SK70
SN114
SQ93
SK73
SK69
SK68
SK64
SK105
SK87
SK120
SK88
SK60
S158
SK86
SK67
SK117
SK66
SK91
S155
SK121
S180
SK89
SK85
SK63
SN92
SK65
SK82
SK112
SK62
SN122
SD47
SK79
SK51
SK90
SK52
SK83
SK61
SK02
SK41
SK74
SK50
SN46
SK59
SK40
SK84
SK81
SK54
SK75
SK33
SN26
S157
S103
SK39
SK48
SK24
SK49
S138
SK06
SK78
SK56
SK43
SK17
SN25
SK23
SK05
SK19
SK22
SK20
SK77
SK21
SK07
SK42
SK35
SK28
SN37
SK36
SN11
SK10
SK29
SK12
S130
SK14
SQ09
SK13
SK15
SK31
SK34
SK16
SK27
S104
SK01
0
1/300
8m
54
53
52
51
50
49
48
47
46
45
44
43
42
MF
ME
MD
MC
MB
MA
LT
LS
LR
LQ
LP

第５図　遺構配置図

51ライン土層図

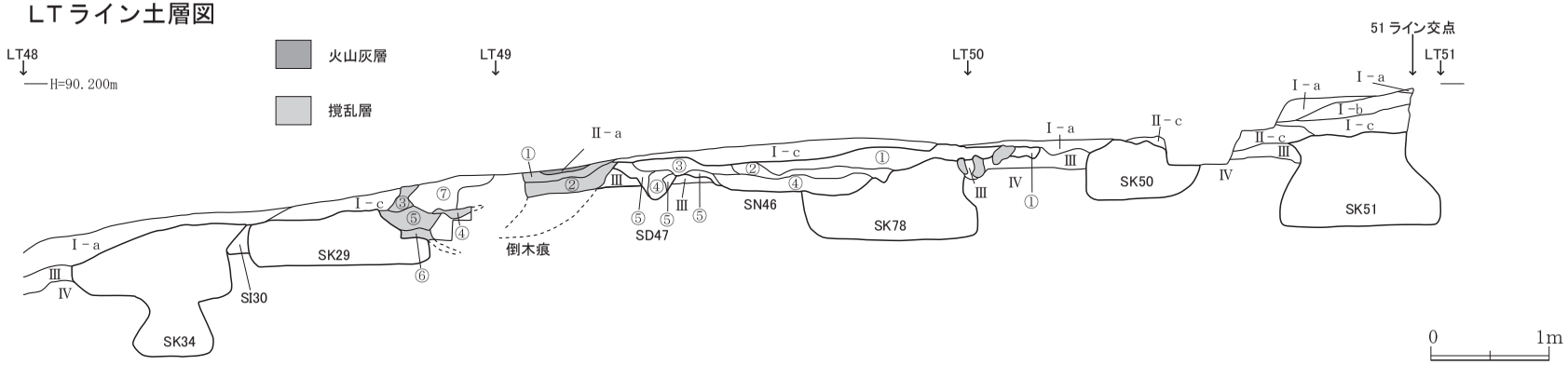


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	火山灰	炭化物
SN114	①	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰc層土		2%	極小粒 1%
	②	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱc層土	小粒 2%	1%	極小粒 1%
	③	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰc層土	極小粒 1%	1%	大塊 5%
	④	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒 2%	2%	中塊 7%
	⑤	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱc層土	小粒 2%	1%	小粒 2%
	⑥	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		5%	小粒 2%
SD47	①	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰc層土	小粒 5%		小塊 15%
	②	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	中粒 10%		小塊 10%
	③	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒 5%		中粒 5%
	④	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒 20%		小塊 10%
	⑤	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒 15%		中粒 5%
SN46	①	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大粒 1%		中塊 15%
	②	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大塊 30%		中塊 25%
	③	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大粒 2%		中塊 25%
	④	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大粒 5%		大粒 10%
	⑤	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大粒 2%		小塊 15%

層	土色	土性	しまり	粘性	混入土	礫	火山灰	炭化物
Ⅰ-a	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	1		亜角礫20mm以下 5%		
Ⅰ-b	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2		砂礫 20%		
Ⅰ-c	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2		軽石10mm以下 5%	極小粒 5%	小粒 1%
Ⅰ-d	黒褐色土(10YR2／2)	CL	2	2			極小粒 30%	極小粒 1%
Ⅰ-e	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2				中塊 30%
Ⅱ-a	黄褐色土(10YR5／6)	LS	3	1	Ⅱc層土 15%			
Ⅱ-b	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2		亜円礫20mm以下 5%		
Ⅱ-c	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2		亜円礫5mm以下 5%		
Ⅲ	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅳ層土 30%			
Ⅳ	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	2	中粒砂 5%	黄褐色軽石20mm以下 30%		

第６図　基本土層図(１)51ライン

ＬＴライン土層図



倒木痕

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	火山灰	炭化物
①	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		極小粒 5%		小粒 1%
②	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		小塊 10%		小粒 1%
③	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	1	Ⅱc層土	Ⅳ層土 40%			
④	にぶい黄褐色土（10YR5／4）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			
⑤	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱc層土		中粒 10%		小粒 2%
⑥	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	1	Ⅱc層土		大塊 40%		極小粒 1%
⑦	明黄褐色土（10YR6／6）	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			

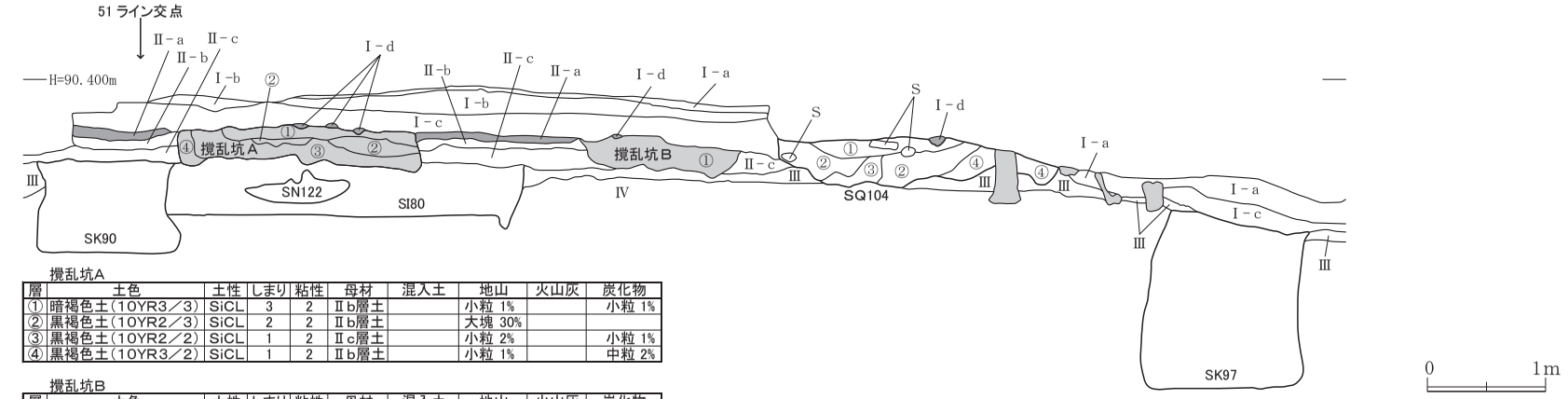
SN46・SD47

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	火山灰	炭化物
①	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大粒 1%		中塊 15%
②	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大塊 30%		中塊 25%
③	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大粒 2%		中塊 25%
④	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大粒 5%		大粒 10%
⑤	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大粒 2%		小塊 15%

SQ104

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	火山灰	炭化物
①	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土			1%	
②	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅱc層土	Ⅳ層土 30%			小粒 1%
③	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	1	2	Ⅰc層土		小粒 2%	1%	小粒 1%
④	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	1	2	Ⅱb層土				小粒 1%

ＭＡライン土層図



撹乱坑Ａ

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	火山灰	炭化物
①	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	2	Ⅱb層土		小粒 1%		小粒 1%
②	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱb層土		大塊 30%		
③	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	1	2	Ⅱc層土		小粒 2%		小粒 1%
④	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	1	2	Ⅱb層土		小粒 1%		中粒 2%

撹乱坑Ｂ

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	火山灰	炭化物
①	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	3	2	Ⅰc層土			1%	極小粒 1%

第７図　基本土層図（２）ＬＴライン、ＭＡライン

ＳＩ03竪穴住居跡（第８・56・58・59・75図、第２・４・６・８表、図版３・13・16・20）

南斜面の表土を除去したところ、斜面の地形に凹部を検出した。斜面下部側は、現代の掘削により大きく削られて南側約３分の１を欠失し、東側は土坑４基とSN37焼土遺構に切られて壁が残存しない。西側も土坑２基に切られている。

平面形は、推定長軸約7.5m、推定短軸約5.8mの東西に長い楕円形である。床面中央に地床炉があり、長軸の一端に長さ約15㎝の亜円礫が２個ずつ２列に置かれている。礫は全て被熱している。北側の壁付近では、幅約40㎝の扁平な大礫が出土した。床面との間に薄く黒褐色土が入ることから、埋土の堆積が始まってから流入または投置されたものである。

埋没過程は、斜面上部側の壁際で壁の崩落と周辺地表土の流入により埋没が始まったものの、中央部は一定期間床面が露出した状態で、その後も相当期間は完全に埋没し切らず、斜面中腹の浅い凹部であったと推測する。

第56図１a、１bは埋土下位～中位から７点、SK112土坑埋土中から１点の同一個体破片が出土した。埋土上面から出土した３はSK17土坑埋土中からも同一個体破片が出土した。埋土下位から出土した第58図17aと第59図17cは同一個体で、17cはＳＩ55竪穴住居跡埋土中出土の土器片と接合した。石器は、埋土下位から微小剥離痕のある剥片２点、凹石１点（第75図104）、埋土中位から剥片１点、埋土上位から横型石匙１点（103）が出土した。出土遺物は全て竪穴が埋没する過程で流入した周辺地表土に混入していたもので、床面に遺棄された遺物はない。床面近くから出土した17a、17cから、後期中葉の十腰内Ⅲ群期またはその直後の時期には廃絶していたものと推定する。

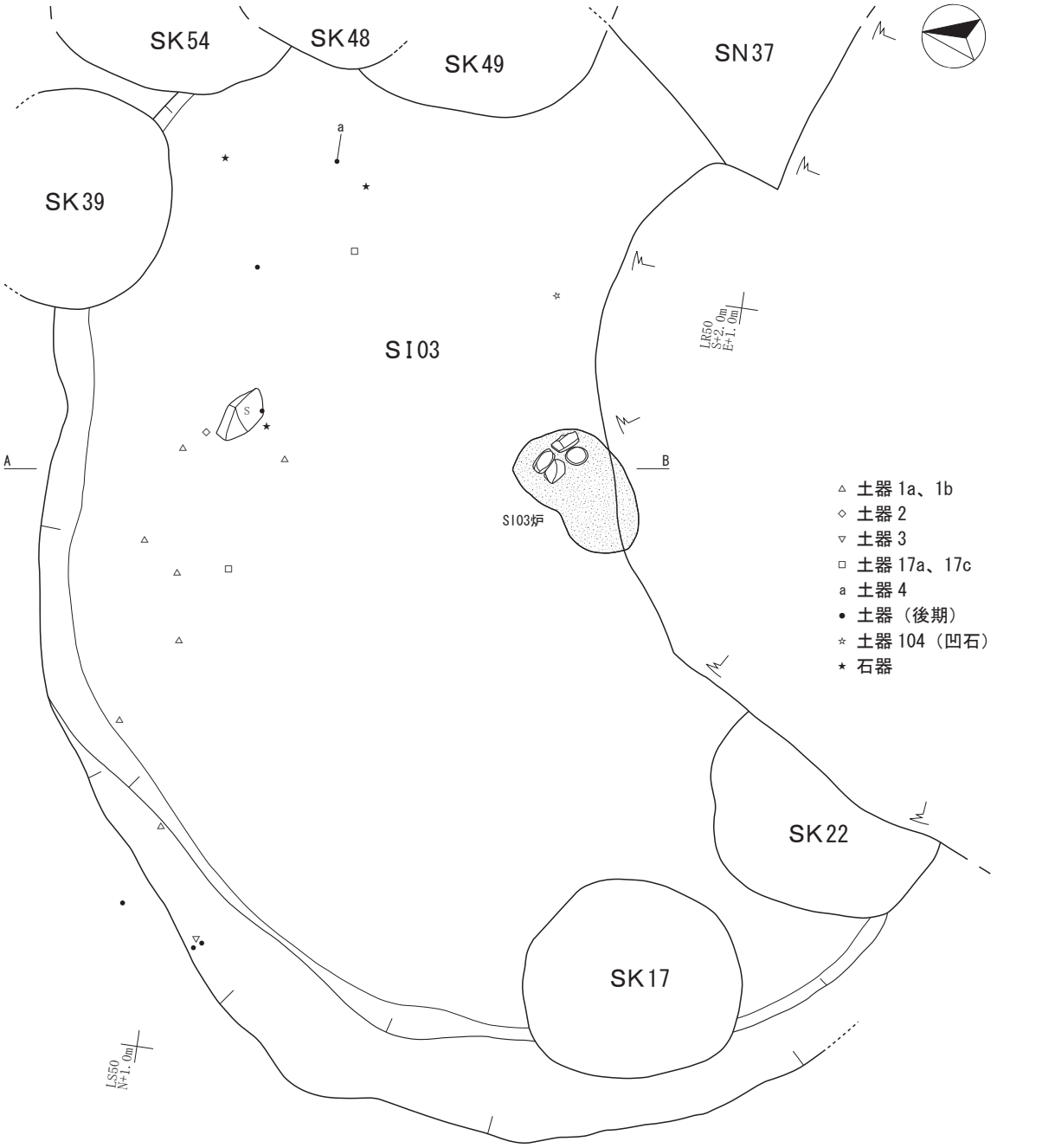
ＳＩ04竪穴住居跡（第９・56・75図、第２・４・６表、図版３・13・16・20）

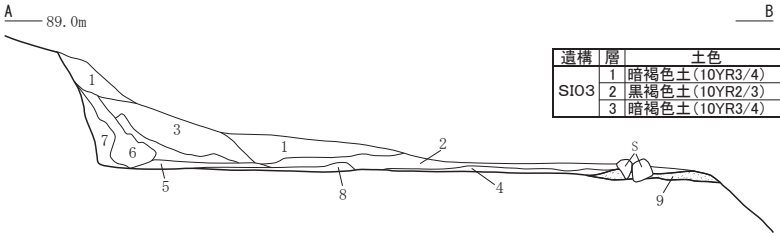
南西斜面の地形に凹部を認め表土を除去したところ、地山土を掘り下げた竪穴住居跡の壁及び床面が露出した。現代の掘削により南側約２分の１を欠失し、東側はSK16土坑に切られる。北東部には、地山土の床面を堀り抜いてSK15土坑が構築されている。

平面形は、長軸5.76m、推定短軸約5.0mの北東－南西方向に長い楕円形である。床面中央に楕円形の地床炉がある。西壁付近から、幅約40㎝の扁平な大礫が直立した状態で出土した。床面との間にはわずかに黒褐色土が入ることから、埋土が流入し始めた時に流入または投置されたものである。

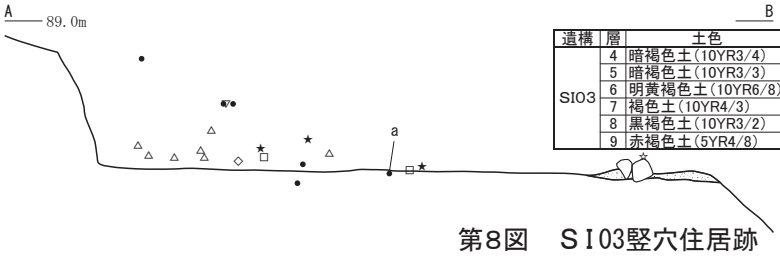
埋没過程は、斜面上部側の壁際で壁の崩落と周辺地表土の流入により埋没が始まったものの、その後も相当期間は完全に埋没し切らず、斜面中腹の浅い凹部であったと推測する。

埋土下位から出土した第56図５、床面付近の埋土中から出土した６は、後期中葉の十腰内Ⅲ群土器で、この竪穴住居の廃絶時期に近い土器である。７は、北壁近くの埋土下位から出土した小型鉢形土器である。同一原体による縦位の非結束羽状縄文が施文されている。埋土下位から縦型石匙１点（第75図106）、刃部の対辺裏面にアスファルトが付着した不定形石器１点（105）、埋土上位から微小剥離痕のある剥片１点と剥片１点が出土した。出土遺物は全て竪穴が埋没する過程で流入した周辺地表土に混入していたもので、床面に遺棄された遺物はない。埋土下部からの出土土器が後期中葉の十腰内Ⅲ群またはⅣ群土器であることから、廃絶時期は後期中葉の十腰内Ⅲ群期と推定する。





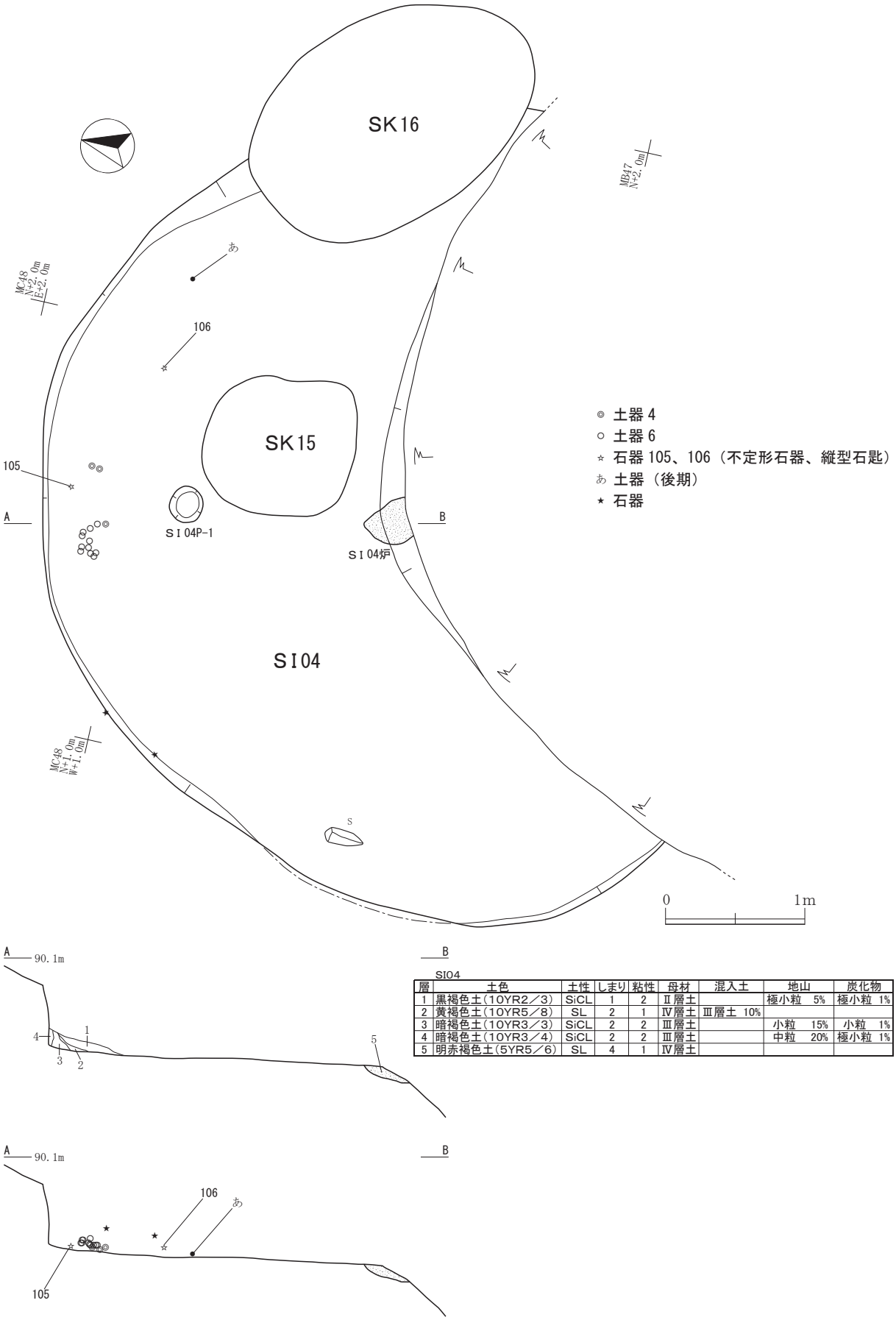
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SI03	1	暗褐色土(10YR3/4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊 30%	小粒 2%
	2	黒褐色土(10YR2/3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小塊 20%	中粒 5%
	3	暗褐色土(10YR3/4)	SiCL	1	1	Ⅳ層土		大塊 50%	極小粒 1%



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SI03	4	暗褐色土(10YR3/4)	SiL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		極小粒 1%
	5	暗褐色土(10YR3/3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%	小粒 5%
	6	明黄褐色土(10YR6/8)	SL	1	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		
	7	褐色土(10YR4/3)	SiL	1	1	Ⅲ層土		大塊 30%	
	8	黒褐色土(10YR3/2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 10%	小粒 2%
	9	赤褐色土(5YR4/8)	SL	1	1	Ⅳ層土			

0　1m

第8図　ＳＩ03竪穴住居跡



SI04

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		極小粒　5%	極小粒　1%
2	黄褐色土（10YR5／8）	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　10%		
3	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒　15%	小粒　1%
4	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒　20%	極小粒　1%
5	明赤褐色土（5YR5／6）	SL	4	1	Ⅳ層土			

第9図　ＳＩ04竪穴住居跡

ＳＩ30竪穴住居跡（第10・56・57図、第２・４・８表、図版３・13・16）

南斜面の地形に凹部を認め表土を除去したところ、地山面上で半円形の暗褐色土プランを検出した。埋土上面から土坑２基に切られ、南側と東側は現代の掘削により大きく欠失する。

平面形は、推定長軸約3.9m、推定短軸約2.7mの東西方向に長い楕円形である。床面中央付近に楕円形の地床炉がある。

埋土は、母材のⅢ層土に塊状または粒状の地山土が混じる堆積土である。斜面上部からの流入を示すラミナ状の堆積構造や壁際のいわゆる三角堆積土がないことから、地山土が多量に混じる土を投入して埋め立てたと推測する。

第56図８は、北西部の床面付近から埋土中位にかけて出土した破片が接合した円筒上層ｅ式の深鉢形土器である。第57図11は、東側の床面付近から埋土中位にかけて出土した破片が接合した。口縁部に１か所の突起が付くキャリパー形の深鉢形土器である。口縁部突起の内面には、人面を模した文様が描かれている。突起全体を顔面とし、頂部から中央に粘土紐を貼り付けて額と鼻、その左右各１か所に刺突を加えて両眼、さらに眼の刺突から連続した沈線を下から外側に浅く引いて目の下の頬を表現している。中期後葉の大木８a式土器である。８の破片は平面分布・垂直分布ともに比較的広い範囲に分散して出土したことから、破砕後に埋め立て土とともに投入されたもの、11は底部が床面よりわずかに上位から出土し、胴部破片もその付近から出土したことから、埋め立て初期の投入または遺棄と推測する。第56図９は、原体の開端を縛った結節の回転圧痕が認められる。埋土最上位、表土との層界付近からは、後期の第68図67a、67bと同一個体の破片が出土した。廃絶時期は８、11から縄文中期後葉を下限とする。

ＳＩ38竪穴住居跡（第11・56・58図、第２・４・８表、図版３・13・16）

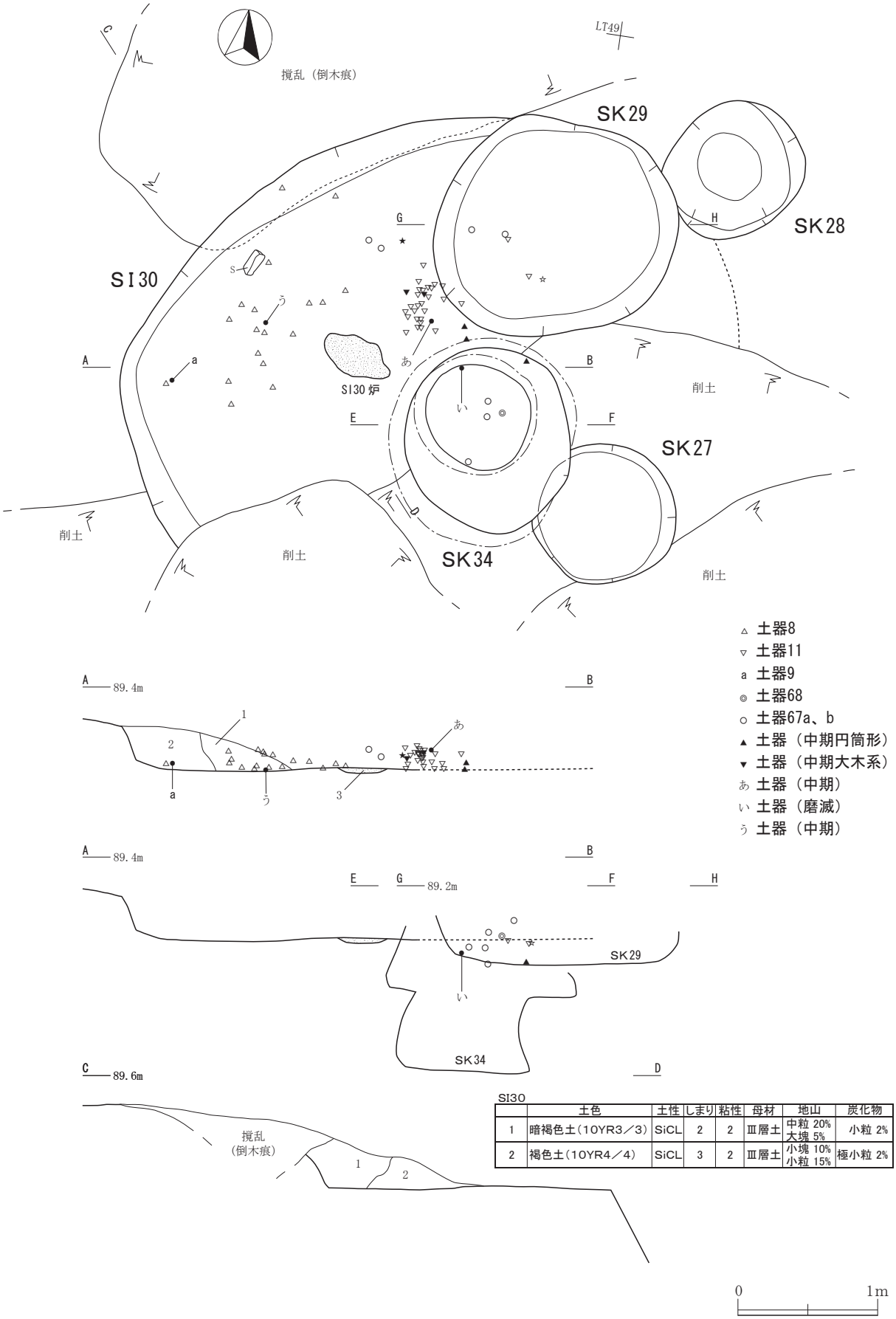
東端部の尾根状緩斜面で、削平が著しい範囲の表土を除去し地山面の精査をしたところ、半月形の黒褐色土プランを検出した。西側はＳＫ49土坑、ＳＮ37焼土遺構に切られ、東側と南側は撹乱と掘削により欠失する。南東側の推定範囲はＳＫ36土坑と重複するが、前後関係は不明である。

平面形は、直径約5.2mの円形と推定する。床面中央やや西寄りに、楕円形の地床炉がある。北西壁際では、幅約30㎝、厚さ約10㎝の扁平な大礫が直立した状態で出土した。この大礫の底面は床面に接しており、竪穴住居廃絶時に床面に安置した状態で竪穴が埋没したものと推測する。

わずかに残存する埋土は単層で、母材のⅢ層土に地山土塊が比較的多く混入する。ラミナ状の堆積構造や壁際のいわゆる三角堆積土がないことから、投入土による埋め立てと推測する。

西壁に近い位置の床面直上及び埋土下位から出土した第56図10は、０段多条のＬＲ縄文とＲＬ縄文が横位回転施文された小型鉢形土器である。この土器と類似するＳＩ04竪穴住居跡出土の第56図７と比較すると、７が口縁部にＲＬ縄文帯、胴部から底辺部には縦位の非結束羽状縄文を規則的に施文しているのに対し、10の縄文は不規則で後出的である。第58図12は10と破片が混在して出土した。12はＳＫ36土坑出土粗製深鉢形土器第71図78と口縁や器壁のつくりが類似する。14aは地床炉の覆土中から出土した後期後葉の土器で、内面全面に厚くアスファルトが付着し、一部は土器の破断面から表面にかけても付着している。ＳＩ55竪穴住居跡出土の14bと同一個体である。

ＳＩ04竪穴住居跡で７と共伴した５、６が十腰内Ⅲ群土器、78と共伴のＳＫ36土坑出土74、75、76が十腰内Ⅳ群土器であることから、10、12は十腰内Ⅳ群土器に含まれると考える。したがって、本遺

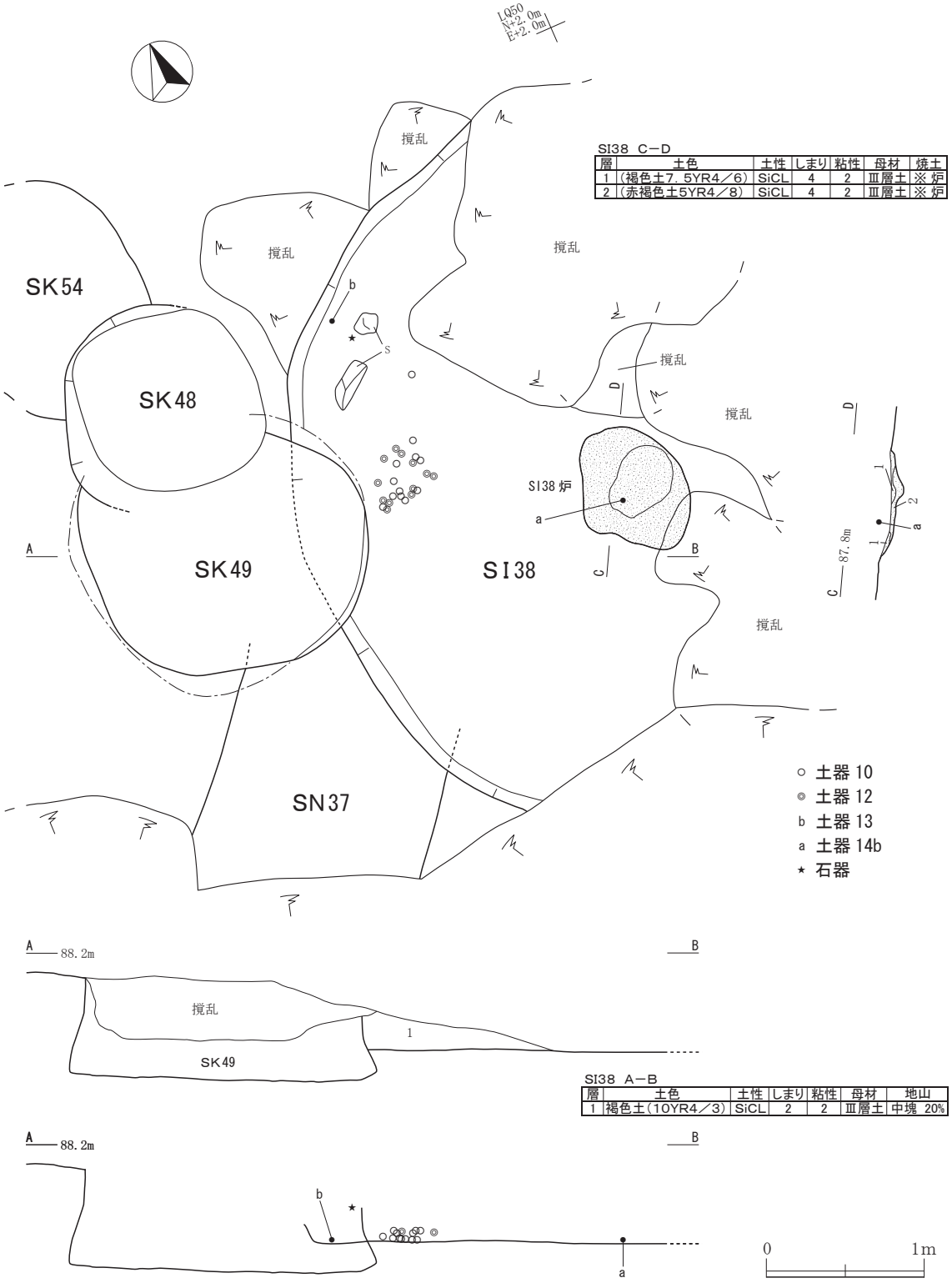


SI30

	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	炭化物
1	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	中粒 20% 大塊 5%	小粒 2%
2	褐色土（10YR4／4）	SiCL	3	2	Ⅲ層土	小塊 10% 小粒 15%	極小粒 2%

第10図　ＳＩ30竪穴住居跡

構の帰属時期は、十腰内Ⅳ群期を下限とする後期後葉と推定する。



第11図　ＳＩ38竪穴住居跡

ＳＩ55竪穴住居跡（第12・58・59・75図、第２・４・６・８表、図版３・13・16・20）

東斜面の表土を除去したところ、斜面上部のⅢ層地山漸移層上面で火山灰を含む黒褐色土の半円形プランを検出した。西側約３分の１及びそれに連続する南側の床面が残存する。重複遺構はない。

平面形は、推定長軸約5.0m、推定短軸約4.2mの東西に長い楕円形である。床面は、竪穴掘方に凹凸があり、西側と中央の一部に地山土とⅢ層土の混土を用いた厚さ約５㎝の貼り床がある。貼り床の上面は平坦であるが、北西から南西に傾斜する。西側では壁直下に上端幅15㎝～22㎝の壁溝が巡る。床面からの深さは６㎝～14㎝である。壁溝内で２基の柱穴を検出した。床面中央やや北西側には円形の地床炉がある。

廃絶後、斜面上部側の壁の崩落と斜面上部から流入した旧地表土により埋没したと推定する。埋土上位には火山灰を含むので、平安前期の火山灰降下直前でも竪穴は埋没し切らず、斜面中腹の窪地であったことがわかる。

第58図15は壁溝埋土中、19は地床炉焼土上の埋土１層から出土した。埋土下位から出土した16a、16ｃは、同一個体破片の16ｂがＳＫ13土坑から出土した。17a、第59図17b、17cは同一個体破片が埋土中位、上位、遺構外、ＳＩ03竪穴住居跡から出土した。18は17c、17bと類似する破片である。14b、20、第59図23は埋土中位から出土した。14bは、裏面及び破断面の一部に厚くアスファルトが付着している。20と同一個体の胴下半部破片では同一原体による非結束羽状縄文の部分もある。23は異種原体による非結束羽状縄文を施文している。21aは胎土に繊維を含み、前段反撚りのＲＬＬｒ縄文が横位回転施文されている。前期初頭の土器である。口縁部は外反し、口唇にはヘラ状工具による連続刻み目が施されている。同一個体破片はＳＫ51土坑、ＳＩ80竪穴住居跡、ＳＤ47溝跡のほか、第79図21b、21cなど遺構外の広範囲から出土した。第75図107は、細長い円礫の表裏各２か所に細かい敲打痕がある。出土遺物は全て竪穴が埋没する過程で流入した周辺地表土に混入していたもので、床面に遺棄された遺物はない。埋土下位～上位出土の14b、16c、18、17b、23から、十腰内Ⅲ群期に竪穴の埋没が進んでおり、後期後葉の十腰内Ⅲ群期には廃絶していたものと推定する。

ＳＩ57竪穴住居跡（第13図、第2表、図版３）

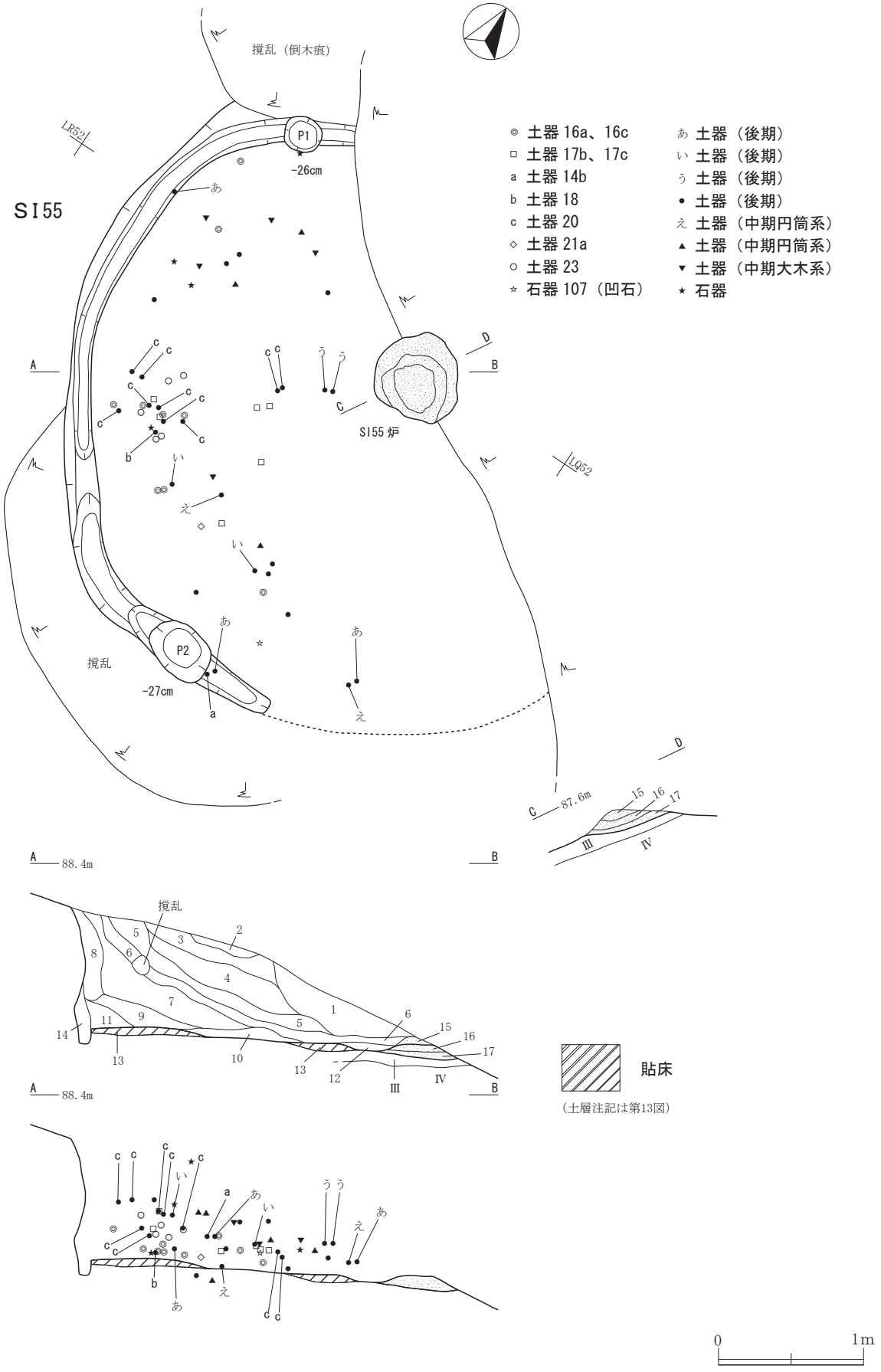
丘陵上平坦面の南縁で検出した。削平により表土直下に地山面が露出する状態で、埋土は壁溝内と柱穴内以外ではごく一部のみに残存していたにすぎない。南東端はＳＩ03竪穴住居跡に切られ、北西端はＳＮ46焼土遺構に切られている。

平面形は推定長軸約4.1m、短軸2.86mの北西－南東方向に長い楕円形である。

柱穴は、長軸に対称の位置で長方形に配置される柱穴４基を検出した。Ｐ２を除く３基の柱穴はやや内傾する。柱穴間には、南西側のＰ１とＰ２、北東側のＰ４とＰ３を結ぶ弧状の壁溝がある。壁溝が全周していたかどうかは不明である。壁溝の深さは床面から５㎝～10㎝で、中央がやや深く柱穴に近い部分は比較的浅い。床面はほぼ水平であるが、削平による凹凸が著しい。両壁溝の中央部付近は壁材を押さえる裏込め土の機能もある貼床がある。床面中央には楕円形の地床炉がある。

東側の一部には、Ⅱ層土母材で地山土塊が多量に混じる埋土が薄く残存するが、埋没過程が流入か埋め立てかの判断はできない。

遺物は出土せず、帰属時期を判断する根拠に乏しいが、ＳＩ03竪穴住居跡に切られることから、後期中葉の十腰内Ⅲ群期には廃絶していたと推定する。



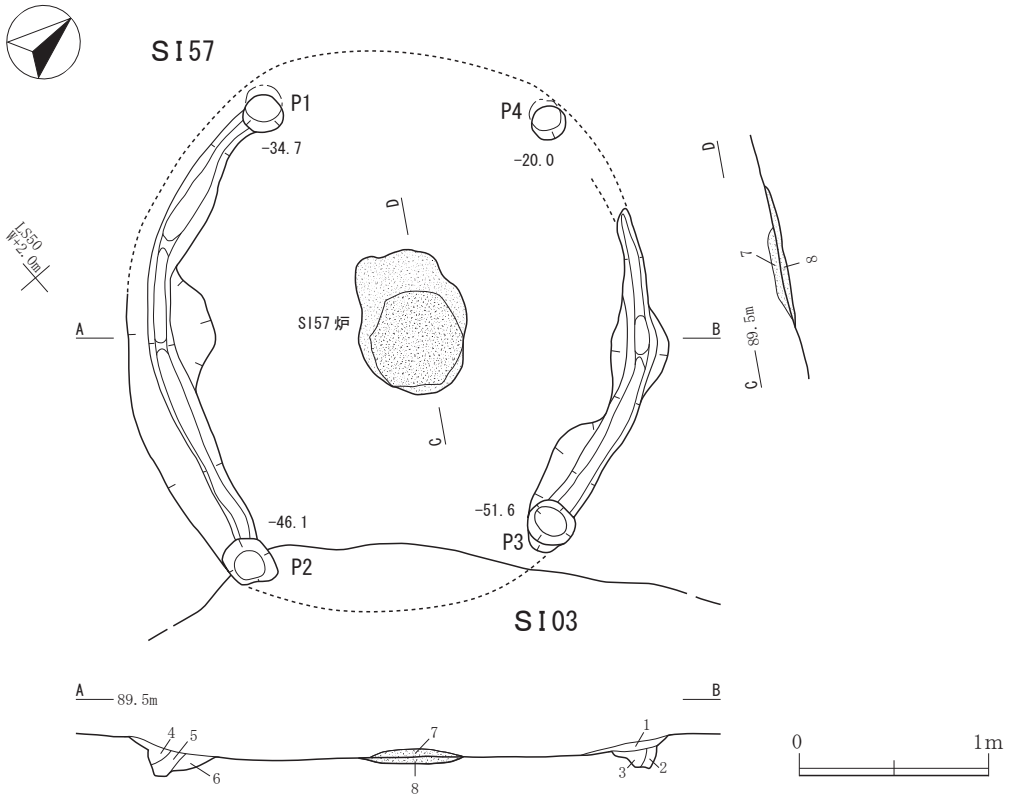
第12図　ＳＩ55竪穴住居跡

ＳＩ58竪穴住居跡（第14・58図、第２・４・８表、図版３）

平坦面東縁でＳＮ46焼土遺構及びＳＤ47溝跡の底面を精査した際、　両遺構の下に古い円形プランを検出した。北西側をＳＫ62土坑に切られ、平安時代以降のＳＫ60土坑、ＳＤ119溝跡、ＳＮ46焼土遺構、ＳＤ47溝跡に埋土上部を切られている。床面でさらに古い重複する土坑３基を検出し、その真上に竪穴が構築されていることがわかった。

平面形は、推定東西約2.7ｍの円形である。床面は平坦であるが、周縁部から中央部に向かって傾斜する。壁溝、柱穴ともにない。床面中央に円形の地床炉がある。この地床炉の真下にＳＫ82土坑、ＳＫ83土坑、ＳＫ91土坑が位置する。

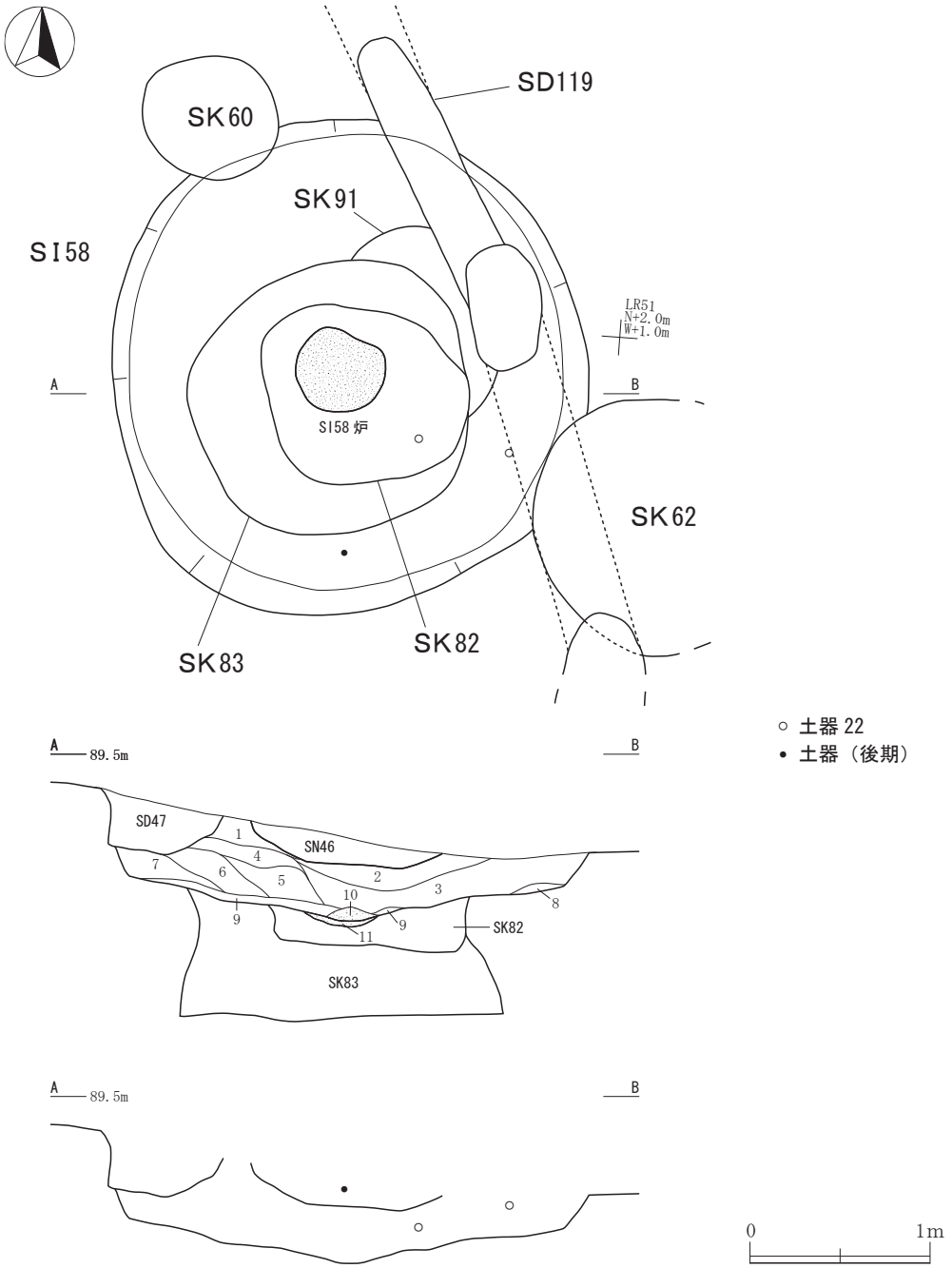
埋土は地山土の再堆積層や未分解の地山土塊が多量に混じる。廃絶後に地山土の投入により短時間で埋め立てられたと推定する。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	焼土	炭化物
SI57	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小塊　20%				
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　10%				
	3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　20%				
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大塊　20%				
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　5%				
	6	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小塊　20%				
	7	暗褐色土(7．5YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土					※　炉	
	8	赤褐色土(7．5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅳ層土					※　炉	
SI55	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰ層土		大塊　2%		2%		極小粒　1%
	2	火山灰層								○		
	3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅰ層土		大粒　2%		10%		極小粒　1%
	4	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　5%				
	5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%				
	6	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒　2%				
	7	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小塊　30%				
	8	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土　40%					
	9	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%				
	10	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	2	3	Ⅱ層土		小塊　7%	径10mm以下　5%			小粒　2%
	11	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		大粒　30%				
	12	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	3	Ⅱ層土		大粒　5%				小粒　5%
	13	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　15%				
	14	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　20%				
	15	褐色土(7．5YR4／6)	SiCL	2	2	Ⅱ層土					※　炉	極小粒　2%
	16	暗褐色土(7．5YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土					※　炉	極小粒　1%
	17	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土　20%	大粒　5%			※　炉	

第13図　ＳＩ57竪穴住居跡

第58図22は埋土下位から出土し、同一個体破片がＳＩ55竪穴住居跡の火山灰を含む埋土最上位から出土した。縄文後期の粗製土器と推測する。竪穴の廃絶時期はこの土器の時期を上限とし、本遺構を切るSK62土坑出土の第73図93の時期を下限とする。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	焼土	炭化物
SI58	1	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	2	1	Ⅱ層土		中粒　5%				
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%				
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　15%				
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　10%				
	5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大塊　30%				
	6	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		小塊　40%				
	7	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 10%					
	8	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 20%					
	9	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 10%				小粒 5%
	10	褐色土(7.5YR4／6)	SiCL	4	1	Ⅱ層土		極小粒 1%			※ 炉	小粒 2%
	11	赤褐色土(7.5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒 1%			※ 炉	

第14図　ＳＩ58竪穴住居跡

ＳＩ80竪穴住居跡（第15図～第28図、第60図～第65図、第76図、第２・４・６・８表、図版４・14・16・17・18・20）

丘陵上平坦面の最奥部でⅡ層を掘り下げ中、Ⅱ層土母材の黒褐色土に焼土粒と炭化物粒が混じり特に遺物が集中する範囲を検出した。この範囲周辺でＳＫ89土坑、ＳＫ90土坑、ＳＫ117土坑を先行して検出、精査した後、Ⅲ層地山漸移層上面で本遺構の輪郭を検出した。本遺構は、北辺をＳＫ89土坑、ＳＫ117土坑に、南辺をＳＫ90土坑に切られるが、全体の残存状況は良好である。重複するＳＮ121焼土遺構、ＳＮ122焼土遺構は、本遺構の埋土中に形成されている。また北辺には平安時代以降の炭焼遺構であるＳＮ114焼土遺構も重複する。

平面形は、長軸5.10ｍ、推定短軸約4.1ｍの東西に長い楕円形である。床面は平坦で、西側壁付近がやや高く中央に向かって傾斜する。壁直下に壁溝が巡る。ほぼ全周するが、北西側で一部途切れている。壁溝の幅は10㎝～15㎝、床面からの深さは２㎝～10㎝である。残存する壁の高さは西側で40㎝～56㎝、東側で11㎝～25㎝である。

柱穴は計20基検出した。主柱穴はＰ３、Ｐ６、Ｐ７、Ｐ11で、ほぼ正方形の配置である。Ｐ６はＰ５の、Ｐ11はＰ10の建て替えまたは支柱と推測する。壁際には西からＰ18、Ｐ１、Ｐ４、Ｐ８、Ｐ16、Ｐ12がほぼ等間隔に配置されている。西辺と東辺には、強く内傾し特に深い柱穴が各２基ある。Ｐ19やＰ13の傾斜方向から、対角の柱穴に向って傾斜し、Ｐ17とＰ13、Ｐ19とＰ15が対応し、Ｐ12はＰ17の、Ｐ13はＰ14の建て替えまたは支柱と推測する。さらに長軸線上の炉と東壁の中間にＰ９がある。

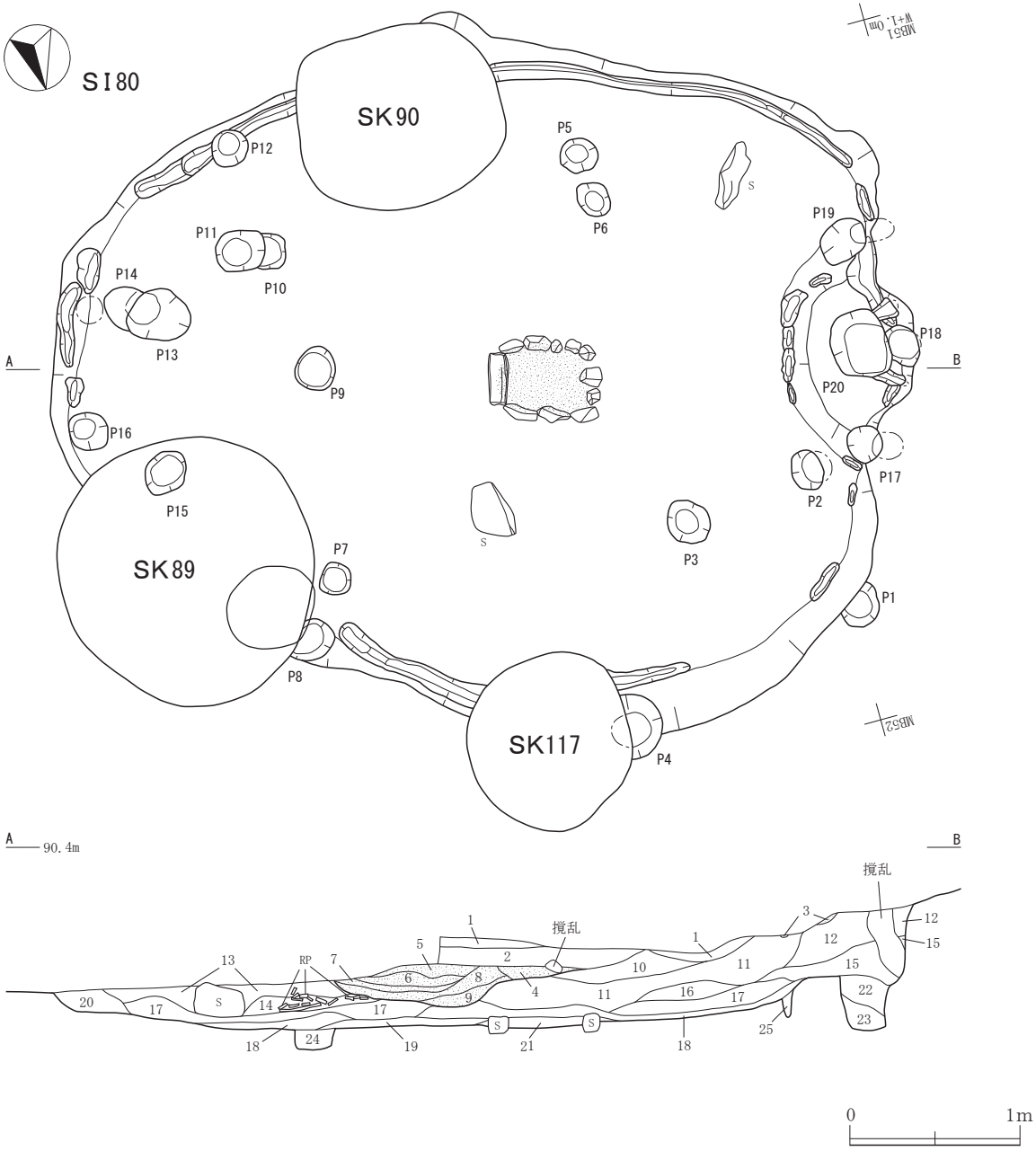
西壁中央部には、床面の地山を掘り残し一段高くなった施設が付設されている。竪穴住居跡内から見て幅約1.4ｍ、奥行き約80㎝の範囲が半円形に12㎝～19㎝高い壇となり、その中央に32㎝×40㎝、深さ35.4㎝、平面形が隅丸方形の柱穴様ピット（Ｐ20）がある。壇の両端には、強く内傾するＰ17とＰ19の２本の柱穴、壁際中央に壁柱穴Ｐ18がある。Ｐ17とＰ19を結んで壇の下端を弧状に浅い溝が巡る。壇の奥壁直下にも壁溝が巡り、壇はこれらの溝に断続的に取り囲まれている。さらに壇中央のＰ20と奥壁Ｐ18の左右両側の壁溝を短い溝が連結している。

床面中央やや西寄りに、東西を長軸方向とする長軸68㎝、短軸50㎝の長方形の石囲炉がある。石囲いの東辺は長さ約30㎝の柱状礫１個を置き、他の辺は計10個の礫を配置する。炉内には厚さ約６㎝の焼土が形成されている。

埋土中位から32㎝×22㎝、厚さ20㎝の大礫と復元可能土器１個体が出土したほか、埋土上位には２か所に焼土遺構（ＳＮ121・ＳＮ122）が形成されていた。

埋土等から推定する竪穴住居廃絶後の埋没過程は複雑である。廃絶後、埋め立てと壁の崩落により床面が覆われるくらいに埋没したが、竪穴の形状はしばらく保たれていたと推測する。その後、周辺地表土の流入により竪穴の深さの半分ほどまで埋まったところで、その窪地に大礫、深鉢形土器が遺棄される。これらを覆う周辺地表土の流入が進み浅い窪地になったところでＳＮ122が形成され、さらに周辺地表土が流入してからその上面にＳＮ121が形成される。大礫出土面や焼土形成面には土器破片が多量に散布しており、窪地への投棄あるいは何らかの行為による遺棄が行われ、繰り返し竪穴跡地が利用されていたことが窺える。

遺物は埋土中から縄文土器破片228点（72個体分）、石器26点が出土した。出土遺物の個体識別による出土分布を第16図から第28図に示す。出土土器は、縄文中期後葉の円筒上層ｅ式土器、大木８a式



	深さ	底面標高
P1	16.5	89.885
P2	40.4	89.083
P3	20.4	89.255
P4	41.1	89.466
P5	19.7	89.194
P6	20.7	89.191
P7	7.8	89.299
P8	30.3	89.234
P9	10.2	89.243
P10	12.0	89.221
P11	43.7	88.917
P12	24.5	89.118
P13	46.7	88.963
P14	54.7	88.883
P15	83.1	88.762
P16	29.5	89.244
P17	(17.3)	(89.543)
P18	46.2	89.595
P19	(28.9)	(89.346)
P20	35.4	89.321

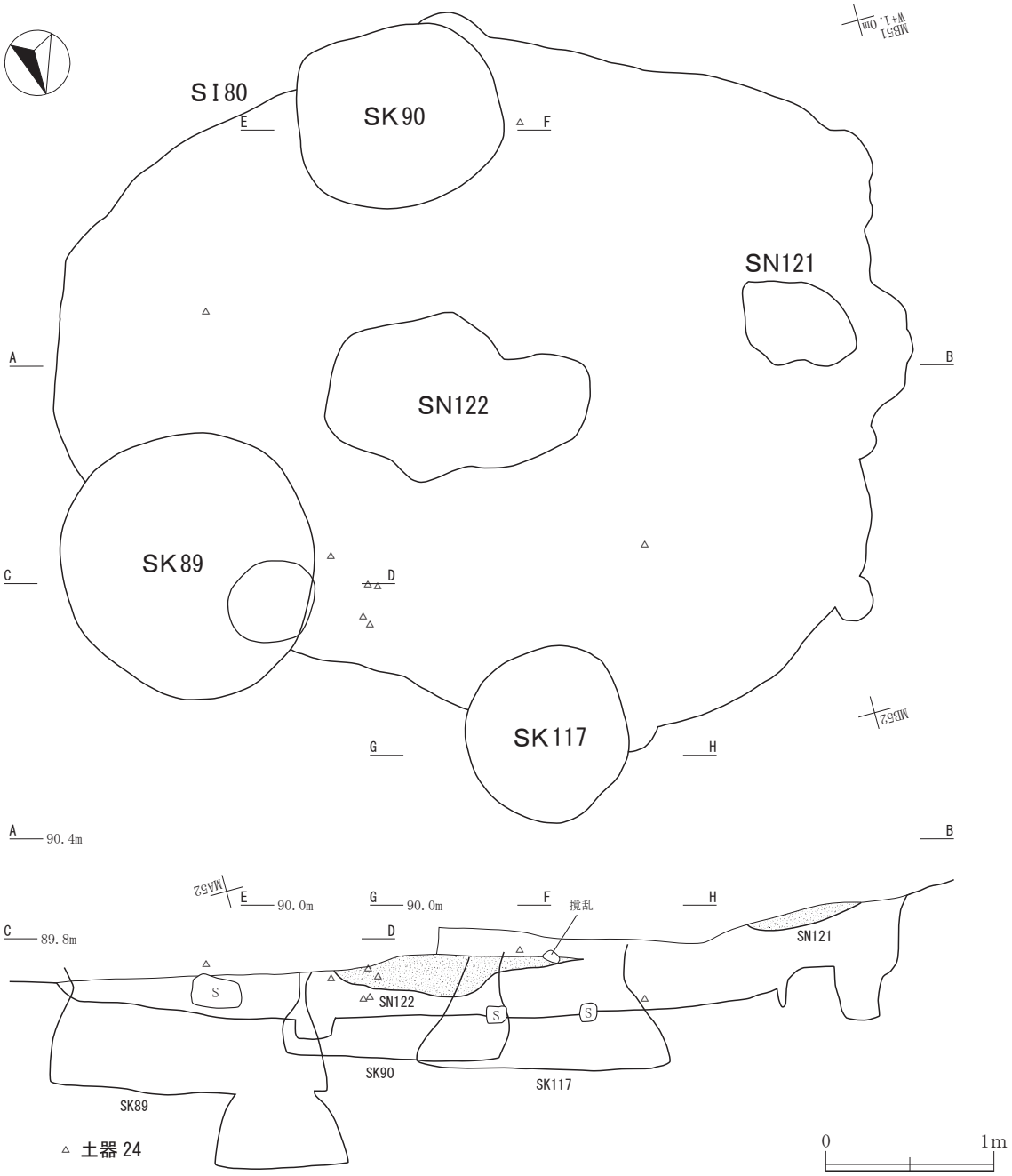
( ) は推定

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	焼土	炭化物
SI80	1	黒色土(10YR1．7／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 5%	径10mm以下 5%		小塊 2%
	2	黒色土(7．5YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 2%	径20mm以下 5%	小粒 5%	小粒 2%
SN121	3	赤褐色土(5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅱ層土				80%	小粒 1%
SN122	4	暗褐色土(7．5YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 1%	径10mm以下 1%	極小粒 10%	大粒 5%
	5	暗褐色土(7．5YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 1%	径10mm以下 5%	30%	中粒 5%
	6	赤褐色土(5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅱ層土			径3mm以下粗砂 10%	90%	
	7	暗赤褐色土(5YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土			径3mm以下粗砂 10%	100%	
	8	暗褐色土(7．5YR3／4)	SiCL	3	1	Ⅱ層土			径5mm以下 5%	40%	小粒 2%
	9	暗褐色土(7．5YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%	径15mm以下 10%	小粒 10%	中粒 2%
SI80	10	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 10%	極小粒 10%	径10mm以下 5%		極小粒 1%
	11	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 20% 白色極小粒 10%	小粒 15%	径15mm以下 20%		小粒 2%
	12	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 30%	小粒 5%	径10mm以下 5%		
	13	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%	径5mm以下 2%	極小粒 2%	極小粒 1%
	14	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%	径5mm以下 2%	極小粒 1%	小粒 2%
	15	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 10%	小粒 2%	径5mm以下 5%		小粒 1%
	16	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 5%	径5mm以下 2%		
	17	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅲ層土	Ⅲ層土 10%		径10mm以下 5%		小粒 5%
	18	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		中粒 20%	径20mm以下 10%		中粒 5%
	19	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 10%			大粒～中粒 5%
	20	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 15%	径10mm以下 10%		極小粒 2%
	21	赤褐色土(5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅲ層土				※ 炉	
	22	褐色土(10YR4／6)	SiCL	1	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 40%	40%	径10mm以下 5%		
	23	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	1	2	Ⅲ層土		大塊 15%	径10mm以下 5%		
	24	褐色土(10YR4／4)	SiCL	1	2	Ⅲ層土		大塊 20%			
	25	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 5%	径5mm以下 2%		

第15図　ＳＩ80竪穴住居跡

土器、後期以降の粗製土器に大別できる。円筒上層ｅ式土器は、SN122焼土遺構、SN121焼土遺構の形成面である埋土上位に多い。大木８a式土器は復元２個体を含め埋土中位の大礫出土面から出土した。埋土下位に堆積する竪穴廃絶直後の埋め立て投入土や床面からの出土はない。後期以降の土器は小破片で、埋土上位または本遺構を切るSK89土坑、SK117土坑埋土中から出土した。

第60図24は、竪穴内広範囲の埋土上位から出土した円筒上層ｄ式土器である。第60図25～第62図34a、第65図39～41a・bは円筒上層ｅ式土器である。36は埋土中位から、その他は埋土上位から出土した。第62図31と32は、沈線文の有無で別個体としたが、胎土、焼成、色調、縄文がきわめて類似しており、破片出土位置も近いことから、同一個体の上部と下部である可能性がある。

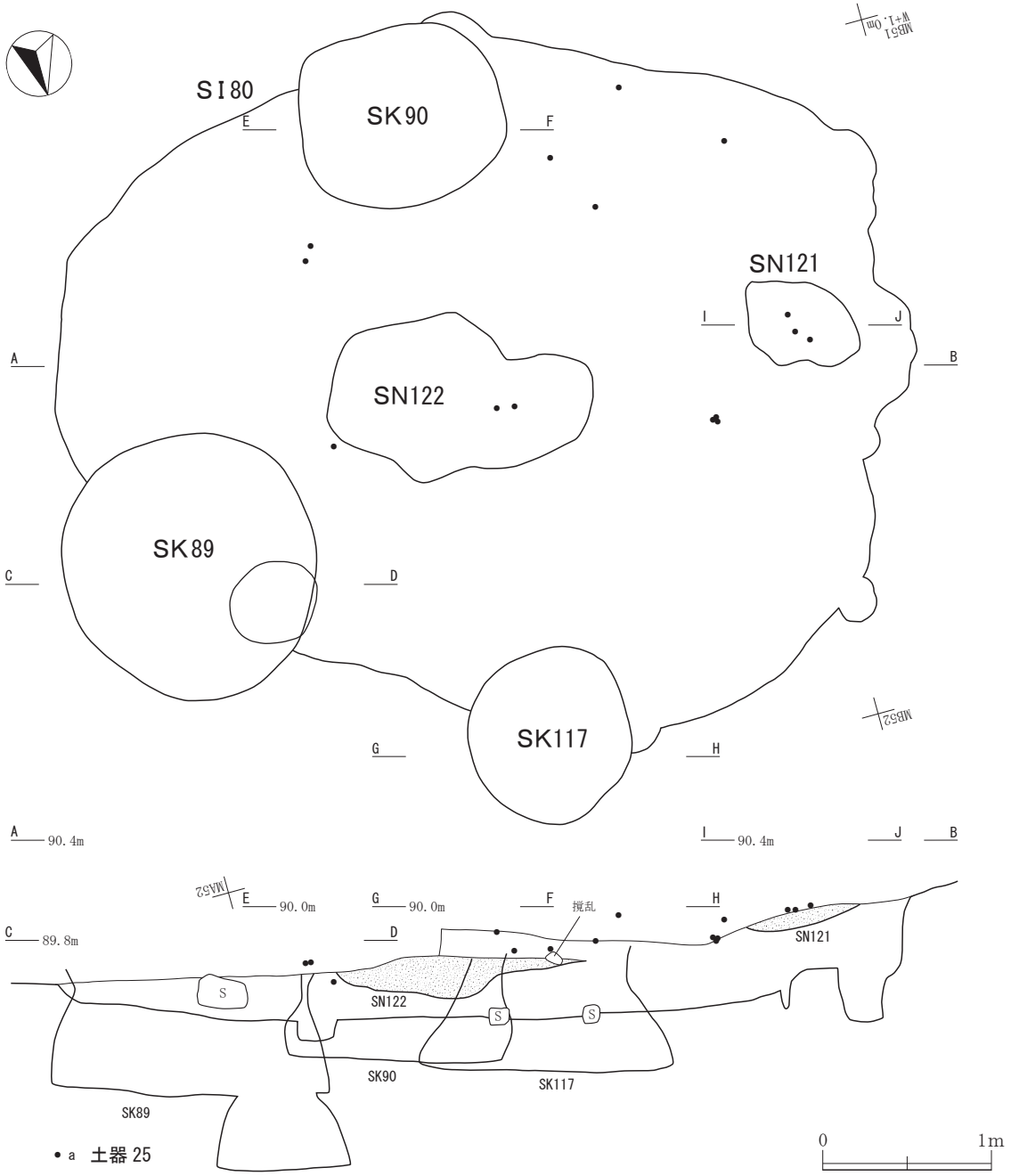


第16図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（１）

第63図37、第64図38、第65図43～45は、大木８a式土器である。37、38は埋土中位の大礫付近で混在してまとまって出土した。この面に連続する埋土中位から43～45が出土した。40、41a・b、42は底面全面に、43、45は底面の中央がわずかに上げ底気味で底面周縁にのみ網代痕がある。

磨製石斧第76図109は、SK117土坑埋土最上位から出土した刃部とＳI80竪穴住居跡埋土中位の大礫直下から出土した基部が接合した。二つに折れた磨製石斧の刃部と基部が離れた場所に遺棄され、竪穴住居跡埋没後、SK117土坑の構築と埋没に伴い刃部側破片が土坑埋土中に再混入したものと推測する。

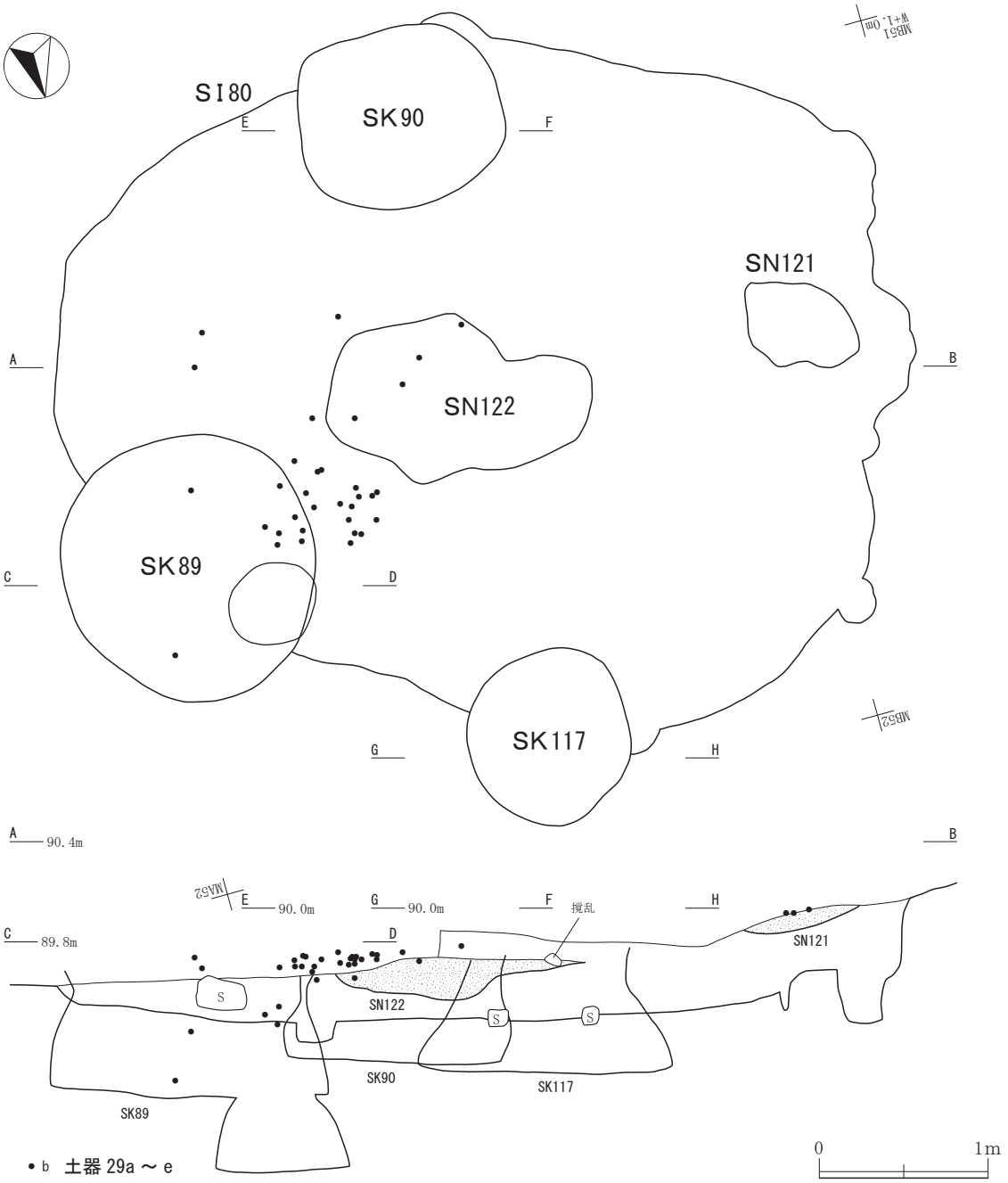
本竪穴住居跡の西壁際に付設された壇状遺構は、床面の地山を掘り残して構築されていることから、竪穴住居構築当初から意図的に設計された施設であることが明らかである。壇の下端を断続的に



第17図　ＳI80竪穴住居跡遺物出土分布図（２）

弧状に巡る溝は、板材等が立て回されていた痕跡、壇中央のＰ20は石棒や木柱等が立てられていた坑と推測する。円筒土器文化の竪穴住居跡に類例が多い「特殊ピット」が荘厳された一種の祭壇状遺構と考える。

本遺構には、SN122焼土遺構、SN121焼土遺構、SK90土坑、SK89土坑、SK117土坑、SN114焼土遺構が重複している。このうち平安時代以降のSN114焼土遺構を除く６遺構の新旧関係は、ＳＩ80竪穴住居跡検出面の平面観察からＳＩ80→SK89・SK90・SK117、埋土の堆積状況からＳＩ80→SN122→SN121である。SK90土坑出土の第62図31は、出土分布から、本来SK89土坑周辺のＳＩ80竪穴住居跡埋土に包含されていた土器で、SK90土坑の構築と埋没に伴って掘り返され、散乱し、SK90土坑埋土へ再混入したものと推測する。31の破片が１点のみSK89土坑埋土上位から出土して

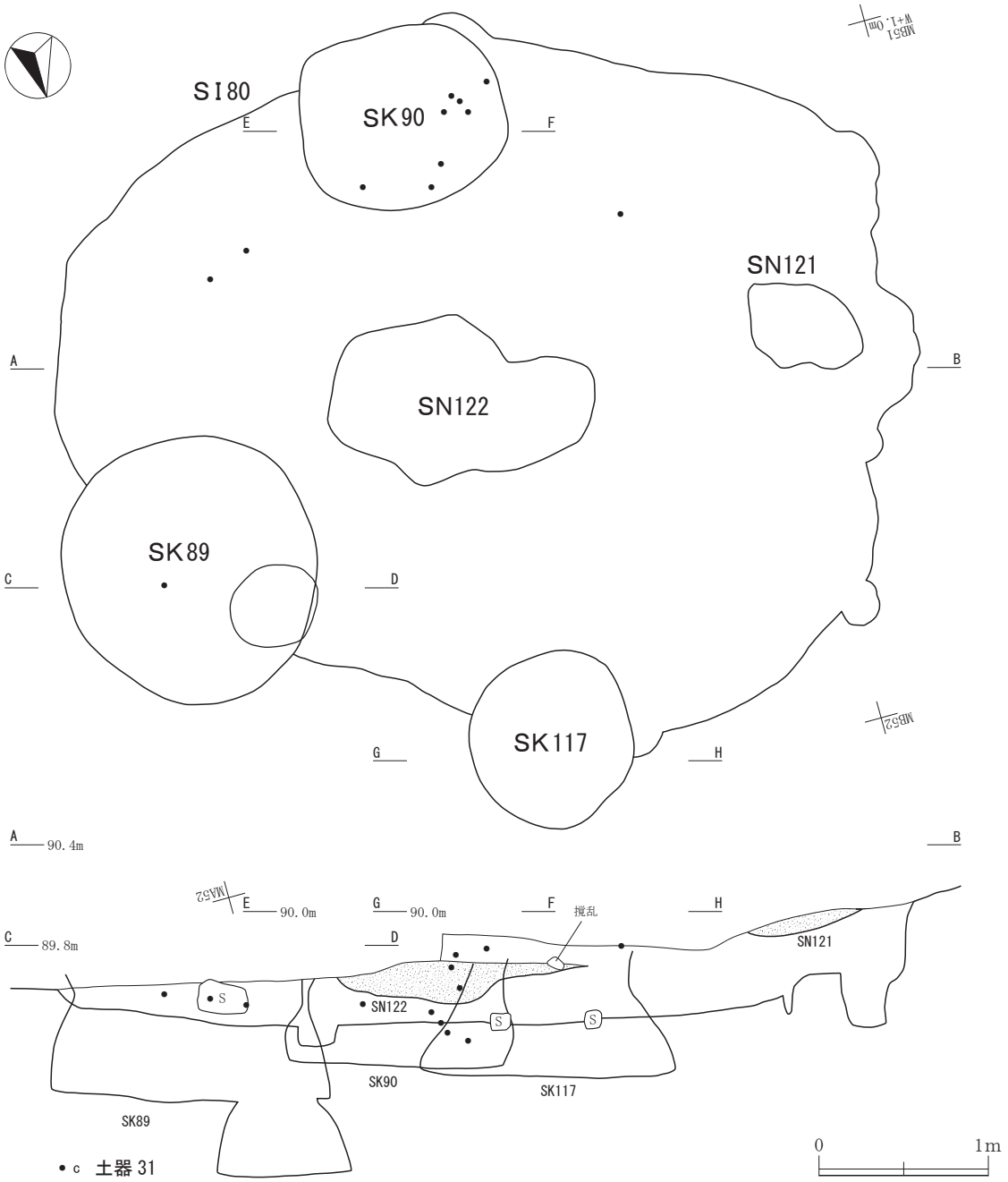


第18図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（３）

おり、SK90土坑掘削土に包含された土器片がSK89土坑埋土に混入したものと推測し、両土坑の前後関係をSK90→SK89と推定する。

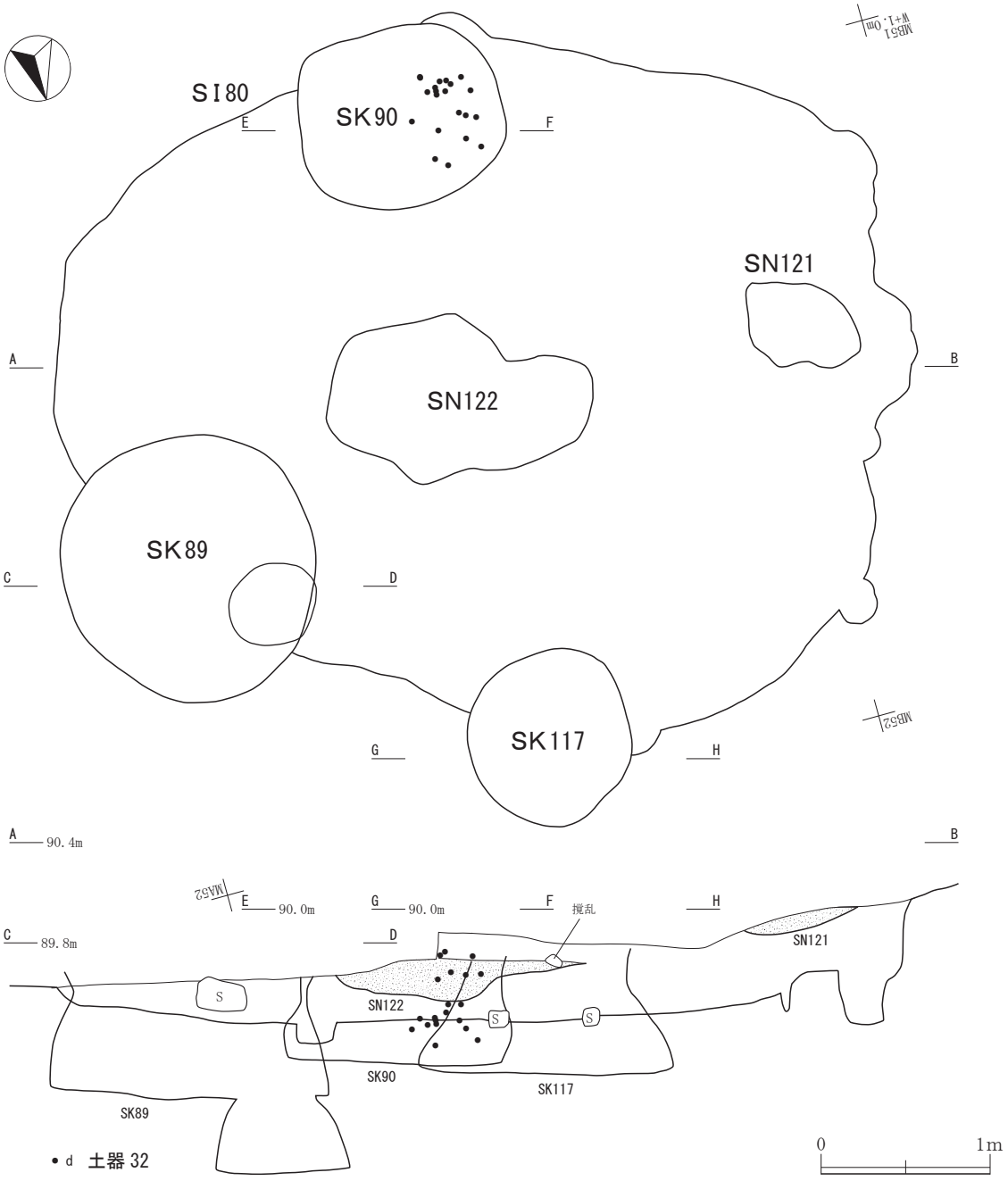
本遺構の廃絶時期は、廃絶後の埋土に遺棄された大木８a式土器から、その直前を下限とする。

本遺構の埋没過程では、竪穴跡地の再利用が繰り返し行われたことが窺える。ＳＩ80竪穴住居跡廃絶後、埋め立てと流入による埋土が堆積した窪地の上面に、大礫、大木８a式の完形に近いキャリパー形土器、小型深鉢形土器の上半部が遺棄され、他の中期大木式土器の破片も散布する。その後に流入堆積した埋土の上面でSN122焼土遺構が形成され、この面では円筒上式土器破片が多量に散布する。さらに埋土の流入堆積を挟んでSN121焼土遺構が形成され、この面にも円筒上層ｅ式土器が散布する。このように、大木８a式土器と円筒上層ｅ式土器の出土層位や伴出遺構が異なり、両型式

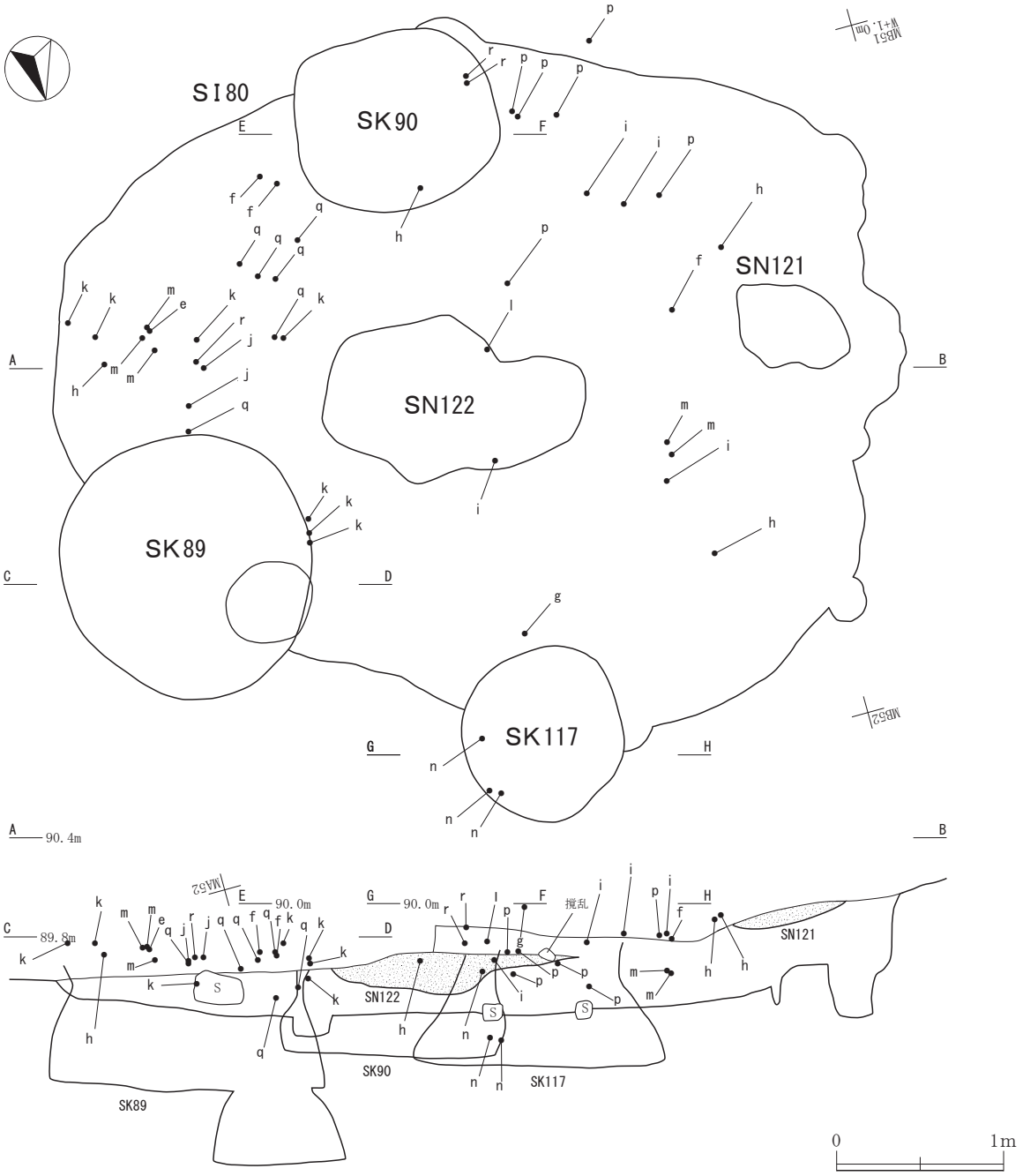


第19図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（４）

の土器が同時に混在して使用されたとはいえず、大木８a式土器→円筒上層ｅ式土器の前後関係が推定できる。円筒土器文化の竪穴住居の特徴である特殊ピットをもった竪穴住居跡の廃絶後、大木８a式土器を遺棄する行為が行われ、さらにその後、円筒上層ｅ式土器の散布と関連する焼土遺構が繰り返し形成されていることは、同一小集団が円筒土器文化と大木式土器文化の両者の文化要素を同時に保持するのではなく、それぞれの土器文化を保持する小集団が別に存在し、交互にこの地に行動の痕跡を残したことを示唆していると考える。

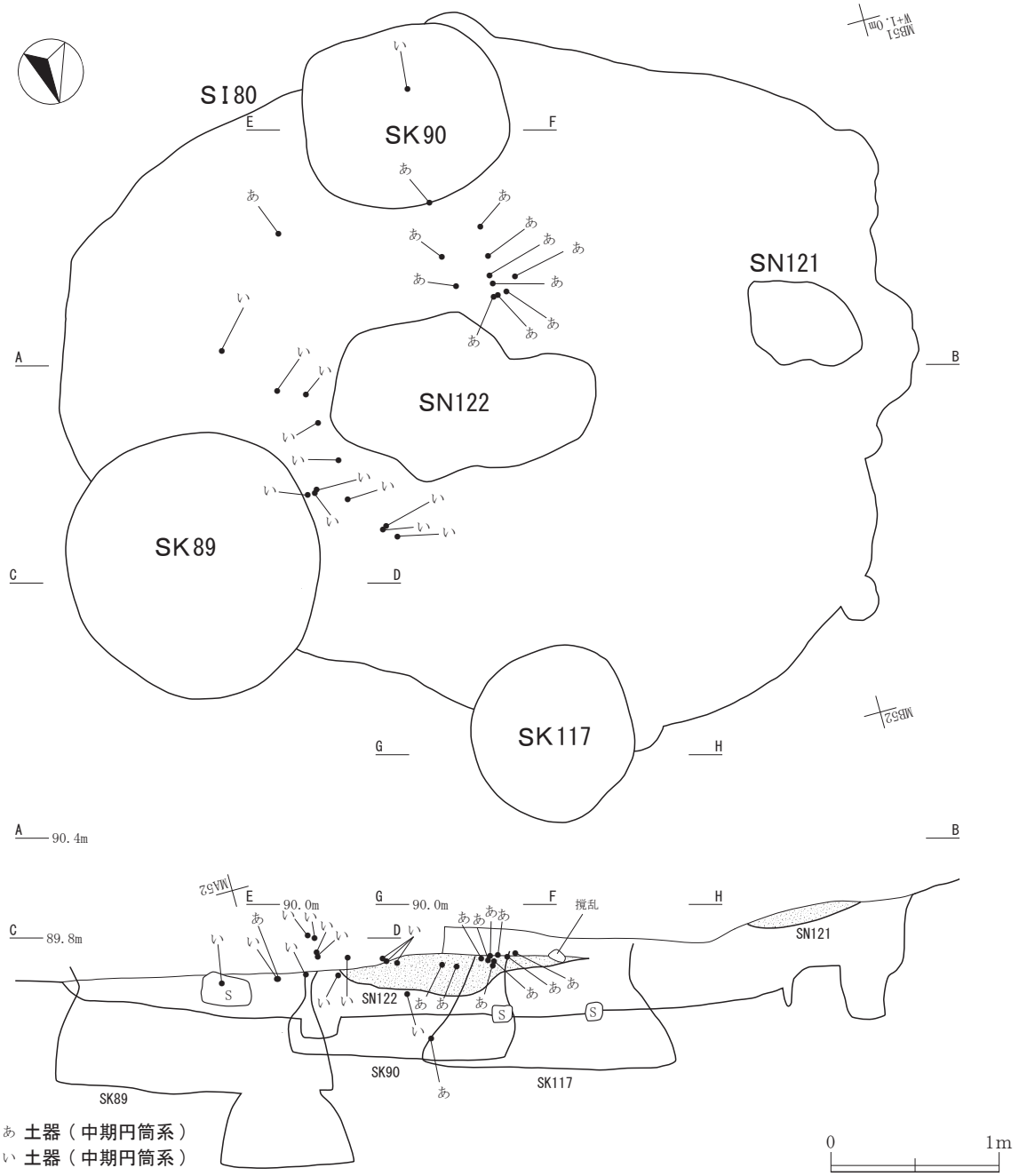


第20図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（５）

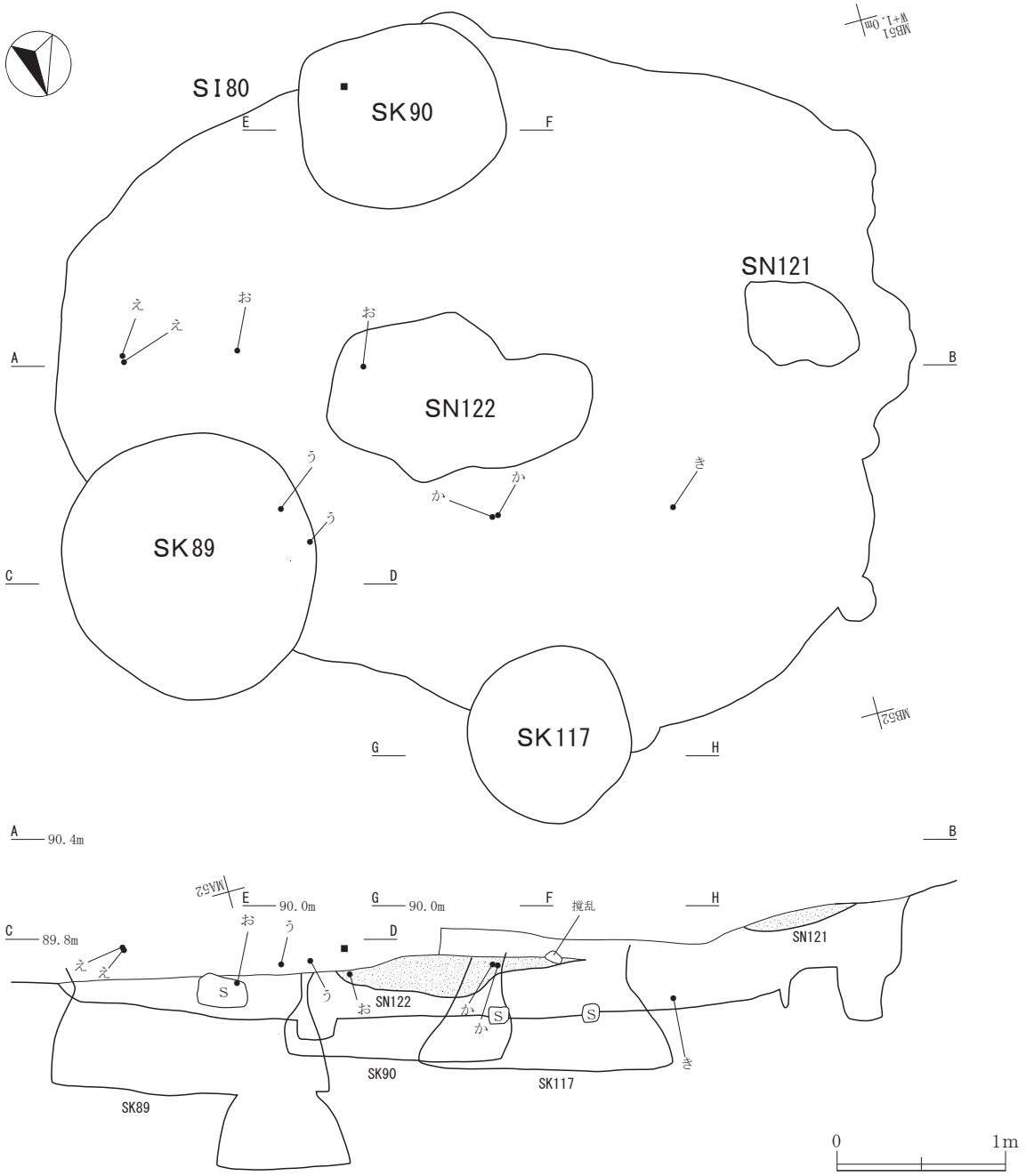


e 土器 26
f 土器 27
g 土器 28
h 土器 30
i 土器 33a、33 b
j 土器 34
k 土器 (73a)
l 土器 35
m 土器 36
n 土器 102
p 土器 39
q 土器 40
r 土器 41a、41b

第21図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（６）

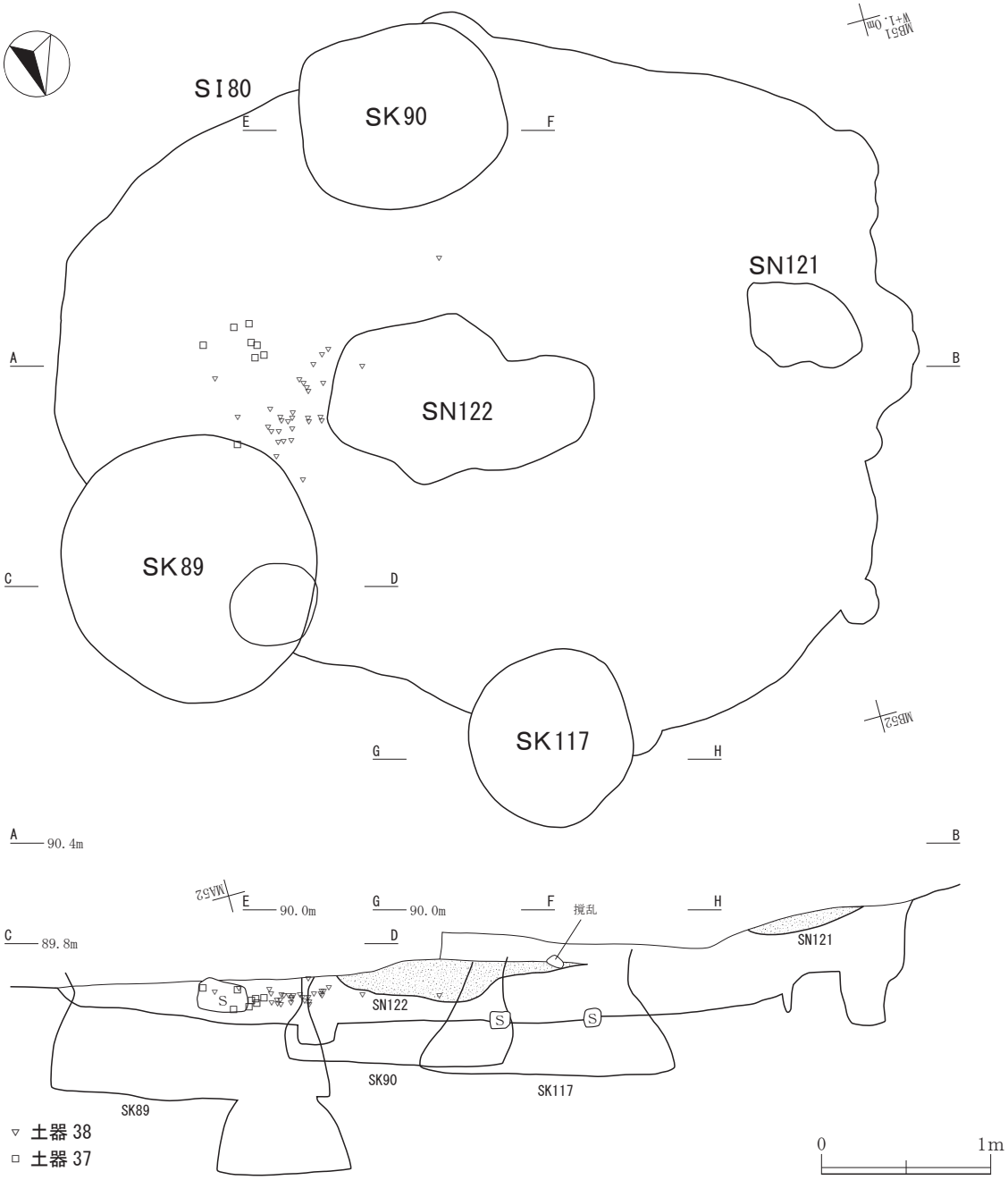


第22図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（７）

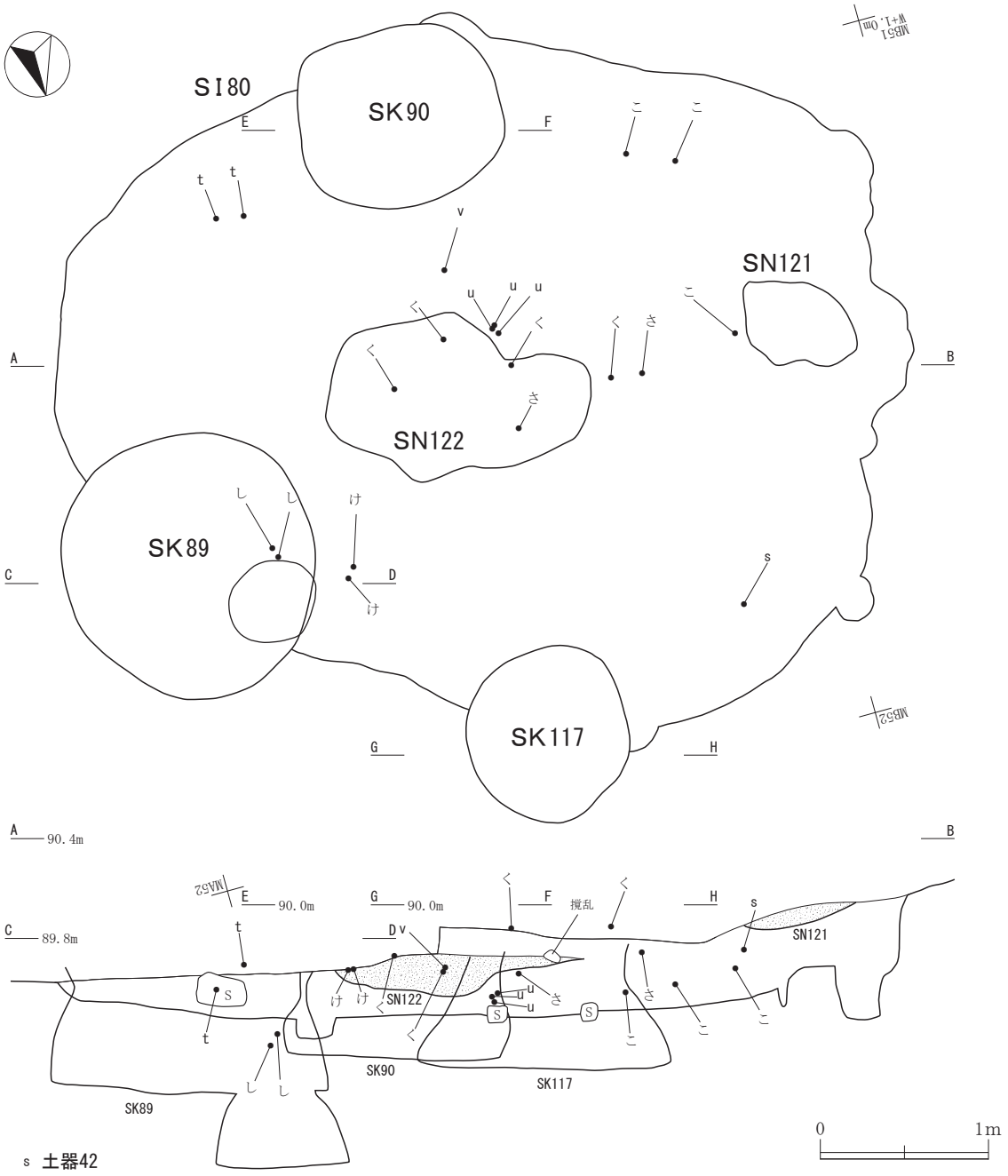


■ 土器(21a前期)　え 土器(中期円筒系)　か 土器(中期円筒系)
う 土器(中期円筒系)　お 土器(中期円筒系)　き 土器(中期円筒系)

第23図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(８)

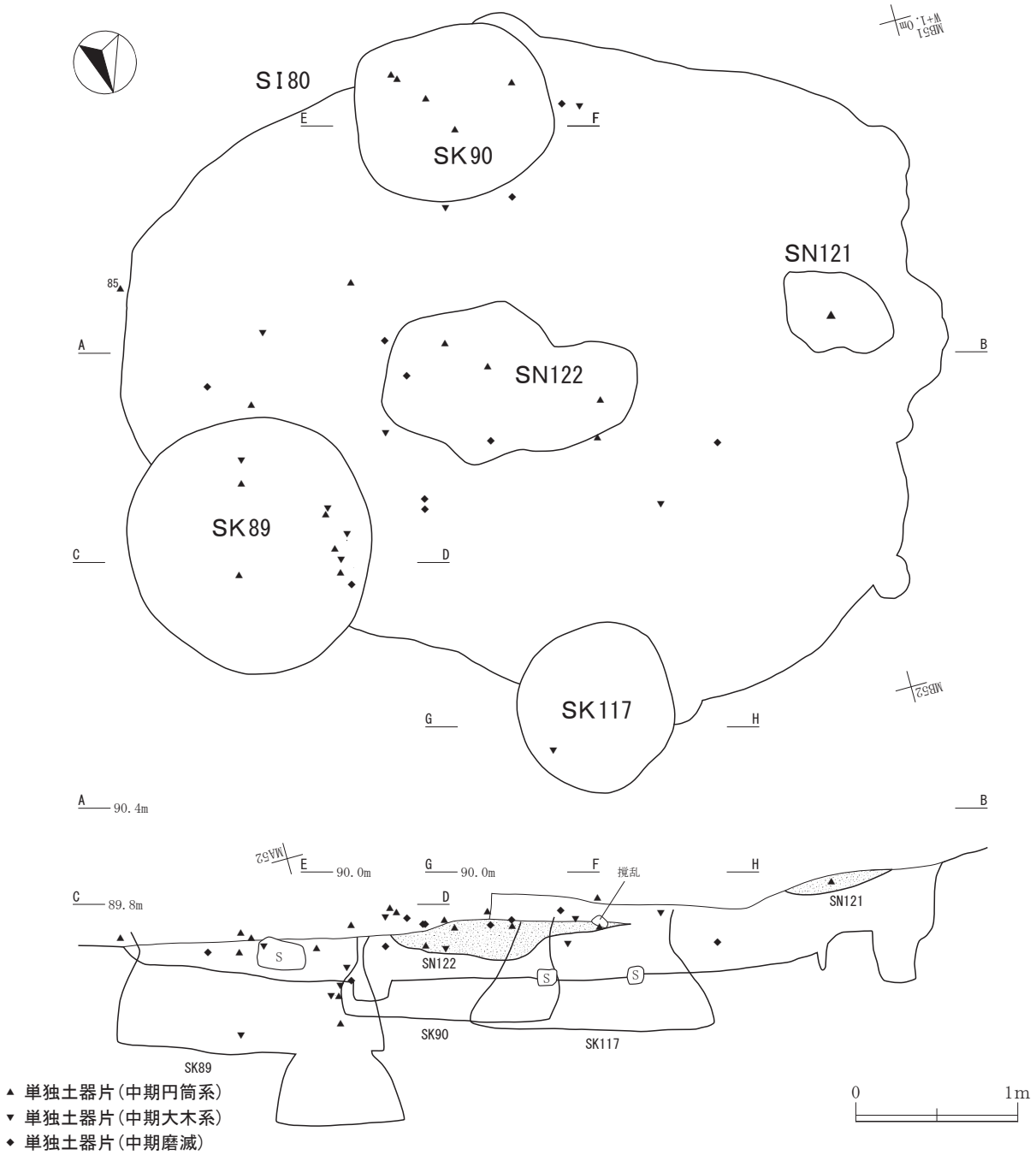


第24図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図（９）

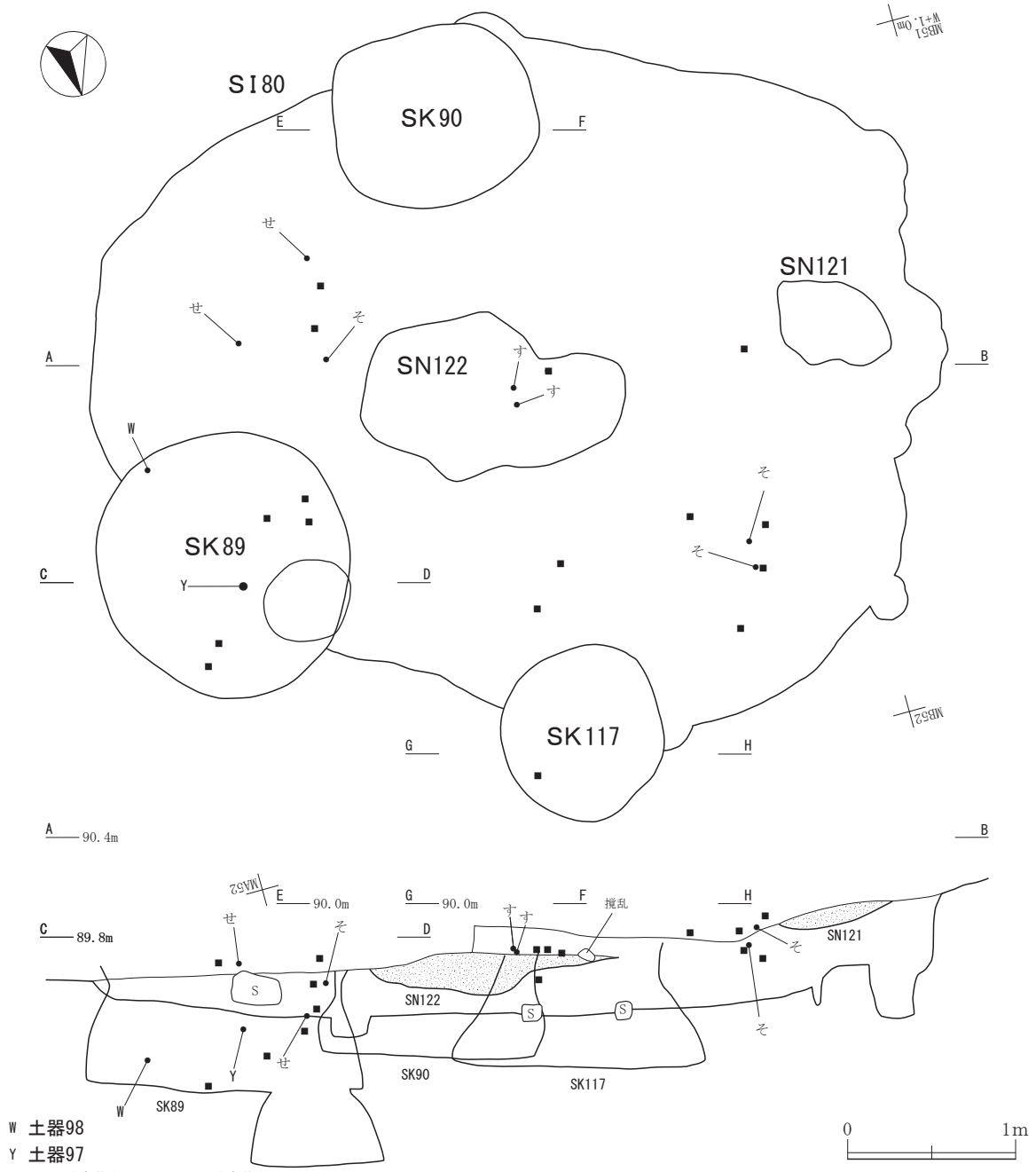


s 土器42
t 土器43　　く 土器(中期大木系)　　さ 土器(中期大木系)
u 土器44　　け 土器(中期大木系)　　し 土器(中期大木系)
v 土器45　　こ 土器(中期大木系)

第25図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(10)

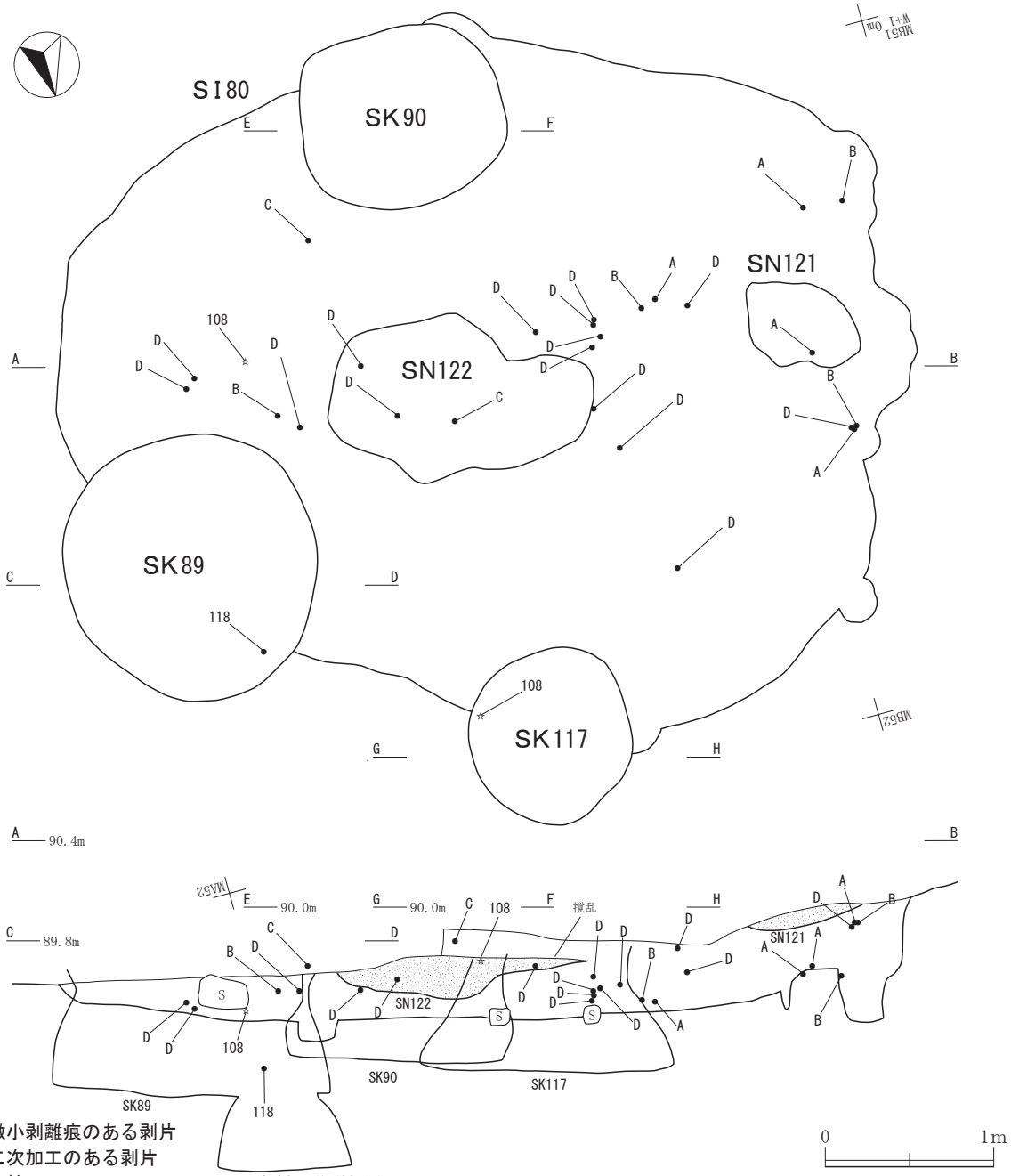


第26図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(11)



W 土器98
Y 土器97
す 土器(後期)　せ 土器(後期)
そ 土器(後期)　■ 単独土器片(後期)

第27図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(12)



A　微小剥離痕のある剥片
B　二次加工のある剥片
C　石核
D　剥片

108 磨製石斧（接合）
118 凹石

第28図　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土分布図(13)

２　土坑

縄文時代の土坑72基を検出した。ほぼ遺跡全面に分布する。土坑の形態は上端部がオーバーハングしていわゆるフラスコ状土坑、袋状土坑となるものも多いと思われるが、断面形のバラエティーは漸移的で明瞭な区分が認められないこと、上端部の崩落や後世の削平等により現在の形態が必ずしも本来の形態ではないことから、すべて土坑として記載する。壁のオーバーハングについては一覧表に有無を記載した。各土坑の属性は第３表に集約して掲載した。出土遺物の属性は第４表(土器)及び第６表(石器)に記載した。出土土器の個体識別をした結果、遺構間で同一個体破片が出土したものは、第８表に破片点数を掲載した

SK01土坑(第29図、第３表、図版５)

遺跡西側急斜面の確認調査トレンチ内で検出した。周辺に他の遺構はない。Ⅱ－ｂ層中から掘り込まれた土坑である。形態から縄文時代の土坑と判断した。埋土は斜面上部からの流入による堆積と考える。埋土上部に火山灰が堆積していることから、平安時代でもこの地点は浅い窪地が残っていたことが分かる。遺物はなく、底面西端の最奥部で10㎝～20㎝の亜角礫が計４個出土した。

SK05土坑(第29図、第３表、図版５)

平坦部南側のⅢ層上面で重複するSK42土坑とともに検出した。検出面でSK05土坑の輪郭がSK42土坑を切ることが明瞭であった。埋土は、最上位の１層や下位の９層が地山土の再堆積土、ほかの各層にも多量の地山土が混入することから、埋め立てによる堆積と推定する。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と判断した。SI42土坑を切ることと近接する土坑の遺物出土状況から埋め立て時期の下限は晩期前葉と推定する。(1)

SK06土坑(第30・66・67・76図、第３・４・６・８表、図版５・18・20)

平坦部南側のⅢ層上面で重複するSK33土坑とともに検出した。検出面でSK06土坑の北東部がSK33土坑に切られていることが明瞭であった。埋土は、上位の１層や中位の５層が地山土の再堆積土、ほかの各層にも地山土が混入することから、埋め立てによる堆積と推定する。出土した縄文土器破片５点のうち４点は第67図62で、SK23土坑、SK33土坑、遺構外からも同一個体破片が出土し、埋土上位出土の１点はSK23土坑出土破片及び遺構外出土破片と接合した。この土器片はSK06土坑埋め立て時に混入したものと考えられることから、SK06土坑はSK23土坑埋没後に掘削、埋め戻されたと推測する。ほかに第66図46の壺形土器破片も出土した。SK23土坑では大洞ＢＣ式土器(第67図59)が埋め立て土に混入したと考えることから、本土坑の埋め立て時期は晩期前葉を上限とする。(1)

SK07土坑(第30図、第３表、図版５)

平坦面南西部のⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土は地山土が混入する黒褐色土を投入した埋め立てによる堆積と推定する。遺物は石器剥片１点が出土した。本土坑の帰属時期を示す遺物はなく時期は不明である。

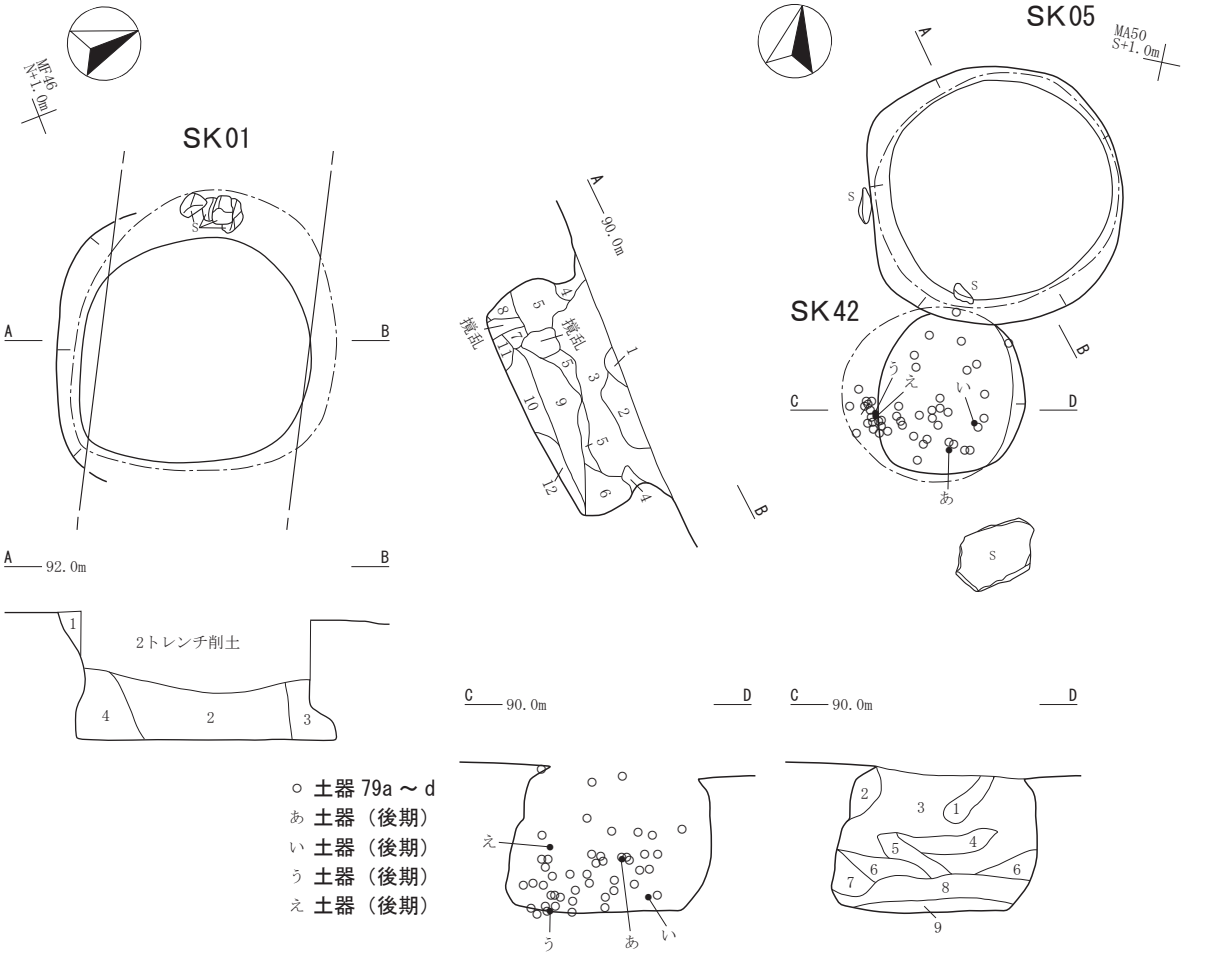
SK10土坑(第31・66図、第３・４・８表、図版５・18)

南斜面のⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。SK14土坑と隣接する。埋土は中位に地山土の再堆積土、他の各層にも地山土が混入することから埋め立てによる堆積と推定する。埋土上位の１層は埋め立て地の沈下により形成された浅い窪地に周辺地表土が流入した堆積土層と考える。遺物はこの層から第66図49ｂが出土した。この個体はSK14土坑、SK16土坑からも出土した。また、第66図

47、48も出土した。出土遺物とSK14土坑、SK16土坑の関係から埋め立て時期の下限を後期末晩期初頭と推定する。(2)

SK12土坑（第31図、第３表、図版５）

南斜面のⅣ層上面で、SK13土坑とともに検出した。本土坑の南側がSK13土坑の北東部を切っている。埋土は、最下層の６層と最上層の１層に地山土が塊状に多量に混じり、埋め立てによる埋没と判断する。地山土主体の１層は土坑中央のみに土坑に蓋をするように堆積している。遺物は出土せず、埋土の状況から縄文時代の土坑と推定した。SK13土坑を切ることから帰属時期は後期後葉を上



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK01	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	1	1	Ⅱ層土		小粒　2%	径20mm以下　5%	
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	1	Ⅱ層土		小粒　5%		
	3	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　40%			
	4	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土　40%			
SK05	1	黄褐色土（10YR5／6）	CL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%			極小粒　1%
	2	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　20%	中粒　30%		小粒　2%
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土　10%	中粒　15%		極小粒　1%
	4	褐色土（10YR4／4）	CL	2	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%			
	5	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　10%　小粒　10%		小粒　1%
	6	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　10%　小粒　30%		極小粒　1%
	7	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒		極小粒　1%
	8	褐色土（10YR4／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		
	9	黄褐色土（10YR5／8）	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　10%			
	10	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　20%		小粒　2%
	11	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　20%		
	12	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　10%		小粒　2%
SK42	1	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　30%		極小粒　1%
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小塊　20%		
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%	径5mm以下　10%	
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　30%	小礫　15%	
	5	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	3	3	Ⅱ層土		小粒　30%	小礫　10%	
	6	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		小粒　10%	小礫　5%	
	7	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		極小粒　5%	小礫　2%	
	8	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　30%	中礫　15%	
	9	黒色土（10YR2／1）	SiCL	3	3	Ⅱ層土		極小粒　5%	中礫　20%	

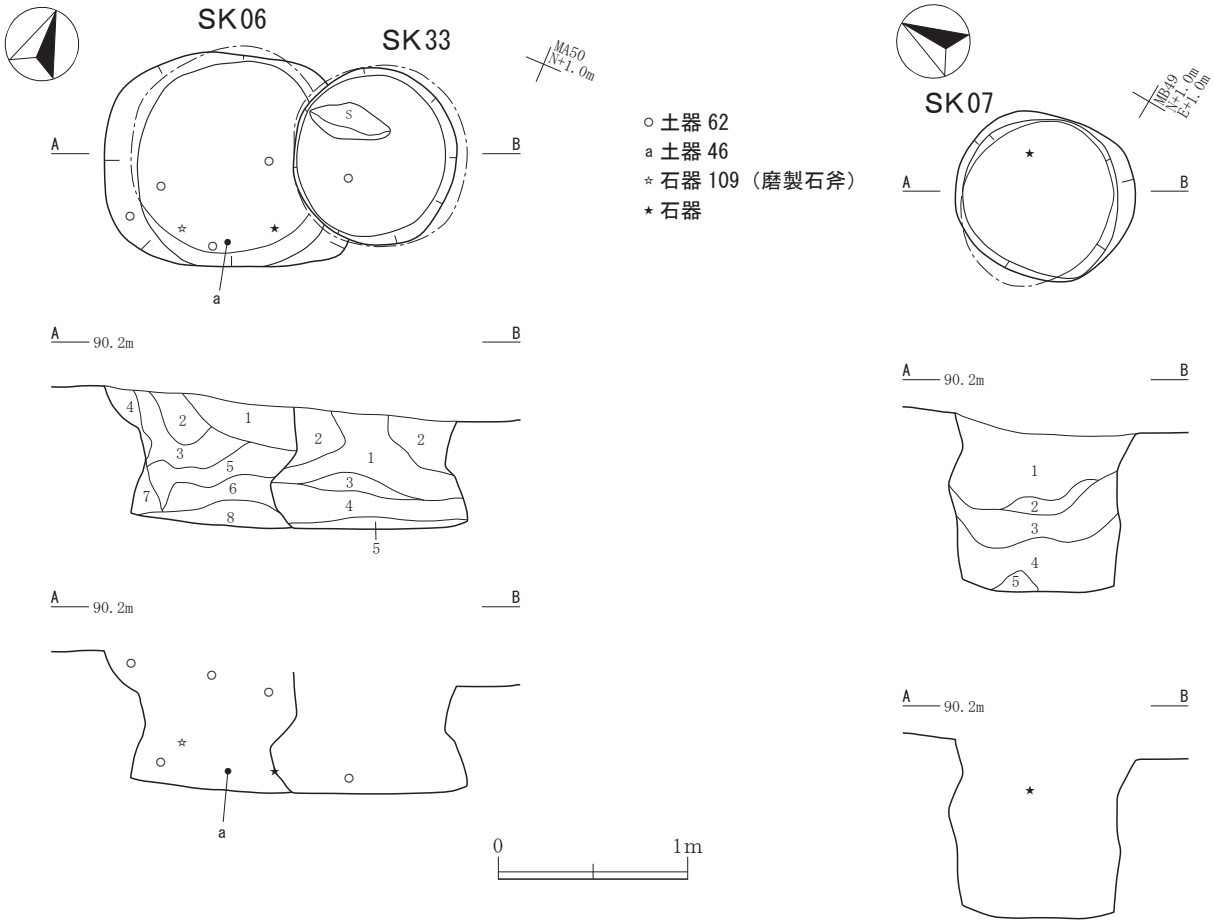
第29図　SK01土坑、SK05土坑・SK42土坑

限とする。

SK13土坑（第31・58・76図、第３・４・６・８表、図版５・20）

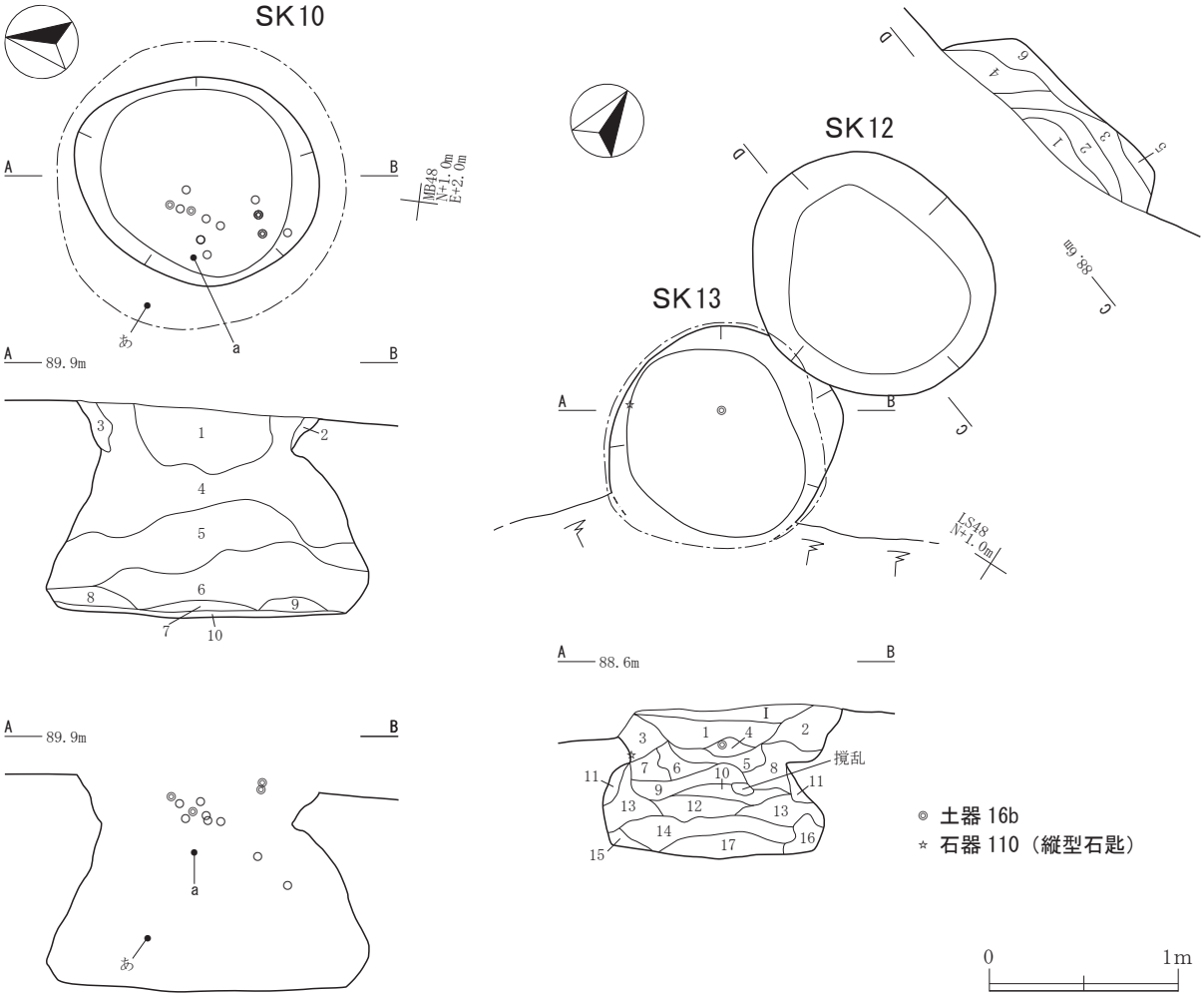
南斜面南端部のⅣ層上面で検出した。斜面下部は掘削による急崖でその法面の地山土中に本土坑の断面が現れていた。同時に検出したSK12土坑の南部が、本土坑の北東部を切っている。埋土は地山土の再堆積土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てと判断する。検出面では中央部がやや窪んでレンズ状にⅠ層土が残る。土坑の埋め立て後に若干陥没したことによるものと推測する。

遺物は、埋土上位から第58図16b、３層から縦型石匙第76図110が出土した。16bは本土坑と約16m離れた位置にあるSI55竪穴住居跡から出土した16a・cと同一個体の十腰内Ⅲ群土器である。SI55竪穴住居跡では斜面上部からの流入土に混入して出土した。本土坑の埋土４層は、本土坑から離れた斜面上部の土器散布域から採取し投入された可能性がある。埋め立て時期は十腰内Ⅲ群期を上限とし



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK06	1	黒褐色土（10YR3／2）	CL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%			中粒　1%
	2	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		大粒　3%		
	3	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊　15%	あり	
	4	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊　7%		中粒　1%
	5	黒褐色土（10YR3／2）	SL	2	3	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			
	6	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　5%		
	7	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	1	2	Ⅲ層土		大粒　5%		
	8	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊　10%		中粒　2%
SK33	1	黄褐色土（10YR5／6）	SL	2	1	Ⅳ層土			径10～30mm 15%	
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	1	1	Ⅱ層土	Ⅲ層土 20%	極大粒　5%		中粒　1%
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 10%			
	4	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒　25%		小～中粒 2%
	5	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊　10%		
SK07	1	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　10%		
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　2%		
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　7%		
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　10%		
	5	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　20%		

第30図　SK06土坑・SK33土坑、SK07土坑



○ 土器 48
◎ 土器 49b
a 土器 47
あ 土器（後期）

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SK10	1	黒色土(10YR1. 7／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小～中粒 5%	
	2	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 30%	小～中粒 1%	
	3	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 15%	小～中粒 1%	
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土	極大粒 30%	
	5	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	3	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%		
	6	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊 15%	
	7	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%		
	8	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		
	9	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	2	Ⅳ層土			
	10	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊 5%	
SK12	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 50%	極小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 20%	小粒 2%
	3	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒 30%	中粒 2%
	4	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		地山土 30%	小粒 2%
	5	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 20%	極小粒 1%
	6	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		地山土 50%	
SK13	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大粒 5%	中粒 2%
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%	小粒 1%
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	1	2	Ⅲ層土		小粒 15%	小粒 1%
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%	極小粒 1%
	5	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒 20%	極小粒 1%
	6	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒 5%	極小粒 1%
	7	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 30%	極小粒 1%
	8	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 30%		極小粒 1%
	9	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 15%	極小粒 1%
	10	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%	極小粒 1%
	11	褐色土(10YR4／4)	SL	1	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%		
	12	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	1	Ⅱ層土		大粒 30%	小粒 2%
	13	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 5% 大粒 30%	小粒 1%
	14	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 10%		
	15	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		
	16	褐色土(10YR4／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大塊 10% 中粒 30%	
	17	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 10%	

第31図　SK10土坑、SK12土坑・SK13土坑

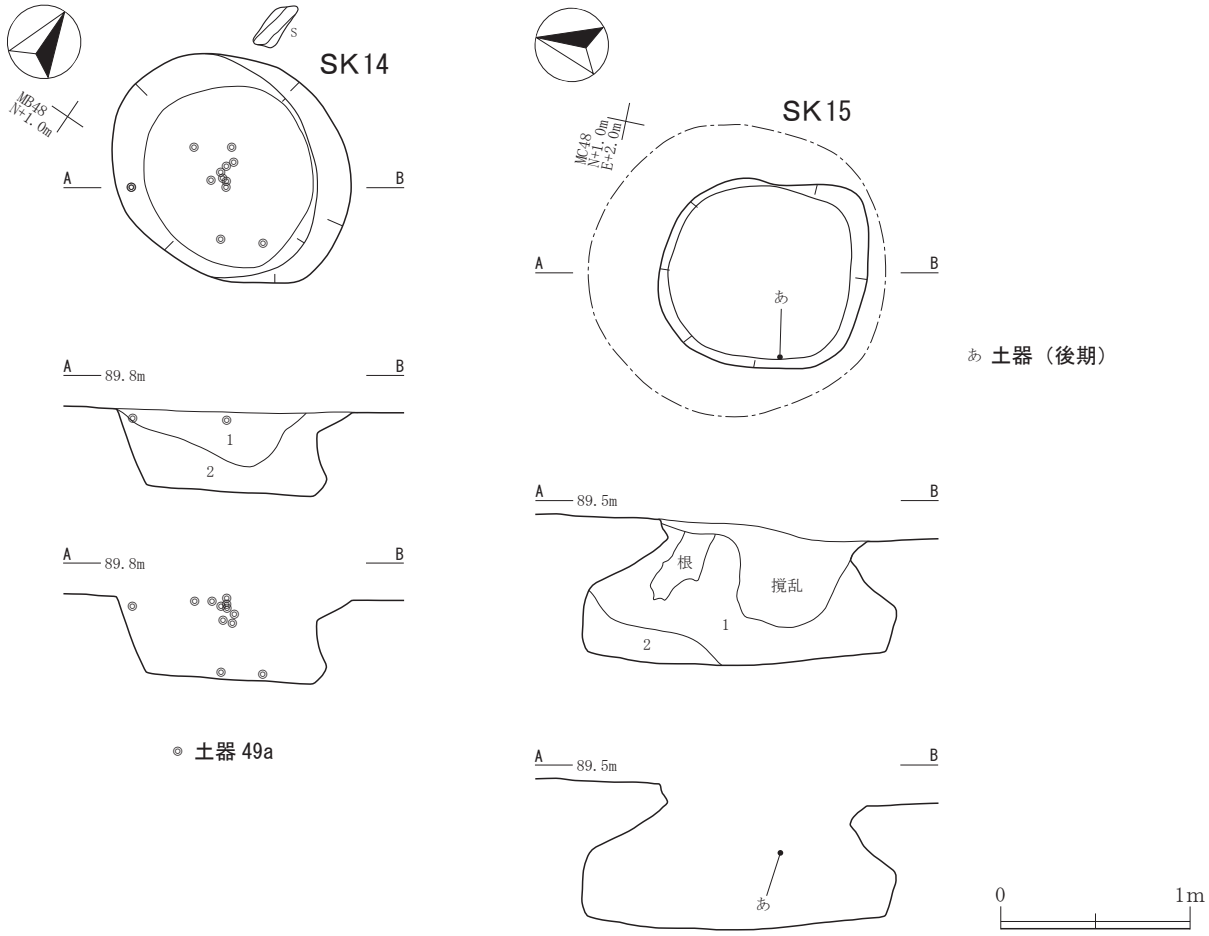
後期後葉と推定する。

SK14土坑（第32・66図、第３・４・８表、図版６・18）

南斜面のⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。SK10土坑と隣接する。埋土は多量の地山土が混入することから埋め立てによる堆積と考える。遺物は底面直上から２点と土坑中央の埋土上位から第66図49aの同一個体破片13点が出土した。同一個体の破片は、SK10土坑、SK16土坑、遺構外からも出土した。埋土と土器片の状況から、構築後、短期間で埋め立てられたと推測する。出土遺物とSK14土坑、SK16土坑の関係から帰属時期の上限を後期末晩期初頭と推定する。(2)

SK15土坑（第32・66・76図、第３・４・６表、図版６・18・20）

南斜面でＳI04竪穴住居跡を精査中に検出した。ＳI04竪穴住居跡の埋土１層を掘り込んで本土坑が構築されており、SK04竪穴住居跡埋没後に構築された遺構である。埋土は地山塊を多く含むほぼ同一の土である。埋め立てによる堆積と考える。埋土中から第66図50、第76図111など土器６点、石器２点が出土した。これらはＳI04竪穴住居跡埋土中に包含されていた遺物の混入と推測する。本土坑の帰属時期はＳI04竪穴住居跡を切ることから十腰内Ⅲ群期を上限とする。

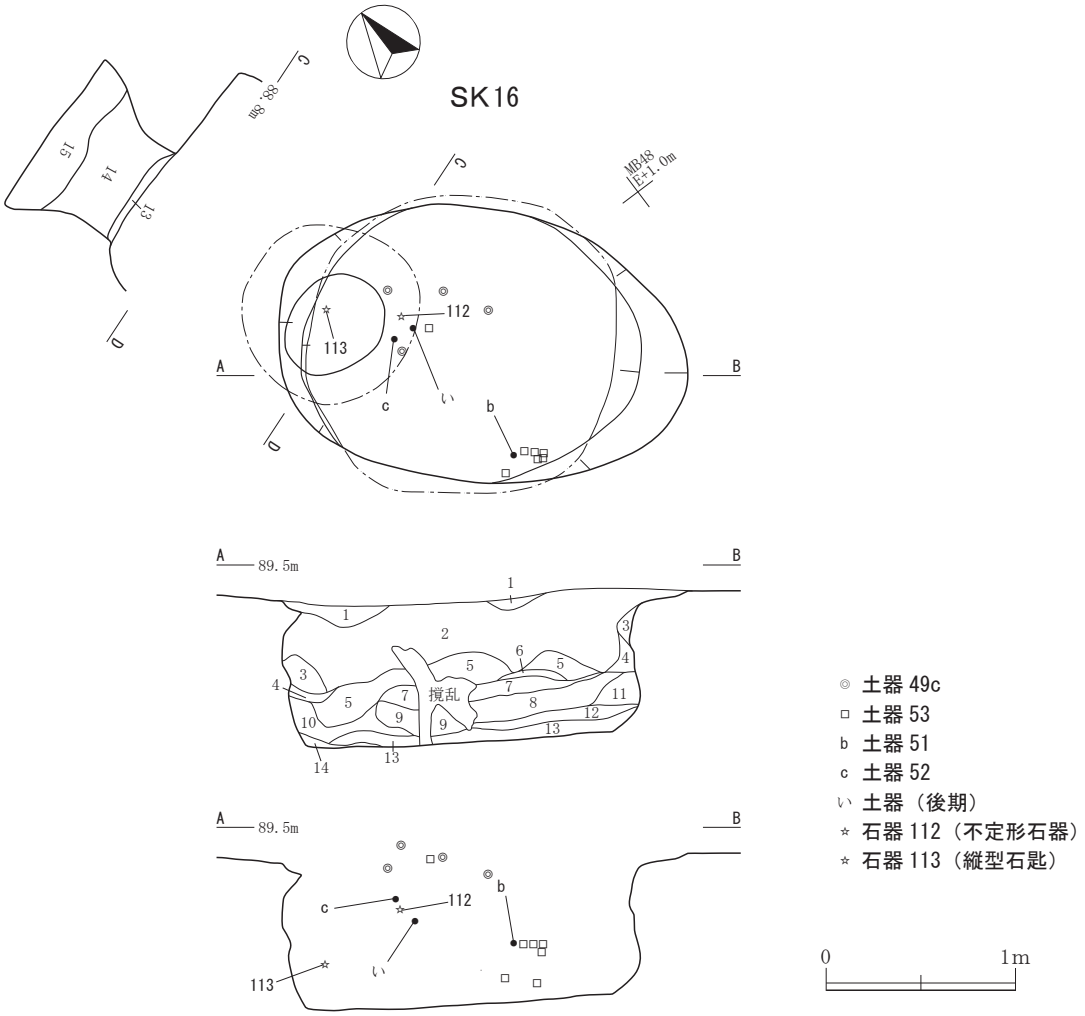


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK14	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 10%	小～大塊 10%		中粒 1%
	2	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 20%	大塊 30%		
SK15	1	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 20%		大粒 3%
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊 7%		

第32図　SK14土坑、SK15土坑

SK16土坑（第33・66・76図、第３・４・６・８表、図版６・14・18・20）

南斜面のＳI04竪穴住居跡東端部で検出した。ＳI04竪穴住居跡の埋土を掘り込んで本土坑が構築されている。上端の平面形は楕円形であるが本来は底面同様の円形と推測する。埋土は地山土やⅢ層土の大塊を多く含むことから埋め立てによる堆積と考える。長軸方向の北西端には、底面を開口面とする小土坑が付属する。この小土坑の埋土は大塊状に破砕された地山土の再堆積土である。遺物は埋土中位から第66図51、埋土上位から赤色塗彩された52が出土した。これらはＳI04竪穴住居跡埋土中包含遺物の混入と推測する。第66図53は土坑南側の壁際に投入または安置されたと推測する無文の粗製深鉢形土器である。石器は縦型石匙第76図113と二次加工のある剥片112が出土した。第66図53が後期



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK16	1	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	1	Ⅲ層土		中塊　20%		
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　5%		
	3	黄褐色土（10YR5／6）	SL	4	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土　10%			
	4	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	1	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　30%	小粒　7%		
	5	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		
	6	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒　20%		
	7	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　20%	大塊　10%		
	8	にぶい黄褐色土（10YR5／4）	SL	2	3	Ⅳ層土	Ⅲ層土　30%			
	9	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	4	2	Ⅲ層土		極小粒　5%		
	10	黄褐色土（10YR5／6）	SL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%			
	11	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　15%		
	12	褐色土（10YR4／3）	SL	4	2	Ⅳ層土		大塊　7%		
	13	にぶい黄褐色土（10YR5／4）	SL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土　30%			
	14	褐色土（10YR4／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　20%		大粒　1%
	15	黄褐色土（10YR5／6）	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%			

第33図　SK16土坑

最終末の土器であることと遺構検出面から出土した第66図49cと同一個体破片が出土したSK10土坑、SK14土坑の遺物出土状況から、本土坑の埋め立て時期を後期最終末と推定する。(2)

SK17土坑（第34・56・66・77図、第３・４・６・８表、図版17・20）

南側面のＳI03竪穴住居跡埋土上面で検出した。ＳI03竪穴住居跡の地山土の壁を掘り込んでいる西側の一部と底面全体が残存している。埋土は地山土が塊状に多量に堆積することから埋め立てられたと推測する。遺物は埋土下位から出土した破片と遺構外出土破片が接合した第66図54、微小剥離痕のある剥片（第77図115）がある。これらは埋め立て土に混入したものである。ＳI03竪穴住居跡の埋土を切って構築されていることから、埋め立て時期は十腰内Ⅲ群期を上限とする。

SK19土坑（第35・67図、第３・４・８表、図版６・18）

平坦部南側のⅢ層上面で検出した。重複遺構はなくSK20土坑、SK40土坑、SK41土坑、SK77土坑、SK78土坑と近接する。地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、埋め立てによる堆積と考える。検出面では４個の亜円礫が出土した。これらは土坑埋め立て後に現位置に至ったものと推測する。埋土上位から出土した第67図55aの同一個体破片はSK40土坑上面に置かれた大礫の下からも出土した。埋土の状況、出土土器、近接する土坑の状況から埋め立て時期は晩期初頭～前葉と推定する。(3)

SK20土坑（第35図、第３・８表、図版６）

平坦部南側のⅢ層上面で検出した。重複遺構はなくSK19土坑、SK40土坑、SK41土坑、SK77土坑、SK78土坑と近接する。地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、埋め立てによる堆積と考える。検出面では周辺に拳大から人頭大の礫が散在し、南東側には土坑の輪郭に跨って扁平な大礫が出土した。この大礫は、本土坑埋め立て後に現位置に至ったものと推測する。埋土上位から出土した土器片は、SK40土坑、SK41土坑からも同一個体破片が出土した。検出面及び埋土の状況からSK19土坑、SK40土坑より新しく、埋め立て時期は晩期初頭～前葉を上限とし、集石を伴う土坑墓と推定する。(3)

SK21土坑（第36・67図、第３・４表、図版６・18）

南斜面のⅢ層上面で本土坑に切られるSK35土坑、その北側の最も古いSK43土坑とともに検出した。土坑最上部中央にはあたかも土坑上面に蓋をするように地山土の再堆積層がある。埋土に地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、埋め立てによる堆積と考える。埋土の状況と埋土上位出土の第67図57から埋め立て時期は後期末を上限と推定する。

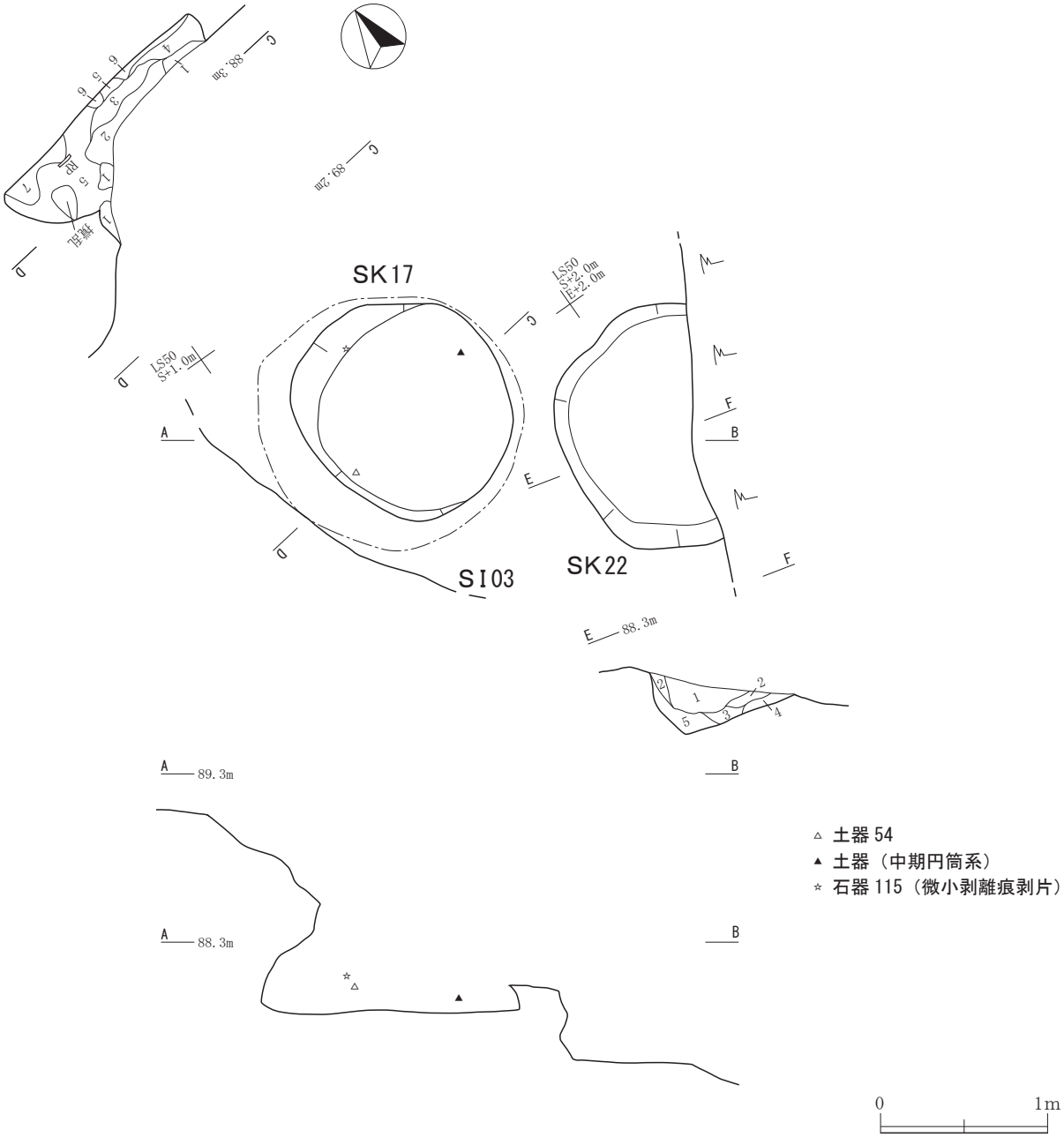
SK22土坑（第34図、第３表）

南斜面のＳI03竪穴住居跡埋土上面で検出した。ＳI03竪穴住居跡埋没後に構築された土坑である。土坑の北西側約半分が残存する。埋土には地山土の再堆積土や塊状の地山土が多量に混入することから、埋め立てによる堆積と推定する。遺物は出土しなかった。本土坑はＳI03の埋土を切っていることから埋め立て時期は十腰内Ⅲ群期を上限とする。

SK23土坑（第37・67・68図、第３・４・８表、図版６・14・17）

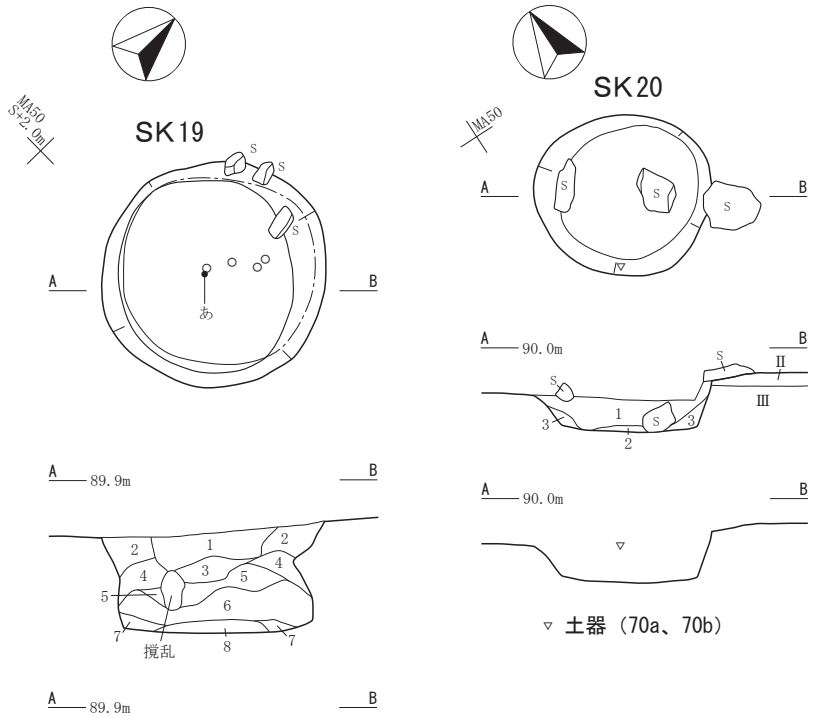
平坦面南側のⅢ層上面で、本土坑より新しいSN25焼土遺構、隣接するSK24土坑とともに検出した。SK05土坑、SK42土坑、SK06土坑、SK33土坑と近接する。埋土は地山土や地山土中に含まれる小礫を多く含むほぼ同一の土で、埋め立てによる堆積と考える。遺物は土坑内の北東部に偏在する

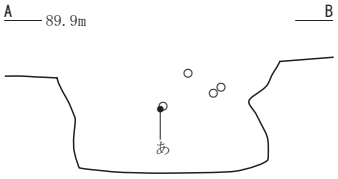
ものの埋土上位から下位まで各層に分散する。第68図65a・b・c・dは同一個体の破片がSK24土坑及び遺構外からも出土し、多くが接合した。底部破片は遺構外から出土した。第67図62は、本土坑から出土した胴下半部の破片12点と、SK06土坑から出土した胴部下端の破片１点、遺構外から出土した胴上半部の破片12点が接合したもので、この他に同一個体破片がSK33土坑からも出土した。本土坑出土破片65点中、17点が62、32点が65a・b・c・dであること、この個体はSK24土坑においても出土



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK17	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　30%		小粒　2%
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　15%		小粒　1%
	3	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		径20mm以下 1%	
	4	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　15%		極小粒 1%
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極大粒 20%		極小粒 2%
	6	にぶい黄橙色土(10YR6／4)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			
	7	黄褐色土(10YR5／6)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		極小粒 1%
SK22	1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		極大粒 30%		中粒　2%
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 20%	中粒　5%		小粒　1%
	3	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SiCL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 50%	地山土 50%		
	4	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SiCL	2	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%			
	5	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			

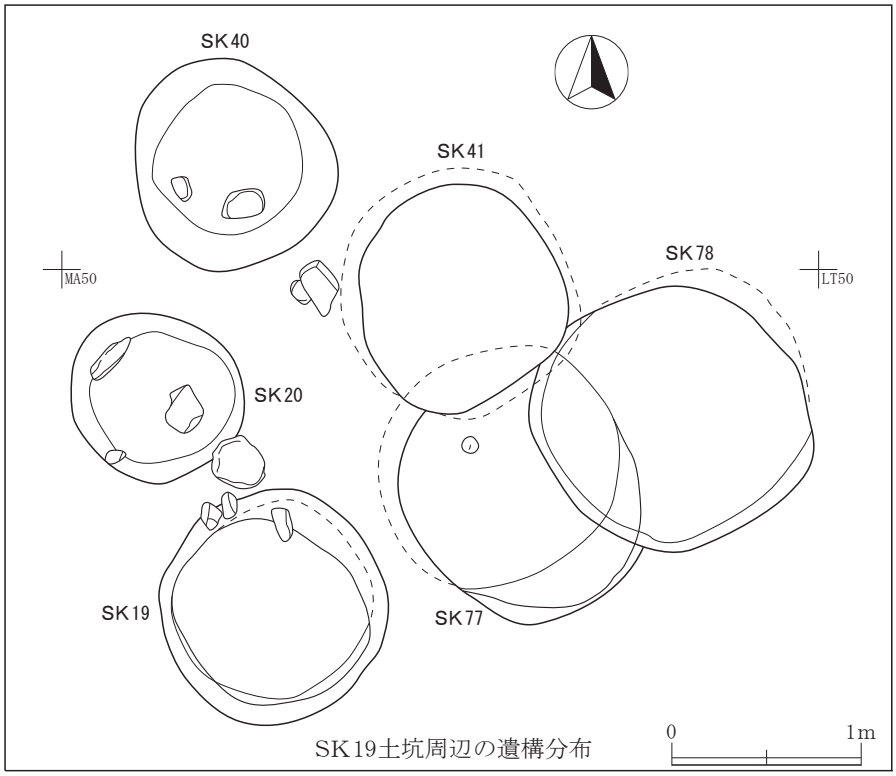
第34図　SK17土坑・SK22土坑





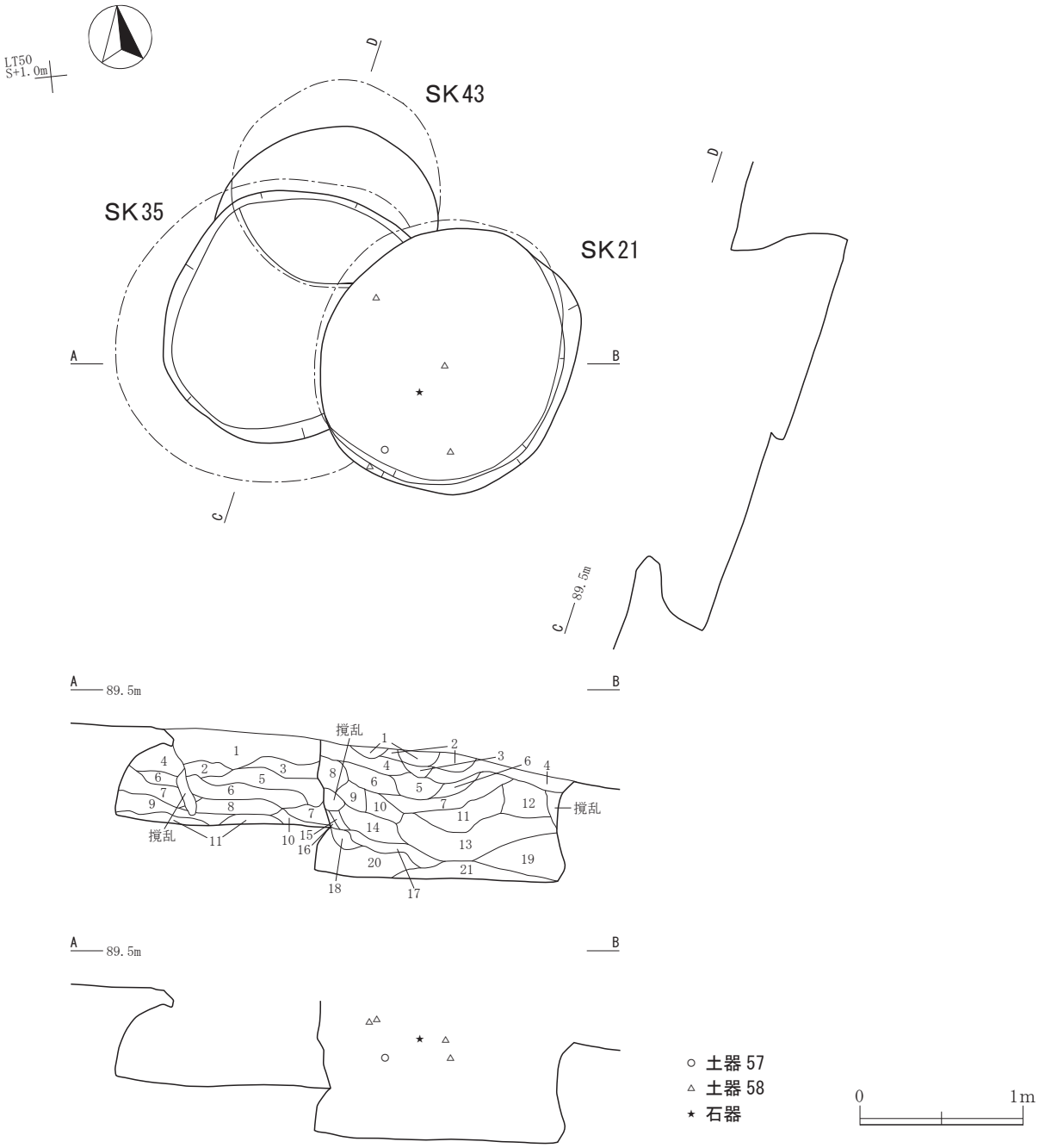
○ 土器 55a
あ 土器（後期）

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK19	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	中粒　10%			極小粒　1%
	2	褐色土（10YR4／4）	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土　50%			
	3	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　20%		極小粒　1%
	4	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　20%	小粒　15%		
	5	黒褐色土（10YR3／1）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大塊　30% 小粒　15%		
	6	明黄褐色土（10YR6／6）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　10%			
	7	にぶい黄褐色土（10YR5／4）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　30%			
	8	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　20%		極小粒　1%
SK20	1	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%		小粒　2%
	2	黒色土（10YR2／1）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		極小粒　5%		極小粒　1%
	3	褐色土（10YR4／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		



SK19土坑周辺の遺構分布

第35図　SK19土坑、SK20土坑



SK35

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒15%	中粒2%
2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		中粒30%	中粒1%
3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒5%	小粒1%
4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒5%	極小粒1%
5	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大粒30%	極小粒2%
6	褐色土(10YR4／3)	SL	3	1	Ⅲ層土		中塊40%	小粒1%
7	褐色土(10YR4／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	大塊15%	
8	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%		
9	褐色土(10YR4／4)	SL	1	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%	大塊70%	小粒1%
10	褐色土(10YR4／3)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		中粒15%	小粒1%
11	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		小塊15%	小粒1%

SK21

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%	90%	
2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		中粒15%	
3	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒30%	
4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒10%	小粒5%
5	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大粒10%	極小粒1%
6	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒30%	小塊10%
7	暗褐色土(10YR3／4)	SCL	3	2	Ⅲ層土		大塊20%	小粒2%
8	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒10%	極小粒1%
9	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒20%	小粒1%
10	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒20%	
11	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒10%	極小粒1%
12	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒30%	極小粒1%
13	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒40%	極小粒1%
14	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒30%	極小粒1%
15	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒15%	極小粒1%
16	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	80%	
17	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒10%	極小粒1%
18	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊20%	極小粒2%
19	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	1	2	Ⅲ層土		中粒30%	極小粒1%
20	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒15%	小粒1%
21	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒10%	小粒1%

第36図　SK21土坑・SK35土坑・SK43土坑

23点中13点を占めること、両土坑ともに土器片の出土位置は、全体としては土坑内で偏在するものの、埋土上位から下位まで各層に分散し、一定の高さに並べて安置したものではないことから、粗製深鉢形土器２個体を土坑外で破砕し、その土器片を土坑の埋め立て時に投入したものと考える。これら２個体は、大洞ＢＣ式の第67図59との共伴から、大洞ＢＣ式期の粗製土器と考える。本土坑は、埋土と遺物出土状況から大洞ＢＣ式期の土坑墓と推定する。(1)(4)

SK24土坑（第37・67・68図、第３・４・８表、図版６・19）

平坦面南側のⅢ層上面でSK23土坑とともに検出した。埋土は地山土が多く混入し、埋め立てによる堆積と考える。遺物は土坑内の西側に偏在して主に埋土１層、２層から出土した。本土坑出土土器破片23点中16点を占める第68図65a・b・c・dはSK23土坑においても65点中32点を占めることから、土坑埋め立て土に偶然混入したものではなく、両土坑が同時に埋め立てられる際に意図的に投入されたものと考える。第68図60a・bも本土坑から３点、SK23土坑から６点、遺構外から２点が出土した。本土坑はSK23土坑と同時に埋め立てた大洞ＢＣ式期の土坑墓と推定する。(1)(4)

SK27土坑（第38図、第３表、図版７）

南斜面のⅣ層上面で本土坑を切るSK34土坑とともに検出した。斜面下部の掘削により著しく削平され底面付近のみが残存する。埋土は地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てられたと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、SK34土坑に切られることから後期末を下限とする。(5)

SK28土坑（第38図、第３表、図版７）

南斜面のⅣ層上面で検出した。上端南西側の一部がSK29土坑によって切られている。底面は中央部に向かって緩やかに傾斜し、壁は上端まで丸みを帯びて外傾して立ち上がる。埋土は塊状の地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てられたと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、SK29土坑に切られることから後期末を下限とする。(5)

SK29土坑（第38・68・77図、第３・４・６・８表、図版７・20）

南斜面のⅣ層上面で検出した。基本土層ベルトＬＴラインでの観察からＳI30竪穴住居跡の埋土を掘り込んで本土坑が構築されている。第Ⅳ層上面で残存する深さは約30㎝であるが基本土層ベルトでの観察から本来の深さは50㎝以上であったことがわかる。埋土は地山土粒を含む黒褐色土で埋め立てによる堆積と推測する。遺物は第68図67aが出土した。同一個体破片はＳI30竪穴住居跡埋土上位とSK34土坑埋土上位からも出土した。ＳI30竪穴住居跡、SK34土坑の埋没後に本土坑が構築され埋め立てられたものと推定する。埋め立て時期は、67aの時期を上限とし後期末以降と推定する。(5)

SK31土坑（第39図、第３表）

南斜面の第Ⅲ層上面で本土坑を切るSQ09配石遺構とともに検出した。北西側の一部をSQ09配石遺構に切られ南側は撹乱により上端部が崩れている。底面には凹凸がある。埋土は地山土が塊状に多量に堆積することから埋め立てられたと推測する。土坑中央付近の底面から約15㎝上位で拳大の円礫が１個出土した。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、近接するSK10土坑、SK14土坑、SK16土坑の埋土中に包含されていた第66図49a・b・cが本土坑埋土中には混入していないことから、この土器の散布時点ではすでに埋没していたと推測し、下限を晩期初頭と推定する。

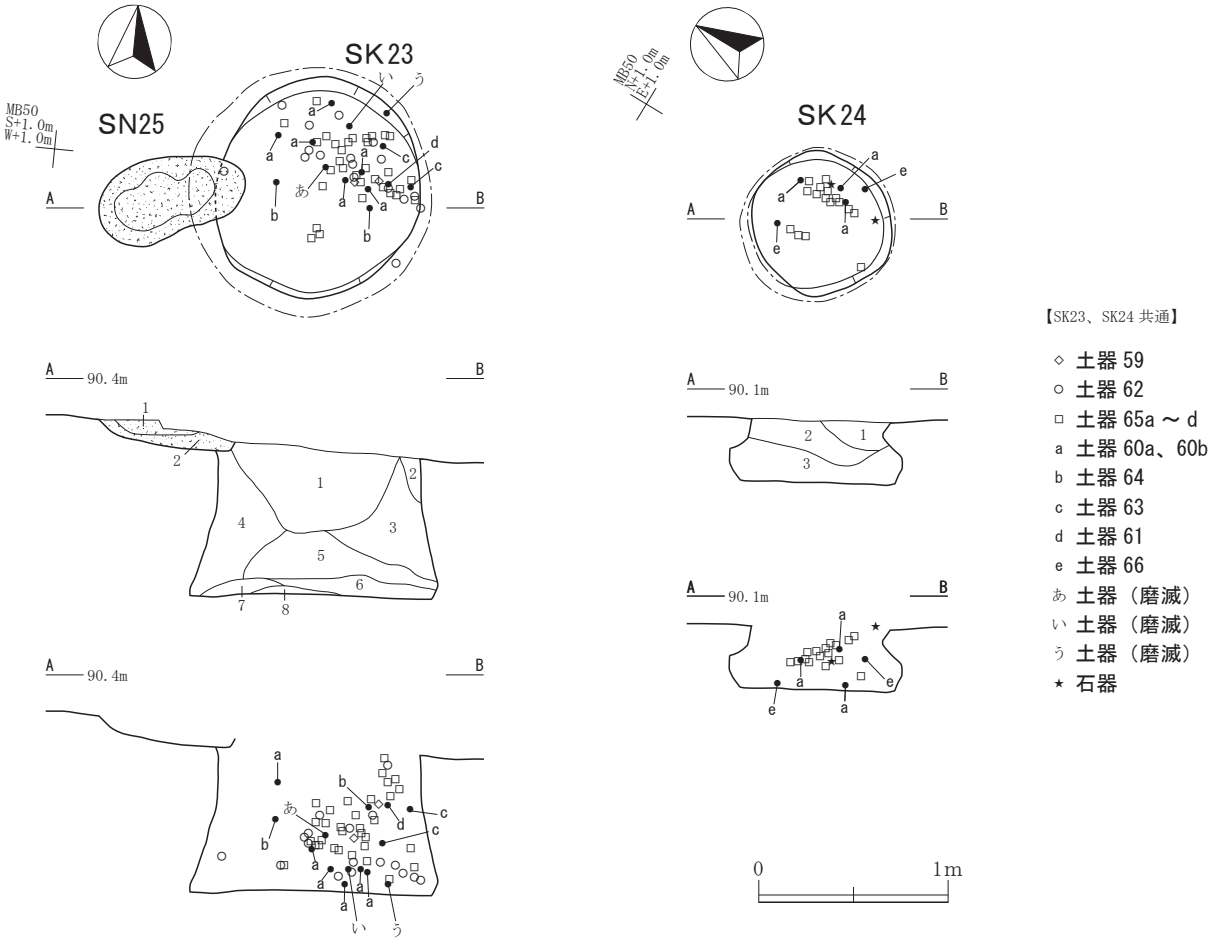
SK33土坑（第30図、第３表、図版５）

平坦部南側のⅢ層上面で重複するSK06土坑とともに検出した。検出面でSK33土坑の西側がSK06土坑を切っていることが明瞭であった。

埋土は、上層の１層に地山土が塊状に多量に再堆積し、ほかの層にも地山土が混入することから埋め立てによる埋没と判断する。土坑底面より約10㎝上位で、土坑埋め立て時に投入または安置された45㎝×20㎝の大礫が出土した。遺物はSK23土坑及びSK06土坑出土の第67図62と同一個体破片が１点出土した。埋め立て時期は、晩期前葉のSK23土坑より新しいSK06土坑を切ることから晩期前葉を上限とする。(1)

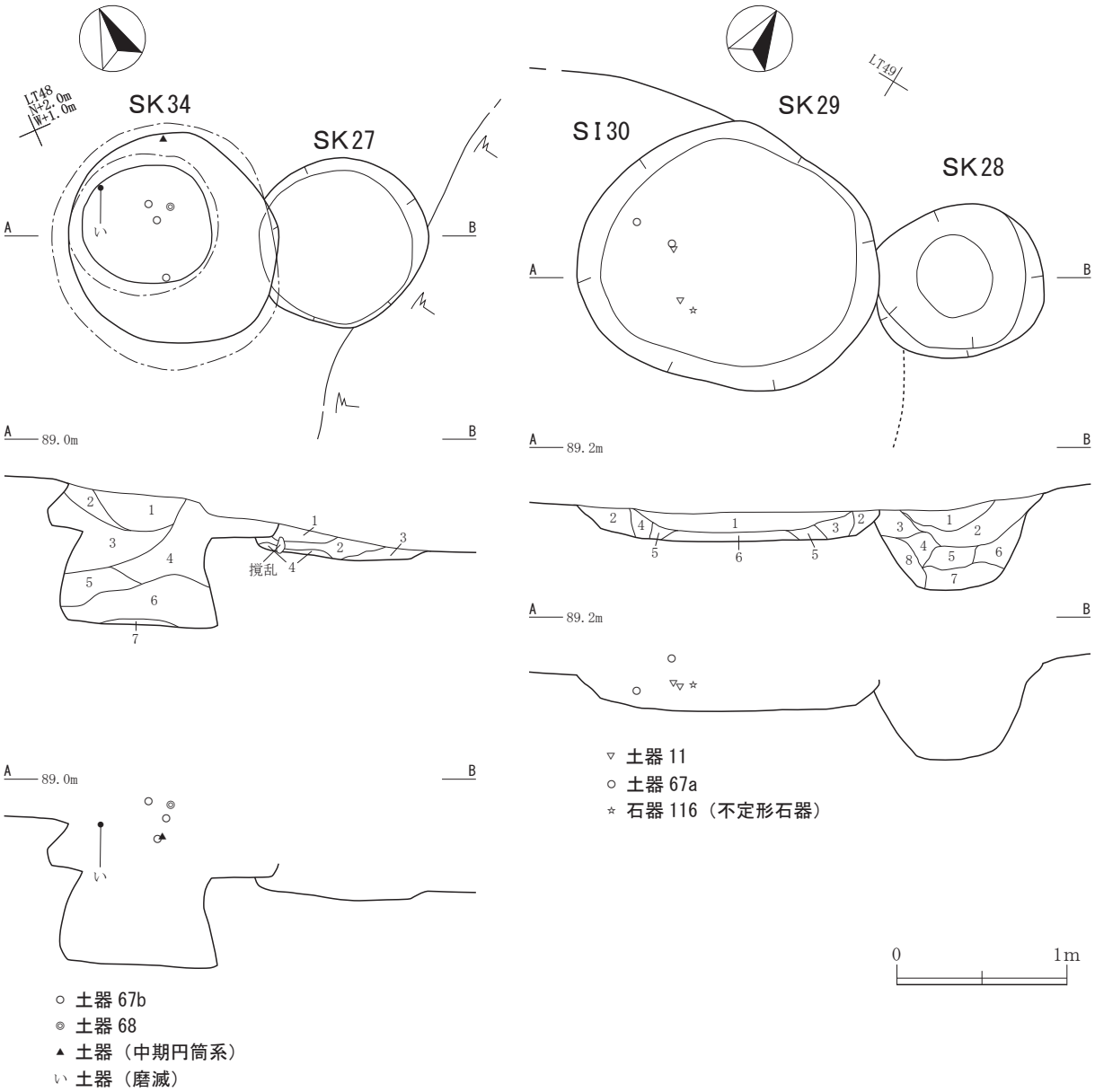
SK34土坑（第38・68図、第３・４・８表、図版７・19）

南斜面のⅣ層上面及びSI30竪穴住居跡埋土上で検出した。基本土層ベルトLTラインでの観察からSI30竪穴住居跡の埋土を掘り込んで本土坑が構築されている。底面の中央から北西側にかけて、



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK23	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　5%	径10mm以下　5%	小粒　1%
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SCL	3	2	Ⅲ層土		地山土　30%		
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅲ層土　30%	小粒　2%	径10mm以下　5%	極小粒　1%
	4	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　20%	極小粒　15%		極小粒　1%
	5	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒　5%		
	6	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	2	Ⅲ層土		中塊　30%	径20mm以下　15%	
	7	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	3	2	Ⅲ層土		小粒　5%		
	8	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	3	Ⅲ層土				
SK24	1	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊　40%		極小粒　1%
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒　20%		極小粒　1%
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　5%	径30mm以下　10%	
SN25	1	赤褐色土（5YR4／8）	SiCL	1	1	Ⅲ層土				
	2	黒褐色土（7.5YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土				極小粒　1%

第37図　SK23土坑、SK24土坑、SN25焼土遺構



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK27	1	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 10%		
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 5%		
	3	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 20%		小粒 1%
	4	黄褐色土(10YR5／6)	SiCL	2	2	Ⅳ層土		大塊 80%		
SK28	1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊 15%		極小粒 1%
	2	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒 30%		小粒 1%
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	30%	大粒 30%		小粒 2%
	4	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 20%	大粒 20%		小粒 1%
	5	褐色土(10YR4／6)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 40%	大塊 60%		極小粒 1%
	6	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒 30%		極小粒 1%
	7	褐色土(10YR4／6)	SiCL	1	2	Ⅲ層土		中塊 30%		小粒 2%
	8	黄褐色土(10YR5／6)	L	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%			極小粒 1%
SK29	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%		小粒 5%
	2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒 30%		小粒 2%
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒 20%		小粒 2%
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小塊 20%		小粒 2%
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 10%		小粒 2%
	6	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%		極小粒 1%
SK34	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%		
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 2%		
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 20%		
	4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒 30%		
	5	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大粒 40%		
	6	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	80%		
	7	褐色土(10YR4／4)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小塊 10%		

第38図　SK27土坑・SK34土坑、SK28土坑・SK29土坑

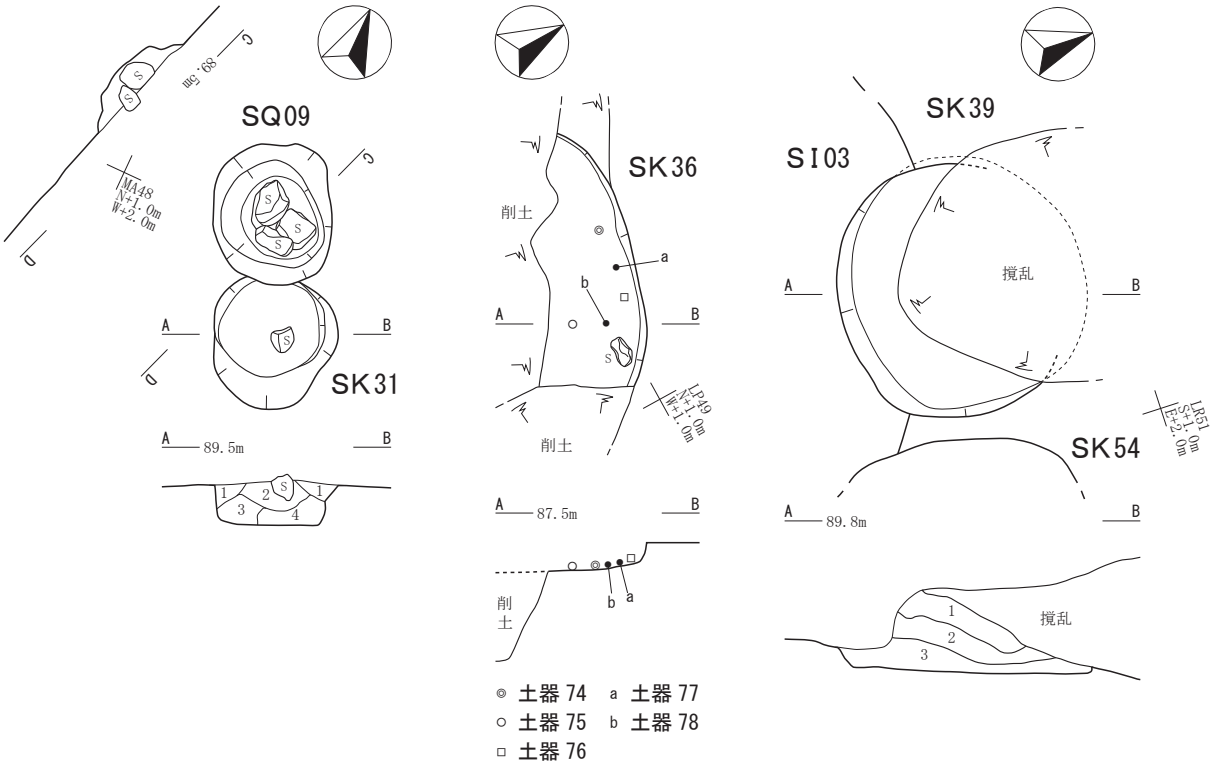
底面を開口面とする小土坑が付属する。この小土坑の埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が本体土坑下部と連続して堆積していることから、同時に埋め立てられたと判断する。埋め立て直前は、本体土坑と付属小土坑が一体となって開口していたと推測する。遺物は第68図67bが埋土最上位から出土し、同一個体破片がＳＩ30竪穴住居跡、ＳＫ29土坑から出土した。出土状況からＳＩ30竪穴住居跡、本土坑が埋没後にＳＫ29土坑が構築され埋め立てられたものと推定する。埋め立て時期は、67bの時期を下限とし後期末以前と推定する。(5)

ＳＫ35土坑（第36図、第３表、図版６）

南斜面の第Ⅲ層上面で本土坑を切るＳＫ21土坑、その北側の本土坑に切られるＳＫ43土坑とともに検出した。埋土のほとんどに地山土が多量に混じる土が堆積していることから、本土坑は地山土を多量に含む投入土により埋め立てられたと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、後期末を上限と推定するＳＫ21土坑より古いことから、およそ後期末を下限と推定する。

ＳＫ36土坑（第39・69・70・71図、第３・４表、図版７・14・15）

東端部の尾根状地形南側の斜面で検出した。現代の掘削により削土が著しく土坑の北側の一部が残存するのみである。この残存範囲で底面から復元可能土器５個体がまとまって出土した。残存する底面近くの堆積土は単層で地山土粒が多量に混入し、埋め立てによる埋没と判断する。遺物は、完形土器が土坑底面に安置または遺棄されたものと推測する。個体数はもっと多かった可能性がある。埋め立て時期は、出土土器から後期後葉の十腰内Ⅳ群期である。本土坑は副葬土器のある土坑墓と推定す



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK31	1	褐色土（10YR4／6）	SiCL	2	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土 50%	50%		
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 15%		小粒 1%
	3	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%		極小粒 2%
	4	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 30%		極小粒 1%
SK39	1	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊 30%		極小粒 1%
	2	明黄褐色土（10YR6／6）	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%			
	3	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 15%		極小粒 1%

0　1m

第39図　ＳＫ31土坑・ＳＱ09配石遺構、ＳＫ36土坑、ＳＫ39土坑

る。

第69図74は、胴部中央で屈曲し上半部が開く器形の深鉢形土器である。口縁は平縁で、残存部分では１か所に角状の突起が付く。口唇部は内側が肥厚し、平坦に整形された口唇端部が内削ぎ状に強く内傾する。器表面の文様は、胴部中央の屈曲部に２段の横位縄文帯をめぐらして文様帯を二分し、胴上半部には上向きと下向きの弧線を組み合わせ、内側に縄文を充填した連結木葉状文によって左下がりのクランク状区画文が描かれている。五単位の区画文が描かれているものと推測するが、そのうちの一単位はきわめて小さい。胴下半部は、平行する２条の弧線間に縄文を充填した縄文帯が上下から入り組む左下がりの襷掛け状区画文が描かれている。この区画文は４単位と推測する。胴上半の区画文と胴下半の区画文の位置は対応していない。底辺部は縄文帯となる。

各縄文帯に充填されている縄文は、０段多条のＬＲ原体とＲＬ原体の２種を併用している。胴上半の区画文内と底辺部縄文帯には、２種の原体を区画の形に合わせて回転方向を変えながら回転施文し、非結束羽状縄文を充填している。口唇直下と胴中央の横位縄文帯、胴下半部の入り組み状区画文内は、幅が狭いことからか、縄文帯内をさらに二分して２種の原体による非結束羽状縄文を充填する手法は一部のみにとどまり、ほとんど一種原体の回転施文である。縄文帯の途中で別の原体に取り換え、条の傾きが逆向きに変化する異種縄文が混在する充填縄文となっている。文様施文の順序は、下書き区画沈線描画→縄文充填→下書き沈線と無文部の磨り消し→区画沈線再描画の順である。

第70図75は、台付き浅鉢形土器である。口縁は平縁で４箇所に角状突起がつく。口唇部は内側が肥厚し、平坦に整形された口唇端部が内傾する。器表面の文様は、口唇部直下に３段の横位縄文帯をめぐらし、胴部には弧線を組み合わせ、内側に縄文を充填した連結木葉状文によるクランク状区画文が描かれている。区画文は４単位と推測する。文様モチーフは、上半の左下がり鍵形区画文と下半の右下がり鍵形区画文が連結した形である。胴下部は無文帯であるが、台部には２ないし３段の縄文帯がめぐる。

区画文や縄文帯に充填される縄文は、０段多条のＬＲ原体とＲＬ原体を併用し、胴部の鍵形区画文では２種の原体による非結束羽状縄文を充填している。横位縄文帯の一部にも横位の非結束羽状縄文が施文されるが、大半は一方の縄文のみが施文されている。文様施文の順序は、下書き区画沈線描画→縄文充填→下書き沈線と無文部の磨り消し→区画沈線再描画の順である。

第70図76 は、胴上半が開く器形の深鉢形土器胴下半から底部で、土坑底面に正立して出土した。底部はわずかに上げ底気味である。胴中央に１条の横位縄文帯がめぐる。胴下半部には上向きと下向きの弧線を組み合わせ、内側に縄文を充填施文した連結木葉状文による左下がりのクランク状区画文が描かれている。さらに下部は、１条の横位沈線によって区画された下に横位縄文帯がめぐるが、縄文帯の下端は沈線がなく、無文部となっている。区画文は４単位であるが、その内の１単位のみは、上下の縄文帯に接続する部分がなく楕円形文となっている。胴中央の横位縄文帯より上は、縄文帯に接続する区画文ではなく、無文帯になるようである。

区画文や縄文帯に充填される縄文は、ＬＲ原体の横位回転施文である。区画文内は、区画に合わせて回転方向を少し変化させながら充填施文している部分もある。文様施文の順序は、下書き区画沈線描画→縄文充填→下書き沈線と無文部の磨り消し→区画沈線再描画の順である。

第71図77は、口縁部が大きく開き、球形の胴部に台が付く器形の台付き鉢形土器である。口縁部と

台部は無文である。胴部には、ＬＲ原体とＲＬ原体の横位回転施文による横位の非結束羽状縄文を施文した後に、器面全面に細い横位沈線を多数描き、さらに２本一組の縦位波状沈線を８箇所に描いている。非結束羽状縄文はＬＲの条とＲＬの条の長さが不揃いで、施文単位の大きさや数も不均一である。横位沈線の描法は、１本ごとに器面を全周するのではなく、全周の４分の１程度の長さで16～18本を引いて器面を埋め、次にそれに継ぎ足す形で同様の沈線群を描いていき、この手順を３～４回繰り返している。沈線の始点と終点の一致や線の長さをそろえることはあまり意識されず、線の重複が顕著で乱雑である。沈線の数は、重複の多いところで22本、少ないところでは16本で、本数に幅がある。縦位波状沈線と横位沈線との交点は、縦位波状沈線の波頂部とは無関係に交差しており、縦位波状沈線によって１本ずつの横位沈線を連結するという意識は希薄である。

第71図78は、小型の粗製深鉢形土器である。直径が比較的小さくわずかに上げ底気味の底部から胴下半部が開いて立ち上がり、胴上半から口縁部が内湾する器形である。口唇部は内側が肥厚し、平坦に整形された口唇端部が内傾する。器面全面にＬＲ縄文が横位回転施文されている。

第69図74、第70図75、76は、いずれも十腰内Ⅳ群土器で、第71図78も十腰内Ⅳ群の粗製深鉢形土器と考える。

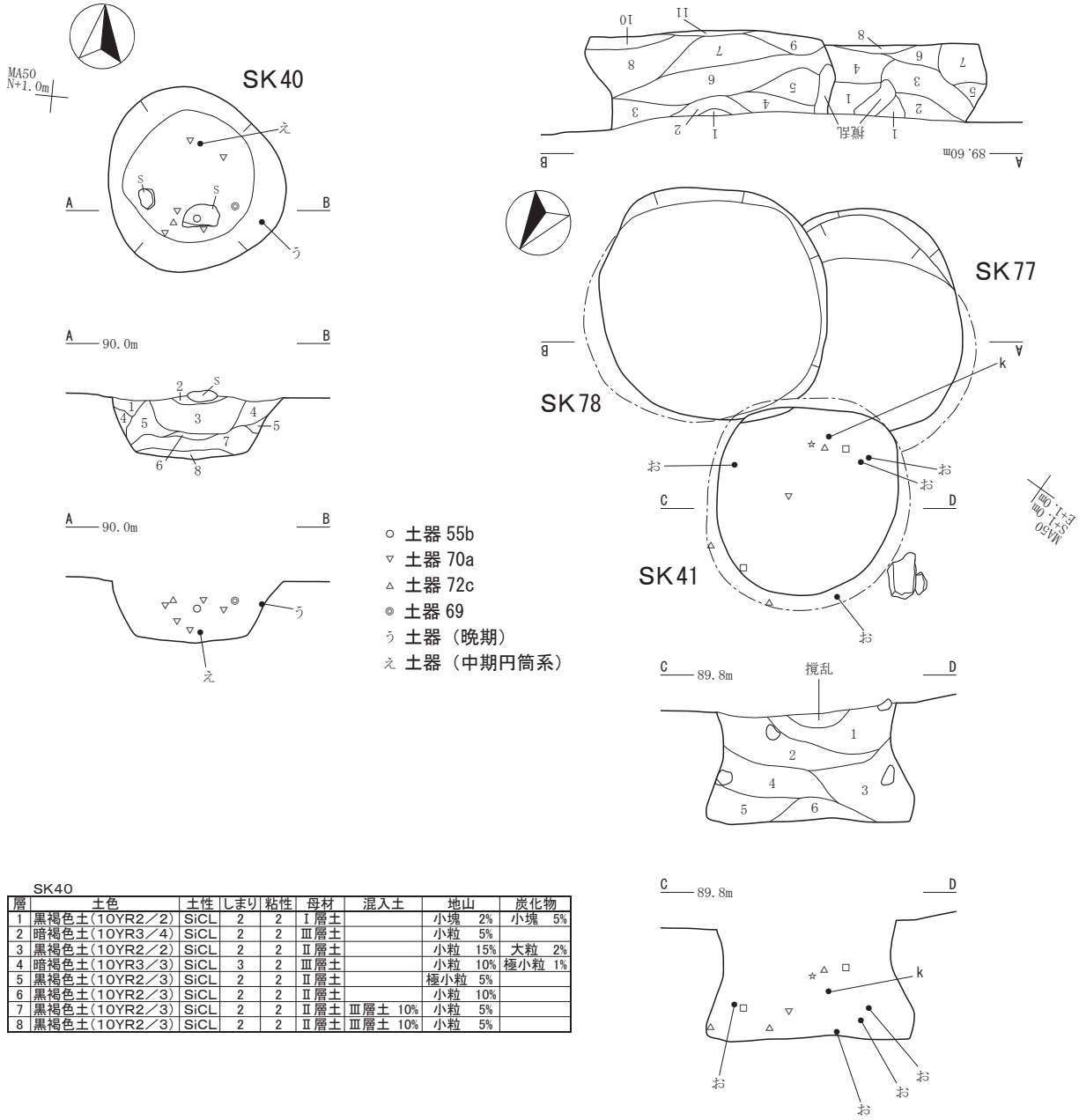
第71図77は、74、75、76とは全く異なる文様で、十腰内Ⅱ群土器に盛行する平行沈線を縦位の短弧線で連結する文様に似る。しかし、平行沈線文を施文する前に器面全面に施文された異種原体の組み合わせによる非結束羽状縄文は、十腰内Ⅳ群土器に共通する要素である。縄文原体は、74、75は０段多条であるが、76は０段２条で、77が０段２条と共通する。また、77の非結束羽状縄文は、ＬＲの条とＲＬの条の長さが不揃いで、施文単位の大きさや数も不均一であるが、この特徴は十腰内Ⅳ群土器の帯状文内に充填された非結束羽状縄文にも見られる。これら４個体の共伴土器には、相互に共通する要素があることから、77も十腰内Ⅳ群土器の一形態と考える。77のような多段沈線文土器の系統は、十腰内Ⅱ群から十腰内Ⅲ群段階を経て十腰内Ⅳ群段階まで変化しながら継続することが想定される。

ＳＫ39土坑（第39図、第３表、図版５）

東端部緩斜面のⅢ層上面及びＳＩ03竪穴住居跡埋土上面で検出した。ＳＩ03竪穴住居跡より新しい土坑である。北側は倒木痕により撹乱を受け南側の一部が残存する。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てられたと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、ＳＩ03竪穴住居跡の埋土を切って構築されていることから、十腰内Ⅲ群期を上限とする。

ＳＫ40土坑（第40・67・68図、第３・４・８表、図版７・18・19）

平坦部南側のⅢ層上面で検出した。重複遺構はなくＳＫ19土坑、ＳＫ20土坑、ＳＫ41土坑、ＳＫ77土坑、ＳＫ78土坑と近接する。検出面上の中央で小児頭大の亜円礫が出土した。埋土は地山土粒や地山土中に含まれる小礫が混入するほぼ同一の土で、地山掘削土を含む土による埋め立てと判断する。遺物は、検出面の大礫直下から後期末晩期初頭と推定する第67図55bが出土した。同一個体破片はＳＫ20土坑から５点、ＳＫ40土坑から１点出土した。また、中期の第68図70、72cも出土した。埋土の状況と出土土器から、ＳＫ41土坑より新しく、ＳＫ20土坑より古い。埋め立て時期は晩期初頭～前葉と推定する。[(3)] 本土坑は上面に礫を安置した土坑墓と推定する。



SK40

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰ層土		小塊　2%	小塊　5%
2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒　5%	
3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　15%	大粒　2%
4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		小粒　10%	極小粒　1%
5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　5%	
6	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%	
7	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土　10%	小粒　5%	
8	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土　10%	小粒　5%	

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK41	1	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　30%	径5mm以下　15%	
	2	褐色土(10YR4／4)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　20%	70%	径5mm以下　5%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　20%	径20mm以下 15%	
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	4	2	Ⅱ層土		小粒　20%	径5mm以下　2%	
	5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　20%	径5mm以下　15%	
	6	褐色土(10YR4／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　10%	90%	径30mm以下　5%	
SK77	1	褐色土(10YR4／4)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　40%		径20mm以下　10%	
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　5%		極小粒　1%
	3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　10%		小粒　2%
	4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒　15%	径10mm以下　10%	
	5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%		小粒　1%
	6	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　15%		小粒　2%
	7	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%			
	8	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　5%		
SK78	1	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土			径10mm以下　10%	
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　30%	径10mm以下　2%	
	3	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　5%	径20mm以下　5%	
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　15%		
	5	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		地山土　30%	径10mm以下　2%	
	6	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%		径20mm以下　10%	
	7	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　15%	径5mm以下　30%	
	8	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		極小粒　5%		
	9	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　20%	径5mm以下　20%	
	10	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　40%		径30mm以下　15%	
	11	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		小粒　10%		

▽ 土器 70b
□ 土器 71
△ 土器 72a、72b
k 土器 73b
お 土器（中期大木系）
☆ 石器 114（不定形石器）

0　1m

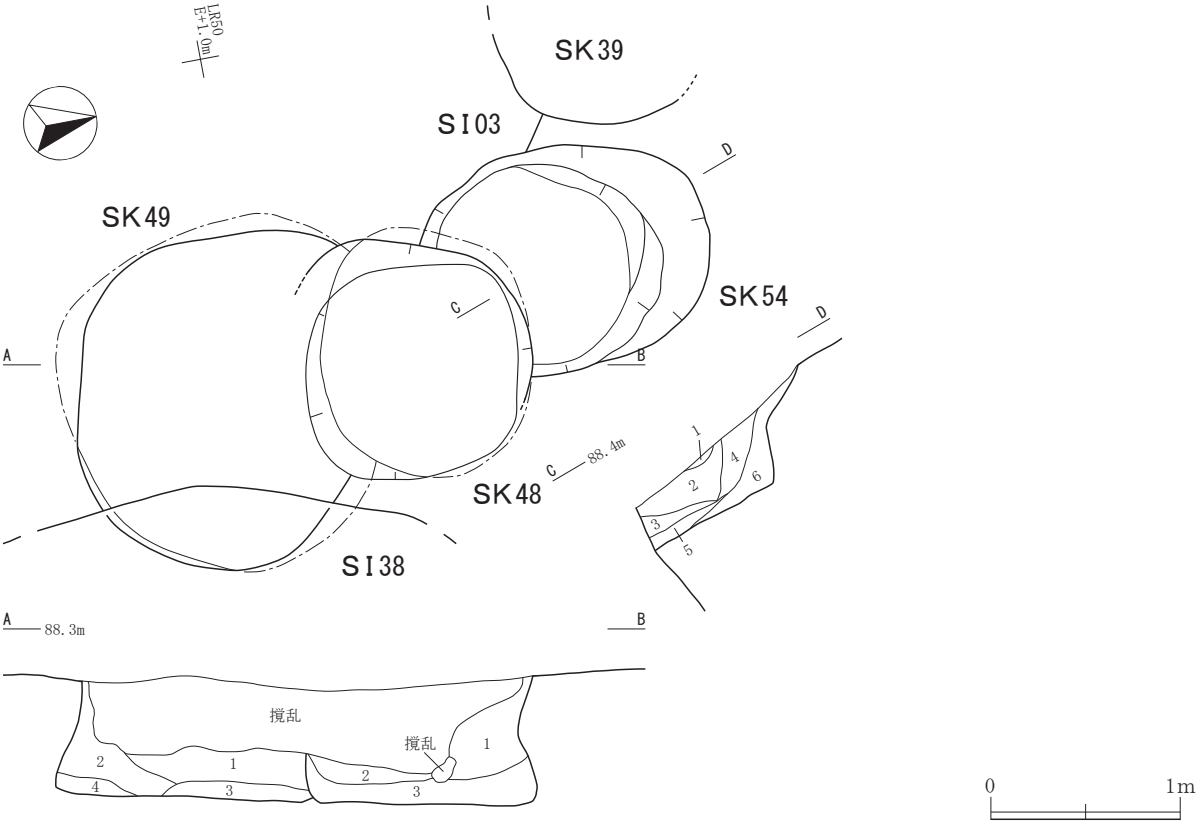
第40図　SK40土坑、SK41土坑・SK77土坑・SK78土坑

SK41土坑（第40・68・76図、第３・４・６・８表、図版10・19・20）

平坦部南側のⅢ層上面で検出した。本土坑より古いSK78土坑及び最も古いSK77土坑と重複し、SK19土坑、SK20土坑、SK40土坑と近接する。埋土は最下層と埋土上位に地山土の再堆積土、その間に地山土が多量に混じる土が堆積し、地山土中の小礫が多量に含まれていることから、掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は埋土中位から第68図71が出土し、SK78埋土中から出土した破片と接合した。また、中期の土器は70b、72a・b・cが出土した。70bと同一個体の破片はSK40土坑から５点、SK20土坑から１点、SN26焼土遺構から２点、遺構外から９点出土した。72cはSK40土坑出土破片と接合した。本土坑に切られるSK78土坑の埋め立て時期の上限が第68図71から十腰内Ⅴ群期と推定されるので、本土坑の埋め立て時期は十腰内Ⅴ群期が上限である。(3)

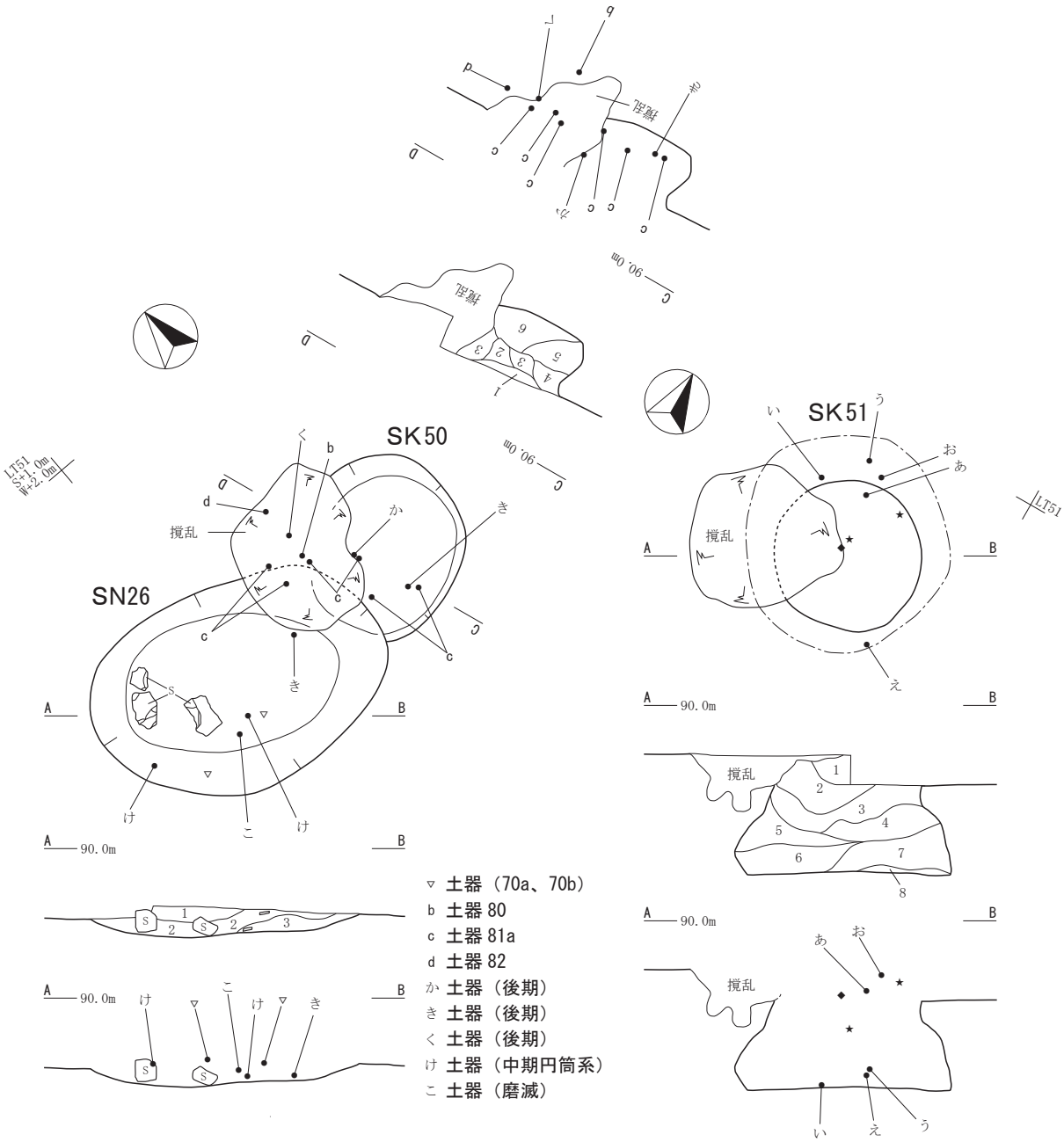
SK42土坑（第29・72図、第３・４表、図版７・19）

平坦部南側のⅢ層上面で重複するSK05土坑とともに検出した。本土坑の北端部がSK05土坑に切られている。本土坑の南側に隣接して50㎝×25㎝の扁平な大礫があり、土坑内出土土器と同一個体破片がこの大礫周辺でも出土した。埋土は地山粒と地山土中に含まれる小礫が多量に混じるほぼ同一の



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK48	1	明黄褐色土（10YR6／8）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	50%	粗砂 30%	
	2	黄褐色土（10YR5／6）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%			
	3	黄褐色土（10YR5／8）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%	60%	粗砂 15% 径5mm以下 10%	
SK49	1	黄褐色土（10YR5／6）	SL	4	1	Ⅳ層土			径20mm以下 30%	
	2	明黄褐色土（10YR6／6）	SL	2	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%	大塊 60%		
	3	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		中粒 5%	径5mm以下 5%	
	4	黄橙色土（10YR7／8）	SL	2	2	Ⅳ層土				
SK54	1	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 5%		
	2	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 15%		
	3	褐色土（10YR4／6）	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%			
	4	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒 10%		小粒 2%
	5	褐色土（10YR4／6）	SL	3	1	Ⅳ層土			径10mm以下 30%	
	6	褐色土（10YR4／6）	SL	4	1	Ⅳ層土				

第41図　SK48土坑・SK49土坑・SK54土坑



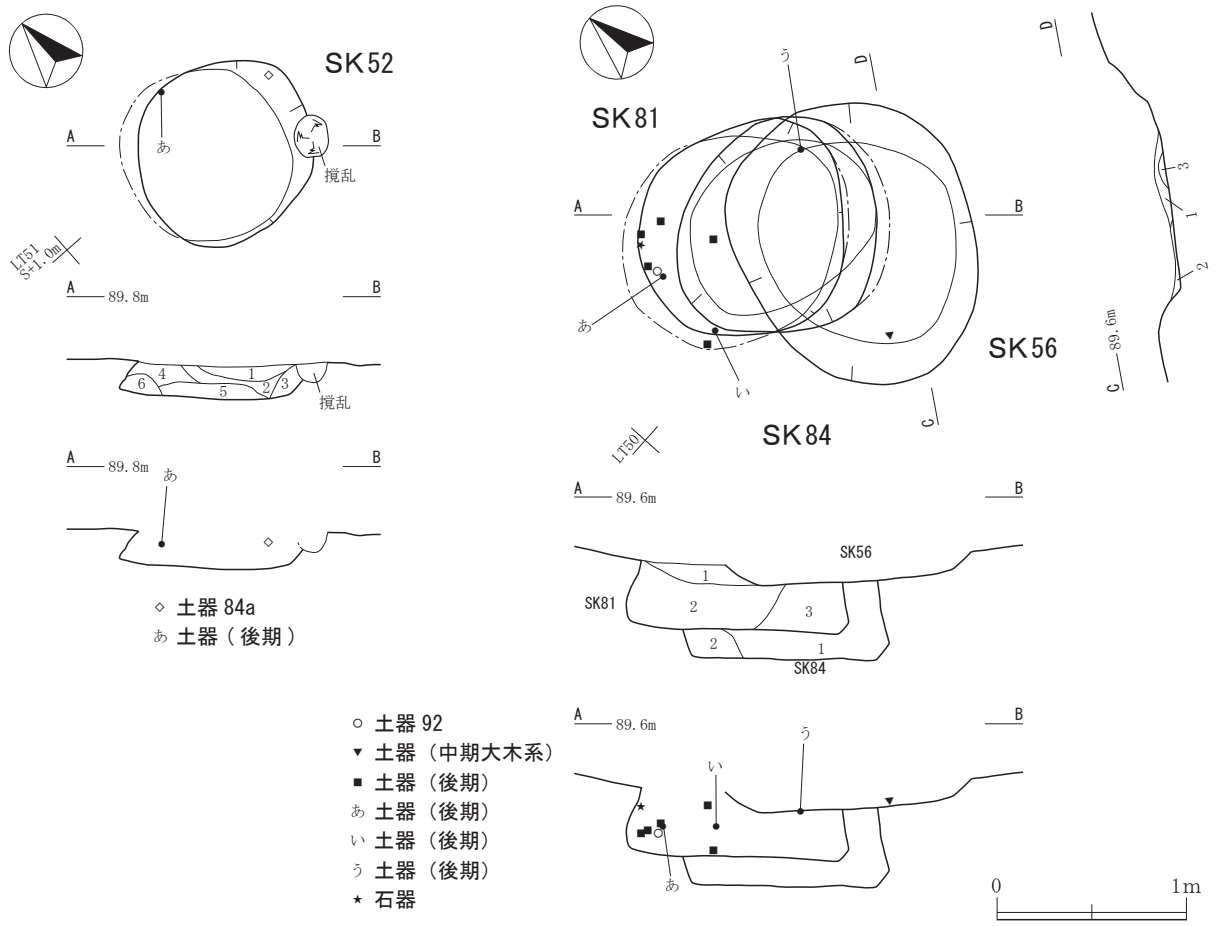
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	炭化物
SK50	1	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅰ層土		小粒　10%		5%	小塊　5%
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　5%			小粒　1%
	3	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%	泥岩小礫　20%		極小粒　1%
	4	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%			
	5	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大粒　20%			
	6	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%	泥岩小礫　10%		
SN26	1	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰ層土		極小粒　1%		2%	中塊　20%
	2	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅰ層土				1%	小塊　15%
	3	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅰ層土		小粒　2%		2%	大塊　15%
SK51	1	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　10%	径5mm以下　2%		極小粒　1%
	2	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　30%	径5mm以下　5%		
	3	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%	径10mm以下　15%		
	4	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		大粒　20%			
	5	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒　20%			
	6	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		小粒　15%			
	7	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　15%			小粒　2%
	8	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　30%		径5mm以下　15%		

第42図　SK50土坑・SN26焼土遺構、SK51土坑

土で、掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は埋土上位から下位まで各層に分散して同一個体の破片が多量に出土した。第72図79a・b・c・dは大型粗製深鉢形土器である。土坑外で破砕しその土器片を土坑の埋め立て時に投入したものと考える。埋め立て時期は、出土土器から後期末晩期初頭と推定する。(1)(4)

SK43土坑（第36図・第３表・図版６）

南斜面のⅢ層上面で検出した。SK35土坑とSK21土坑の精査後にその壁面に現れていた輪郭を掘り下げたところ、底面及び北側の壁を検出したものである。本土坑の南側約半分はSK35土坑に、南東側の一部がSK21土坑に切られている。底面はSK35土坑底面より５㎝～10㎝深いため、SK35土坑と重複する部分でも残存している。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、後期末を上限と推定するSK21土坑より古いことから、およそ後期末を下限と推定する。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK52	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅰ層土		小粒　15% 大塊　5%		小塊 20%
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	1	2	Ⅰ層土		小粒　2%		小塊 5%
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒　5%		
	4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　5%		
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　15%		
	6	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中粒　2%		
SK56	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　5%		大粒 5%
	2	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	2	Ⅲ層土				
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%		
SK81	1	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土				
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極大塊 40%		
	3	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土				
SK84	1	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土				
	2	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			

第43図　SK52土坑、SK56土坑・SK81土坑・SK84土坑

SK48土坑（第41図、第３表、図版７）

南斜面でＳI03竪穴住居跡とＳI38竪穴住居跡の床面を精査中、両遺構の間にある撹乱坑を掘り上げたところ３基の土坑を検出した。本土坑は南側に重複するSK49土坑と北側に重複するSK54土坑を切っている。ＳI38竪穴住居跡埋土がSK49土坑に切られていること、ＳI38竪穴住居跡はＳI03竪穴住居跡より新しい遺構と推定することから、竪穴住居跡２棟、土坑３基の中では本土坑が一番新しい遺構である。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、地山土の投入による埋め立てと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期はＳI38竪穴住居跡廃絶時期より新しいことから十腰内Ⅳ群期を上限と推定する。

SK49土坑（第41図、第３表、図版７）

南斜面でＳI03竪穴住居跡とＳI38竪穴住居跡の床面を精査中、両遺構の間にある撹乱坑を掘り上げたところ３基の土坑を検出した。本土坑は南東部がＳI38竪穴住居跡の埋土を掘り抜き、北側がSK48土坑に切られている。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、地山土の投入による埋め立てと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は十腰内Ⅳ群期を上限と推定する。

SK50土坑（第42・72図、第３・４・８表、図版８・19）

平坦部やや南寄りのⅢ層上面で検出した。本土坑の西側はSN26焼土遺構と木根により壊され東側が残存する。埋土の最上部はSN26焼土遺構由来の炭化物が多く混じるが、それ以外は地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てと推測する。遺物は第72図80、81aが出土した。埋め立て時期は80から後期後葉を上限と推定する。

SK51土坑（第42・72図、第３・４・８表、図版８・19）

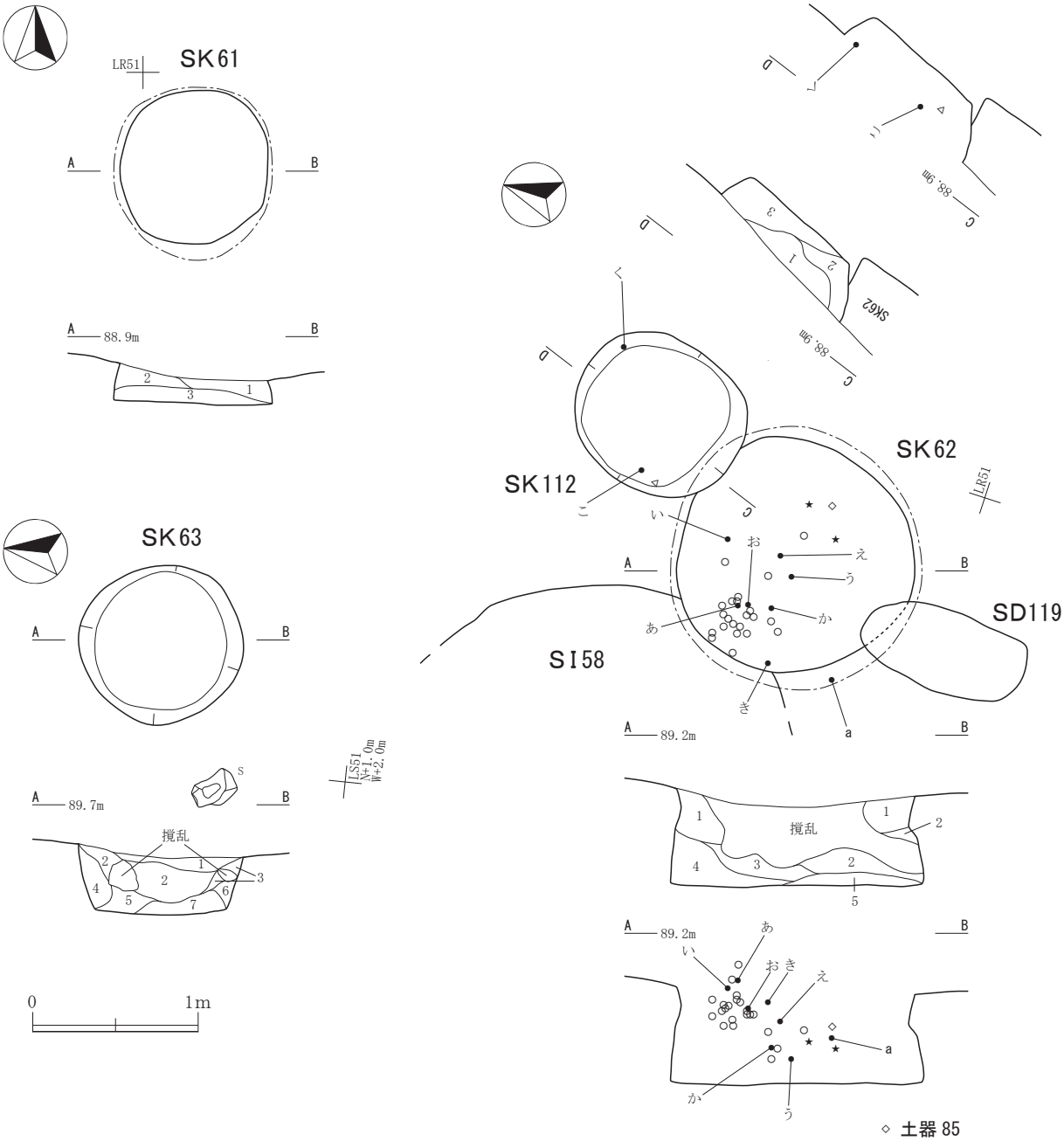
平坦部やや南東寄りのⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。本土坑の上端部南西側は撹乱を受けているが中位以下は全体が残存する。埋土は地山粒と地山土中に含まれる小礫が多量に混じるほぼ同一の土で、掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は埋土上位から縄文前期初頭の第58図21aと同一個体の破片、中期後葉、後期後葉の小破片が混在して出土した。埋め立て時期は後期後葉を上限と推定する。

SK52土坑（第43・72図、第３・４表、図版８・19）

平坦部やや南東寄りの第Ⅳ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土の最上部はSN46焼土遺構由来の炭化物が多く混じるが、それ以外は地山粒と地山土中に含まれる小礫が多量に混じるほぼ同一の土で、掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は縄文早期後葉の第72図84aと後期後葉の小破片が出土した。埋め立て時期は後期後葉を上限と推定する。

SK54土坑（第41図、第３表、図版８）

南斜面でＳI03竪穴住居跡とＳI38竪穴住居跡の床面を精査中、両遺構の間にある撹乱坑を掘り上げたところ３基の土坑を検出した。本土坑は西側がＳI03竪穴住居跡の壁を壊し南側がSK48土坑に切られている。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していることから、地山土の投入による埋め立てと判断する。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は十腰内Ⅳ群期を上限と推定する。



◇ 土器 85
△ 土器 1a、1b
a 土器 86
○ 土器 93
あ 土器（後期）
い 土器（後期）
う 土器（後期）
え 土器（後期）
お 土器（後期）
か 土器（中期円筒系）
き 土器（中期大木系）
く 土器（後期）
こ 土器（中期磨滅）
★ 石器

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SK61	1	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 15%	
	2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 5%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 20%	
SK62	1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 30%	大粒 20%	
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 30%	大粒 20%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%	小粒 1%
	4	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 30%	
	5	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒 10%	
SK63	1	黒褐色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰ層土		小塊 5%	大塊 10%
	2	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊 40%	
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 20%	
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 2%	
	5	褐色土(10YR4／4)	SiCL	1	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土 40%		
	6	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 40%		
	7	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%	

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	炭化物
SK112	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰ層土		大粒 10%	径5mm以下 20%	1%	
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 30%		1%	
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	3	Ⅲ層土		小塊 20%	径10mm以下 10%	1%	

第44図　SK61土坑、SK62土坑・SK112土坑、SK63土坑

SK56土坑（第43図、第３表）

平坦面南東端でSN46焼土遺構底面のⅣ層を精査中、わずかに残存する本土坑の底部付近を検出した。さらに本土坑周辺のⅣ層上面を精査したところSK81土坑とSK84土坑を検出した。SK84土坑が最も古く、SK81土坑→SK56土坑の順に重複して構築されている。わずかに残存する埋土は地山土の投入による埋め立てと推測する。遺物は縄文中期の小破片が１点出土した。本土坑に切られるSK81土坑の埋め立て時期の上限が後期後葉と推定されるので、本土坑の構築時期はそれよりも新しい時期である。

SK61土坑（第44図、第３表、図版８）

平坦部と南東部尾根状地形の中間の東斜面上部で、撹乱土を除去したⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土は地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK62土坑（第44・73図、第３・４表、図版８・19）

東斜面上部南寄りのⅣ層上面で検出した。平安時代以降の遺構であるSK112土坑、SD119溝跡に切られ、上部に倒木根の撹乱を受けている。西側はSI58竪穴住居跡の壁を壊して構築されている。埋土は地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は土坑内の西側に偏在するものの埋土上位から下位まで各層に分散して出土した。36点中27点が第73図93の破片でほぼ完形に復元できた。土坑の埋め立て時に土器を破砕しその破片を投入したものと考える。埋め立て時期は、出土土器から十腰内Ⅴ群期と推定する。[(4)(7)]

SK63土坑（第44図、第３表、図版８）

平坦部東端のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。本土坑から約70㎝南西側の検出面上で50㎝×30㎝の大礫が出土した。埋土は地山土が多量に混じる土が堆積していることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK64土坑（第45・72図、第３・４表、図版８）

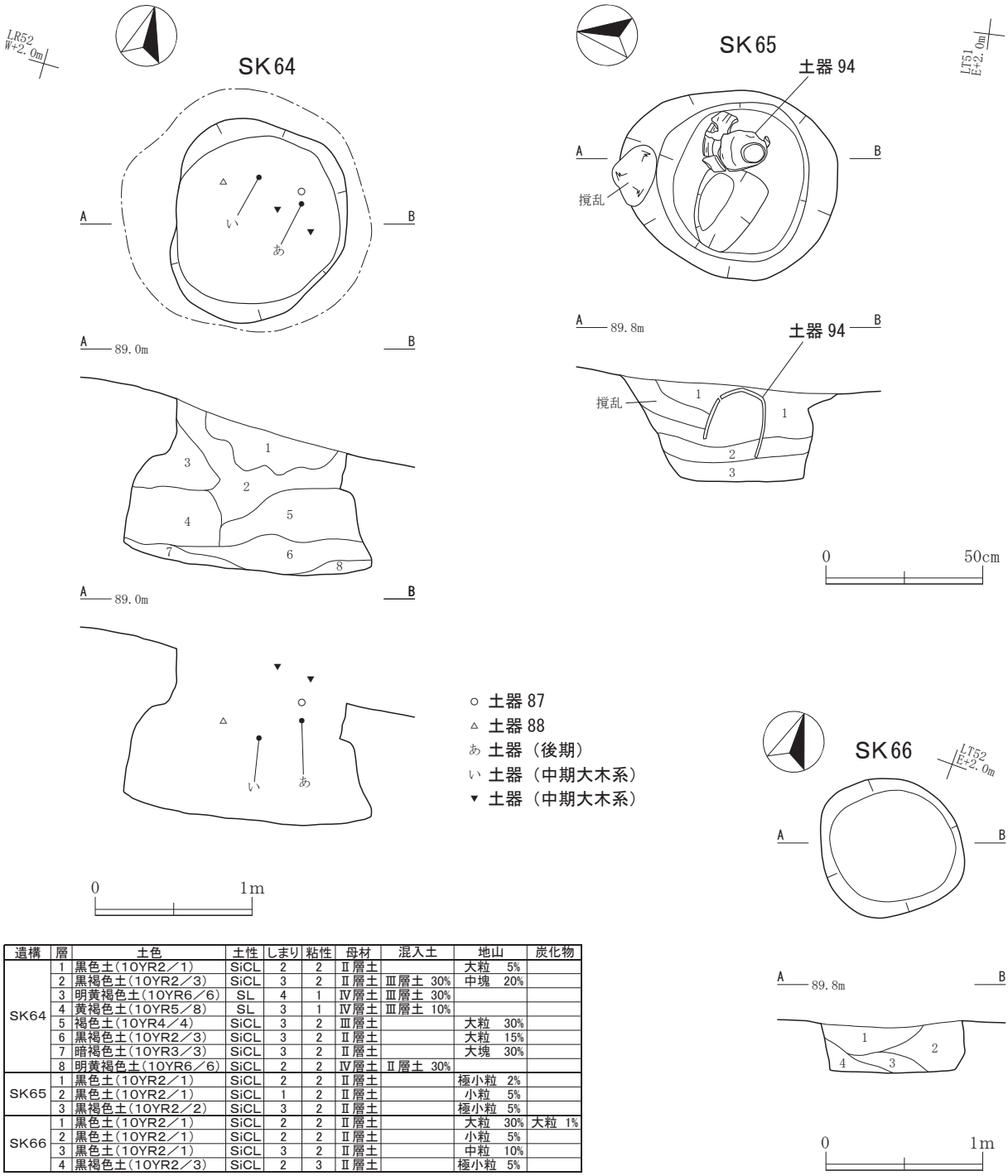
東斜面上部のⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。SI55竪穴住居跡の斜面直上の位置にある。埋土は地山土の再堆積土など地山土が多量に混じる土が堆積していること、地山土の供給源を土坑上部の自然崩落と仮定しても堆積している地山土の土量のほうが多いことから地山土の投入による埋め立てと考える。遺物は埋土中位～上位に第72図87、88など縄文中期後葉と後期後葉の小破片が混在している。埋め立て時期は縄文後期後葉を上限と推定する。

SK65土坑（第45・73図、第３・４表、図版９・15）

平坦面東側のⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土は地山粒を含むほぼ同一の土で埋め立てによる堆積と考える。東寄りの埋土中位から第73図94の小型深鉢形土器がやや傾いた倒立状態で出土した。この土器は胴上半部を約半分欠いており、一部欠損した土器を安置したものと推測する。底面西側には深さ約７㎝の凹部がある。本土坑は後期末の土坑墓と推定する。[(7)]

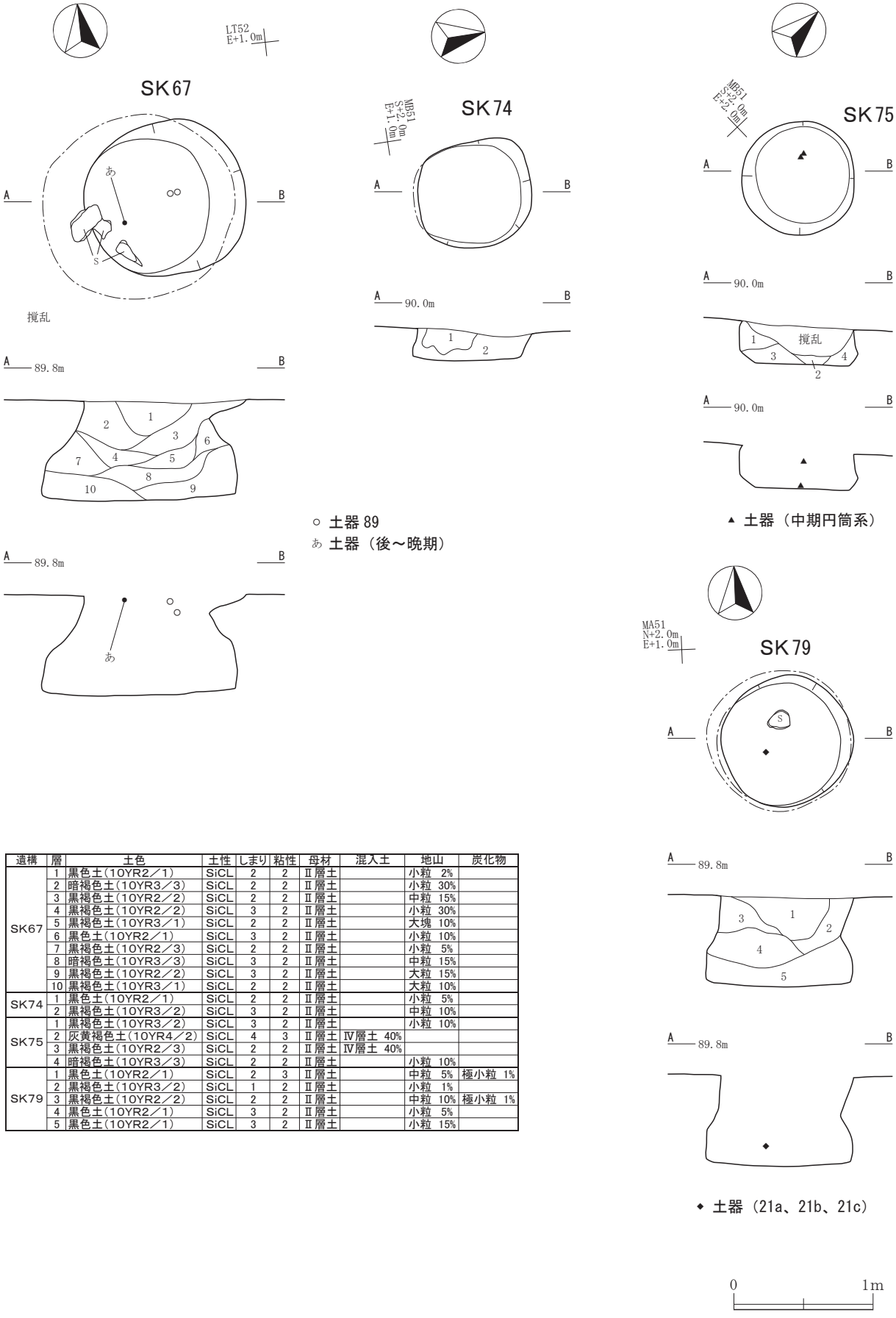
94は胴部がやや膨らみ、胴上半で屈曲して口縁部が外反する小型深鉢形土器である。口唇には山形で頂部が割れた大突起と小突起が付く。大突起は前後２個、小突起はその間に５個ずつ計10個配置されると推測する。小突起の頂部は棒状工具による刻み目が入る。口縁部には１段の縄文帯を巡らし、その下に入組帯状文が５単位描かれている。入組部と大突起の配置の関連性はない。この入組帯状文

は、上部の縄文帯と胴上部の屈曲部にめぐらした縄文帯に挟まれた無文部に描かれているが、帯状文の区画自体は上下の縄文帯と接しておらず、縄文帯の間の無文部に浮くように描かれている。帯状文を区画する沈線は、上部では縄文帯を区画する沈線と接続しているが、下部では接続していない。口縁部と胴部の屈曲部にめぐらした縄文帯はその中にさらにその中に１条の沈線を巡らして分割し下部の縄文帯上に全周で20個程度の瘤を貼り付けている。瘤の中央は竹管状工具による刺突が加えられボタン状を呈する。胴部は無文である。底部下端は外側に張り出し、わずかに上げ底である。



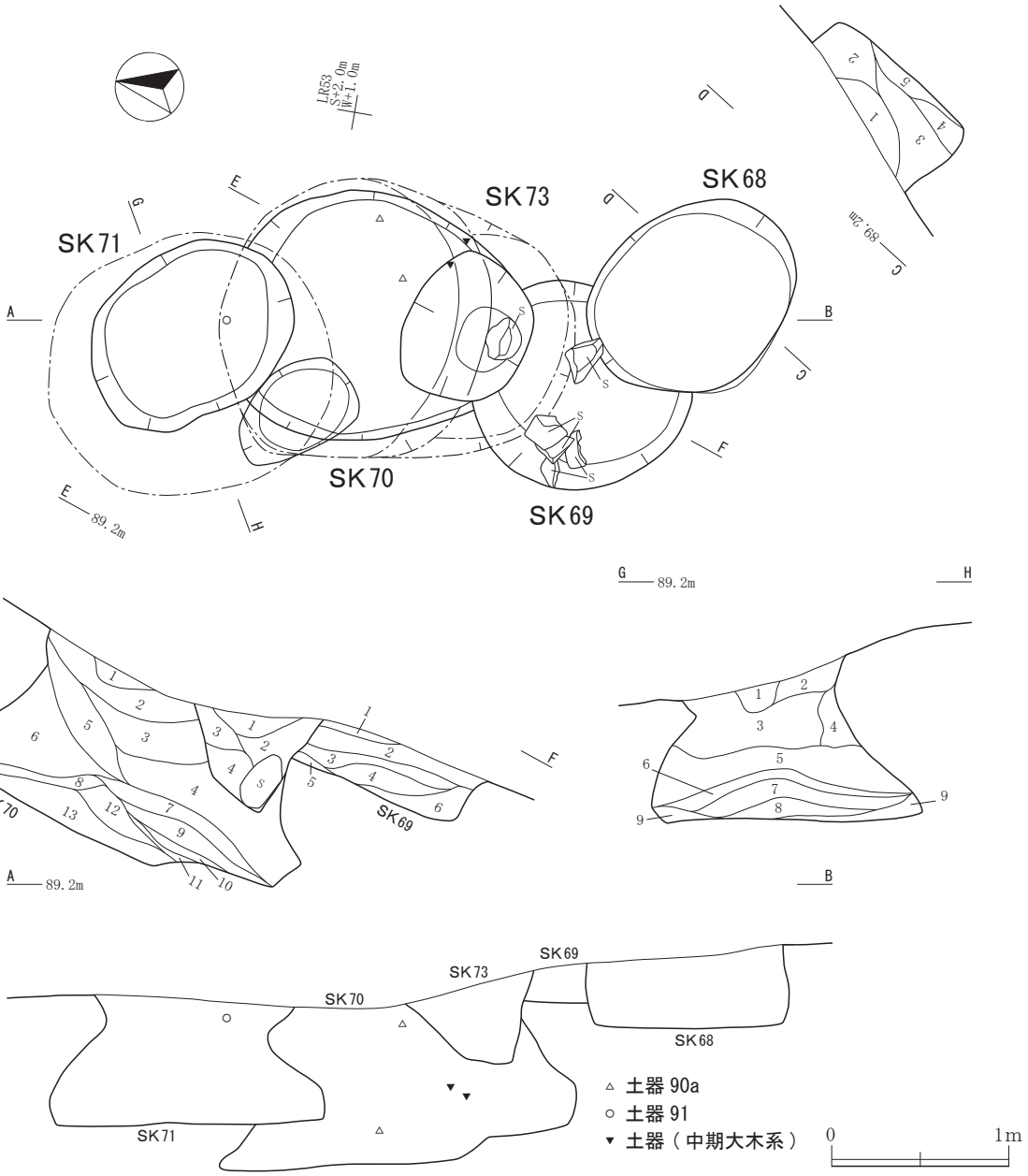
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SK64	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　5%	
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅲ層土 30%	中塊　20%	
	3	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%		
	4	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%		
	5	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大粒　30%	
	6	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　15%	
	7	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大塊　30%	
	8	明黄褐色土(10YR6／6)	SiCL	2	2	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%		
SK65	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　2%	
	2	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒　5%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒　5%	
SK66	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　30%	大粒　1%
	2	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　5%	
	3	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　10%	
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	3	Ⅱ層土		極小粒　5%	

第45図　SK64土坑、SK65土坑、SK66土坑



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
SK67	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 2%	
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 30%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 15%	
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 30%	
	5	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 10%	
	6	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 10%	
	7	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%	
	8	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒 15%	
	9	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒 15%	
	10	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 10%	
SK74	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 5%	
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒 10%	
SK75	1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 10%	
	2	灰黄褐色土(10YR4／2)	SiCL	4	3	Ⅱ層土	Ⅳ層土 40%		
	3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土 40%		
	4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%	
SK79	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	3	Ⅱ層土		中粒 5%	極小粒 1%
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒 1%	
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 10%	極小粒 1%
	4	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 5%	
	5	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 15%	

第46図　SK67土坑、SK74土坑、SK75土坑、SK79土坑



SK68

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山
1	灰黄褐色土(10YR4／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊　30%
2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　20%
3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　10%
4	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%	
5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　10%

SK69

	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山
1	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土		
2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　7%
3	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%	
4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中塊　30%
5	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　10%
6	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒～中塊 40%

SK70

	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山
1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土 40%	
2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　10%
3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒～小塊 30%
4	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　15%
5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　10%
6	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 40%	
7	黒色土(10YR2／1)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		極小粒　2%
8	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒　5%
9	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小塊　5% 小粒　7%
10	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土		
11	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒　5%
12	褐色土(10YR4／3)	SiCL	3	1	Ⅲ層土	Ⅳ層土 40%	
13	灰黄褐色土(10YR4／2)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 30%	

SK71

層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%	
2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 40%	
3	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		中塊 30%	
4	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊 40%	
5	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊 40%	
6	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中塊 30%	
7	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 20%		
8	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小塊 20%	
9	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 20%		

SK73

	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	炭化物
1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%	中粒 5%
2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊 30%	
3	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 10%		
4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大塊 40%	

第47図　SK68土坑・SK69土坑・SK70土坑・SK71土坑・SK73土坑

SK66土坑（第45図、第３表、図版９）

平坦部東端のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土１層は地山土が多量に混じる土、２層から４層は地山粒が多く混じるほぼ同一の土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK67土坑（第46・72図、第３・４表、図版９）

平坦部中央やや東寄りのⅢ層上面で検出した。重複遺構はない。SK85土坑、SK86土坑、SK87土坑が近接する。埋土は地山粒が多く混じるほぼ同一の土でラミナ構造が認められないことから埋め立てによる堆積と推測する。埋土上位の１層は埋め立て地の沈下により形成された浅い窪地に周辺地表土が流入した堆積土層と考える。遺物は埋土上位から後期末晩期初頭の第72図89が出土した。近接するSK85土坑、SK86土坑、SK87土坑から出土した第74図95a・b・cの破片が本土坑には全く包含されていないことからSK85土坑埋め立て時にはすでに本土坑は埋没していたと推測する。第72図89の出土状況から、埋め立て時期は後期末を下限と推定する。(6)

SK68土坑（第47図、第３表、図版９）

東斜面上部のⅣ層上面で、等高線に沿って重複して南北に連なる５基の土坑を検出した。本土坑はその最も南側である。本土坑の北西側がSK69土坑を切っている。埋土は１層と３層が地山土の再堆積土、それ以外にも地山塊が多く混じる土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK69土坑（第47図、第３表、図版９）

東斜面上部のⅣ層上面で検出した等高線に沿って重複して南北に連なる５基の土坑のうちの１基で、本土坑は南側から２番目である。本土坑の南東側はSK68土坑に、北側は平安時代以降の遺構であるSK73土坑とSD119溝跡Ｐ２に切られている。また、西側に隣接するSK88土坑を本土坑の北西側の一部が切っている。埋土は土坑中央の最上位に地山土の再堆積土が土坑に蓋をするように堆積している。中位から下位も地山土の再堆積土や地山塊が多く混じる土であることから埋め立てによる堆積と考える。土坑底面から人頭大の亜角礫が５個出土したほかに遺物は出土しなかった。形態、埋土の状況と礫の出土から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK70土坑（第47・72図、第３・４・８表、図版９）

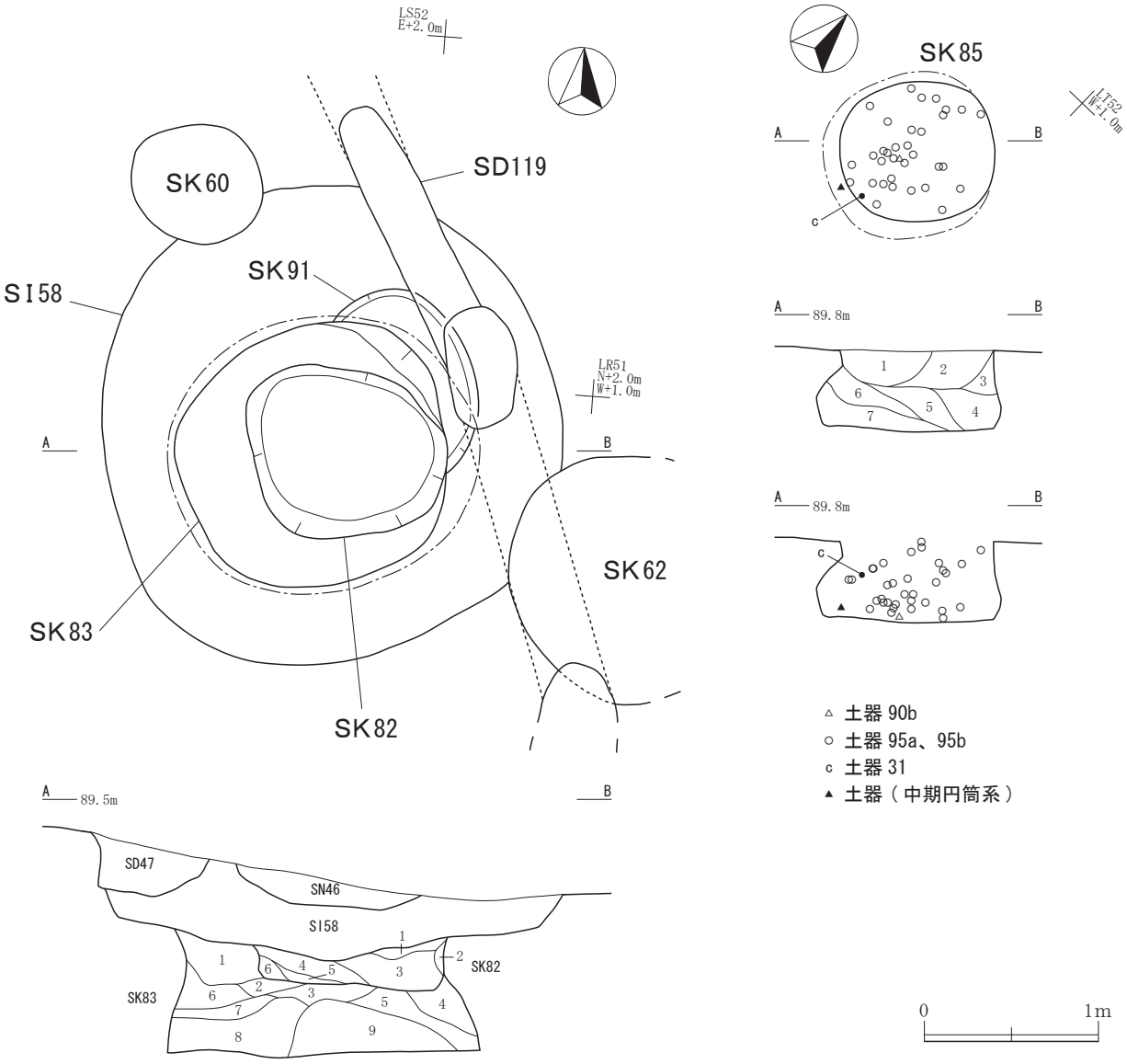
東斜面上部のⅣ層上面で検出した等高線に沿って重複して南北に連なる５基の土坑のうちの１基で、本土坑は南側から４番目である。本土坑の北側はSK71土坑に、本土坑の南側は平安時代以降の遺構であるSK73土坑に切られている。SK71土坑とは側壁でも重複し、本土坑の埋没後にSK71土坑が埋土を横から掘り抜いている。底面は南側が約10㎝高く、この部分が奥に張り出しており、オーバーハングする壁との間が狭い空間となっている。底面の北西側に浅い凹部がある。凹部の上端は74㎝×50㎝の楕円形で深さ約16㎝である。

埋土は全体に地山土の再堆積土や地山土が多量に混じる土であるが、間に地山土の混入が少ない黒褐色土が薄くラミナ状に堆積する部分がある。上端部や内壁の崩落、周辺地表土の流入が繰り返されたことによる堆積と推測する。したがって廃絶後は開口放置されていたと考える。最上位の１層は地山土が多量に混じる埋め立て土と考えるが、本土坑の埋没後にSK71土坑が本土坑を切って構築されていることからSK71土坑の掘削土が含まれている可能性がある。遺物は埋土上位～下位から第72図

90aなど縄文中期後葉の土器片が出土した。廃絶時期は中期後葉を上限とする。

SK71土坑（第47・72図、第３・４表、図版９）

東斜面上部のⅣ層上面で検出した等高線に沿って重複して南北に連なる５基の土坑のうちの１基で、本土坑は最も北側にある。本土坑の南東側は南側に隣接するSK70土坑の上端と側壁を切ってい



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK82	1	黒褐色土（10YR3／1）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		地山土 40%		
	2	褐色土（10YR4／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		地山土 30%		
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 15%		
	4	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊 30%		
	5	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		小粒 10%		
	6	黄褐色土（10YR5／6）	SL	3	1	Ⅳ層土		小粒 10%		
SK83	1	黄褐色土（10YR5／8）	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 5%			
	2	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	3	Ⅱ層土		大粒 30%		
	3	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 20%		
	4	褐色土（10YR4／6）	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			
	5	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 10%		
	6	黄褐色土（10YR5／8）	SL	2	1	Ⅳ層土				
	7	褐色土（10YR4／3）	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 40%			
	8	黄褐色土（10YR5／8）	SL	2	1	Ⅳ層土				
	9	明黄褐色土（10YR6／8）	SL	2	1	Ⅳ層土				
SK85	1	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 2%	径5mm以下 15%	
	2	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 7%	径5mm以下 15%	
	3	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 30%		
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 10%	径5mm以下 10%	
	5	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒 20%	径5mm以下 10%	
	6	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 30%		
	7	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒 15%		

第48図　SK82土坑・SK83土坑・SK91土坑、SK85土坑

る。埋土は地山土が多く混じる土と地山土の混入が少ない黒褐色土が薄くラミナ状に堆積する部分がある。上端部や内壁の崩落、周辺地表土の流入が繰り返されたことによると推測する。したがって基本的に開口放置されていたと考える。遺物は埋土上位から中期後葉と考える第72図91が出土した。廃絶時期は中期後葉を上限とする。

SK74土坑（第46図、第３表、図版９）

平坦部南西側の山裾に近い場所のⅢ層上面で検出した。位置はSK02土坑と重複するがSK02土坑の底面が本土坑の構築面に達していないため直接の切り合いはない。SK75土坑と近接する。埋土は地山粒が混じるほぼ同一の土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。形態と検出層位から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK75土坑（第46図、第３表、図版９）

平坦部南西側の山裾に近い場所のⅢ層上面で検出した。位置はSK02土坑と重複するがSK02土坑の底面が本土坑の構築面に達していないため直接の切り合いはない。SK74土坑と近接する。上部が倒木痕により撹乱を受けている。埋土は地山土の再堆積土や地山粒が混じるほぼ同一の土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は埋土中から縄文中期後葉の小破片が出土した。形態と検出層位から縄文時代の土坑と考える。埋め立て時期は中期後葉を上限と推定する。

SK77土坑（第40図、第３表、図版10）

平坦部南側のⅣ層上面で検出した。SK41土坑の精査後にⅢ層を掘り下げて精査したところ、SK78土坑及び最も新しいSK41土坑に切られた本土坑を検出した。SK19土坑、SK20土坑、SK40土坑と近接する。埋土は土坑中央の最上位に地山土の再堆積土が土坑に蓋をするように堆積していること、中位から下位も地山土の再堆積土や地山塊が多く混じる土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。本土坑を切るSK78土坑の埋め立て時期の上限が第68図71から十腰内Ⅴ群期と推定されるので、本土坑の埋め立て時期は後期後葉を下限と推定する。(3)

SK78土坑（第40・68図、第３・４・８表、図版10・19）

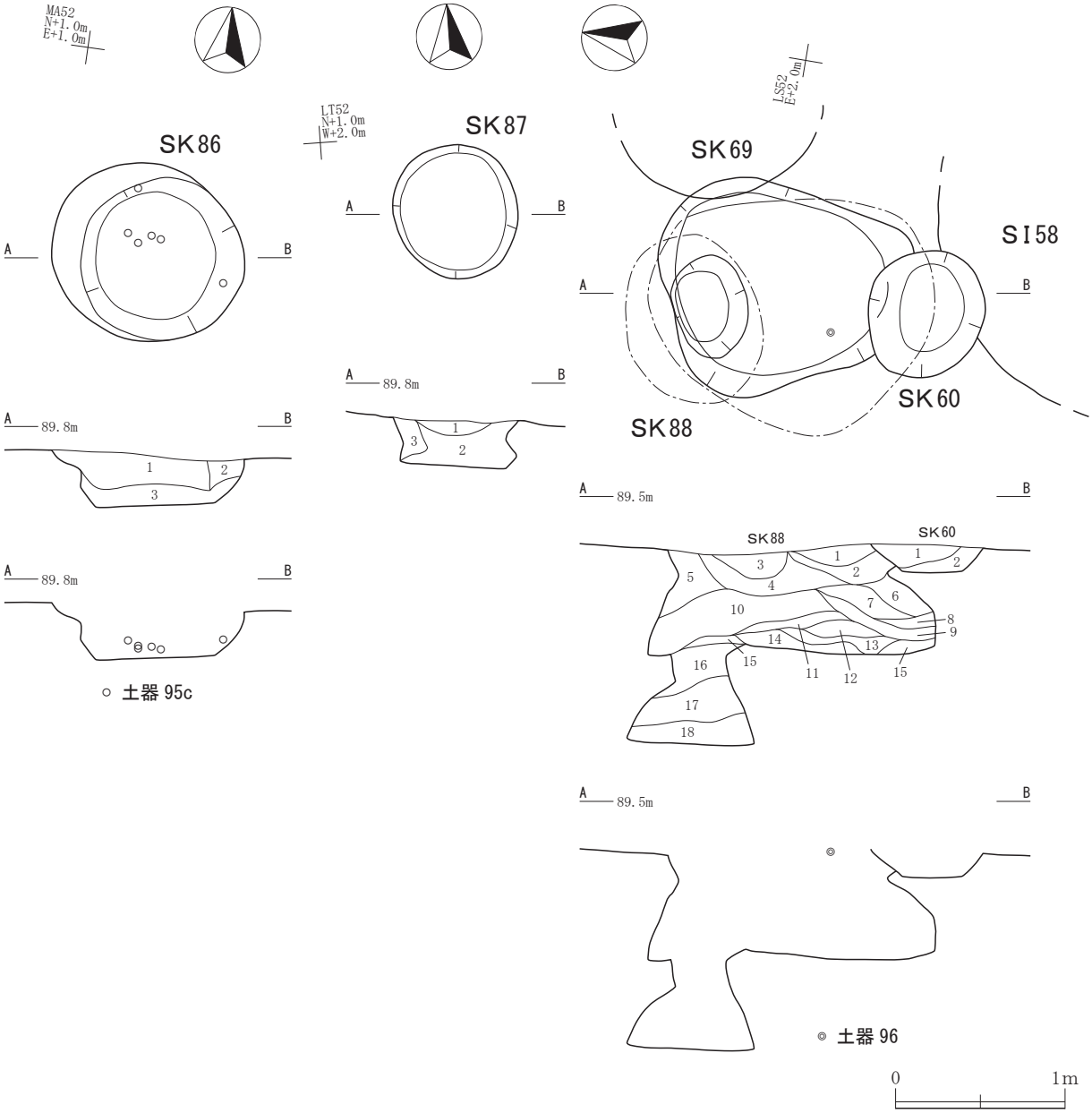
平坦部南側のⅣ層上面で検出した。SK41土坑の精査後にⅢ層を掘り下げて精査したところ、SK77土坑を切りSK41土坑に切られた本土坑を検出した。SK19土坑、SK20土坑、SK40土坑と近接する。埋土は土坑中央の最上位に地山土の再堆積土が土坑に蓋をするように堆積していること、中位から下位も地山土の再堆積土や地山塊が多く混じる土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は埋土中から土器片が３点出土した。それぞれSK41土坑出土の第68図71、72a・b・c、73a・bと同一個体である。本土坑の埋め立て時期は71から十腰内Ⅴ群期を上限とする。(3)

SK79土坑（第46図、第３・８表、図版10）

平坦面のほぼ中央のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK85土坑が近接する。埋土は地山粒を含むほぼ同一の土で、ラミナ構造も認められないことから埋め立てによる堆積と考える。遺物は埋土下位から第58図21a、第79図21b・cと同一個体破片の縄文前期初頭の土器片が１点出土した。この個体の破片は平坦部から斜面の広範囲に散在していることから、本土坑の埋没時期を示すものではないと考える。形態と検出層位から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK81土坑（第43・72図、第３・４表）

平坦面南東端でSK56土坑周辺のⅣ層上面を精査したところ、本土坑とSK84土坑を検出した。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK60	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒　5%		小粒　1%
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　10%		
SK86	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　30%		
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　40%		
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　20%			
SK87	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		中粒　10%		極小粒　1%
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　20%		
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　30%			
SK88	1	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%	地山土　70%		
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　15%		
	3	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊　40%		
	4	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　10%		
	5	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%	径20mm以下　10%	
	6	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　10%		
	7	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中塊　30%		
	8	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	1	Ⅱ層土		地山土　40%		
	9	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　15%		
	10	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		中塊～大粒　40%		
	11	黒褐色土(10YR3／1)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		小粒　10%		
	12	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		中塊～大粒　40%		
	13	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	3	Ⅲ層土		小粒　15%		
	14	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　20%	大塊状　80%		
	15	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%	大塊状		
	16	黄褐色土(10YR5／8)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%	大粒～小塊状		
	17	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小塊　10%		
	18	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　30%		

第49図　SK86土坑、SK87土坑、SK88土坑・SK60土坑

SK84土坑が最も古く、本土坑、SK56土坑の順に重複して構築されている。埋土は地山土の再堆積土で掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は埋土中に分散し、第72図92など後期後葉と考える土器片が出土した。本土坑の埋め立て時期は後期後葉を上限と推定する。

SK82土坑（第48図、第３表、図版３）

平坦面東端でＳI58竪穴住居跡床面を精査したところ、地山面を掘り込んだ床面の中央で３基の重複する土坑を検出した。最も古いSK91土坑にほとんど重なって規模の大きいSK83土坑が構築され、さらにSK83土坑埋没後にその埋土上部に本土坑が構築されている。本土坑はＳI58竪穴住居跡との重複により土坑の下部のみが残存している。埋土は地山土の再堆積土や地山粒が多量に混じる土であることから掘削土の埋め戻しによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、本土坑を切るＳI58竪穴住居跡の下限が十腰内Ｖ群期であることから十腰内Ｖ群期を下限と推定する。

SK83土坑（第48図、第３表、図版３）

平坦面東端でＳI58竪穴住居跡床面を精査したところ、地山面を掘り込んだ床面の中央で３基の重複する土坑を検出した。最も古いSK91土坑にほとんど重なって規模の大きい本土坑が構築され、さらに本土坑の埋没後にその埋土上部にSK82土坑が構築されている。本土坑はＳI58竪穴住居跡との重複により上部が欠失している。埋土は地山土の再堆積土や地山粒が多量に混じる土であることから掘削土の埋め戻しによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、本土坑の埋没と十腰内Ｖ群期末を下限とするＳI58竪穴住居跡の埋没の間にSK82土坑の掘削、埋め戻しが行われていることから、十腰内Ｖ群期をある程度さかのぼった時期を下限と推定する。

SK84土坑（第43図、第３表）

平坦面南東端でSK56土坑周辺のⅣ層上面を精査したところ、本土坑とSK81土坑を検出した。本土坑が最も古く、SK81土坑、SK56土坑の順に重複して構築されている。本土坑の南側上部がSK56土坑に切られ、本土坑の中央から北側はSK81土坑とほとんど重なっている。本土坑はSK81土坑よりやや深いため底面は残存しているが壁と埋土のほとんどは残っていない。埋土は地山土の再堆積土で掘削土の埋め戻しによる埋め立てと判断する。遺物は出土しなかった。本土坑は後期後葉を上限とするSK81土坑よりも古い時期に埋め立てられたと推定する。

SK85土坑（第48・72・74図、第３・４・８表、図版10・15）

平坦面中央のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK67土坑、SK86土坑、SK87土坑が近接する。埋土は地山粒が多く混じるほぼ同一の土でラミナ構造が認められないことから埋め立てによる堆積と推測する。遺物は埋土全体に分散して土器片が55点出土し、そのうちの50点は粗製深鉢形土器第74図95a・bの個体である。同一個体破片はSK86土坑、SK87土坑、遺構外で本土坑が位置するLT51グリッドからも出土した。土坑外で破砕しその土器片を土坑の埋め立て時に投入したものと考える。本土坑は出土土器から後期末晩期初頭の土坑墓と推定する。[(4)(6)]

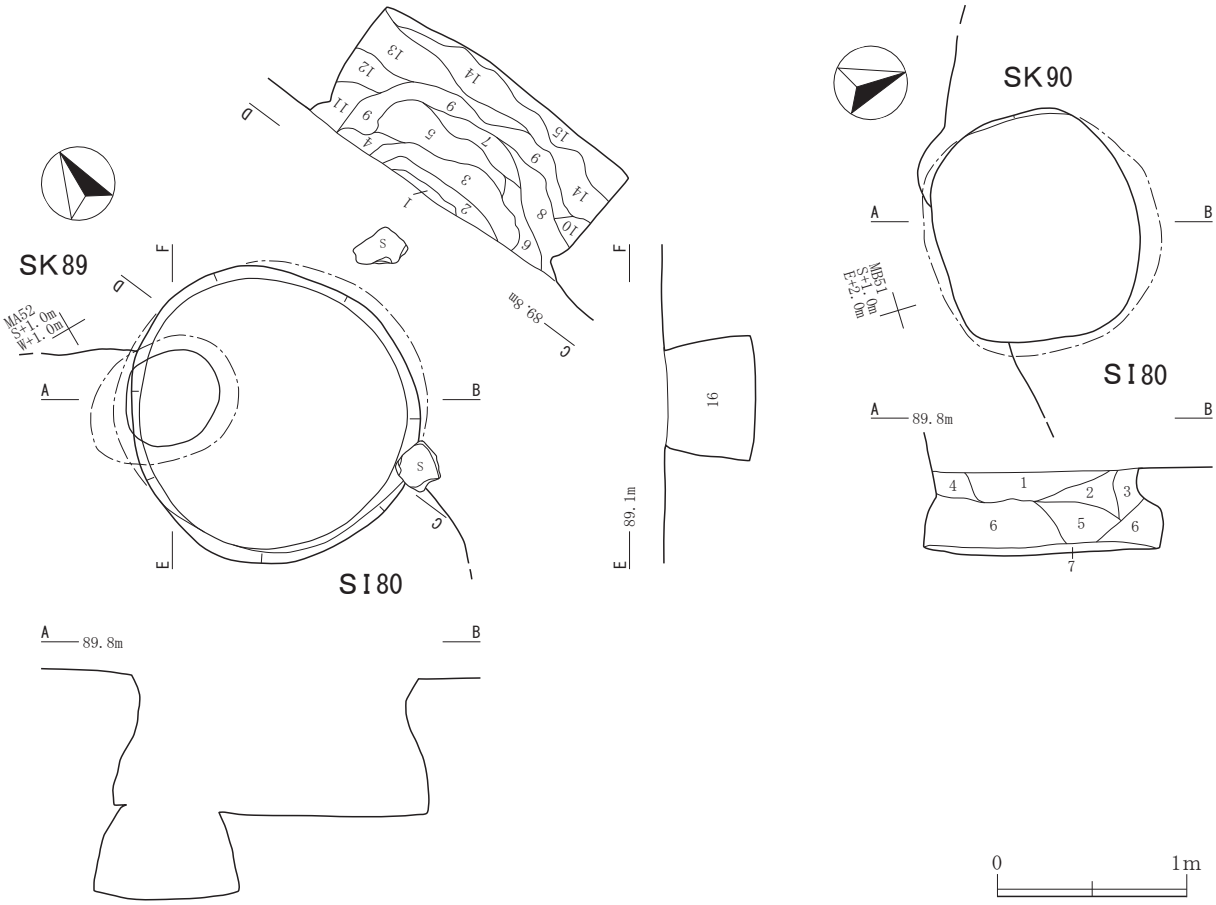
SK86土坑（第49・74図、第３・４・８表、図版10）

平坦面中央のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK67土坑、SK85土坑、SK87土坑が近接する。埋土は地山土が多く混じるほぼ同一の土でラミナ構造が認められないことから埋め立てによる堆積と推測する。遺物は埋土中からSK85土坑から出土した第74図95a・bと同一個体の第74図95cなど６点が出土した。この土器はSK85土坑の埋め立て時に近傍で破砕され地表面に散乱した破片の一

部がSK86土坑埋土に混入したものと推測する。本土坑は後期末晩期初頭と推定するSK85土坑より新しい時期の土坑と推定する。(6)

SK87土坑（第49・74図、第３・４・８表、図版10）

平坦面中央のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK67土坑、SK85土坑、SK86土坑が近接する。埋土は地山土が多く混じるほぼ同一の土でラミナ構造が認められないことから埋め立てによる堆積と推測する。遺物は埋土下位からSK85土坑から出土した第74図95a・bと同一個体の第74図95dが出土した。この土器片はSK85土坑の埋め立て時に近傍で破砕され地表面に散乱した破片の一部がSK87土坑埋土に混入したものと推測する。本土坑は後期末晩期初頭と推定するSK85土坑より新しい時期の土坑墓と推定する。(6)



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK89	1	黒色土（10YR1．7／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　15%		小粒　1%
	2	灰黄褐色土（10YR4／2）	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土　20%	地山土　40%	径50mm以下	
	3	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　15%		小粒　1%
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　10%		小粒　1%
	5	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　30%		小粒　1%
	6	褐色土（10YR4／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　40%		小粒　1%
	7	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　40%			小粒　1%
	8	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　10%		
	9	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　15%		大粒　1%
	10	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		中塊　20%		中粒　2%
	11	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　20%		小粒　1%
	12	暗褐色土（10YR3／4）	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土　30%			小粒　1%
	13	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大塊 2%　中粒10%		
	14	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 5%　中粒 5%		
	15	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	4	2	Ⅱ層土		小粒　2%		
	16	褐色土（10YR4／6）	SiCL	3	2	Ⅳ層土				
SK90	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　10%	径5mm以下　5%	
	2	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	SI80埋土小塊　20%	小粒　15%	径5mm以下　2%	
	3	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅱ層土	SI80埋土小塊　20%	小粒　30%	径5mm以下　2%	
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒　20%	径5mm以下　2%	
	5	黒褐色土（10YR3／2）	SiCL	1	2	Ⅱ層土		極小粒　20%	径5mm以下　2%	
	6	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　30%	径5mm以下　7%	
	7	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	3	3	Ⅱ層土		極小粒　15%	径5mm以下	

第50図　SK89土坑、SK90土坑

SK88土坑（第49図・74図、第３・４表、図版10）

東斜面上部のⅣ層上面で検出した。本土坑の上部は東側をSK69土坑に、平安時代以降の遺構であるSK60土坑に南側、SD119溝跡の柱穴Ｐ２に北側を切られている。上端、底面とも平面形は楕円形である。埋土は全体に地山土の再堆積土や地山土が多量に混じる土であるが、下位の11層、９層は地山土の混入が少ない黒褐色土が薄くラミナ状に堆積する部分がある。最上位中央部は地山土の再堆積土の１層、３層が土坑に蓋をするように堆積している。廃絶後開口放置されて上端部や内壁の崩落、周辺地表土の流入が繰り返された後、最終的には地山土で埋め立てられたと推測する。長軸方向の北端には底面を開口面とする小土坑が付属する。この小土坑の埋土は地山土の再堆積土により埋め立てられている。遺物は埋土最上位から後期後葉の第74図96が出土した。埋め立て時期は出土遺物から後期後葉を上限と推定する。

SK89土坑（第50・61・74・78図、第３・４・６・８表、図版10・17・20）

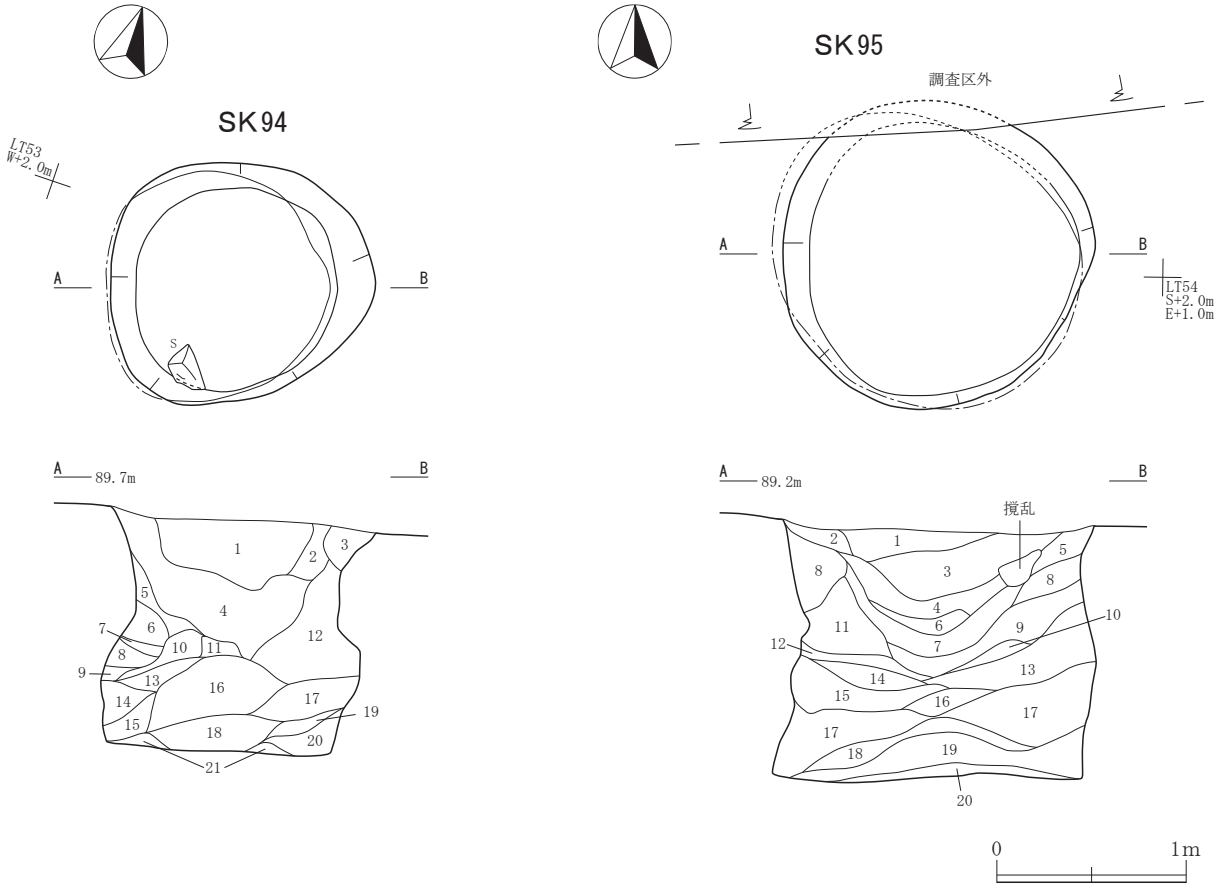
平坦面中央のⅢ層上面で検出した。西側約半分はＳI80竪穴住居跡の埋土を掘り抜いて構築されている。埋土は全体に地山土の再堆積土や地山土が多量に混じる土であるが、最下位の15層、中位の９層は地山土の混入が少ない黒褐色土が薄く堆積する。最上位中央部は地山土の再堆積土の２層が土坑に蓋をするように堆積している。廃絶後開口放置されて上端部や内壁の崩落、周辺地表土の流入が繰り返された後、最終的には地山土で埋め立てられたと推測する。北東端には底面を開口面とする小土坑が付属する。この小土坑の埋土は地山土の再堆積土により埋め立てられている。遺物は埋土中位から後期後葉と考える第74図97が出土したほか、本土坑の掘削と埋没に伴ってＳI80竪穴住居跡埋土中から再混入した第61図29a・e、第62図31など中期後葉の土器片が出土した。埋土下位から第78図118の凹石が出土した。本土坑の埋め立て時期は出土土器から後期後葉を下限と推定する。

SK90土坑（第50・62・65図、第３・４・８表、図版10・17・18）

平坦部南西側の山裾に近い場所のⅢ上面で検出した。基本土層ＭＡラインの観察でⅡ層下位から掘り込まれていることがわかった。位置はSK02土坑と重複するがSK02土坑の底面が本土坑の構築面に達していないため直接の切り合いはない。南側の一部を除きほとんどＳI80竪穴住居跡の埋土を掘り抜いて構築されている。SK74土坑と近接する。埋土は地山土や地山土に含まれている小礫が多く混じるほぼ同一の土でラミナ構造が認められないことから埋め立てによる堆積と推測する。遺物は本土坑の掘削と埋没に伴ってＳI80竪穴住居跡埋土中から再混入した第62図31、32など中期後葉の土器片が出土した。埋め立て時期は後期後葉を上限と推定する。

SK91土坑（第48図、第３表、図版３）

平坦面東端でＳI58竪穴住居跡床面を精査したところ、地山面を掘り込んだ床面の中央で３基の重複する土坑を検出した。最も古い本土坑にほとんど重なって規模の大きいSK83土坑が構築され、さらにSK83土坑の埋没後にその埋土上部にSK82土坑が構築されている。本土坑はその大半をSK83土坑に切られ北東部の一部のみが残存する。埋土は地山粒が多量に混じるほぼ同一の土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は出土しなかった。埋め立て時期は、本土坑の埋没と十腰内Ⅴ群期末を下限とするＳI58竪穴住居跡の埋没の間にSK83土坑とSK82土坑の掘削、埋め戻しが行われていることから、十腰内Ⅴ群期をある程度さかのぼる時期を下限と推定する。



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK94	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅱ層土		小粒 2%	径5mm以下 5%	
	2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		地山土 40%		
	3	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		極小粒 15%		
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	3	Ⅱ層土		中粒 5% 極小粒 20%	径10mm以下 5%	
	5	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 10%		
	6	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			
	7	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊 20%		
	8	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	1	Ⅳ層土				
	9	褐色土(10YR4／6)	SiCL	2	1	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%			
	10	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊 20%		
	11	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 30%	小塊 15%		
	12	灰黄褐色土(10YR4／2)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 20%	小塊 30%		
	13	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	14	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%		径70mm以下 10%	
	15	暗褐色土(10YR3／4)	LS	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%		径10mm以下 10%	
	16	褐色土(10YR4／4)	LS	3	1	Ⅳ層土				
	17	黄褐色土(10YR5／6)	LS	2	1	Ⅳ層土	径30mm以下 黄褐色軽石 30%			
	18	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	石	大粒 20%		
	19	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	17層土 20%	小塊 20%		
	20	暗褐色土(10YR3／4)	LS	3	1	Ⅳ層土				
	21	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		地山土 40%		
SK95	1	黄褐色土(10YR5／8)	SL	2	1	Ⅳ層土			径20mm以下 5%	
	2	褐色土(10YR4／4)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%		径30mm以下 10%	
	3	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%		
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒～小塊 30%	径5mm以下 5%	
	5	褐色土(10YR4／6)	SiL	2	2	Ⅳ層土				
	6	暗褐色土(10YR3／3)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			
	7	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 15%			
	8	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	9	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	10	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土		灰白色軟質土 60%		
	11	黄褐色土(10YR5／8)	SL	2	1	Ⅳ層土				
	12	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	灰白色軟質土 40%		
	13	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土		灰白色軟質土 20%		
	14	黄橙色土(10YR7／8)	L	4	1	Ⅳ層土				
	15	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土		黄褐色硬質土 30%		
	16	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%			
	17	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	2	1	Ⅳ層土				
	18	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			
	19	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	2	2	Ⅳ層土		灰白色軟質土 40%		
	20	褐色土(10YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%			

第51図　SK94土坑、SK95土坑

SK94土坑（第51・74図、第３・４表、図版11）

平坦部北端のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土は黒褐色土主体の上半部と地山土主体の下半部に大別される。検出面から土坑上半部に厚く堆積する１層～５層は、土坑跡の窪地に周辺地表土が流入堆積した層、土坑下位に堆積する15層～17層は土坑上部の崩落土、壁際の堆積土は壁の崩落土と流入土の互層部分、最下層の21層は土坑使用中または廃絶直後に上部から周辺地表土が流入した層と推測する。本土坑は廃絶後開口放置され崩落土と流入土により埋没したと推定する。検出面上で径約30㎝の大礫が出土した。遺物は埋土上位から弥生後期の土器第74図99a、縄文中期後葉の円筒上層式土器破片が混在して出土した。99aの同一個体破片は遺構外からも第83図99b・cが出土しており、弥生時代後期には土坑跡が窪地であったことを示している。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK95土坑（第51図、第３表、図版11）

平坦部北端から北斜面に下る肩部のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK96土坑、SK97土坑と東西に並ぶ。埋土はほとんどが地山土の再堆積土である。最下層の21層は土坑使用中または廃絶直後に、４層、５層、16層は埋没の途中で上部から周辺地表土が流入した層である。地山土の再堆積土は土坑上部の崩落土量を超える土量が堆積しており、埋没の途中で地山土の投入があったと推測する。本土坑は廃絶後開口放置され、崩落土と流入土に加えて断続的な地山土の投入によって埋没したと推定する。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK96土坑（第52・74図、第３・４表、図版11）

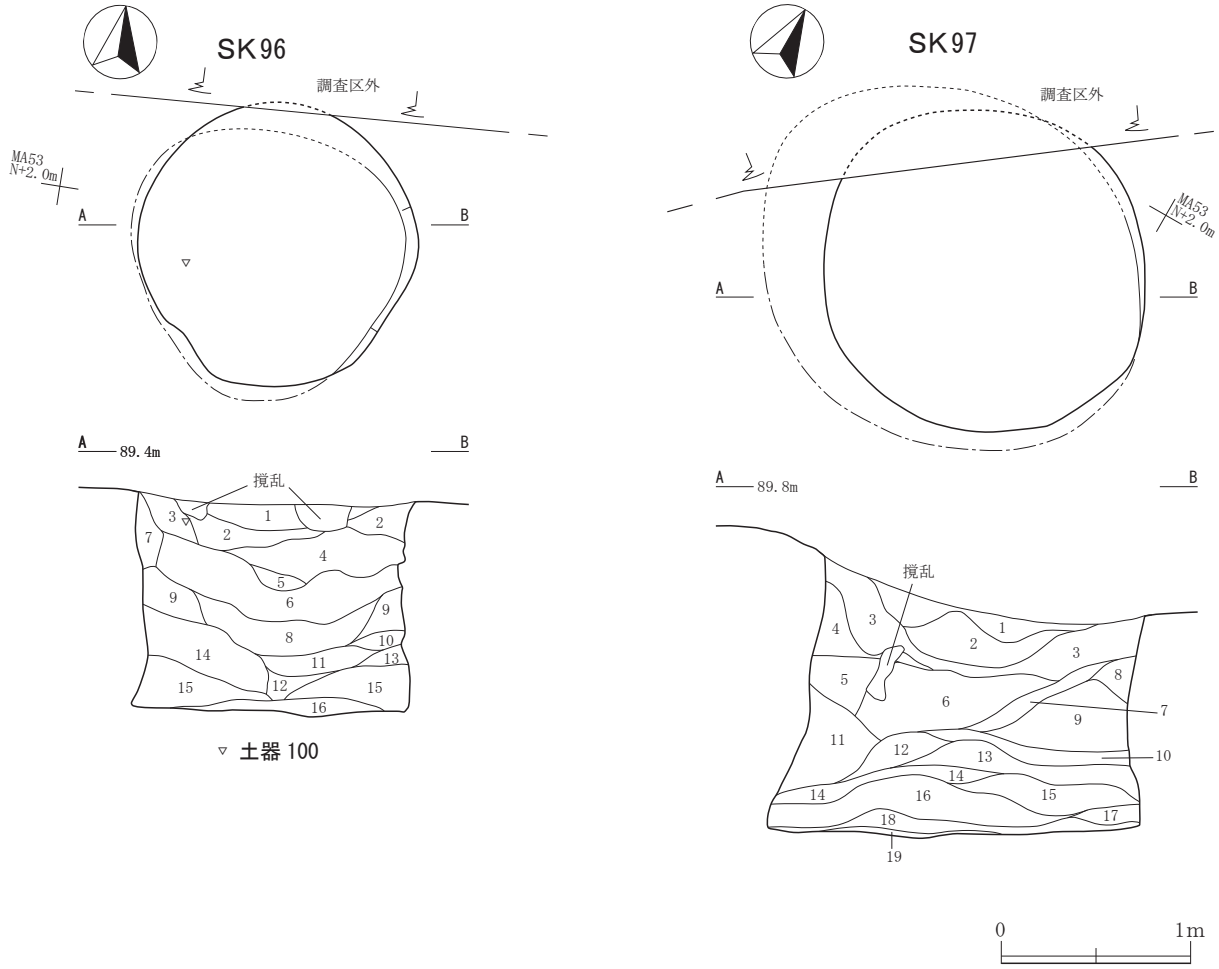
平坦部北端から北斜面に下る肩部のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK95土坑、SK97土坑と東西に並ぶ。埋土は褐色土と地山土に大別される。最下層の16層は土坑使用中または廃絶直後に、11層～13層、５層は埋没の途中で周辺地表土が流入した層である。これ以外の層は地山土の再堆積土であるが、土坑上部の崩落土量を超える土量が土坑内に堆積しており、埋没の途中で地山土の投入があったと推測する。本土坑は廃絶後開口放置され、崩落土と流入土に加えて断続的な地山土の投入によって埋没したと推定する。遺物は中期後葉の大木系土器と推定する第74図100が埋土上位から出土した。廃絶時期は中期後葉を下限と推定する。

SK97土坑（第52図、第３表、図版11）

平坦部北端から北斜面に下る肩部のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK95土坑、SK96土坑と東西に並ぶ。埋土はほとんどが地山土の再堆積土である。最下層の18層、19層は土坑使用中または廃絶直後に、14層、10層、７層などは埋没の途中で上部から周辺地表土が流入した層である。地山土の再堆積土は土坑上部の崩落土量を超える土量が堆積しており、埋没の途中で地山土の投入があったと推測する。本土坑は廃絶後開口放置され、崩落土と流入土に加えて断続的な地山土の投入によって埋没したと推定する。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

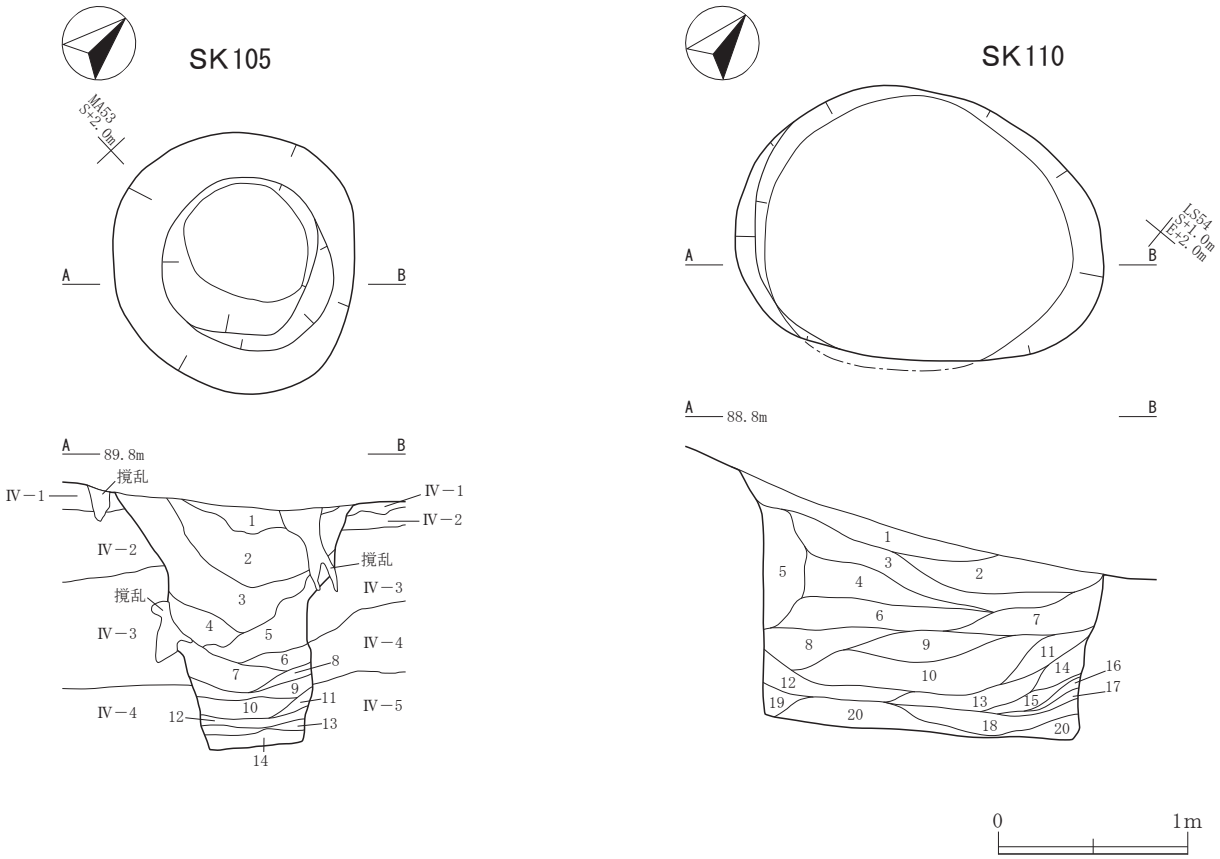
SK105土坑（第53図、第３表、図版11）

平坦面北側のⅣ層上面で検出した。平安時代以降のSQ104配石遺構と重複するが本土坑の掘り込み面はSQ104配石遺構より下位で直接の切り合いはない。下部がやや細くなる円筒形の深い土坑である。埋土は下部が地山土の再堆積土、上部は地山土が混じる褐色土に大別される。下部は壁の崩落



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK96	1	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒　5%		
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒～小塊　15%		
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒　20%		
	4	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	5	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		小粒　10%		
	6	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土			径20mm以下　20%	
	7	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊　40%		
	8	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		砂質地山土　30% 地山大粒　7%		
	9	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　30%			
	10	褐色土(10YR4／4)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　20%	砂質地山土　80%		
	11	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		大粒　10%		
	12	褐色土(10YR4／6)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　30%			
	13	褐色土(10YR4／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		大粒　20% 地山土　10%		
	14	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　20%			
	15	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	16	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土　40%			
SK97	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒　15%		
	2	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土　10%			
	3	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	20%	大粒　10%		極小粒　1%
	4	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		
	5	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%			
	6	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土　10%			
	7	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊　20%		
	8	黄褐色土(10YR5／8)	SL	2	1	Ⅳ層土				
	9	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	4	1	Ⅳ層土				
	10	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊　30%		小粒　1%
	11	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	12	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土　40%			
	13	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	4	1	Ⅳ層土				
	14	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大粒　30%		小粒　1%
	15	褐色土(10YR4／6)	SiCL	3	1	Ⅲ層土		灰白色軟質土　20%	黄褐軽石小礫　20%	
	16	明黄褐色土(10YR7／6)	L	3	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土　20%	灰白色軟質土　80%		
	17	明黄褐色土(10YR6／8)	L	4	1	Ⅳ層土				
	18	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大粒　30%		
	19	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小粒　20%		

第52図　SK96土坑、SK97土坑



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	炭化物
SK105	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土			径15mm以下 10%		小粒 1%
	2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 20%	中粒 5%	径10mm以下 10%		小粒 5%
	3	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	3	Ⅲ層土		中粒 10%	径 5mm以下 10%		小粒 5%
	4	褐色土(10YR4／6)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 15%	径50mm以下 20%		極小粒 1%
	5	黄褐色土(10YR5／6)	SCL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	Ⅳ-2層土 80%	径30mm以下 10%		小粒 2%
	6	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	3	Ⅲ層土		中粒 5%	径 5mm以下 2%		極小粒 1%
	7	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	3	Ⅲ層土		小塊 20%	径10mm以下 5%		中粒 2%
	8	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土		地山土 80%	径 5mm以下 30%		
	9	黄褐色土(10YR5／8)	SL	4	1	Ⅳ層土			径 5mm以下 10%		
	10	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	3	Ⅲ層土	地山の粗砂 20%		径50mm以下 5%		大粒 1%
	11	褐色土(10YR4／6)	SL	3	2	Ⅳ層土	地山の粗砂 30% Ⅱ層土 20%		径 5mm以下 5%		小粒 1%
	12	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土		Ⅳ-5層土 90%	径 5mm以下 2%		
	13	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%	Ⅳ-5層土			
	14	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%				
	Ⅳ-1	黄褐色土(10YR5／8)	SiL	4	1		細砂 40%				
	Ⅳ-2	黄褐色土(10YR5／8)	LS	2	1		細砂 80% 粗砂 10%				
	Ⅳ-3	明黄褐色土(10YR6／8)	SiC	4	1		黄褐色軽石大粒 10%				
	Ⅳ-4	明黄褐色土(10YR6／8)	LS	2	1		中砂 80% 粗砂 15% ローム 5%				
	Ⅳ-5	明黄褐色土(10YR6／8)	SiC	4	1		黄褐色軽石大塊 30%				
SK110	1	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊 20%			
	2	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 15%	小塊 20%			
	3	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		小塊 30%			
	4	黄褐色土(10YR5／6)	SL	4	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%				
	5	黄褐色土(10YR5／6)	SiCL	3	2	Ⅳ層土	Ⅲ層土 15%				
	6	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%				
	7	褐色土(10YR4／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%				
	8	褐色土(10YR4／3)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊 30%			
	9	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 10%				
	10	にぶい黄褐色土(10YR5／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	灰白色軟性土 30%	大粒～中塊 30%			
	11	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	灰白色軟性土 20%	大粒 15%			
	12	褐色土(10YR4／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土		大塊 40%			
	13	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒～小塊 30%			
	14	褐色土(10YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅳ層土					
	15	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		中粒 30%			
	16	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	1	Ⅳ層土					
	17	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 20%			
	18	褐色土(10YR4／3)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大粒 20%			
	19	明黄褐色土(10YR7／6)	SiL	2	1	Ⅳ層土		灰白色軟性土			
	20	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 40%				

第53図　SK105土坑、SK110土坑

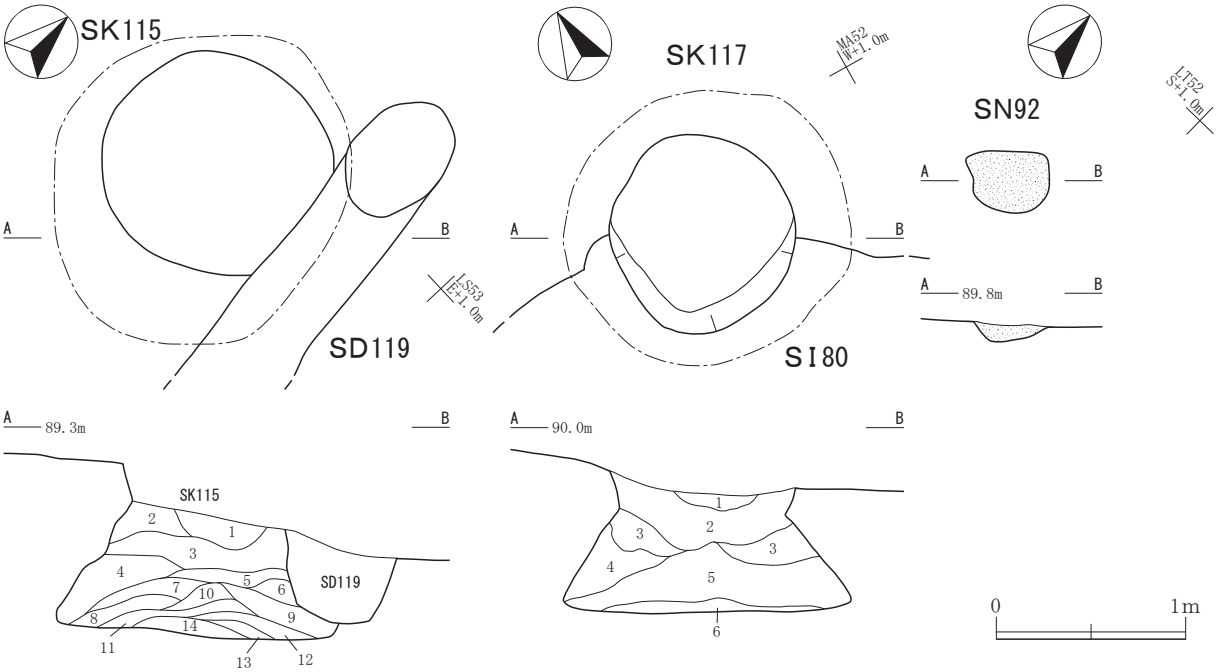
土、上部は壁の崩落と周辺地表土の流入による堆積と推測する。遺物は出土しなかった。検出層位から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK110土坑（第53図、第３表、図版11）

北東斜面上部のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土はほとんどが地山土の再堆積土である。最下層の20層は土坑使用中または廃絶直後に、13層、11層、8層などは埋没の途中で上部から周辺地表土が流入した層である。壁際の堆積土は壁の崩落土と流入土の互層部分がある。地山土の再堆積土は土坑上部の崩落土量を超える土量が堆積しており、埋没の途中で地山土の投入があったと推測する。本土坑は廃絶後開口放置され、崩落土と流入土に加えて断続的な地山土の投入によって埋没したと推定する。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の土坑と考えるが時期は不明である。

SK115土坑（第54・74図、第３・４表、図版11）

北東斜面上部のⅣ層上面で検出した。平安時代以降の遺構であるSD119溝跡に東側を切られている。埋土は埋土は褐色土と地山土に大別される。最下層の14層は土坑使用中または廃絶直後に、11層、６層、最上位の１層、２層は埋没の途中で周辺地表土が流入した層である。これ以外の層は地山



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	炭化物
SK115	1	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大塊 30%		
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 15%		
	3	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		中塊 30%		
	4	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土		大塊 40%	径30mm以下 5%	
	5	明黄褐色土(10YR6／6)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 30%			
	6	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		大粒 15%		
	7	褐色土(10YR4／4)	SiCL	2	2	Ⅲ層土	Ⅳ層土 30%	大粒 10%		
	8	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%			
	9	明黄褐色土(10YR6／8)	SL	3	1	Ⅳ層土		黄褐色軽石大粒 30% 灰白色土 40%		
	10	黄褐色土(10YR5／6)	SL	3	1	Ⅳ層土	Ⅲ層土 20%	黄褐色軽石中塊 10%		
	11	暗褐色土(10YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	Ⅱ層土 15%	黄褐色軽石大粒 30% 灰白色土 10%		
	12	褐色土(10YR4／4)	SL	3	1	Ⅲ層土		黄褐色軽石中塊 30% 灰白色土 15%		
	13	黄褐色土(10YR5／8)	SL	3	1	Ⅳ層土				
	14	褐色土(10YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅲ層土	黄褐色軽石 大粒 15%	黄褐色軽石大粒 15%		
SK117	1	黄褐色土(10YR5／6)	SL	2	1	Ⅳ層土	Ⅱ層土 40%			
	2	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		中粒 20%		
	3	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		極小粒 10%		小粒 1%
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	3	2	Ⅱ層土	Ⅳ層土 30%			
	5	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅱ層土		小粒 10%		
	6	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	3	3	Ⅱ層土		中塊 30%		
SN92	1	暗褐色土(7.5YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅳ層土				

第54図　SK115土坑、SK117土坑、SN92焼土遺構

土の再堆積土であるが、土坑上部の崩落土量を超える土量が土坑内に堆積しており、埋没の途中で地山土の投入があったと推測する。本土坑は廃絶後開口放置され、崩落土と流入土に加えて断続的な地山土の投入によって埋没したと推定する。遺物は埋土中から後期後葉の壺形土器破片が出土した。埋め立て時期は後期後葉を下限と推定する。

SK117土坑（第54・74・76図、第３・４・６・８表）

平坦部中央西寄りの山裾に近い場所のⅢ層上面で検出した。南側約半分はＳI80竪穴住居跡の埋土を掘り抜いて構築されている。土坑中央の最上位に地山土の再堆積土が土坑に蓋をするように堆積している。埋土の大部分は地山土が多量に混じるほぼ同一の土である。中位から下位も地山土の再堆積土や地山土塊が多く混じる土であることから埋め立てによる堆積と考える。遺物は埋土下位の５層から異条縄文が施文された縄文中期後葉の第74図102が出土した。また、埋土最上位から出土した磨製石斧第76図108はＳI80竪穴住居跡埋土中位出土の破片と接合した。埋め立て時期は中期後葉を上限と推定する。

註

１　SK05土坑・SK42土坑、SK06土坑・SK33土坑、SK23土坑、SK24土坑

第67図62は、同一個体破片がSK06土坑とSK33土坑の埋め立て土中から出土した。この個体は近接するSK23土坑に破砕投入された土器で、SK23土坑の埋め立て時に周辺に散乱した土器片の一部が埋め立て土に混入したものと推測する。SK23土坑には第67図62のほかに、第68図65a・b・dが破砕投入され、第67図59、60bが埋め立て土に混入していた。また、SK24土坑はSK23土坑と同時に第68図65a・cを破砕投入して埋め立てられた土坑である。

SK33土坑出土土器片は、土坑掘削時に地表面に散布していたものが埋め戻し土に混入した可能性と、SK33土坑がSK06土坑の一部を破壊して掘削されていることから、SK06土坑埋土に混入していた土器片が、SK33土坑の掘削、埋め戻しにより埋土に再混入した可能性がある。

SK06土坑、SK33土坑、SK23土坑に近接するSK42土坑は埋め立て時に粗製深鉢形土器第72図79a・b・c・dが破砕投入されている。このSK42土坑とこの土坑を切るSK05土坑の埋土中にはSK23土坑・SK24土坑に破砕投入され周辺にも破片が散乱したと推測する第67図62、第68図65a・b・c・dの破片が全く含まれていないことから、SK23土坑の埋め立て時にはすでにSK05土坑、SK42土坑は埋め立てられていたと推測する。

以上より、SK42土坑埋め立て・第72図79a・b・c・d破砕投入→SK05土坑埋め立て→第67図60a・b散布（後期末晩期初頭）→第67図59散布（大洞ＢＣ式）→SK23土坑・SK24土坑埋め立て・第67図62破砕投入・第68図65a・b・c・d破砕投入・第67図59混入・第67図60a・b混入（晩期前葉）→SK06土坑埋め立て・第67図62混入→SK33土坑埋め立て・第67図62混入の変遷を推定する。

SK23土坑からは大洞ＢＣ式の鉢形土器第67図59が出土したことから、SK23土坑・SK24土坑埋め立て時期の上限は大洞ＢＣ式期、SK06土坑、SK33土坑埋め立て時期の上限は晩期前葉、SK42土坑、SK05土坑埋め立て時期の下限は後期末晩期初頭と推定する。

２　SK10土坑、SK14土坑、SK16土坑

SK10土坑、SK14土坑、SK16土坑からは、同一個体破片第66図49a・b・cが出土した。

SK10土坑は、埋土中位から下位に地山土の再堆積層があり埋め立てられたと考えるが、埋土上位の１層黒色土が堆積する部分は、埋め立て後の沈下により形成された土坑跡の窪地に周辺地表土が流入したものと考える。第66図47・48・49bはこの流入土堆積層に包含されている。

SK14土坑は埋め立てによる埋没で、第66図49aの同一個体破片13点が埋土上位から下位まで含まれていた。この土器は、SK23土坑、SK42土坑などと同様に、土坑埋め立て時に破砕され破片を埋め立て土に投入したものと考える。その際に土坑周辺にも同一個体破片が散乱したと推測する。

SK16土坑は廃絶後に付属土坑が埋め立てられるが、土坑本体はしばらく開口放置され、崩落と流入により下部が埋まった状態であったと推測する。この土坑を再利用して第66図53を投入し埋め立てが行われる。この際に第66図51・52が埋め立て土に混入し、さらに埋め立て後の最上部に第66図49cが流入したと考える。第66図51・52

はSI04竪穴住居跡の埋土中に包含されていた遺物と推測する。

以上より、SI04竪穴住居跡廃絶→第66図51・52散布→SK16土坑廃絶・付属土坑埋め立て・開口放置→SK16土坑下部崩落埋没→SK16土坑埋め立て・第66図53投入・第66図51・52混入→SK10土坑埋め立て→第66図47・48散布→SK14土坑埋め立て・第66図49a破砕投入・第66図49b・c散布→SK10土坑上部沈下→第66図47・48・49b流入→SK16土坑最上部に第66図49c流入の変遷を推定する。

第66図48、第66図53は後期最終末の土器と考える。したがってSK16土坑の埋め立ては後期最終末、SK14土坑の埋め立て・破砕土器片投入は晩期初頭と推定する。

３　SK19土坑、SK20土坑、SK40土坑、SK41土坑・SK77土坑・SK78土坑、SK62土坑、SI58竪穴住居跡

SK20土坑、SK41土坑、SK77土坑、SK78土坑の検出面や埋土中からは拳大～人頭大の大礫が出土した。SK19土坑、SK40土坑は検出面にのみ遺構範囲の内外に礫が分布し埋土中には含まれていなかった。SK40土坑とSK41土坑の間には扁平な大礫があり、SK20土坑とSK19土坑の間にもSK20土坑埋土の一部に覆い被さるような位置に同様の扁平な大礫があった。さらにSK20土坑では底面に人頭大の大礫が置かれていた。

この状況から、SK20土坑は埋め立て時に底面に人頭大の大礫を安置し埋土最上位または埋め立て後の埋土上面にも大小の搬入礫を置いたと推測する。その後、比較的小さい礫は原位置から移動しSK20土坑周辺に散在したと考える。SK19土坑、SK40土坑では検出面上にのみ礫があり埋土中にはないことから、礫がSK20土坑上から移動し散布した時点ではすでに両土坑は埋没していたものと推測する。よって、SK19土坑埋め立て・SK40土坑埋め立ての後にSK20土坑埋め立てと礫安置が行われたと推定する。

SK19土坑とSK40土坑からは同一個体破片第69図55a・bが出土した。両土坑ともに埋め立て土に混入したものである。SK19土坑とSK40土坑の中間に位置するSK41土坑は、SK40土坑、SK20土坑、SK78土坑と接合・同一個体の中期の土器片が出土し、埋土の供給源は掘り返した土だけでなく土坑周辺の広範囲の土を集積し埋め立て時に投入したと考える。しかし、SK19土坑とSK40土坑から同一個体破片が出土した第67図55a・bは出土していない。SK41土坑の掘削、埋め立て時点では、第67図55a・bはいまだ散布していなかったと考える。したがってSK19土坑、SK40土坑の掘削、埋め立ても行われる前であったと考える。

第68図71はSK78土坑とSK41土坑から出土した破片が接合したことから、両土坑の埋め立て前に周辺に散布していて、SK78埋め立て時、その後のSK41埋め立て時にそれぞれの埋め立て土に混入したと考える。切り合い関係で最も古いSK77土坑には同一個体破片が混入していないことから、SK77土坑の埋め立て後に第68図71が散布したと仮定し、SK77土坑埋め立て→第68図71散布→SK78土坑埋め立て・第68図71破片混入→SK41土坑埋め立て・第68図71破片混入の変遷を推定する。

さらに、SK78土坑・SK41出土第68図71は、SK62土坑埋め立て時に破砕投入された土器である第73図93と口唇部の貼り瘤が類似する。胴部が縄文と無文の違いはあるが同時期の十腰内Ｖ群土器と考える。したがって、SK62土坑埋め立て・第73図93破砕投入と第68図71散布は同時期と推定する。

SK62土坑はSI58竪穴住居跡の埋め立て後にそのプランを切って構築された土坑であり、SI58竪穴住居跡埋め立て時には第58図22が混入している。

以上より、第58図22散布→SI58竪穴住居跡埋め立て・第58図22混入、SK77土坑埋め立て→SK62土坑埋め立て・第73図93破砕投入、第68図71散布(十腰内Ｖ群)→SK78土坑埋め立て・第68図71破片混入→SK41土坑埋め立て・第68図71破片混入→第67図55a・b散布(後期末晩期初頭)→SK19土坑埋め立て・SK40土坑埋め立て・第67図55a・b混入→SK20土坑埋め立ての変遷を推定する。

第68図71、第73図93が後期末の十腰内Ｖ群土器であることから、SI58竪穴住居跡廃絶の下限は十腰内Ｖ群期、第69図55a・bは後期末～晩期初頭の粗製土器、SK19土坑・SK40土坑・SK20土坑の埋め立て時期は晩期初頭～前葉と推定する。

４　SK14土坑、SK23土坑、SK24土坑、SK42土坑、SK62土坑、SK85土坑

SK14土坑、SK23土坑、SK24土坑、SK42土坑、SK62土坑、SK85土坑では、同一個体土器破片が埋土全体に多数混入して出土した。出土状況は完形に近い土器が土圧によって押しつぶされたものではなく、破断し分散した破片が埋土全体に包含されているものである。土器片の出土位置は全体としては土坑内で偏在傾向があるものの、埋土上位から下位まで各層に分散し、一定の高さに並べて安置したものではい。さらに同一個体の破片は遺構外にも多数散布する。

土坑の埋土が埋め立て投入土であることから、土坑を埋め立てる際に土坑外で土器を破砕し、その破片を混ぜた土を投入して土坑を埋め立てる、または、破砕土器破片を土坑内に散布しながら土を投入して埋め立てるとい

う過程を想定することができる。この埋め立て方法を仮に破砕土器片投入と呼称する。

破砕土器破片の多くが土坑内に投入されるものの、周辺地表土にも相当数の破片が残されることについては、この行為がゴミの埋め立てのような実用的行為ではなく、象徴的な行為としての散布投入であったことを示していると考える。

５　SI30竪穴住居跡、SK27土坑・SK34土坑、SK28土坑・SK29土坑

第68図67a・bの同一個体破片は、SK29土坑埋土中位のほかに、SI30竪穴住居跡住居跡埋土上位から２点、SK34土坑埋土上位から３点、遺構外LT48グリッドから７点など、分散して出土した。これらの遺構はほとんどLT48グリッドにあり、遺構内出土破片もLT48グリッドの範囲で出土した。

縄文中期後葉に埋没したと推定するSI30竪穴住居跡の埋土上位から出土した破片は、SI30竪穴住居跡埋土を覆うⅡ層、Ⅰ層との層界付近からの出土で、遺構外遺物として取り上げたLT48Ⅰ層、Ⅱ層出土遺物と同一契機による散布と推定する。

SK34土坑出土の３点は、基本土層ベルトLTラインにかかる埋土を掘り下げているときに出土したもので、やはりSK34土坑埋土最上位とSK34土坑覆土であるⅠ層との層界付近から出土した。SI30竪穴住居跡、SK34土坑での出土状況から、第68図67a・b土器の同一個体破片は、SI30竪穴住居跡、SK34土坑の埋没後にこの周辺の地表面に散布したと推測する。これに対し、SK29土坑では、埋土下位から第68図67aが出土した。この破片は、埋土中位出土の大木８a式土器第57図11の破片とともに、土器片散布域における土坑の掘削と埋め立てにより混入したものと推測する。

遺構の切り合いからSK27土坑埋め立て→SK34土坑埋め立て、SK28土坑埋め立て→SK29土坑埋め立てである。SK27土坑、SK28土坑の埋土には土器片が混入していないことから、これらの土坑は第68図67a・b散布より前に埋め立てられていたと推測する。

以上より、SI30竪穴住居跡埋め立て→SK27土坑埋め立て、SK28土坑埋め立て→SK34土坑埋め立て→第68図67a・b散布→SK29土坑埋め立て・第68図67a・b混入の変遷を推定する。

６　SK85土坑、SK86土坑、SK87土坑、SK67土坑、SK23土坑、SK24土坑、SK06土坑・SK33土坑

SK85土坑の出土土器片55点のうち５点は中期後葉の小破片で、すべて別個体の破片である。中期後葉の土器片は、埋土中位から下位に分散する。埋土は埋め立て投入土なので、周辺地表土に散布していた土器片が、本土坑の掘削、埋め立てによって混入したものと考える。他の50点は大型粗製深鉢形土器第74図95bの同一個体破片である。土器片は埋土上位から下位まで広く分布する。

SK86土坑出土土器破片６点はすべて第74図95cの同一個体破片である。土器片は埋土下位に分布し接合破片95cの３点は埋土下部で分散している。SK87土坑出土土器破片第74図95dは埋土中から出土した。第74図95a・b・cの同一個体破片である。95a・b・c・dと同一個体破片はLT51グリッドからも42点出土した。

第74図95bは、仮に出土全破片50点が接合できたとしても、底部がなく口縁部も全周しないなど、欠失部分が相当に残ることから、この個体が完形でSK85土坑に遺棄または安置され埋め立て時の土圧により破損したものとは考えられず、埋め立て投入土に混入する時点で、すでに破砕された破片であったと推測する。同一個体破片が遺構外からも多く出土していることから、土坑に近接する土坑外の場所で破砕され、破片の一部は埋め立て投入土とともに土坑に投入され、それ以外は周辺地表土に散乱した状態で土坑の埋め立てが行われたものと推測する。SK85土坑埋め立て直後には、同一個体破片が周辺の地表面に散乱した状態であったと推測する。それらの破片の一部がSK86土坑、SK87土坑の埋め立て土に混入していることから、SK86土坑、SK87土坑は、SK85土坑埋没後に掘削、埋め戻されたと考える。SK86土坑、SK87土坑の構築時期は、SK85土坑の埋没直後を上限とする。

第74図95a・b・c・dの同一個体破片はLT51グリッドから集中出土していることから、土器破砕地点はSK85土坑よりも南側のLT51グリッド内と推定する。SK86土坑では比較的大きい破片も含めて６点出土しているのに対し、SK87土坑では小破片１点のみである。SK86土坑は土器破砕地点に近く、土器片散布密度が高かったことによると推測するが、同時にSK85土坑埋め立て時の破砕破片散布から時間が経過するほど土器片の流出や分散が進み、残存散布する土器片が減少すると考える。土器片の出土状況には時間経過も反映していると考えるので、SK86土坑埋め立てよりも後にSK87土坑が埋め立てられたと推定する。

LT51グリッドにありSK85土坑に近接するSK67土坑は、第74図95bの同一個体破片が出土していないことから、SK85土坑埋め立て時の破砕土器片投入が行われる時点ではすでに埋没していたと推測する。第72図89はSK67土坑の埋土最上層から出土した。SK67土坑埋め立て後に若干地表面が沈下した窪地に流入し、この窪地が流入土により埋まりきった後にSK85土坑の埋め立て・第74図95a・b破砕投入が行われたと考える。

以上より、SK67土坑埋め立て→SK67土坑上部沈降→第72図89散布（後期末晩期初頭）→第72図89流入→SK67土坑上部埋没→SK85土坑埋め立て・第74図95a・b破砕投入・第74図95c・d散布→SK86土坑埋め立て・第74図95c

混入→SK87土坑埋め立て・第74図95d混入の変遷を推定する。

７　土器の変遷

SK67土坑埋土上位から出土した第72図89は入組帯状文が施文された土器である。このような時期が推定できる遺構内出土土器は多くないが、それらを比較して変遷を次のように考える。

SK62土坑埋め立て時に破砕投入された第73図93、SK78土坑・SK41出土第68図71はともに口唇部に貼り瘤で装飾し胴部は無文または縄文である。同時期の十腰内Ｖ群土器と考える。SK62土坑はSI58竪穴住居跡の埋め立て後にそのプランを切って構築された土坑であり、SI58竪穴住居跡埋め立て時には第58図22が混入している。したがって第58図22は十腰内Ｖ群期を下限とする粗製土器である。

SK65土坑に副葬された第73図94は山形突起が付く装飾口縁が発達し口縁部下端の屈曲部にボタン状の貼り瘤列が巡る。SK62土坑に破砕投入された十腰内Ｖ群土器の第73図93より後出的で、後期末と考える。SK67土坑埋土上位出土第72図89は無文帯に貼り瘤列の退化形態に由来する小刺突列が残る。SK23土坑・SK24土坑出土60a・bは、SK65土坑出土第73図94に比べて口唇の山形突起が小さくなり波状口縁化が進んでいる。いずれもSK65土坑出土第73図94より後出的と考える。

遺構外のLT51・LS51グリッドからは入組帯状文が施文された第83図157、158が出土した。157は入組部に刺突があり区画沈線が玉抱き三叉文状に描かれている。区画沈線自体の文様化の兆候が看取される土器で、SK67土坑出土第72図89、SK23土坑・SK24土坑出土60a・bよりもさらに後出的と考える。SK23土坑・SK24土坑出土60a・b、SK67土坑出土第72図89の前後関係は不明だが、ほとんど同時期で後期末から晩期初頭の過渡期の土器と考える。さらにLT51・LS51グリッド出土第83図157・158が後続と考える。

SK23土坑出土第67図59は羊歯状文が施文された大洞ＢＣ式の鉢形土器で、土坑出土精製土器の中では最も新しい時期の土器である。SK23土坑・SK24土坑の埋め立て時期の上限を示す土器で、遺跡内から出土した晩期の精製土器の中でも最も新しい時期の土器であることから、両土坑の埋め立て時期はこの大洞ＢＣ式期と考える。両土坑の埋土中から出土し接合した第67図60a・bは、大洞ＢＣ式期に至って地表面に散布していた破片が両土坑の埋め立て土に混入したものと考える。

粗製土器の時期決定は難しいが、遺構の切り合い、遺物出土状況、精製土器の編年から推定した遺構の前後関係から、次のように考える。

SK19土坑、SK40土坑出土の粗製深鉢形土器第67図55a・bは、胴部下半から底辺部にかけて条が横走する単節ＬＲ縄文が施文されている。SK85土坑に破砕投入された第74図95a・b、SK42土坑に破砕投入された第72図79a・b・c・dも口縁部から胴部上半は条が縦走気味、胴部下半は条が横走する単節ＬＲ縄文が施文されている。

第67図55a・bはSK19土坑、SK40土坑の埋没状況から十腰内Ｖ群よりは後出で、第74図95a・bはSK85土坑の出土状況から後期末晩期初頭の入組帯状文土器よりも新しく、第72図79a・b・c・dはSK42土坑の帰属時期推定から大洞ＢＣ式期のSK23土坑・SK24土坑埋め立てより前に破砕投入されている。このことから、この種の粗製深鉢形土器は晩期初頭から晩期前葉の粗製土器と推定する。

SK16土坑に副葬されていた第66図53は胴部下半が無文で平底の大型深鉢形土器である。SK65土坑出土第73図94も胴下半部が無文の深鉢形土器であるが底部がわずかに上げ底で、第66図53がより後出的と考える。この土器が副葬された後に散布したと推測するSK10土坑出土第66図48は胴部全面に縄文を施文した壺形土器で後期末晩期初頭と推定する。さらに粗製深鉢形土器第66図49aは第66図48が散布した後にSK14土坑に破砕投入されていることから晩期初頭を上限とする土器である。

以上より、次のように変遷を推定する。

第58図22(粗製深鉢)→第73図93・第68図71(十腰内Ｖ群)→第73図94(後期末)→第66図53(無文深鉢)→第66図48(後期末晩期初頭)→第67図60a・b、第72図89(後期末晩期初頭)→第66図49a・b・c(粗製深鉢)、第83図157・158(後期末晩期初頭)→第74図95a・b・c・d、第72図79a・b・c・d、第67図55a・b(粗製深鉢)→第67図59(大洞ＢＣ式)→第67図62、第68図65a・b・c・d(粗製深鉢)

３　焼土遺構

SN25焼土遺構（第37図）

平坦面南側のⅢ層上面で、本土坑より古いSK23土坑、隣接するSK24土坑とともに検出した。長軸が東西方向の楕円形で、長軸81㎝、短軸42㎝の範囲が被熱し、厚さ12㎝の焼土を形成している。屋外地床炉と推定する。帰属時期はSK23土坑より新しく晩期前葉を上限とする。

SN92焼土遺構（第54図）

平坦面中央のⅣ層上面で検出した。重複遺構はない。SK67土坑、SK85土坑　SK79土坑に近接する。長軸が東西方向の楕円形で、長軸47㎝、短軸33㎝の範囲が被熱し、厚さ12㎝の焼土を形成している。屋外地床炉と推定する。検出層位から縄文時代の遺構と考えるが時期は不明である。

SN121焼土遺構（第55図、第８表）

平坦面中央西側のＳI80竪穴住居跡埋土中で検出した。本遺構を検出した後、さらにＳI80竪穴住居跡埋土を掘り下げたところ、本遺構の東側でSN122焼土遺構を検出した。本遺構は長軸が南東-北西方向の楕円形で、長軸76㎝、短軸53㎝の範囲が被熱し、厚さ12㎝の焼土を形成している。屋外地床炉と推定する。帰属時期は中期後葉を上限と推定する。

SN122焼土遺構（第55図、第８表）

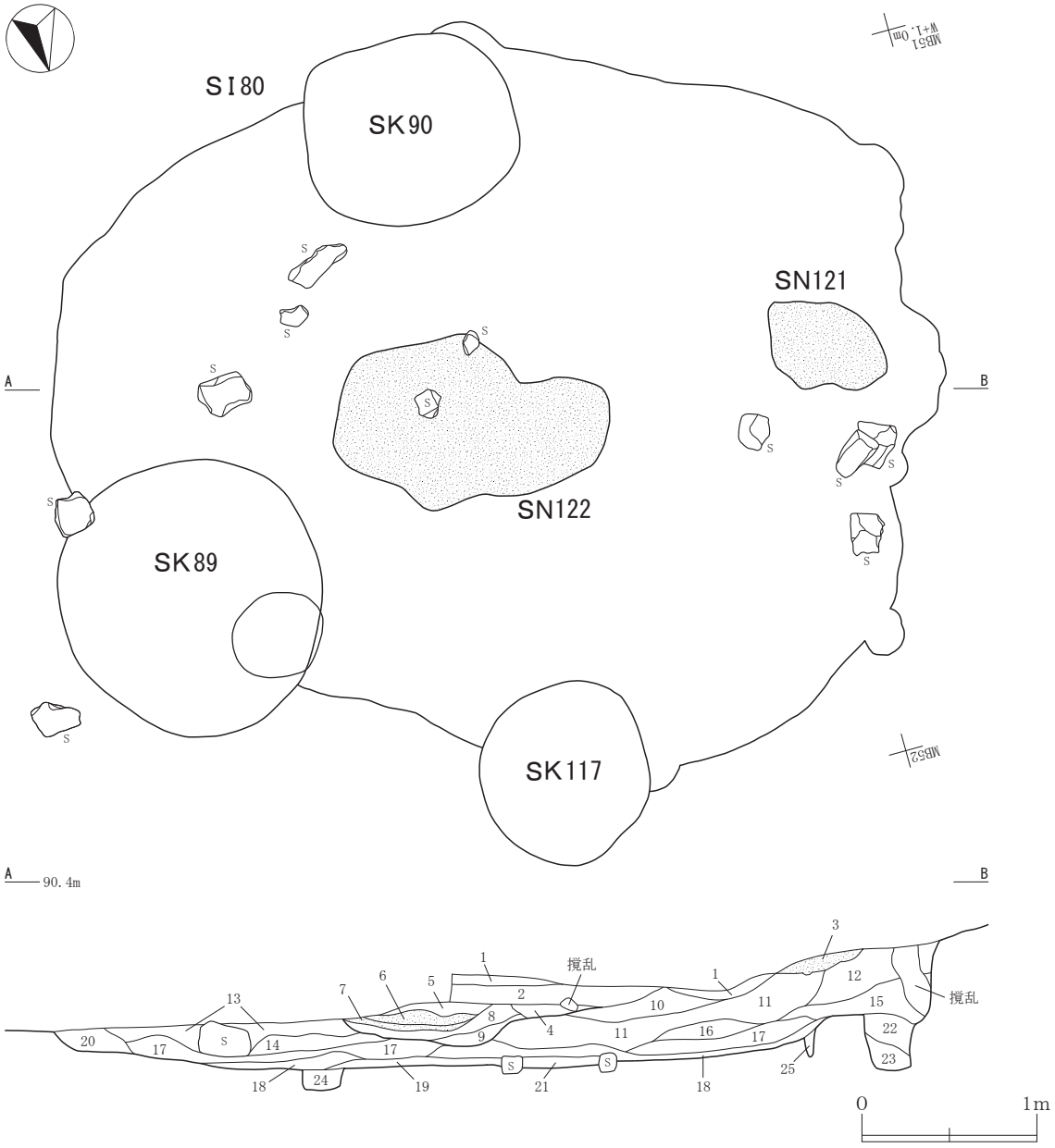
平坦面中央西側のＳI80竪穴住居跡埋土中で検出した。SN121焼土遺構を検出した後、さらにＳI80竪穴住居跡埋土を掘り下げたところ、SN121焼土遺構の東側で本遺構を検出した。本遺構は長軸が南東-北西方向の楕円形で、長軸173㎝、短軸96㎝の範囲が被熱し、厚さ20㎝の焼土を形成している。屋外地床炉と推定する。焼土範囲が比較的大きく厚いことから、繰り返し長期間使用されていたと推測する。帰属時期は中期後葉を上限と推定する。

４　配石遺構

SQ09配石遺構（第39図、図版11）

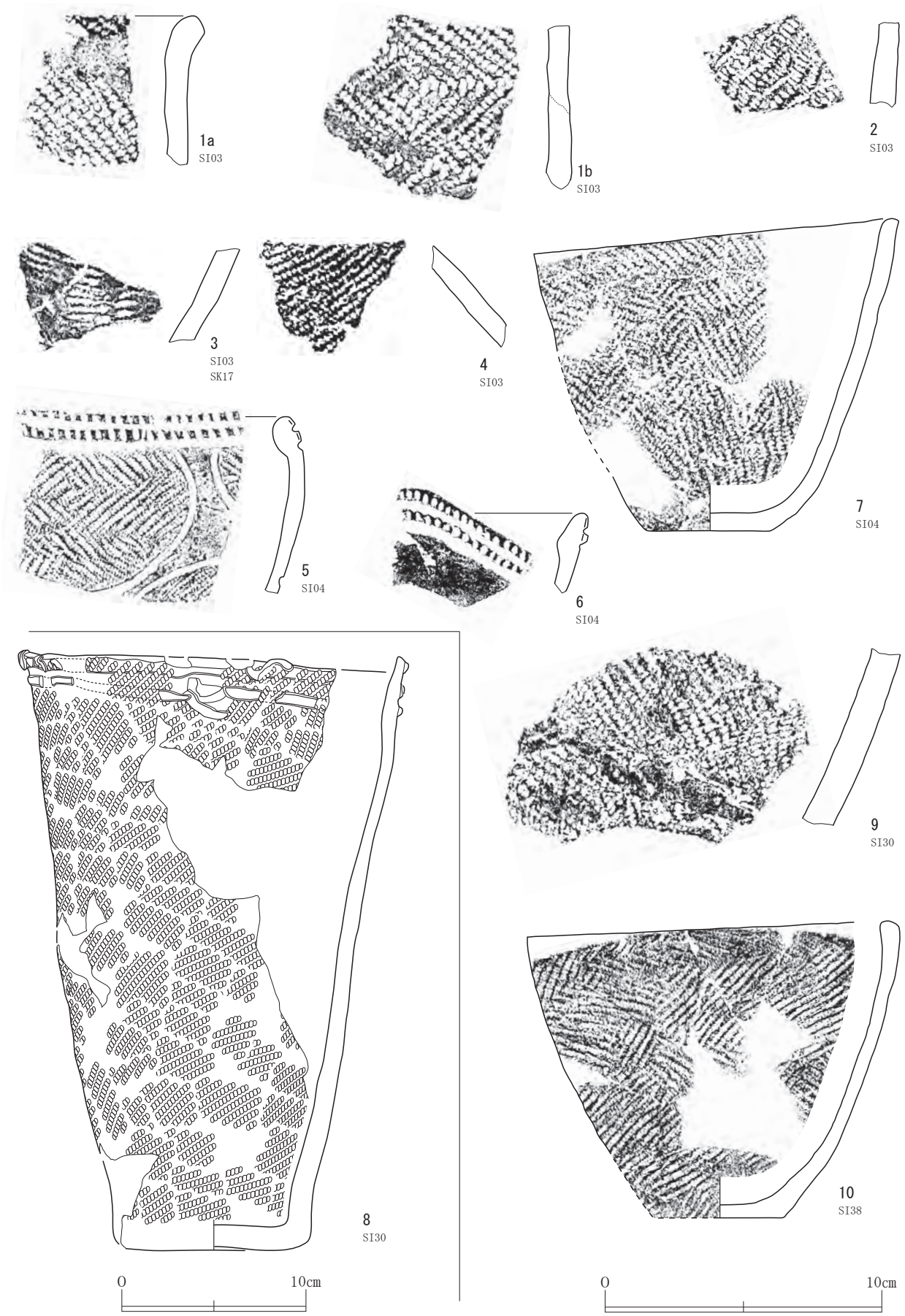
南斜面のⅢ層上面でSK31土坑とともに検出した。本配石遺構がSK31土坑の北西側を切っている。本遺構は、76㎝×70㎝、深さ約15㎝の浅い円形土坑内に径15㎝程度の亜円礫を３個まとめておいたものである。埋土は地山粒が混じる黒褐色土の単層である。礫は土坑底面に置かれている。遺物は出土しなかった。形態から縄文時代の遺構と考える。晩期初頭を下限とするSK31土坑を切ることから、帰属時期の上限は晩期初頭と推定する。

（86頁へ続く）

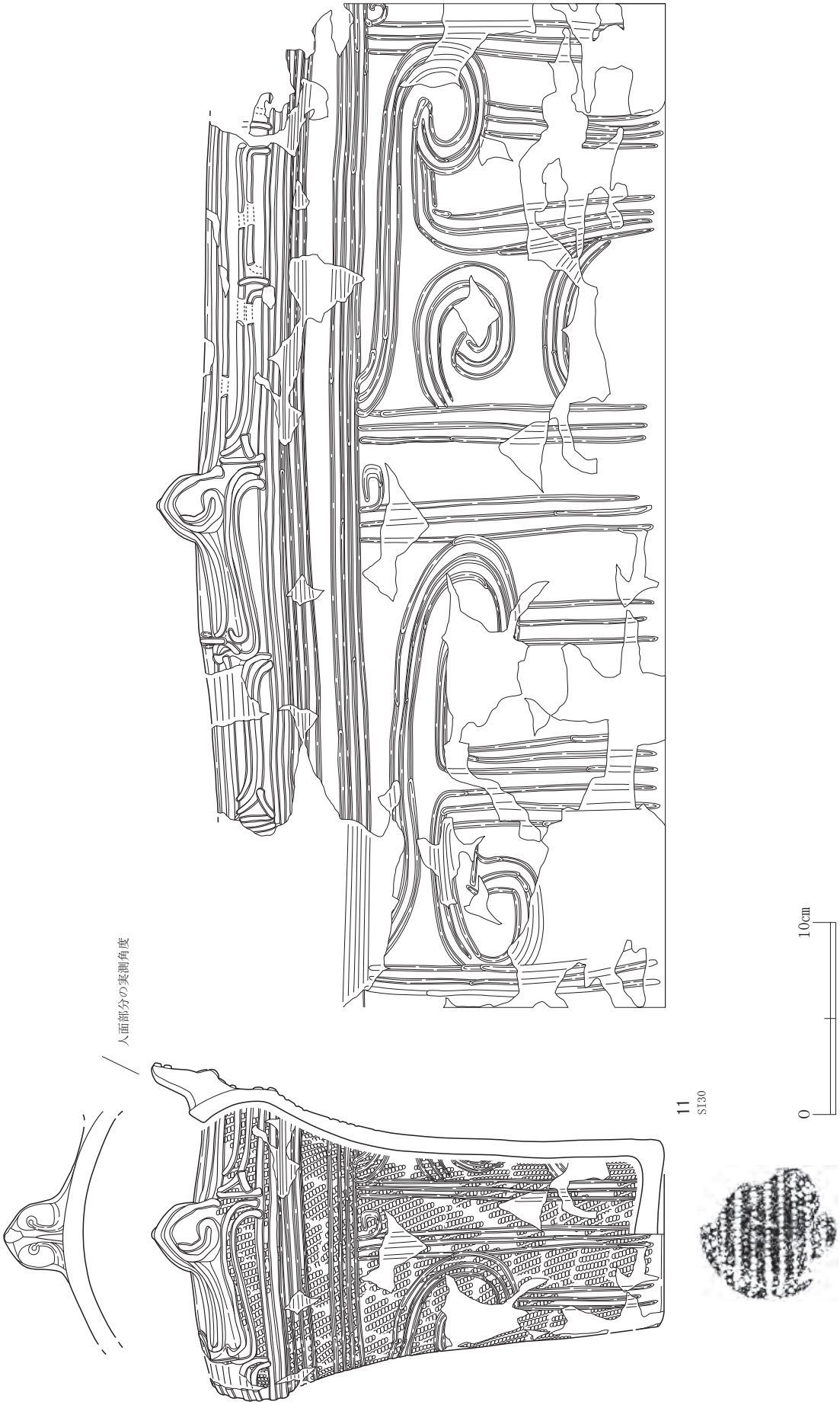


遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	礫	焼土	炭化物
SN121	3	赤褐色土(5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅱ層土			80%	小粒 1%
SN122	4	暗褐色土(7. 5YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	大粒 1%	径10mm以下 1%	極小粒 10%	大粒 5%
	5	暗褐色土(7. 5YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	小粒 1%	径10mm以下 5%	30%	中粒 5%
	6	赤褐色土(5YR4／6)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		径3mm以下粗砂 10%	90%	
	7	暗赤褐色土(5YR3／4)	SiCL	3	2	Ⅱ層土		径3mm以下粗砂 10%	100%	
	8	暗褐色土(7. 5YR3／4)	SiCL	3	1	Ⅱ層土		径5mm以下 5%	40%	小粒 2%
	9	暗褐色土(7. 5YR3／4)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	小粒 10%	径15mm以下 10%	小粒 10%	中粒 2%

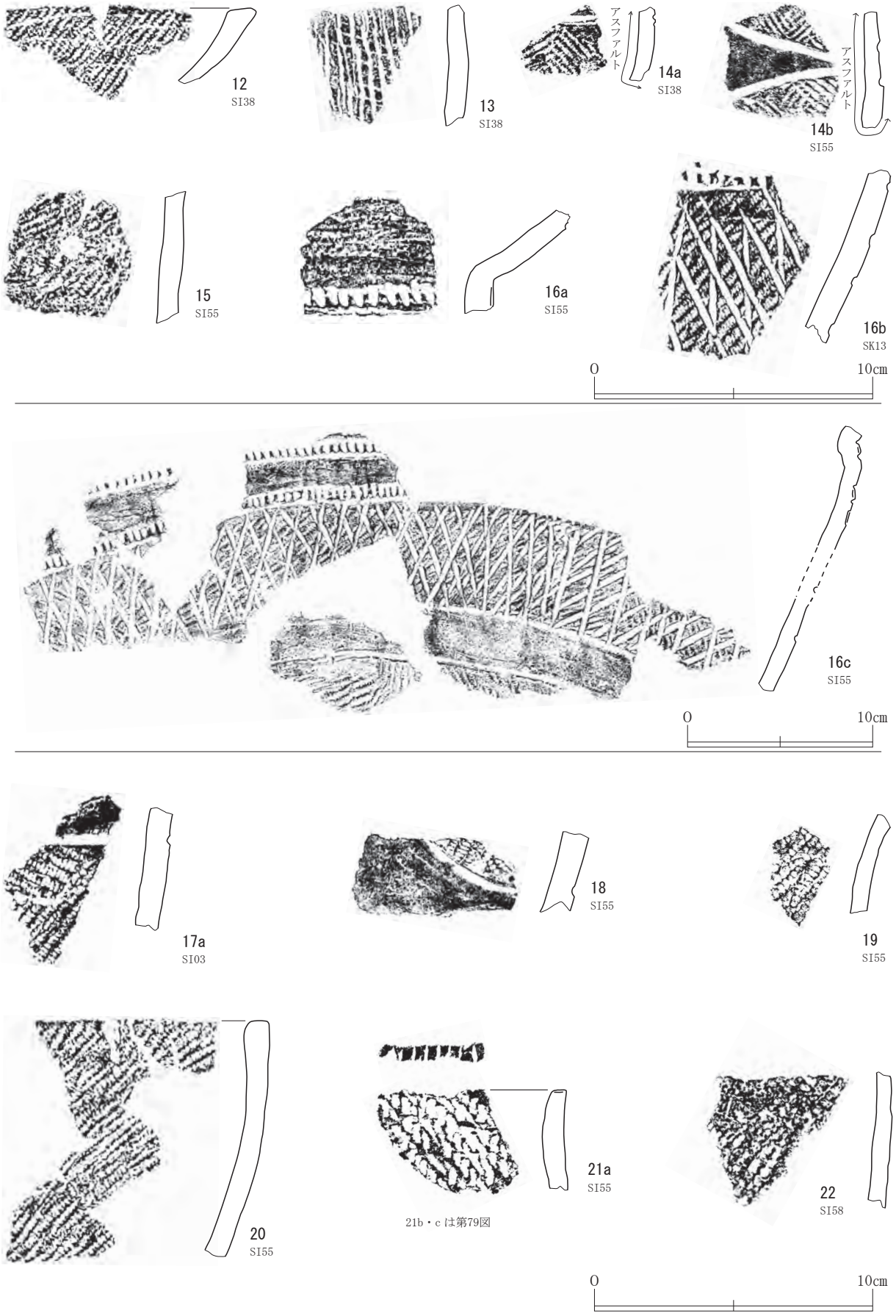
第55図　SN121焼土遺構、SN122焼土遺構



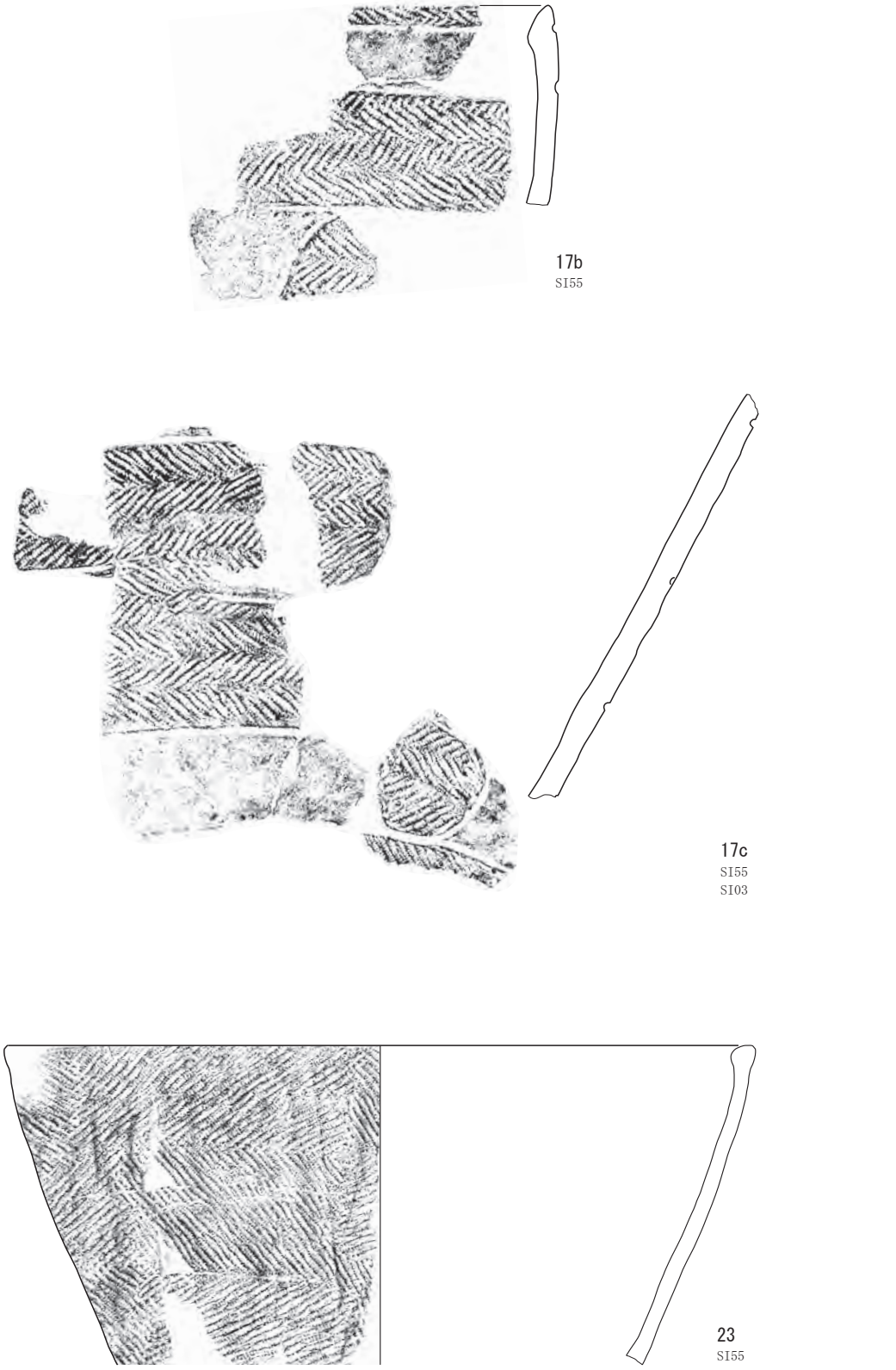
第56図　遺構内出土土器（１）



第57図　遺構内出土土器（２）



第58図　遺構内出土土器（３）



第59図　遺構内出土土器（４）

第３節　縄文時代・弥生時代の遺構外出土遺物

縄文時代・弥生時代の遺物は土器及び石器である。平安時代以降の遺物は、鉄滓とフイゴ羽口破片が出土した。遺構外出土遺物を中心に遺構内出土遺物も加えて、土器は時期別に８群、石器は器種別に分類した。

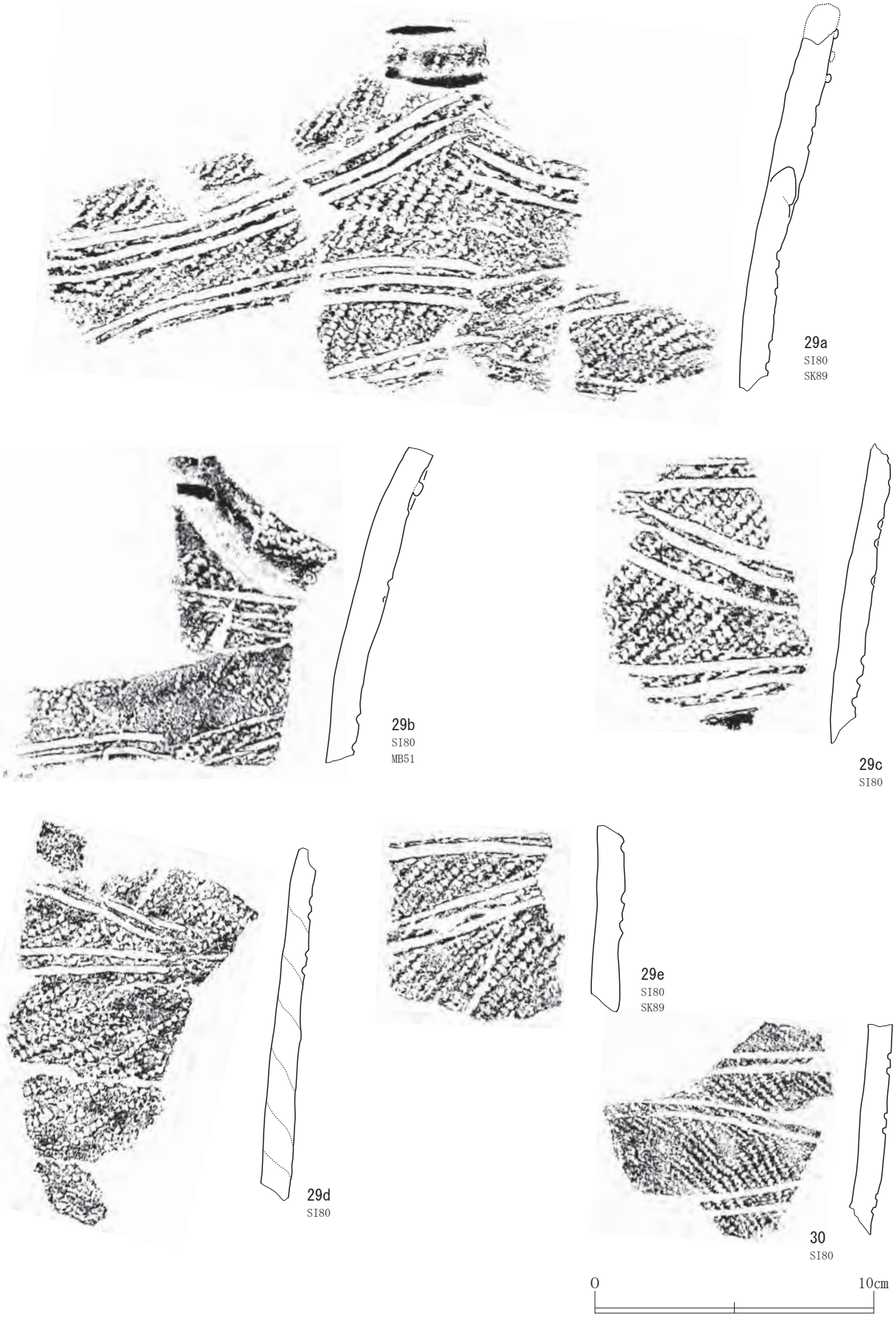
１　土器（第79図～第83図、図版21・22）

第Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器

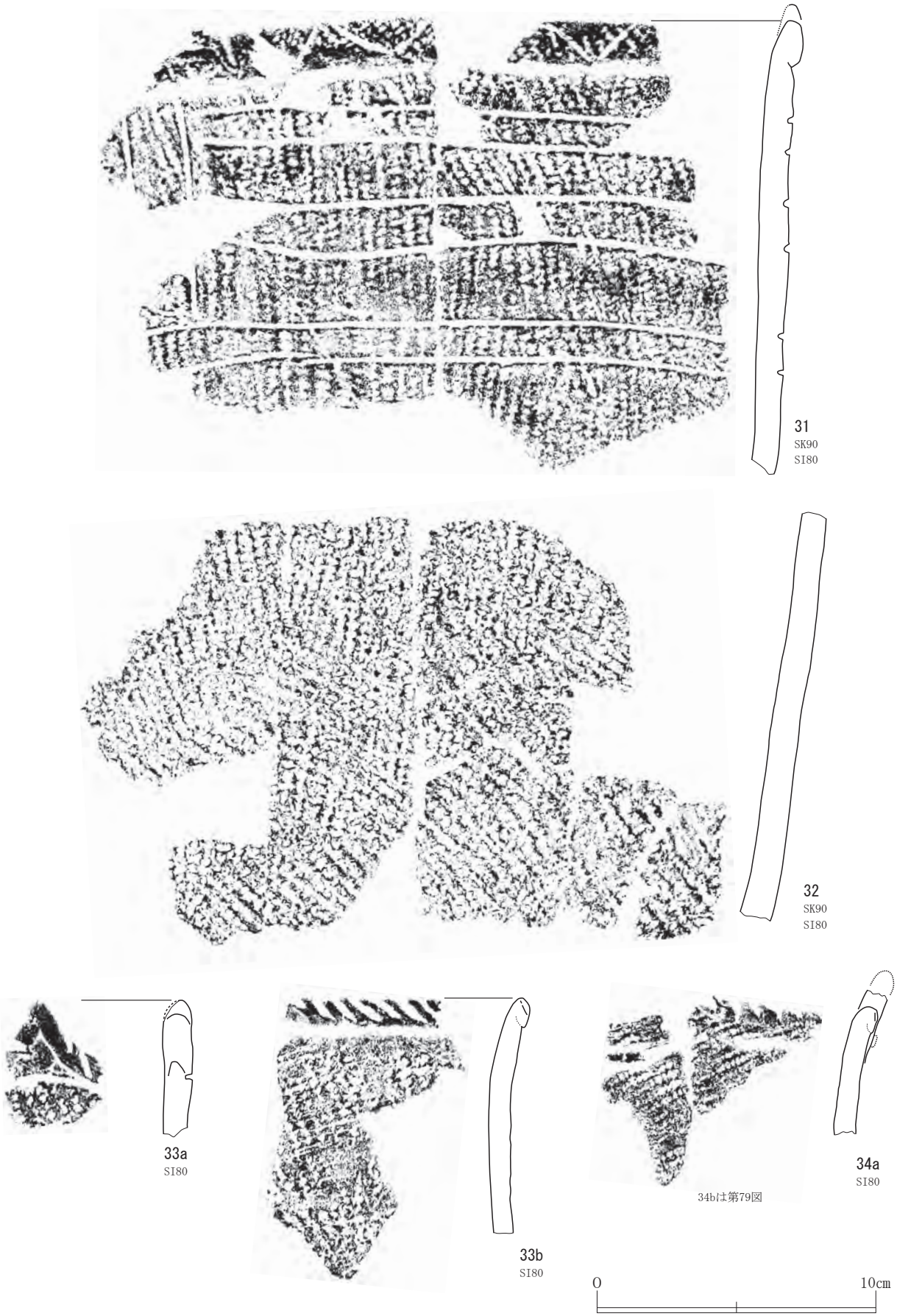
遺跡内から２点出土した。第72図84a、第79図84bは同一個体破片である。やや厚手、無文で、器表面は貝殻背面を使用した調整痕がわずかに認められる。器形は尖底土器になると推測する。早期後葉の貝殻文系土器である。

（95頁へ続く）

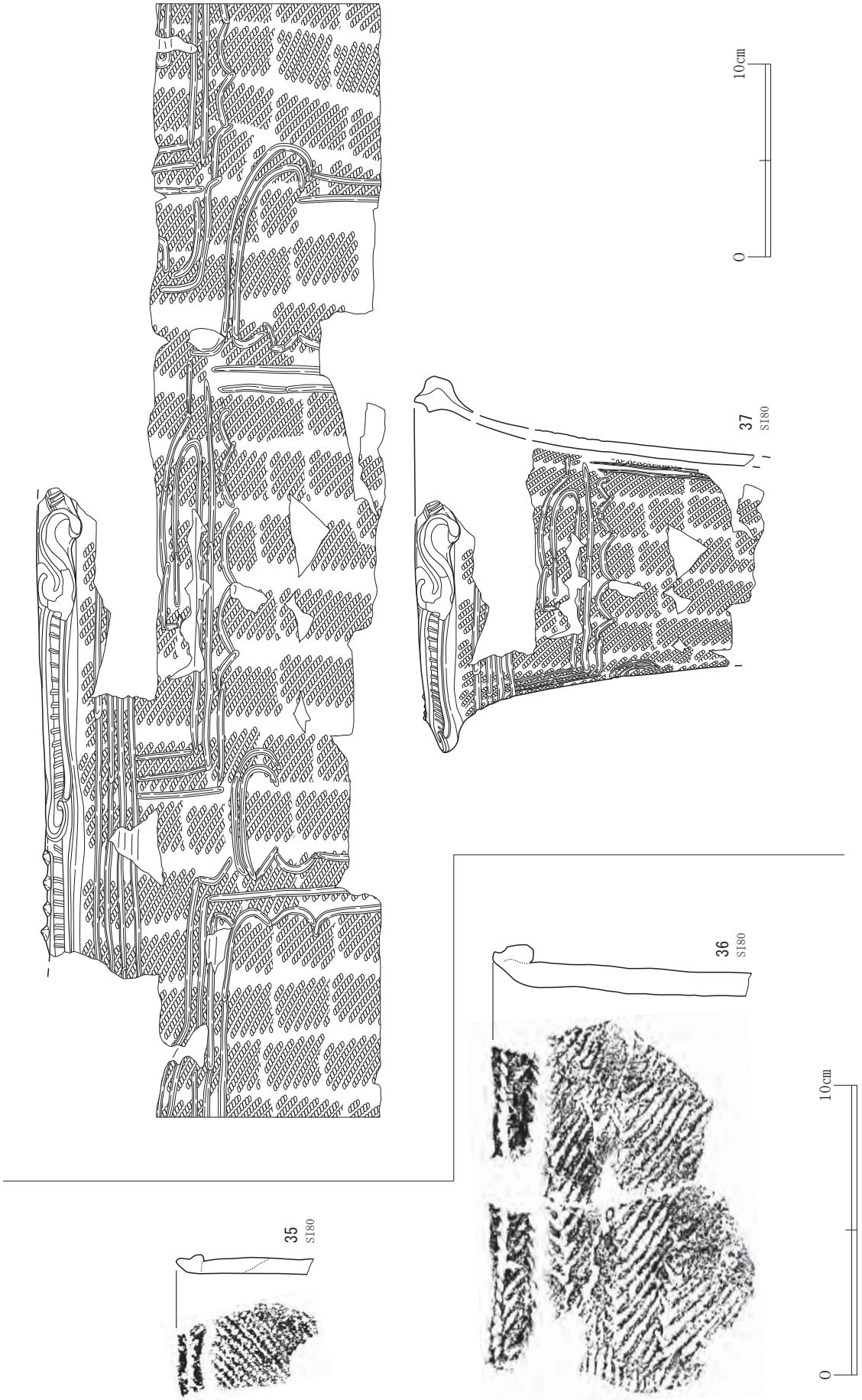
第60図　遺構内出土土器（５）



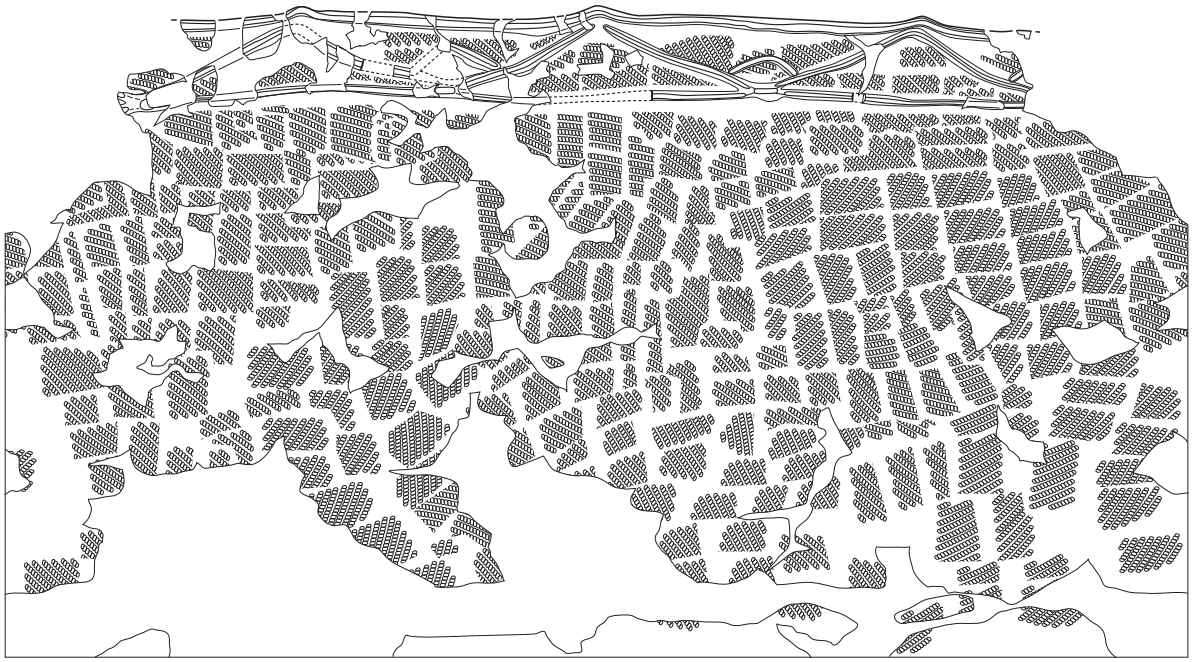
第61図　遺構内出土土器（６）

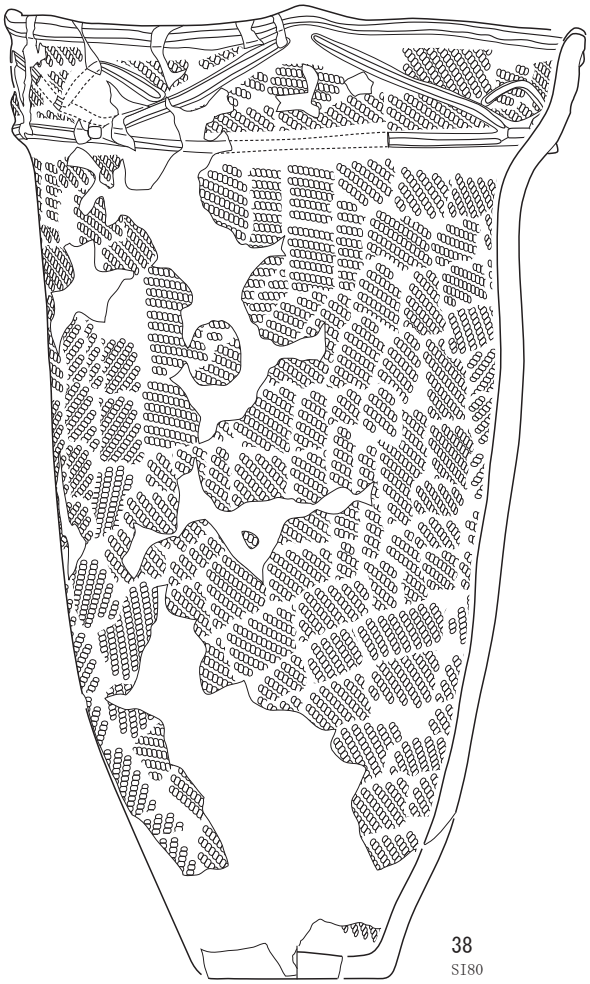


第62図　遺構内出土土器（７）

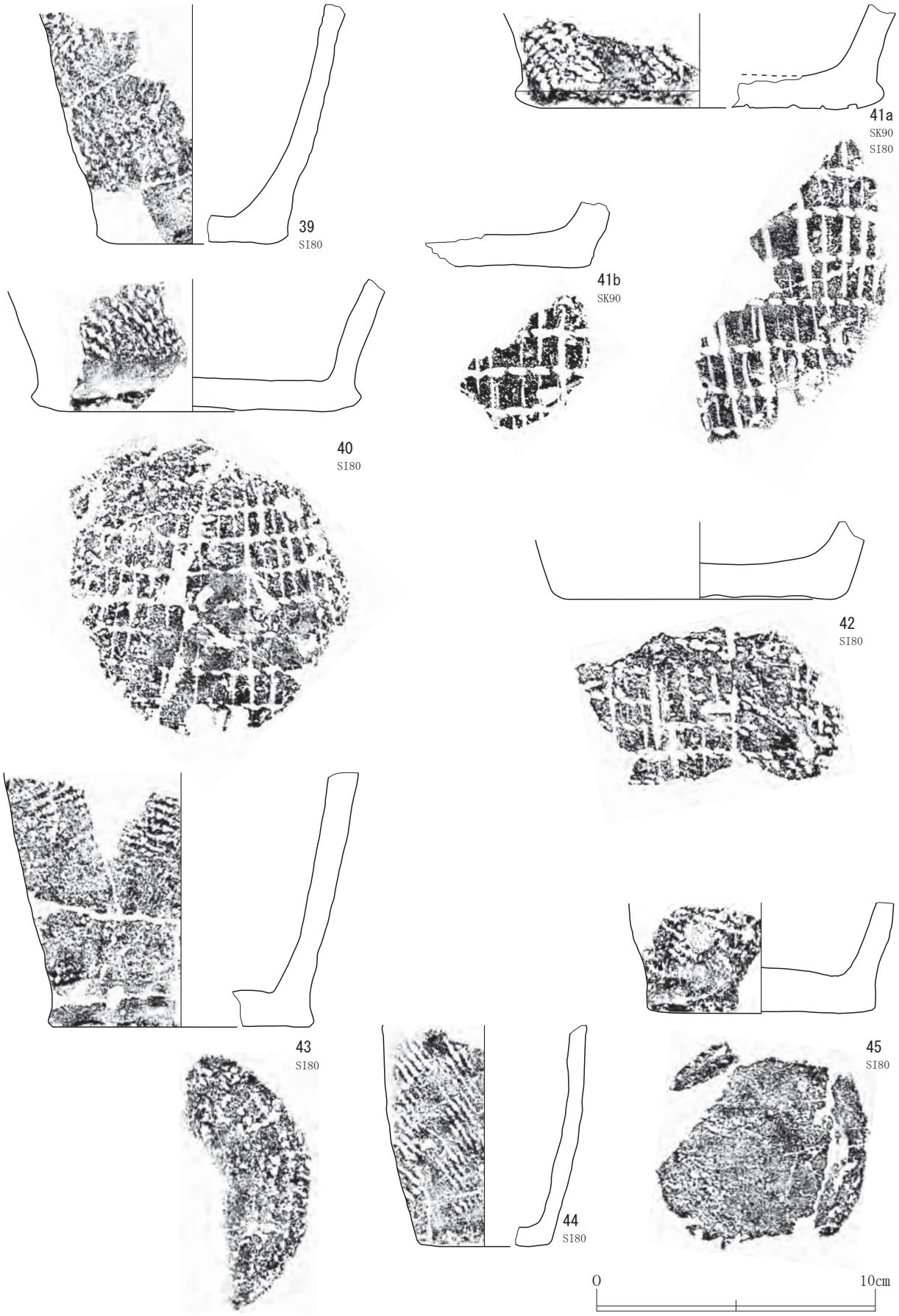


第63図　遺構内出土土器（８）

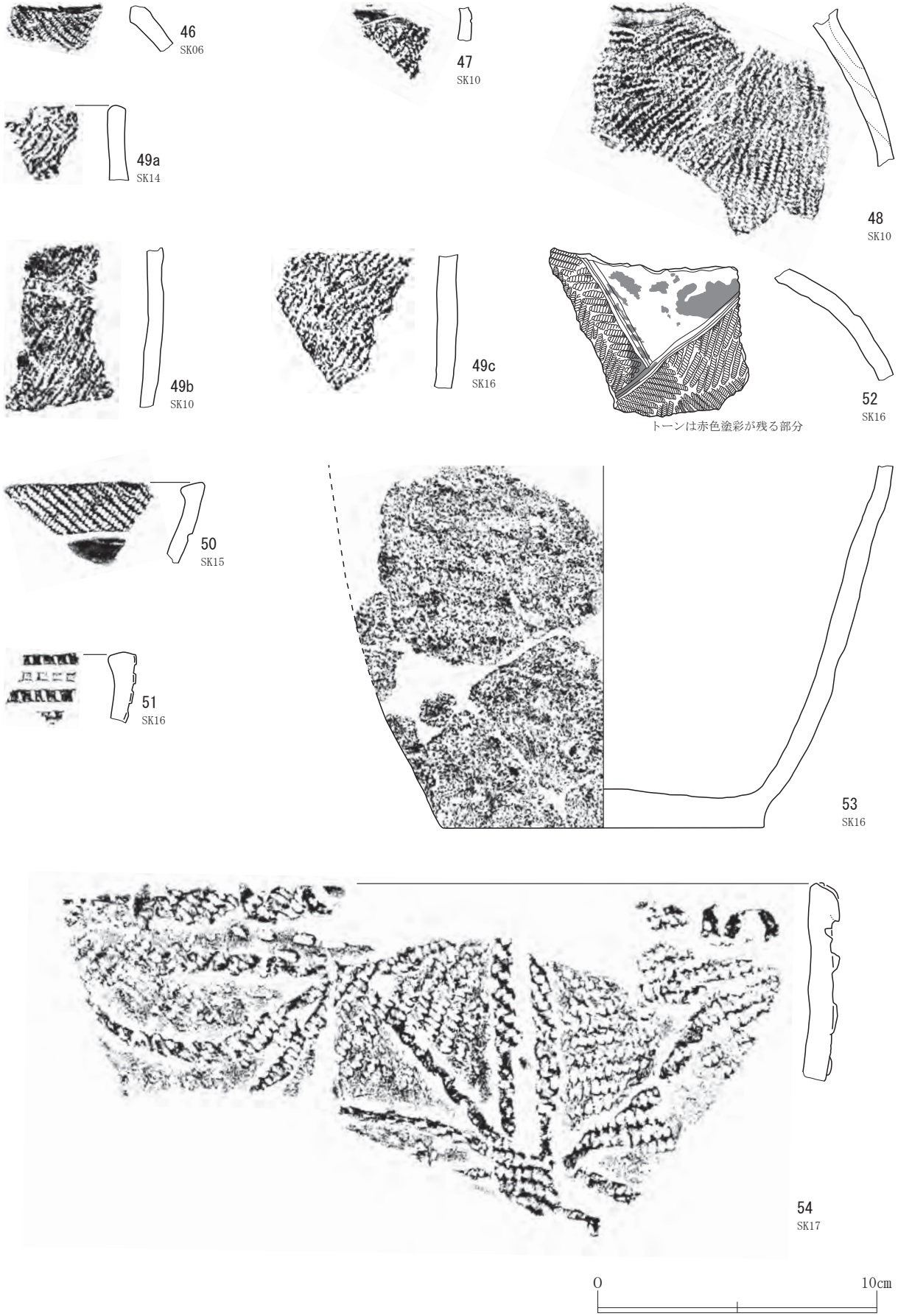




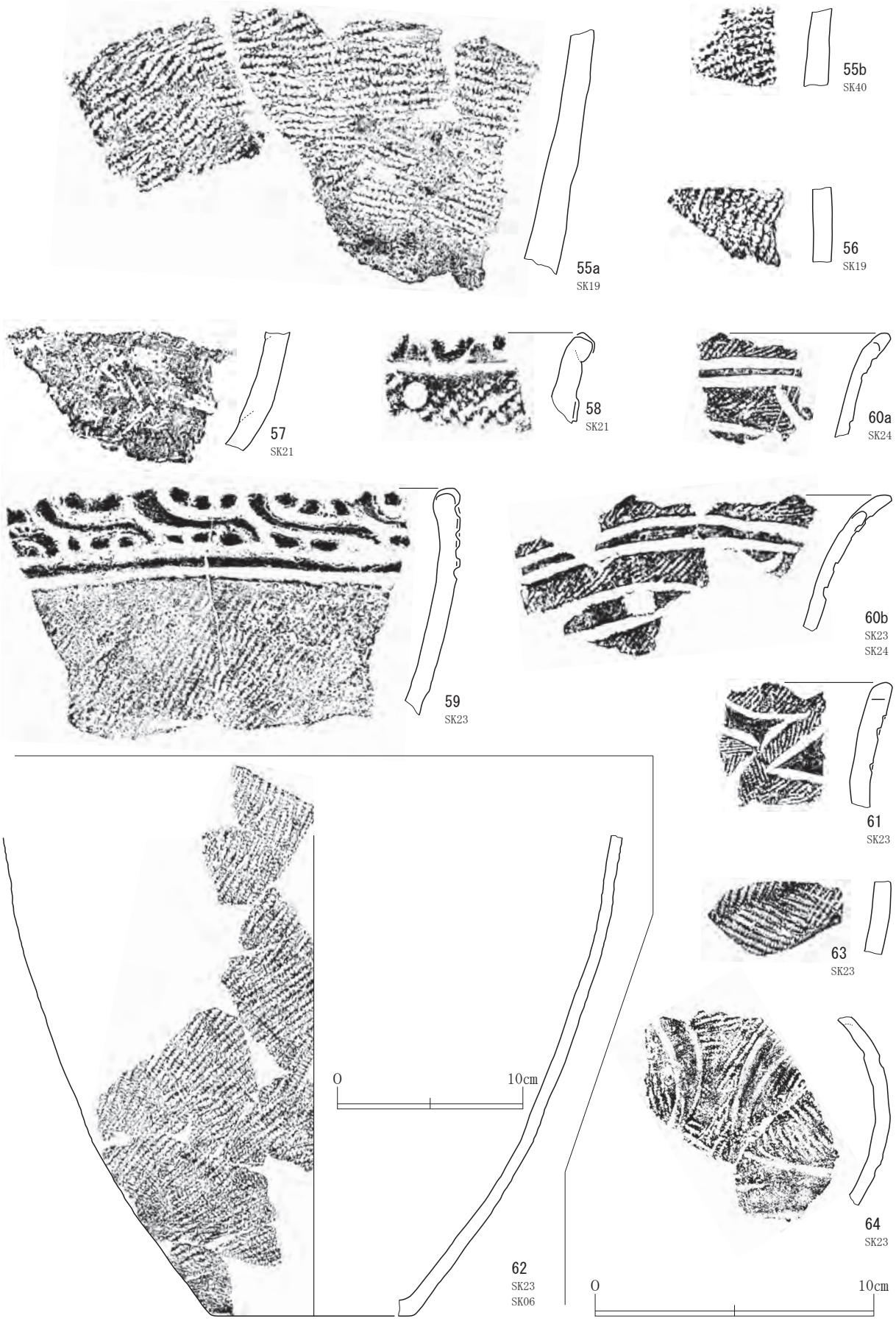
第64図　遺構内出土土器（９）



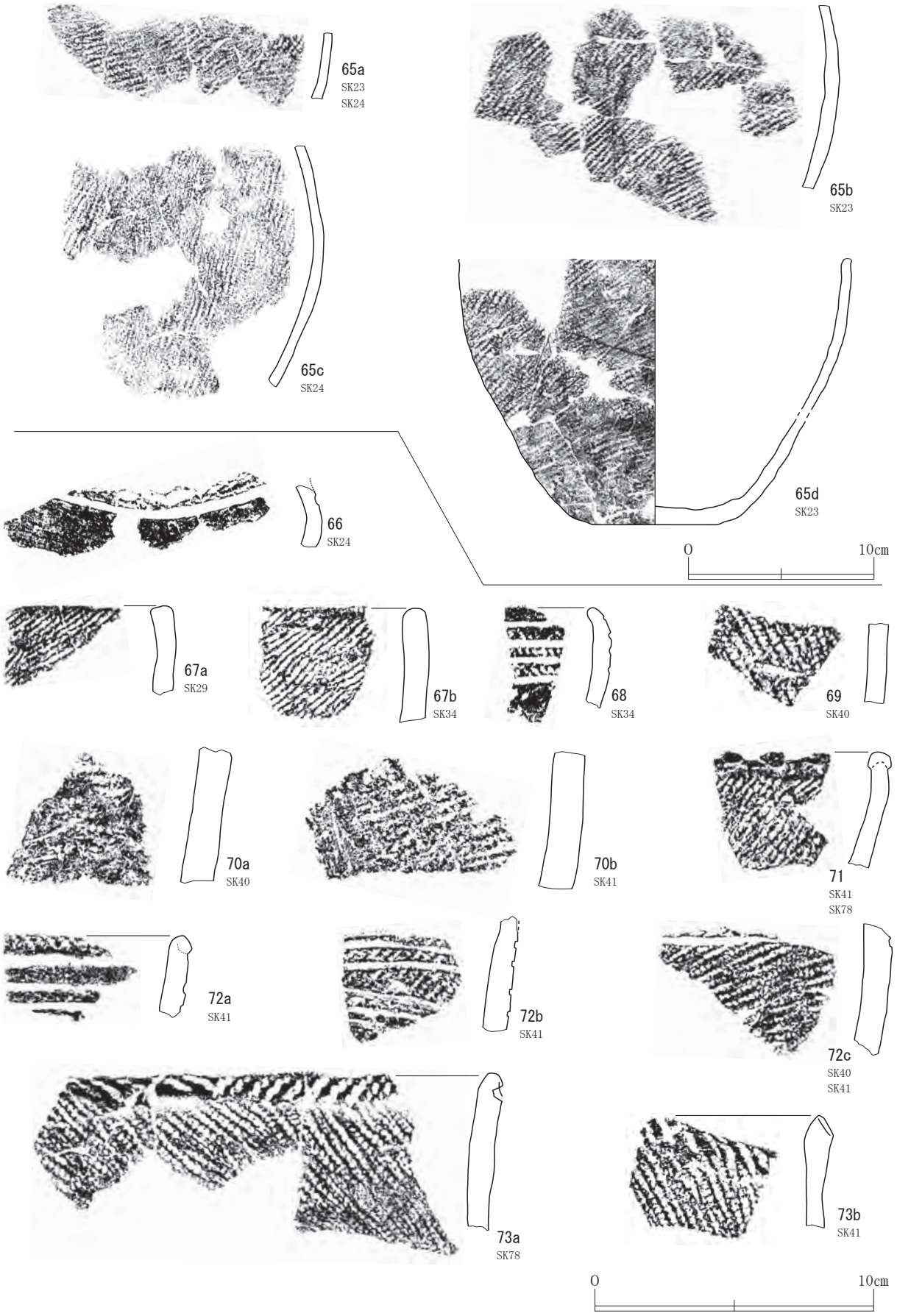
第65図　遺構内出土土器(10)



第66図　遺構内出土土器(11)



第67図　遺構内出土土器(12)



第68図　遺構内出土土器(13)

第Ⅱ群土器　縄文時代前期の土器

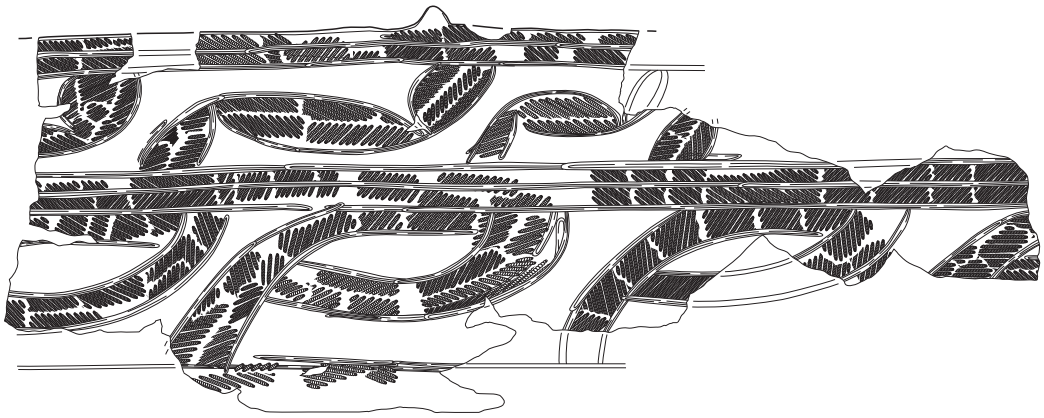
遺跡内から24点（２個体分）出土した。第58図21a、第79図21b・21cは、胎土にわずかに繊維を含む。器表面には前段反撚りの０段多条RLLr原体を横位回転施文している。口縁部はわずかに外反し口唇端上面に工具による刻み目が施されている。前期初頭の土器である。

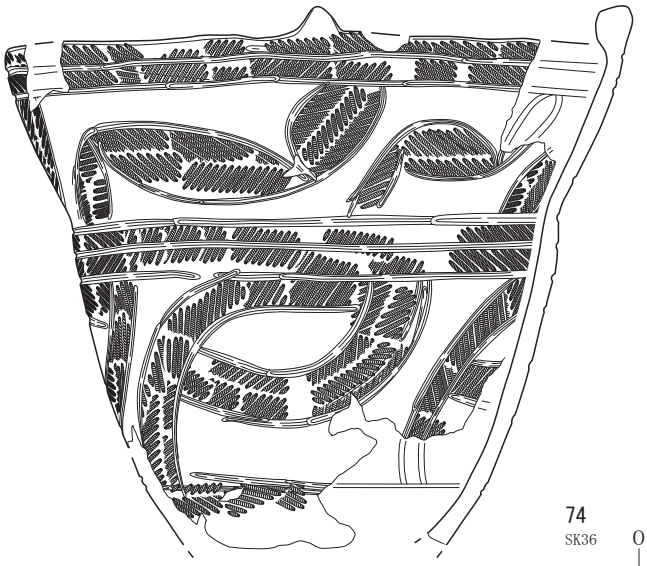
第Ⅲ群土器　縄文時代中期の円筒上層式土器

本遺跡出土土器で最も多数出土した。口縁部と胴部上半に装飾文が施される土器の破片である。胴部上半の施文手法、口縁部の形状と装飾により分類した。

胴上半部　　１類：縄文＋隆線文
　　２類：縄文＋沈線文
　　３類：縄文
　　４類：胴下半部～底辺部の破片を一括
口唇部形状　ａ類：肥厚
　　ｂ類：折り返し口縁
　　ｃ類：肥厚なし
口唇部装飾　ア類：鋸歯状隆線貼り付け

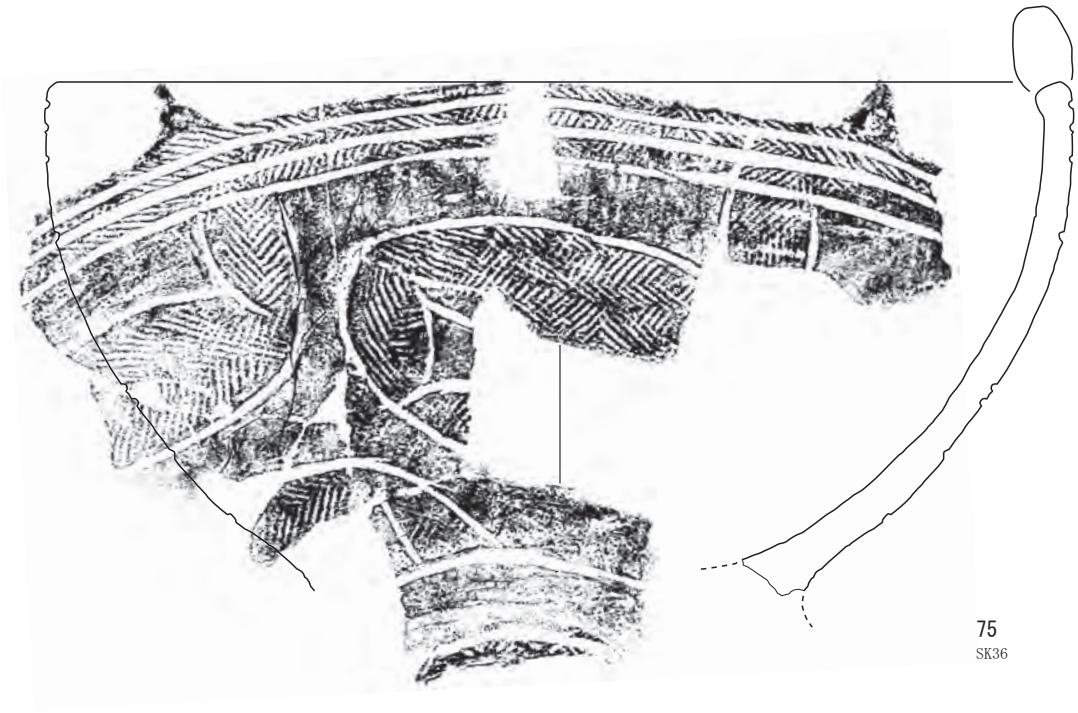
（104頁へ続く）

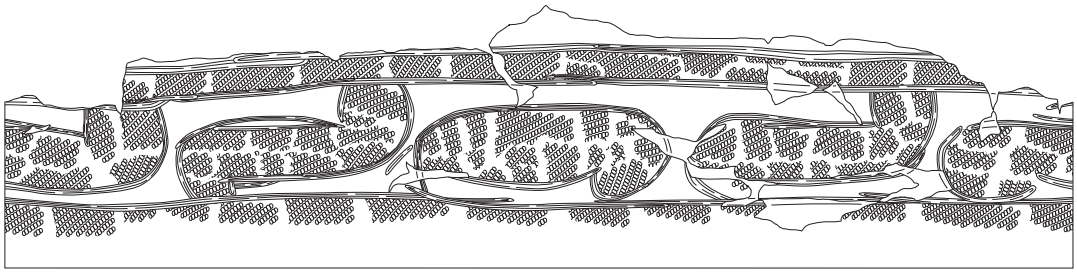


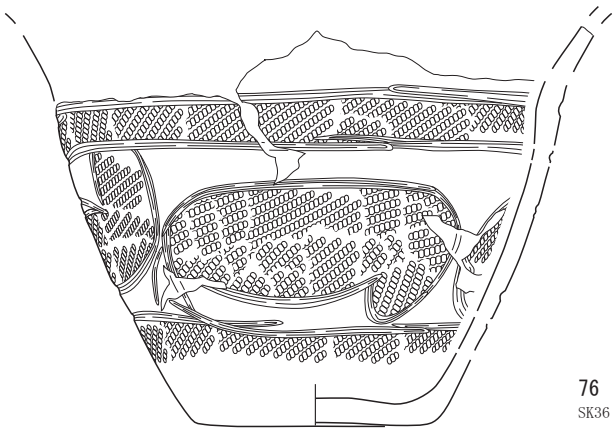


74
SK36　0　10cm

第69図　遺構内出土土器(14)

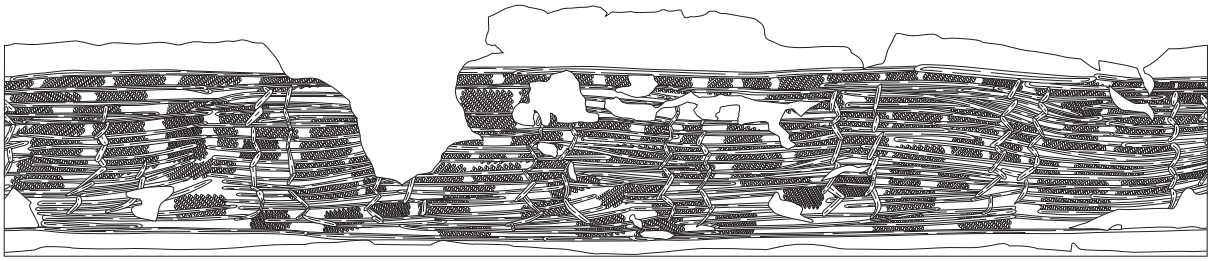


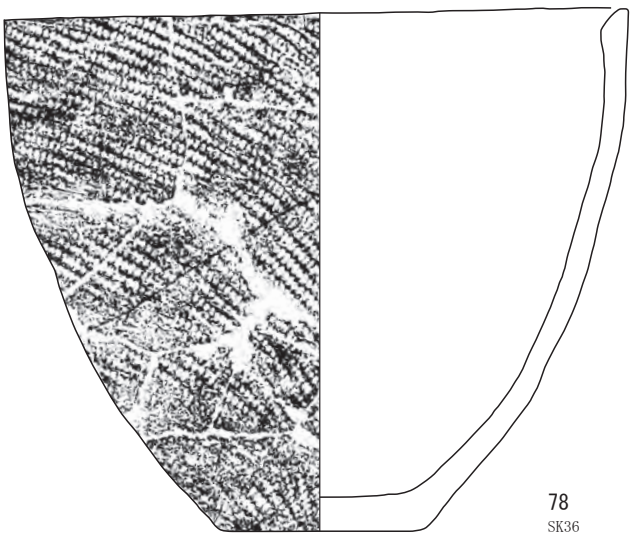




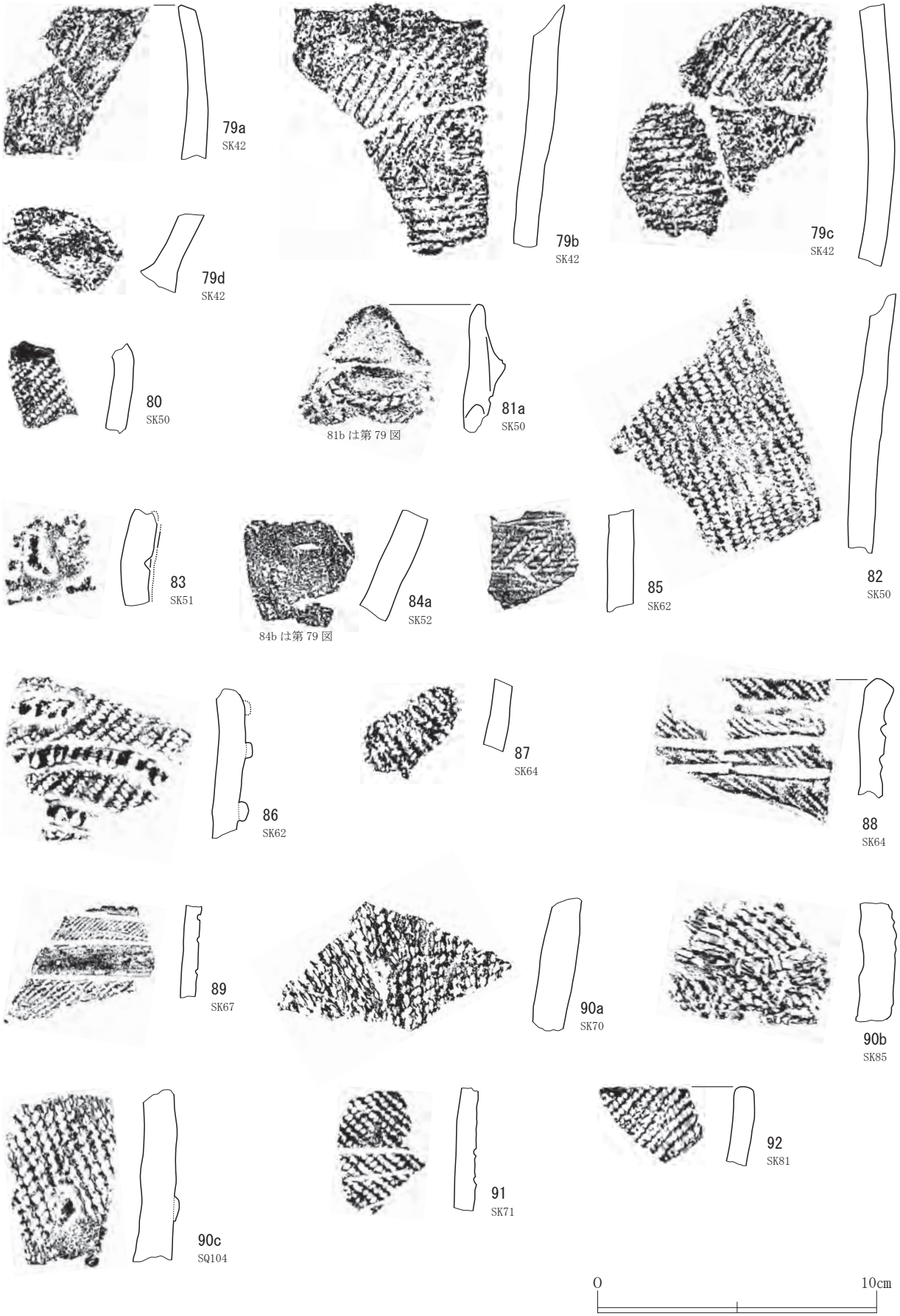
0　10cm

第70図　遺構内出土土器(15)

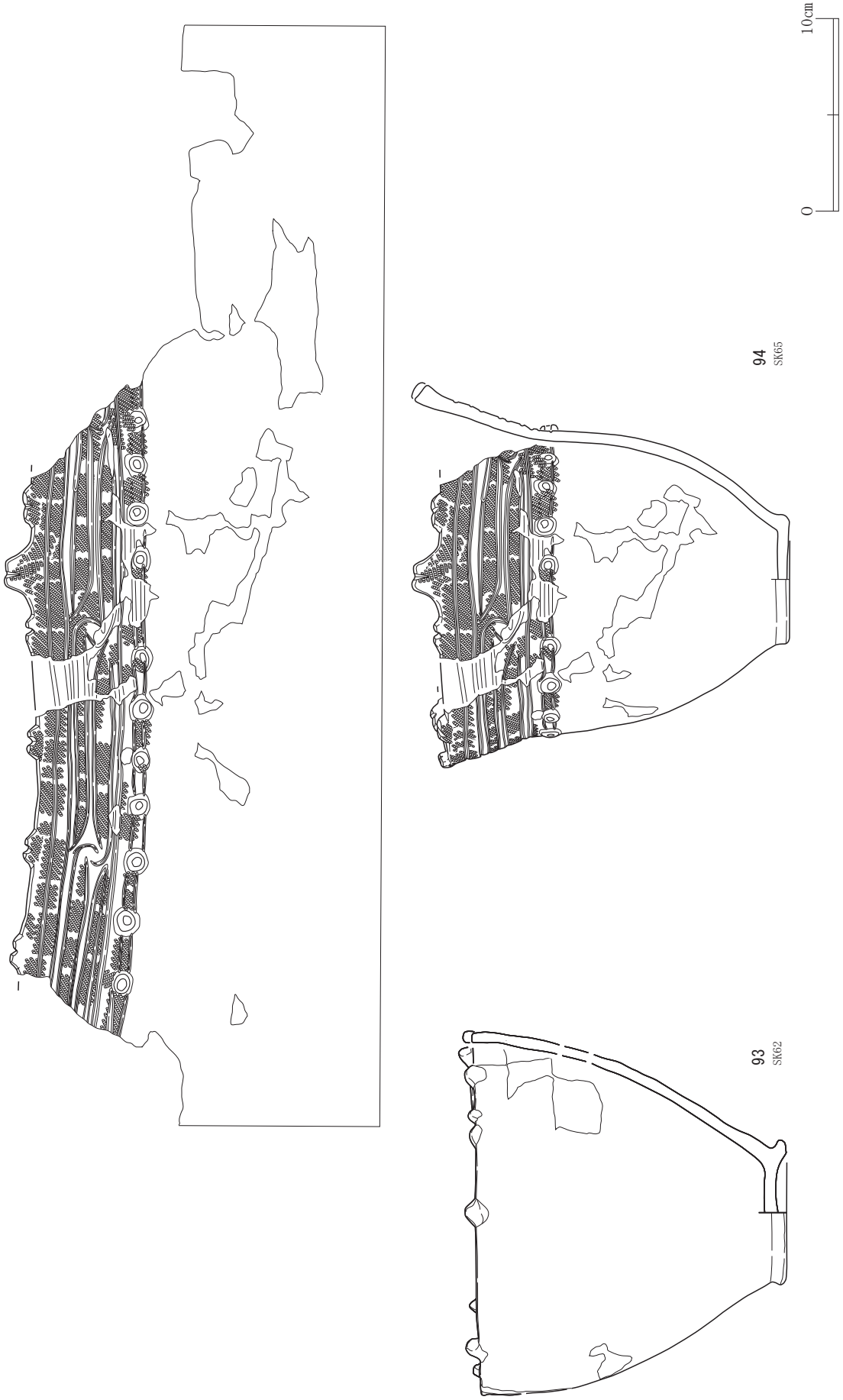




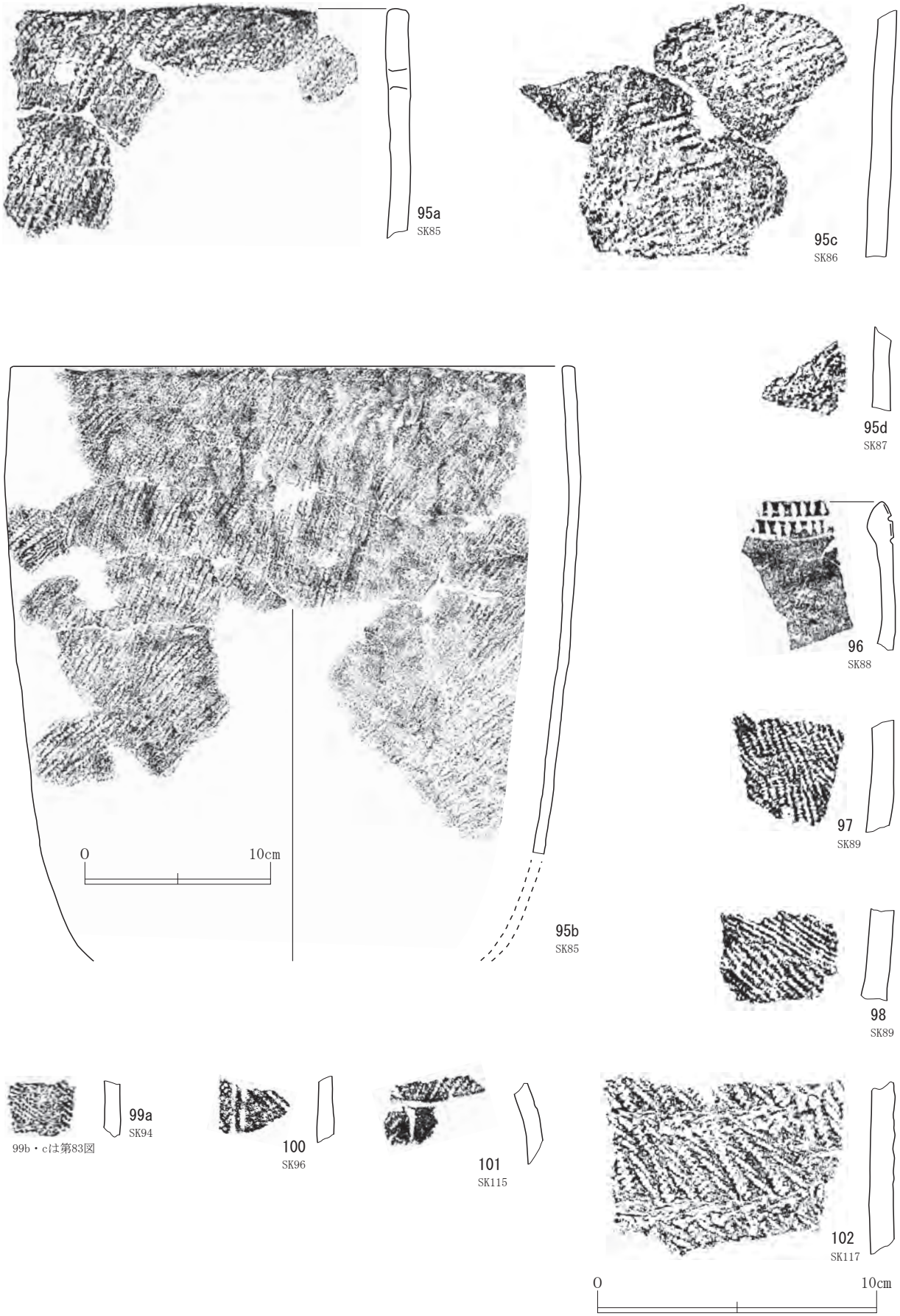
第71図　遺構内出土土器(16)



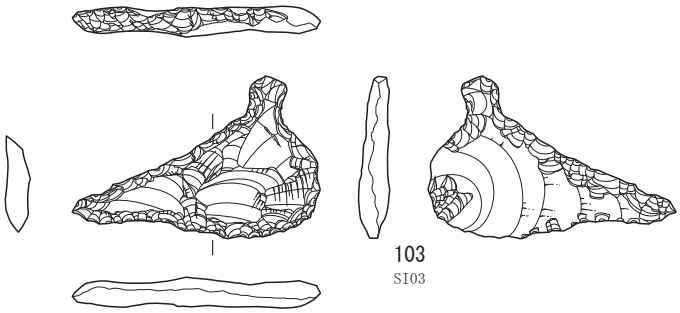
第72図　遺構内出土土器(17)

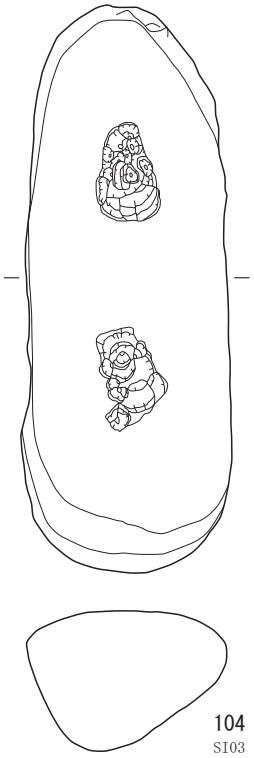


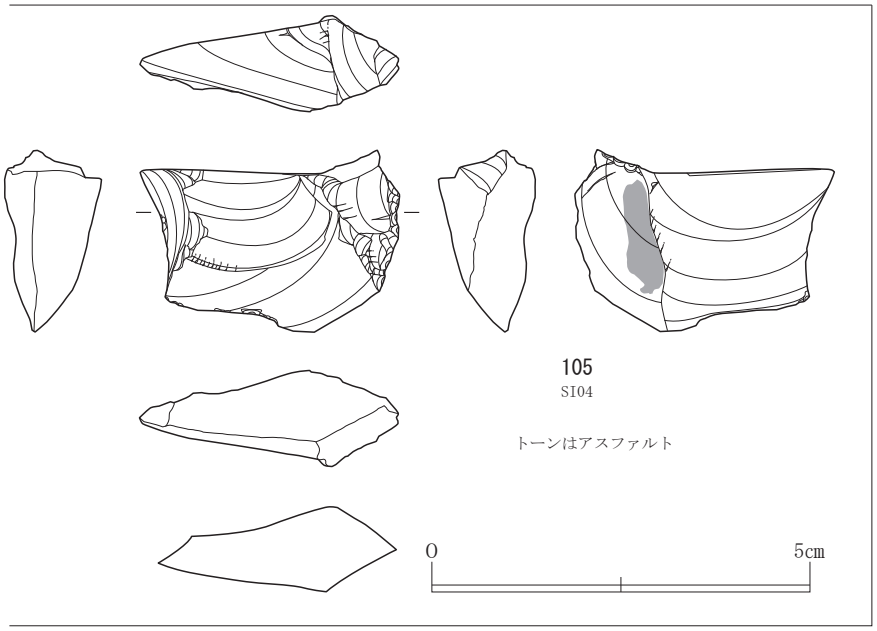
第73図　遺構内出土土器(18)

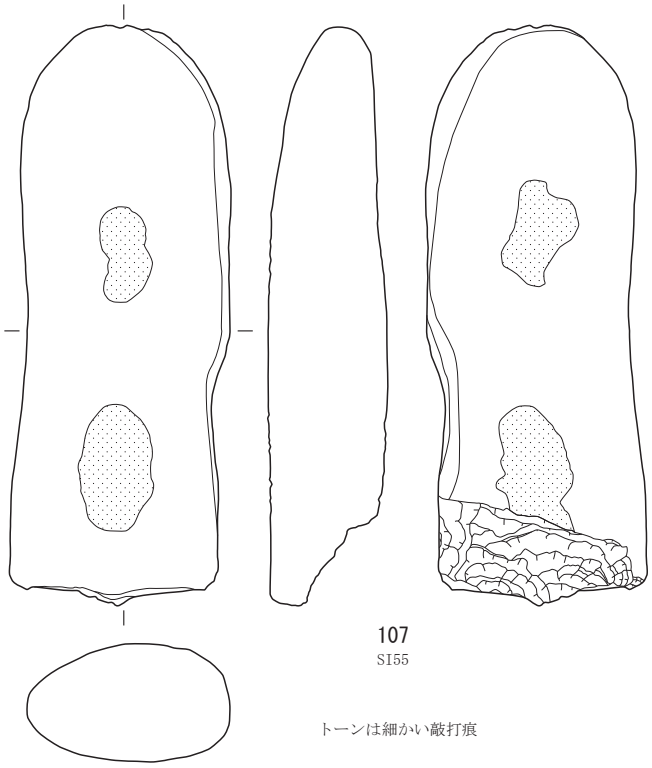


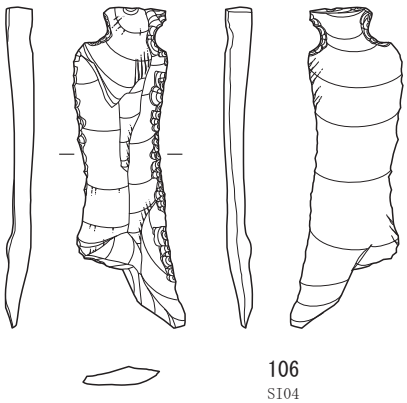
第74図　遺構内出土土器(19)





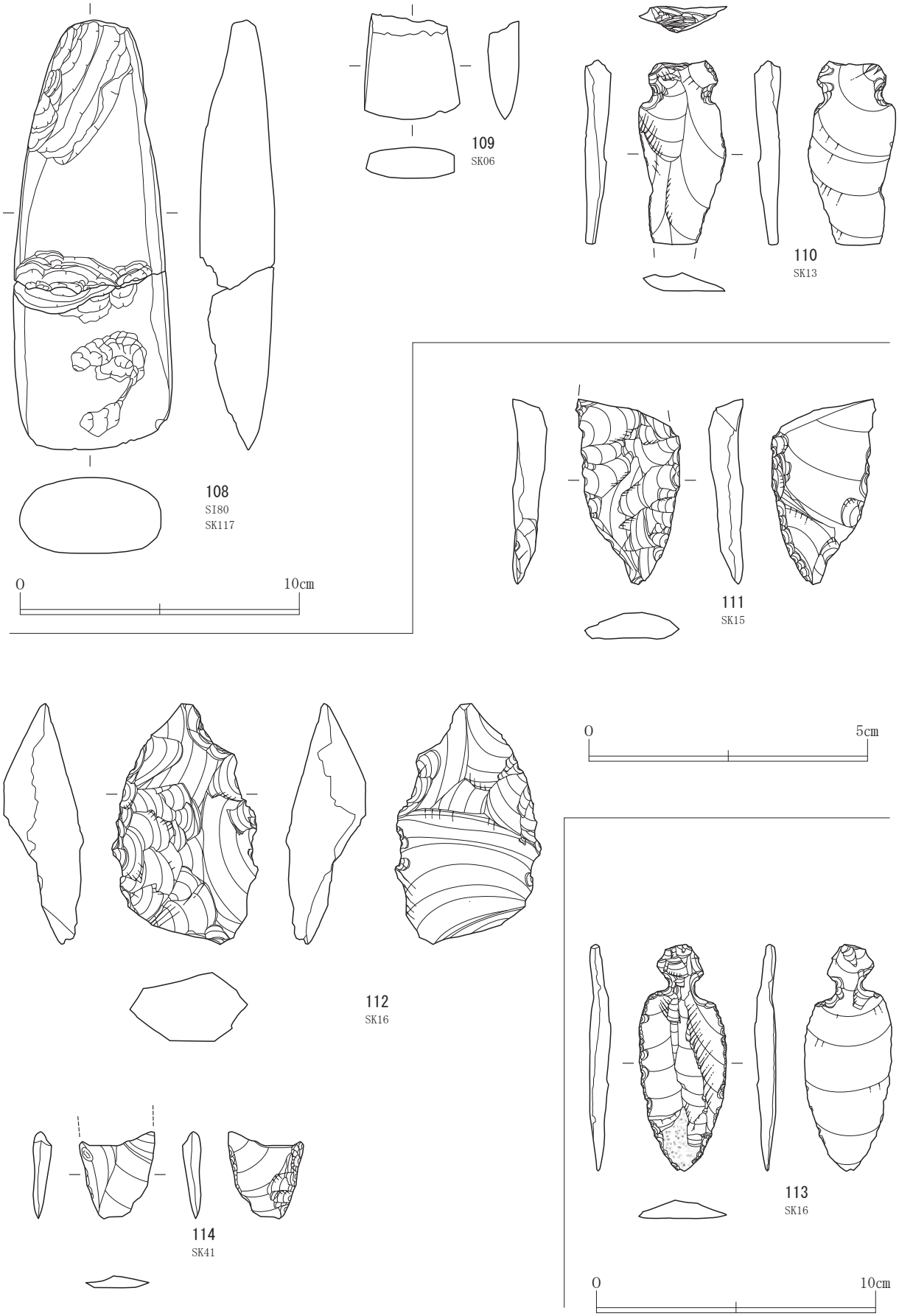




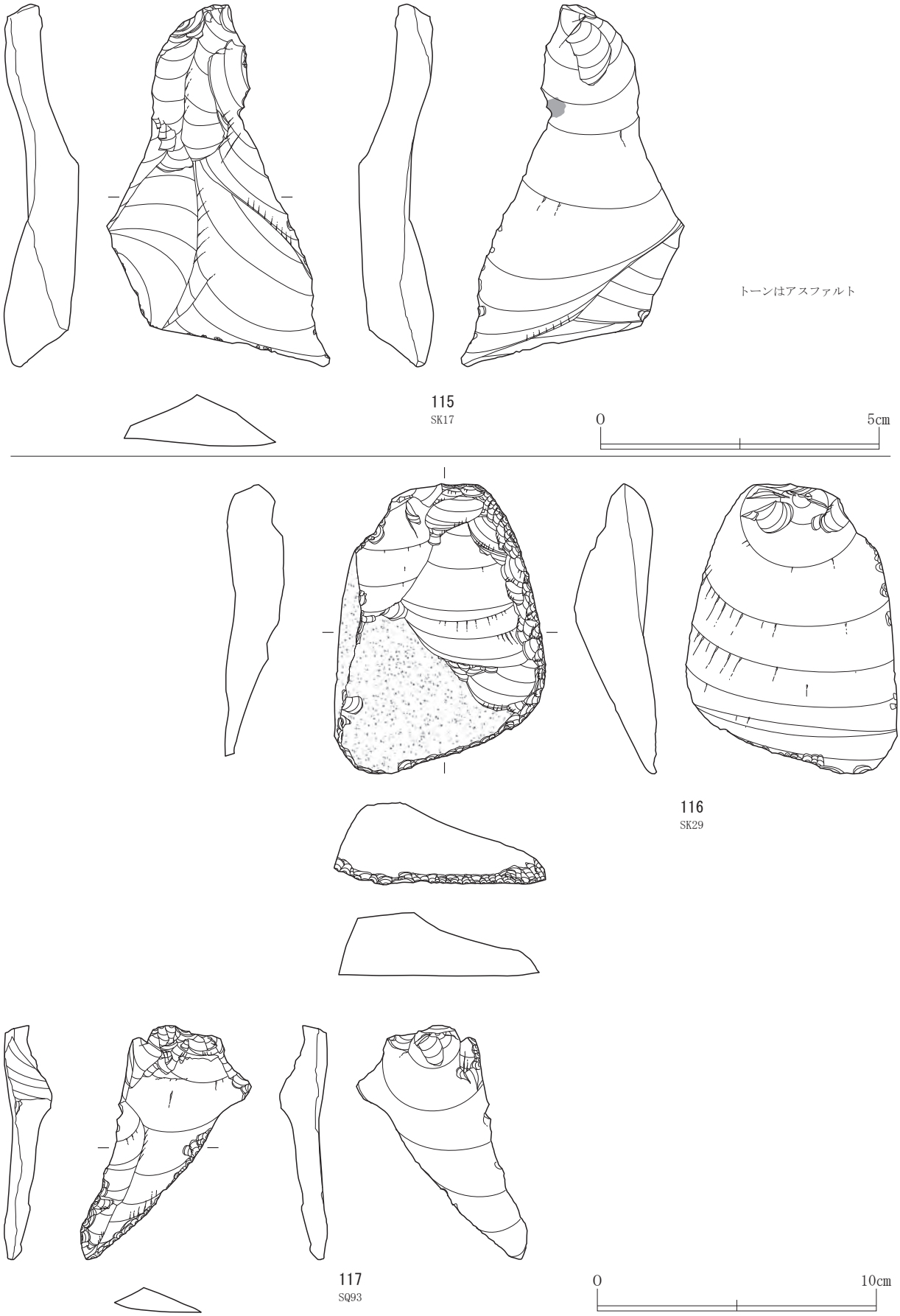


0　10cm

第75図　遺構内出土石器（１）



第76図　遺構内出土石器（２）



第77図　遺構内出土石器（３）

イ類：撚紐原体による刻み目

ウ類：工具による刻み目

エ類：連続刺突列

オ類：縄文

カ類：撚紐原体側面横圧

キ類：胴部と連続して施文する縄文

１類は胴上半部に隆線文を施すものである。第60図24、第72図83、86、第79図121～124は胴上半部のみの破片である。124の隆線上には縄文が施されている。

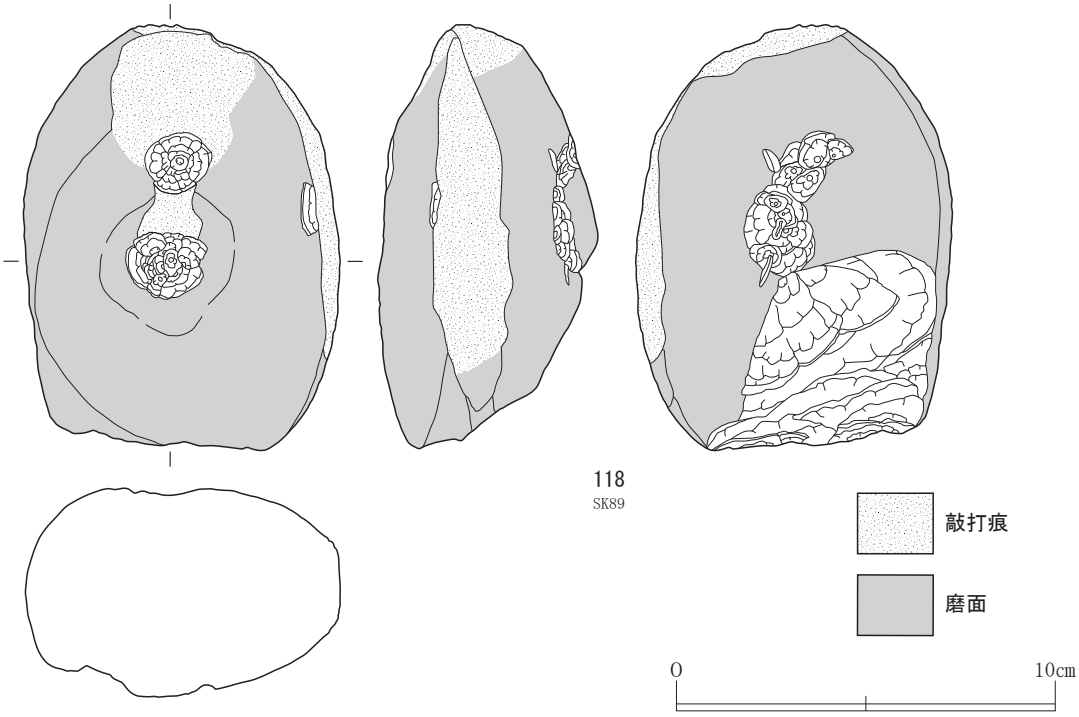
口縁部破片は、第79図119が１aア類、SK41土坑出土の第68図72aが１aイ類、120が１bイ類である。119は、波状口縁の波頂部の中央に表裏両面から盲孔を穿ち、その周囲に隆線を貼り付けて複雑な装飾を施すものである。SK17土坑出土の第66図54も１bア類である。第56図８は１cア類である。第60図28は突起のみの破片で内外面に隆線を貼り付けている。

２類は胴上半部に沈線文を施すものである。第80図135～第81図137は胴部のみの破片である。いずれも波頂部から垂下する縦位沈線と横位の平行沈線または弧線文描かれている。第61図30の垂下沈線は不明である。

口縁部破片は第80図129、134、SI80竪穴住居跡住居跡出土の第60図27が２aイ類、第62図31が２aウ類、第60図25、26が２aオ類、133、第61図29a・b、SK64土坑出土第72図88が２aキ類である。129は波頂部の先端のみに細い隆線を貼り付けている。

３類は胴上半部に縄文のみを施文するものである。

口縁部破片は第79図127が３aア類、第80図130a・bが３aエ類、第79図126、128、SK21土坑出土第67図58が３bア類、第79図81b、SK50土坑出土第72図81aが３bイ類、132が３bエ類、第80図131が３b



第78図　遺構内出土石器（４）

オ類、ＳＩ80竪穴住居跡住居跡出土第63図35、36が３bカ類である。このほか、SK78土坑とSK41土坑出土第68図73a・bが３aイ類、ＳＩ03竪穴住居跡出土第56図１aが３aオ類、ＳＩ80竪穴住居跡住居跡出土の第62図33a・b、34a、第79図34bが３bウ類である。130a・bは、波頂部中央にボタン状突起を貼り付け、肥厚する口唇に撚り紐原体閉端による連続刺突を施している。126、128は、幅広の折り返し口縁に鋸歯状隆線文を貼り付けている。128は隆線状にも縄文を施文している。81bは波頂部のみに横位隆線を貼り付けている。口唇の刻み目は撚り紐原体の側面押圧である。34a・bも肥厚する波頂部のみに横位隆線を貼り付けている。口唇の刻み目はヘラ状工具で施文されている。132は折り返し口縁から胴上半部に連続して縄文を施文した後、口唇に角棒状工具端部による２段の連続刺突列を施している。

胴下半部、底辺部破片は一括して４類とした。第81図138～143である。138は条節の細かいＬＲ縄文を縦位回転施文している。139、140は複節の縄文、141は撚糸文が施文された破片である。143は底面に網代痕がある。遺構内からは第56図９、第65図39、40、41a・b、第72図90a・b・c、第74図102が出土した。102は、結束羽状縄文の原体をさらに撚り合わせた複節の異条縄文が施文されている。

第Ⅳ群土器　縄文時代中期の大木式土器

遺構内出土の復元土器３個体（第57図11、第63図37、第64図38）及び小破片の第81図144～146である。口縁部に隆線と沈線を組み合わせてＳ次状、渦巻き状の文様を描出する土器である。144は浅鉢形土器の口縁部破片である。地文の縄文が縦位回転施文されている第56図３、第65図41a・b、43、44、45、第72図82、第74図100も本類に含めた。

第Ⅴ群土器　縄文時代後期中葉～後葉の土器

文様施文手法により９類に分類した。

１類　沈線区画文

　a類　縄文を充填した区画文

　b類　非結束羽状縄文を充填した区画文

　c類　刻み目文帯

　d類　刻み目文帯＋非結束羽状縄文を充填した区画文

２類　多条沈線文

３類　非結束羽状縄文のみ

４類　地文のみ

　a類　縄文

　b類　撚糸文

５類　無文

１c類の刻み目文帯は、口唇部、胴部中央、底辺部に横位に全周し、沈線区画文と併用される文様である。刻み目文帯のみの破片を１c類、刻み目文帯と沈線区画文が共存する破片を１d類としたが、１a類、１b類、１c類の中に本来は１d類である破片が含まれている可能性がある。

１a類は、遺構内出土の第66図47、第68図66、68、第70図76、第74図101である。沈線区画文土器の中では出土数量は少ない。47、66、101は壺形土器、76はSK36土坑出土土器で他類土器と共伴した。胴上半部が外反する器形で、中央部に縄文帯、胴下半部に区画文帯を配する。４単位のクランク

状区画文内には１種類の縄文原体を用い回転方向を少しずつ変えながら縄文を充填施文している。

１b類は、第82図147、148である。非結束羽状縄文は撚りの異なる０段多条の原体を用い、区画文の形に合わせて回転方向を変えながら施文している。施文の順序は、下書きの沈線による区画描画→区画内に非結束羽状縄文を充填→区画沈線の引き直しと推定する。遺構内からは、第58図14a・b、第59図18・17a・b・c、18、第66図46、50、52、第67図63、64、第69図74、第70図75が出土した。74は平縁の口唇部４か所に突起が付き、胴上半部が外反する。胴部を２段に区画し上段にクランク状区画文、下段に襷掛け状区画文を描いている。75は台付鉢形土器で、平縁の口唇部４か所に突起が付き、胴部にはクランク状区画文が描かれている。この２個体もSK36土坑出土の共伴土器である。

１c類は遺構内から第56図６、第66図51、第74図96が出土した。51は口唇に４段以上の刻み目文帯が巡る。

１d類は、第82図152である。台付鉢形土器の台部破片で、底部と台部の境界に１段の刻み目文帯が巡る。台部には非結束羽状縄文が施文されている。遺構内からは第56図５、第58・59図16a・b・cが出土した。16a・b・cは口縁部が大きく外反する深鉢形土器で、胴部の幅広帯状区画文内に０段多条の異種原体を用いた非結束羽状縄文を充填した後、斜格子目沈線文を上書きしている。

２類は、SK36土坑から出土した第71図77である。口縁が大きく開き球形の胴部に台が付く器形の台付鉢形土器で、口縁部と台部は無文である。胴部には０段多条の異種原体を用いた横位非結束羽状縄文を施文した後に、器面全面に細い横位沈線を多数描き、さらに２本一組の縦位波状沈線を８箇所に描いている。

３類は、第82図150である。壺形土器の底部破片で０段多条の異種原体を用いた横位非結束羽状縄文が施文されている。遺構内からは第56図７、10、第59図23が出土した。７、10ともに０段多条の同一原体を縦位と横位に回転施文し、７は縦位、10は横位の非結束羽状縄文を施文している。23は０段多条の異種原体を横位回転施文して器面全面に非結束羽状縄文を施文している。

４a類は、地文の縄文のみが施文された土器である。第82図149、151、154のほか、遺構内から第58図12、15、19、20、第66図48、第71図78、第72図80、87、92、第74図97、98が出土した。

４b類は、撚糸文のみが施文された土器である。ＳＩ38竪穴住居跡から第58図13が出土した。

５類は、無文の土器である。第82図153、155、156である。153は無文の台部である。155、156は小型の鉢形土器で、器表面は研磨されて光沢がある。

第Ⅵ群土器　縄文時代後期末～晩期前葉の土器

文様により５類に分類した。

１類　貼り瘤文

２類　入組帯状文

３類　羊歯状文

４類　縄文のみ

５類　無文

１類は遺構内出土の第68図71、第73図93、94である。93は口唇に瘤状小突起を貼り付けている。94は口唇の貼り瘤の一部が山形突起となり、胴中央部にもボタン状の貼り瘤列が巡る。胴上半部に沈線で入組帯状文の区画文が描かれているが縄文は充填されていない。71は全面に斜縄文が施文され、

93、94は無文である。

２類は第83図157、158である。この２点は同一個体破片個体の可能性がある。157の入り組み部は中心に刺突があり区画沈線が玉抱き三叉文状に入り組む。遺構内からは第67図60a・b、61、第72図89が出土した。

３類は、SK23土坑出土の第67図59の１点のみ出土した。口縁部文様帯に羊歯状文を施文する鉢形土器である。

４類は、後期末～晩期前葉の粗製土器である。第83図159a・b、160、95e、162、163のほか、遺構内から第58図22、第66図49a・b・c、第67図55a・b、56、62、第68図65a・b・c・d、67a・b、69、70a・b、第72図79a・b・c・d、第74図95a・b・c・dが出土した。22は１類が出土したSK62土坑に切られるＳI58竪穴住居跡から出土し、62、65a・b・c・dはSK23土坑で２類、３類と共伴しており、本類は貼り瘤文土器から羊歯状文土器までに共伴する粗製土器が含まれる。特徴を抽出すると、器高がおよそ40㎝以上、平底で器高に対して底径が比較的小さく、胴上半部がやや内湾気味、口縁部は直立からわずかに内湾気味、口唇端部は外傾気味に平坦または丸みを帯びる。器表面の縄文はＬＲ縄文の横位回転施文が多いが、胴上半部では斜位回転施文により条が縦走または横走となるものある。

５類は、後期末～晩期の無文の土器である。SK16土坑出土の第66図53は底径の大きい深鉢形土器である。SK21出土の第67図57は壺形土器または注口土器の一部と思われる。

第Ⅶ群土器　弥生時代前期の土器

２点出土した。第83図164は波状と横位の沈線文が描かれて破片で、変形工字文の一部と推測する。SK62土坑出土第72図85は横位刷毛目の上に斜位撚糸文を施文している。

第Ⅷ群土器　弥生時代後期の土器

小破片が５個体分出土した。文様により３類に分類した。

１類　条節の細かい原体を施文単位間を離して縦位回転施文し、縦縞状の縄文帯と無文帯を描出するもので、第74図99a、第83図99b・cの１個体のみが出土した。99cは平底の器形であるが底面が丸底風に湾曲し底辺端部が突出している。

２類　絡条体原体の土器に接する部分をずらしながら斜位回転して横位羽状文を施文するもので、第83図165の１個体のみが出土した。

３類　細い撚り紐を用いた絡条体を縦位回転施文した撚糸文を施文するもので、第83図166、167a・b・cの２個体のみが出土した。

２　石器(第84図～87図、図版23)

出土総点数は155点である。器種別の点数は第７表に掲載した。

石鏃

第84図168の１点のみ出土した。凹基無茎で基部側にアスファルト付着痕が認められる。

縦型石匙

遺構内２点、遺構外２点の計４点出土した。いずれもつまみ部を作出する以外に大きな二次加工は施さず、素材剥片の鋭い縁辺を刃部としている。

横型石匙

SK03竪穴住居跡住居跡出土の第75図103は、つまみ部の対辺が刃部で、その他の縁辺には整形と

刃つぶしのための二次加工が施されている。

スクレイパー

素材剥片の末端や側縁に二次加工を施し急角度の丸凸刃を作出したもので、用途を掻器と推定する石器である。第84図171は素材の周縁に二次加工を施して全体を小判形に整形している。SK29土坑出土の第77図116は厚みのある剥片の右側縁から末端に二次加工を施し右側縁下端に凸刃を作出している。右側縁は刃部の角度が小さくカッター(ナイフ)として使用した可能性もある。

不定形石器

素材剥片に二次加工を施し刃部を作出したもの、素材剥片の鋭い縁辺を刃部としその他の縁辺や表裏面に刃つぶしや整形のための二次加工を施したものである。用途は掻器、削器、カッター(ナイフ)が考えられる。第84図172は横長剥片素材で末端側に刃部を作出し他の縁辺に刃つぶしの二次加工を施している。173は素材剥片の縁辺だけでなく表裏両面にも二次加工を施して整形している。末端側が刃部である。174～第85図178は素材剥片の１縁辺に刃部、その他の縁辺に刃はつぶしの二次加工を施しているものである。174は表面左側縁、175は表面左側縁の末端寄り、176は表面左側縁、177は末端側の表面左側縁、178は末端側が刃部である。176は縦長剥片の末端側を折り去った三角形の剥片を素材とする。左側縁が刃部、右側縁が刃つぶしの二次加工である。遺構内出土の第75図105はやや厚みのある剥片の打瘤側を折り去り、右側縁に二次加工を施している。左側縁の鋭い縁辺には微小剥離痕があり刃部として使用したことがわかる。右側縁にはアスファルトの付着が認められることから、右側縁を柄に装着した削器と推測する。

微小剥離痕のある剥片

剥片の周縁に使用による刃こぼれと思われる微小剥離痕が認められるものである。剥片石器の中では最も多く出土した。SK17土坑出土第77図115は右側縁の鋭い縁辺に微少剥離痕があり刃部として使用したことがわかる。

二次加工のある剥片

素材剥片に二次加工を施すが刃部をもたない石器である。SK16土坑出土第76図112は表裏両面に二次加工が施され一端は尖頭形に整形されているが、対辺は大きな折れ面となっている。二次加工の途中または使用中に折れた石器の基部と推測する。

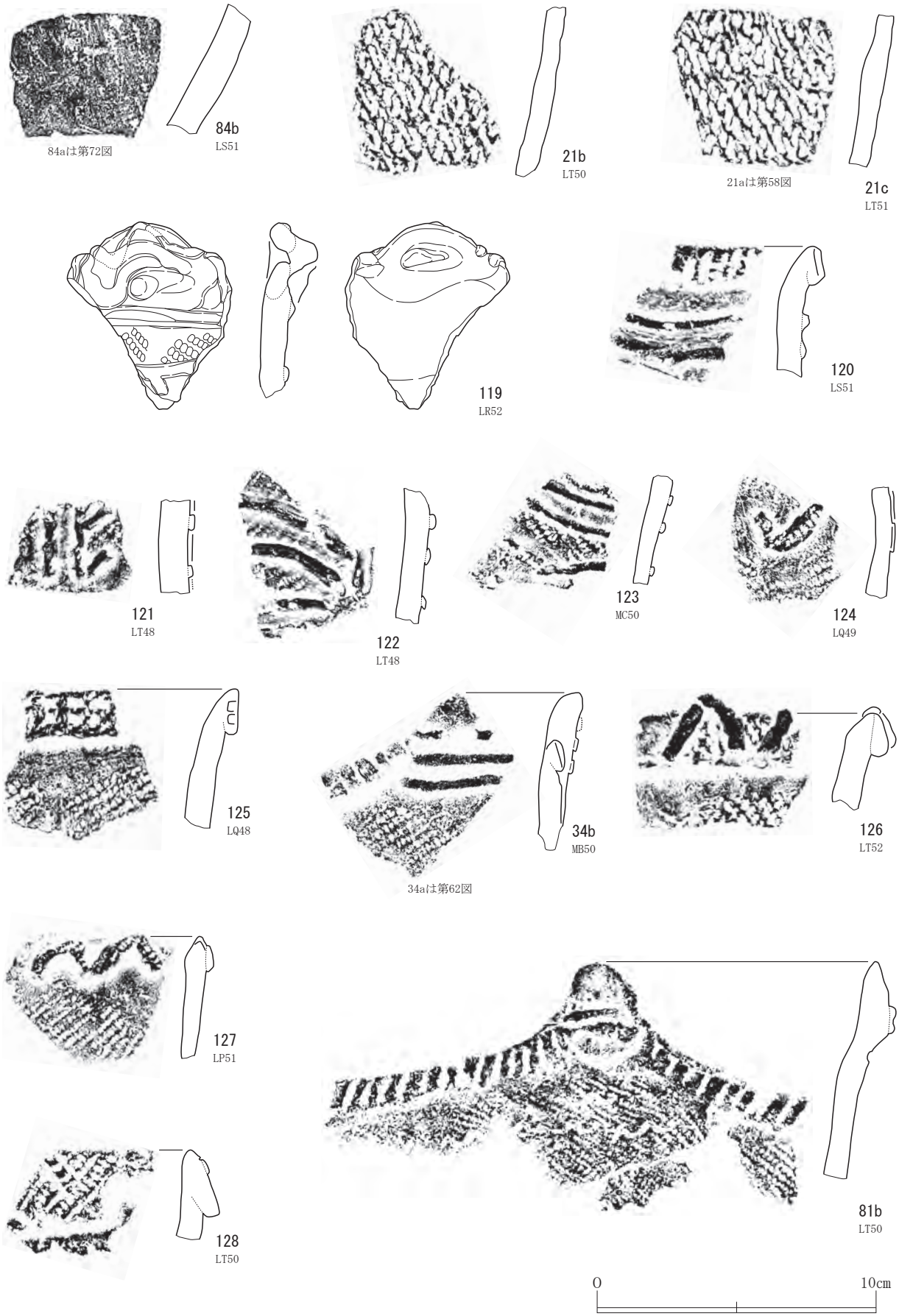
石核

頁岩の残核が２点出土した。第86図185は小礫の礫皮面を剥除し、一面から小剥片を剥離したものである。石器素材となる剥片の生産を目的とするものではなく、この石核自体を石器に加工するための二次加工が加えられたものと推測する。186は全面に二次加工を施して整形し、平坦な打面から連続して縦長剥片を剥ぎ取っている。

磨製石斧

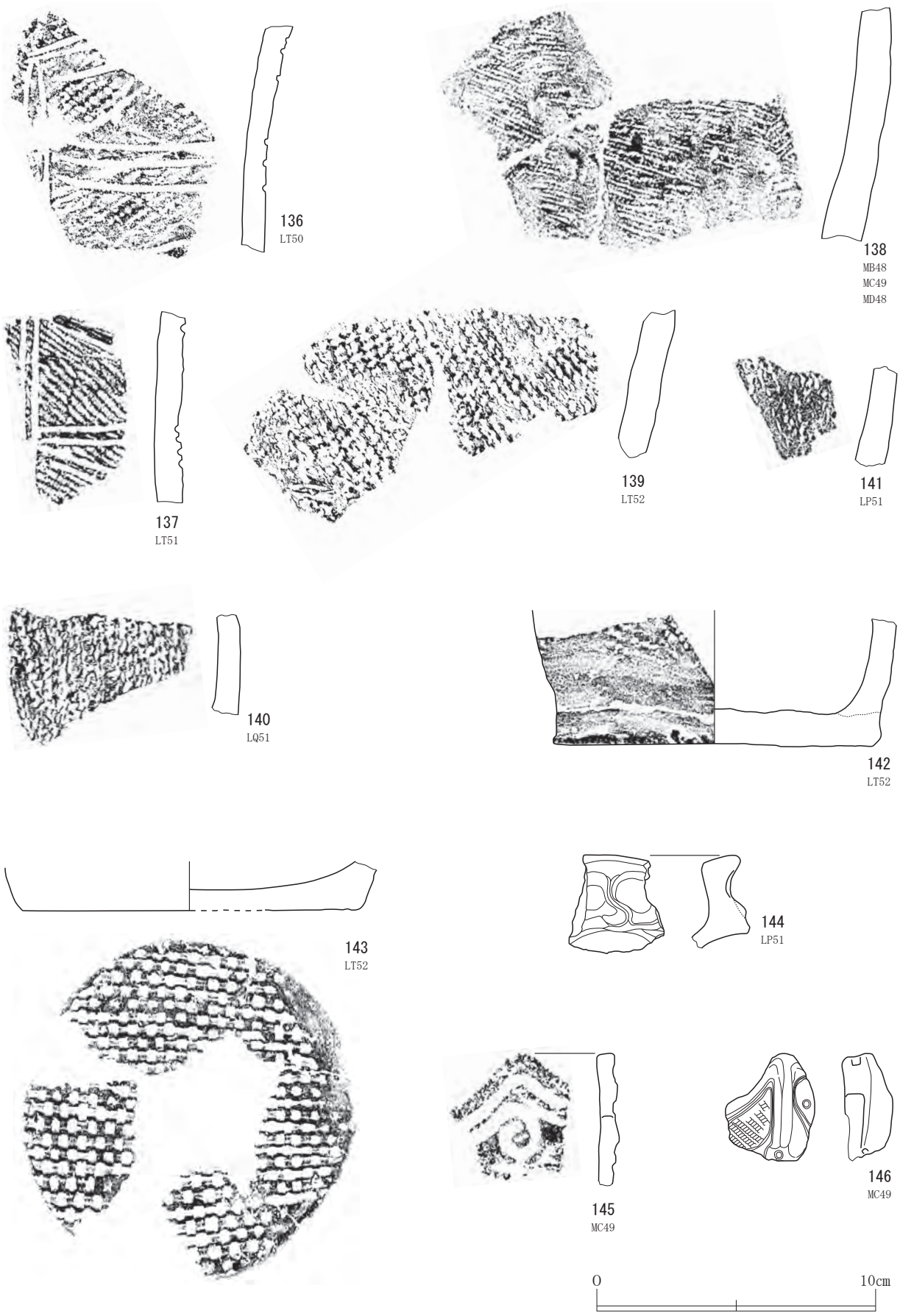
すべて破片で５点出土した。第76図108は遺構間で接合した。全面が研磨されているが、基部などの一部には素材礫の凹凸が残る。中央部の折れ面には折れた後に加撃したことによる階段状の剥離痕がある。109は小型で側縁が直線的な形態である。

(114頁へ続く)

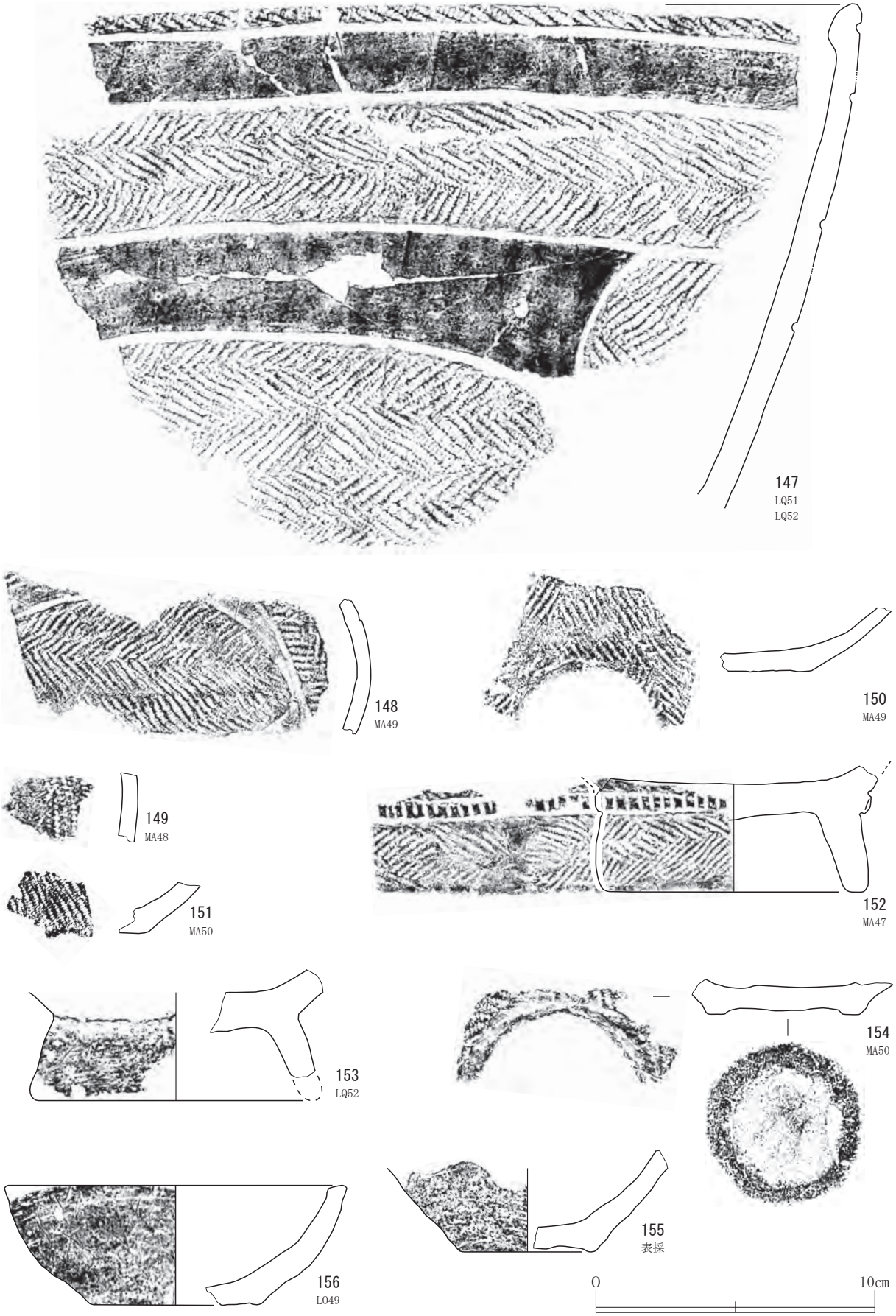


第79図　遺構外出土土器（１）

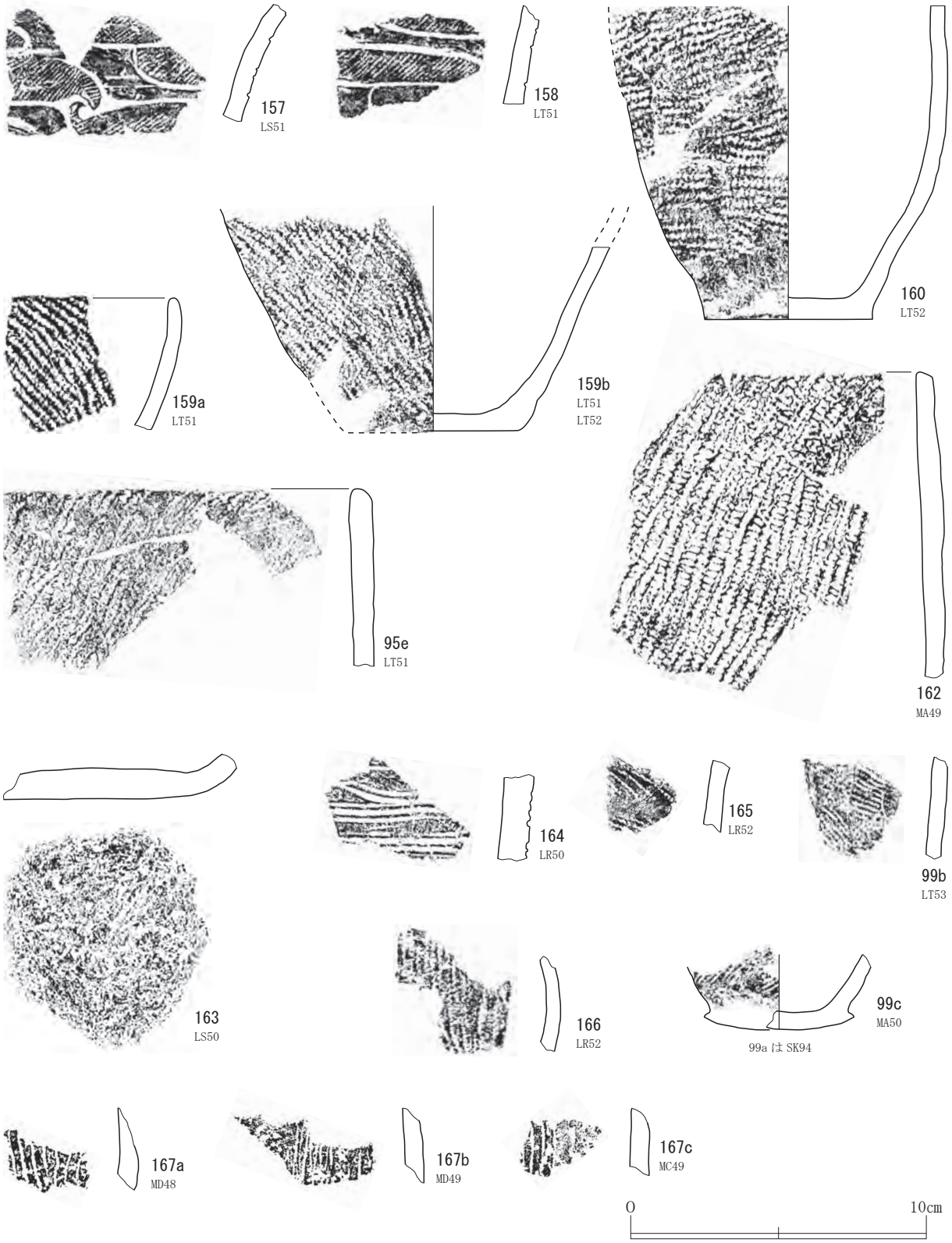
第80図　遺構外出土土器（２）



第81図　遺構外出土土器（３）



第82図　遺構外出土土器（４）



第83図　遺構外出土土器（５）

礫器

第87図187は厚みのある円礫の一辺に表裏両面から二次加工を施して刃部を作出している。大きさ、厚み、礫の凹凸が掌に適合し握りやすい素材を用いている。

凹石

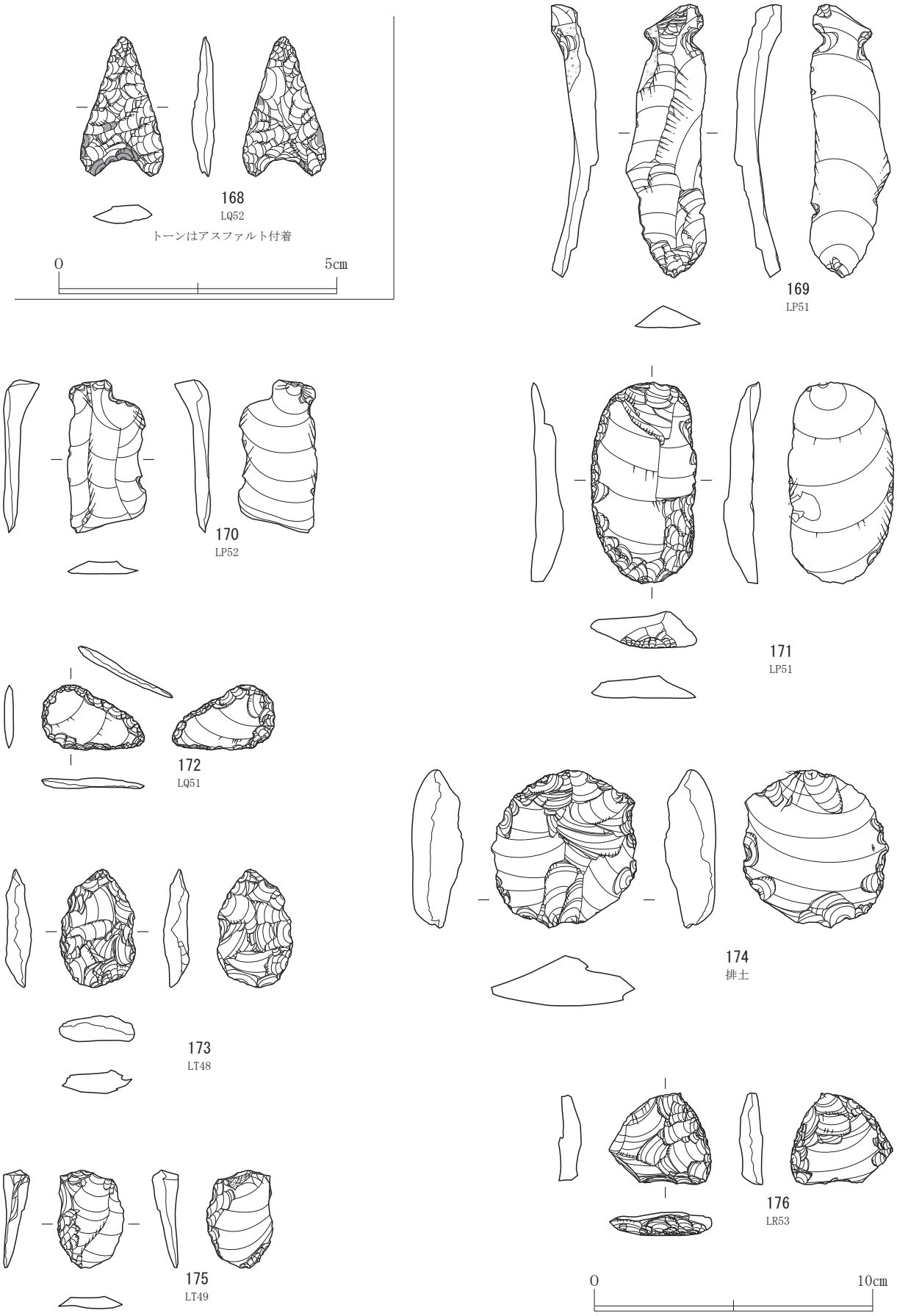
５点出土した。第87図190は断面三角形の棒状礫の２面に各１か所の凹部がある。189は板状の礫を素材とし表面に２か所、裏面に１か所の凹部がある。SK89出土第78図118は全面が磨面で一部の磨り残した部分には敲打痕がある。

石錘

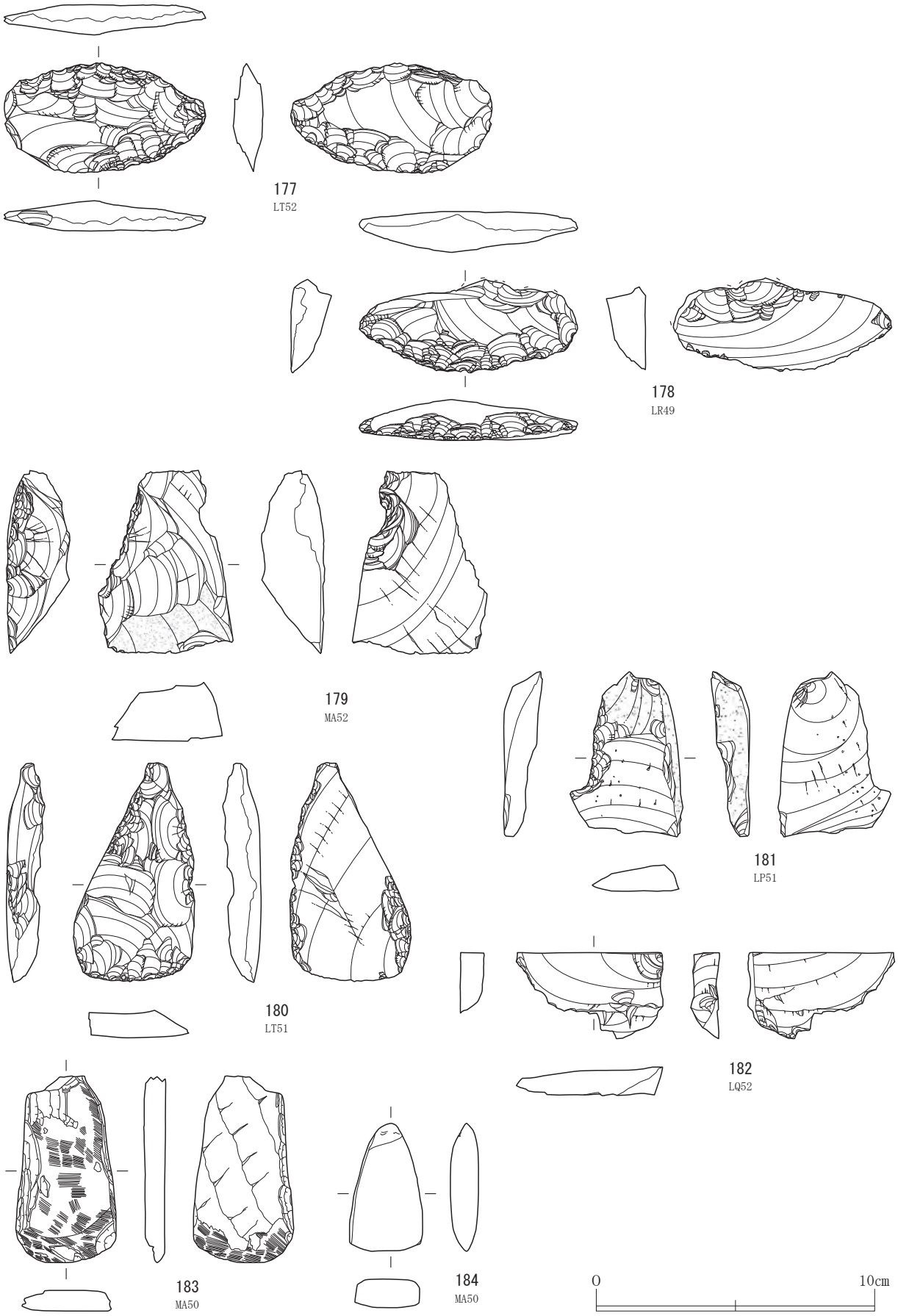
１点出土した。第87図188は扁平な円礫を素材とし対辺に２か所の打ち欠きがある。

石棒

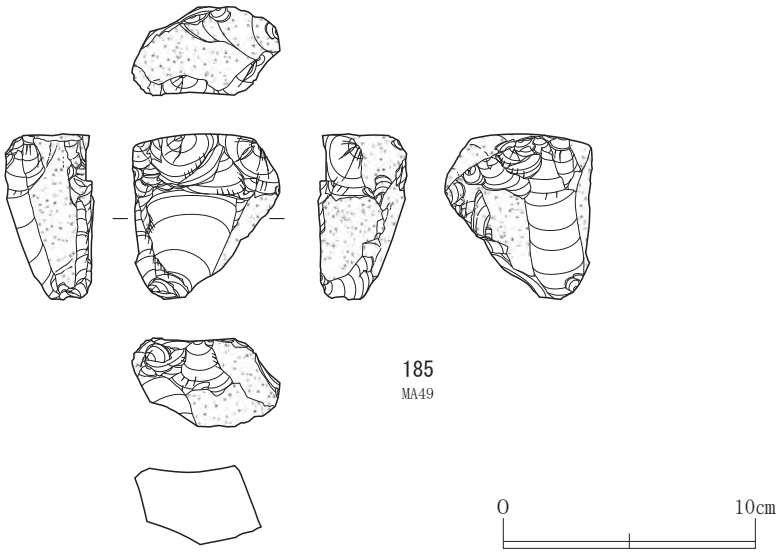
第87図191は円柱形の自然礫で、上下両端は折れて欠失する。表面に二次加工痕はない。立石として使用した可能性がある。

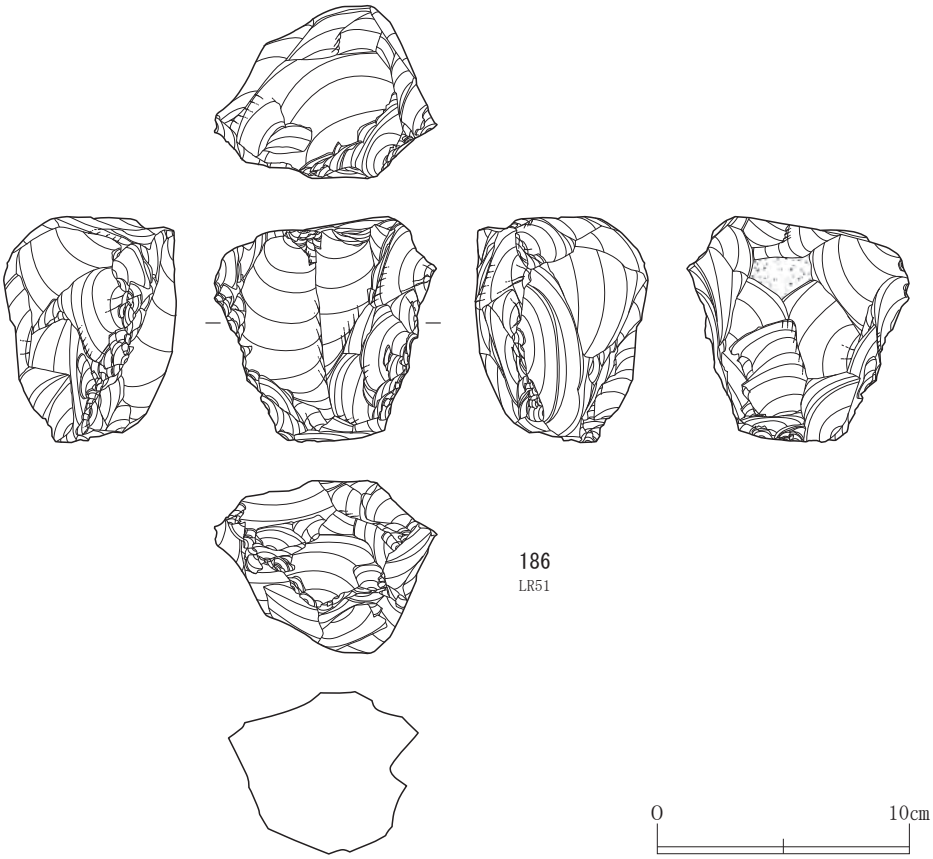


第84図　遺構外出土石器（１）

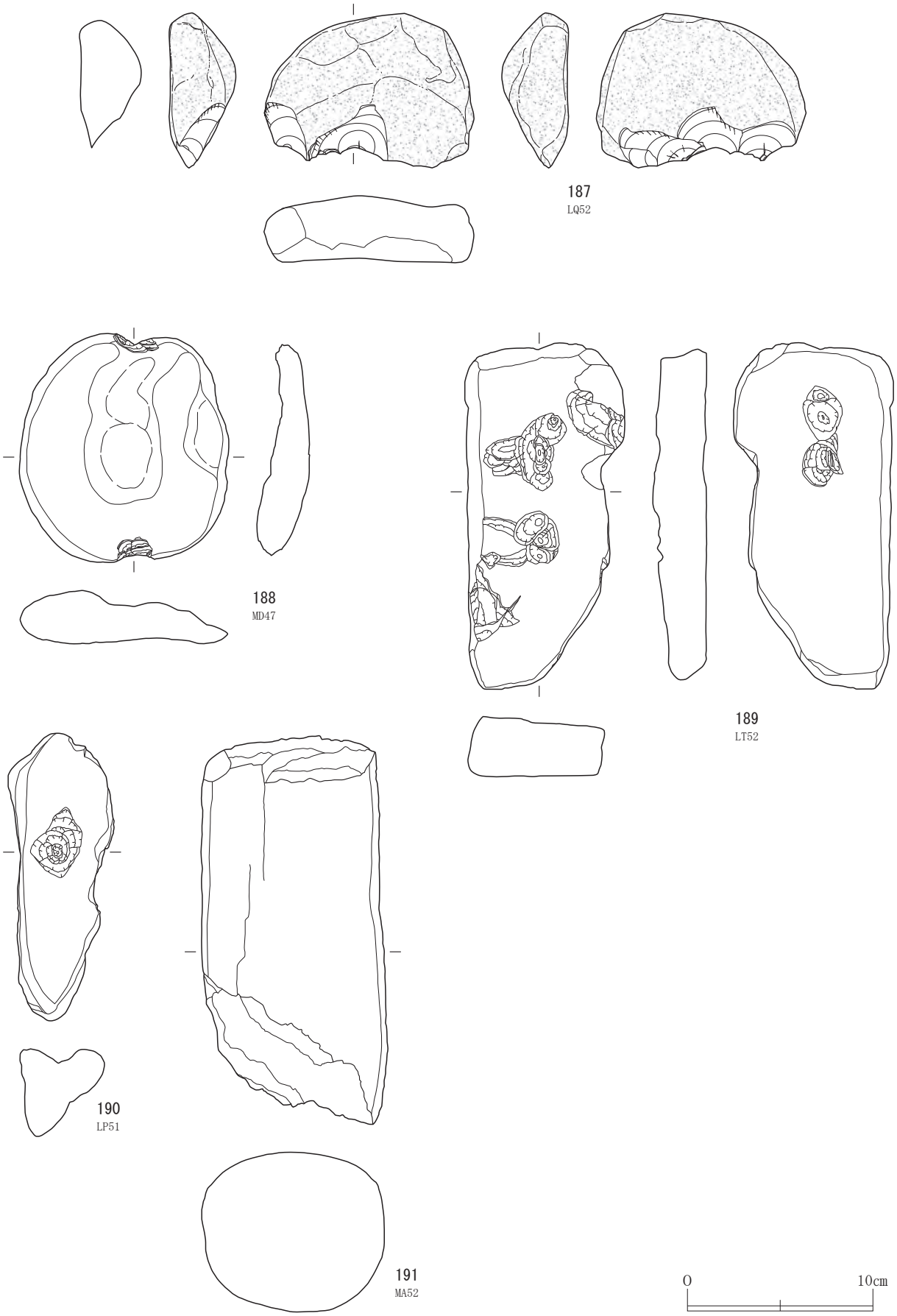


第85図　遺構外出土石器（２）





第86図　遺構外出土石器（３）



第87図　遺構外出土石器（４）

第４節　時代不明の検出遺構と遺物

埋土がＩ－ｃ層土母材で火山灰や軽石を含む土で埋没している遺構群である。時期を判断できる遺物が出土しなかったので、10世紀前半以降の遺構として一括して記載する。

１　土坑

SK02土坑（第88図、第３表、図版14）

平坦部南西側の山裾に近い場所のⅡ層上面で検出した。位置はSK74土坑、SK75土坑と重複するが本土坑の底面が両土坑の構築面に達していないため直接の切り合いはない。表土を除去したところ、楕円形の火山灰層の帯を検出した。帯の中央部には火山灰、軽石を含む土が堆積し、帯の外側は火山灰を含まない黒褐色土であった。埋土は中位の３層が火山灰層で土坑中央部に最も厚く堆積する。中央やや東寄りの埋土下位から扁平な大礫が、底面西端で亜角礫が４個まとまって出土した。本土坑は、廃絶後、開口放置されやや埋没した後に火山灰が堆積し、さらに周辺地表土の流入によって完全に埋没したと考える。廃絶時期の下限は10世紀初頭と推定する。

SK59土坑（第88図、第３表、図版14）

平坦部の東端、南東部尾根状地形の付け根付近のⅣ層上面で検出した。SD119溝跡の南端部に切られる。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土の単層である。遺物は出土しなかった。本遺構はSD119溝跡北端のＰ１と規模、形態、埋土が類似しており、南北両端に附属する柱穴の可能性がある。

SK60土坑（第49図、第３表、図版14）

東斜面上部のⅣ層上面で検出した。本土坑は北側でSK88土坑、南側でＳI58竪穴住居跡を切っている。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土である。遺物は出土しなかった。埋土が類似するSD119溝跡に近接し、規模、形態、埋土がSK59土坑に類似する。これらが一連の遺構である可能性がある。

SK73土坑（第47図、第３表）

東斜面上部のⅣ層上面で検出した等高線に沿って重複して南北に連なる５基の土坑のうちの１基で、本土坑は中央にある。本土坑の北側がSK70土坑、南側がSK69土坑を切っている。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土である。長さ約35㎝の大角礫が南側壁に沿って立位で入っており、この礫の上にも約10㎝の角礫があった。本土坑の形態、埋土から、根固めの大角礫を入れた柱穴で、柱を抜き取った後に埋め立てたものと推測する。埋土や根固め石の状況は隣接するSD119溝跡Ｐ２と共通する。

SK106土坑（第88図、第３表、図版14）

平坦部北東側でSQ93配石遺構を精査後に配石を構成する礫を除去したところ、Ⅳ層上面で検出した。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土で火山灰と軽石を含む。遺物は出土しなかった。帰属時期は10世紀前半以降と推定する。

SK112土坑（第44図、第３・８表、図版14）

東斜面上部南寄りのⅣ層上面で検出した。本土坑の南側がSK62土坑を切っている。埋土が類似するSD119溝跡に近接する。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土である。遺物は出土しなかった。

SK120土坑（第88図、第３表、図版14）

平坦面東端のⅣ層上面で検出した。木根による著しい撹乱を受けている。本遺構は検出遺構で唯一平面形が隅丸長方形である。埋土はＩ－ｃ層土母材の黒褐色土である。遺物は出土しなかった。長軸

方向は東側に隣接するSD119溝跡と一致しており関連する遺構の可能性がある。

２　焼土遺構

SN11焼土遺構（第88図、図版14）

南斜面のⅡ層中で検出した。東側は掘削により消失し西端部のみ残存する。重複遺構はない。残存長軸72㎝、推定長軸120㎝、短軸84㎝、長軸方位Ｎ－75°－Ｅ、深さ７㎝～12㎝の浅い土坑で、埋土には多量の炭を含む。底面と壁は焼土化していない。遺物は出土しなかった。小規模な炭焼き遺構と推測する。時期は不明である。

SN26焼土遺構（第42図、第８表、図版14）

平坦部やや南寄りのⅡ層中で検出した。本遺構は東側でＳＫ50土坑を切っている。上端部は長軸183㎝、短軸126㎝の楕円形、深さ約19㎝の土坑で、埋土には多量の炭を含む。底面と壁は焼土化していない。遺物は埋土中から縄文土器破片が出土したが、本遺構廃絶後に流入した周辺地表土に含まれていた遺物が再混入したものと考える。本遺構は小規模な炭焼き遺構と推測する。時期は不明である。

SN37焼土遺構（第90図、図版15）

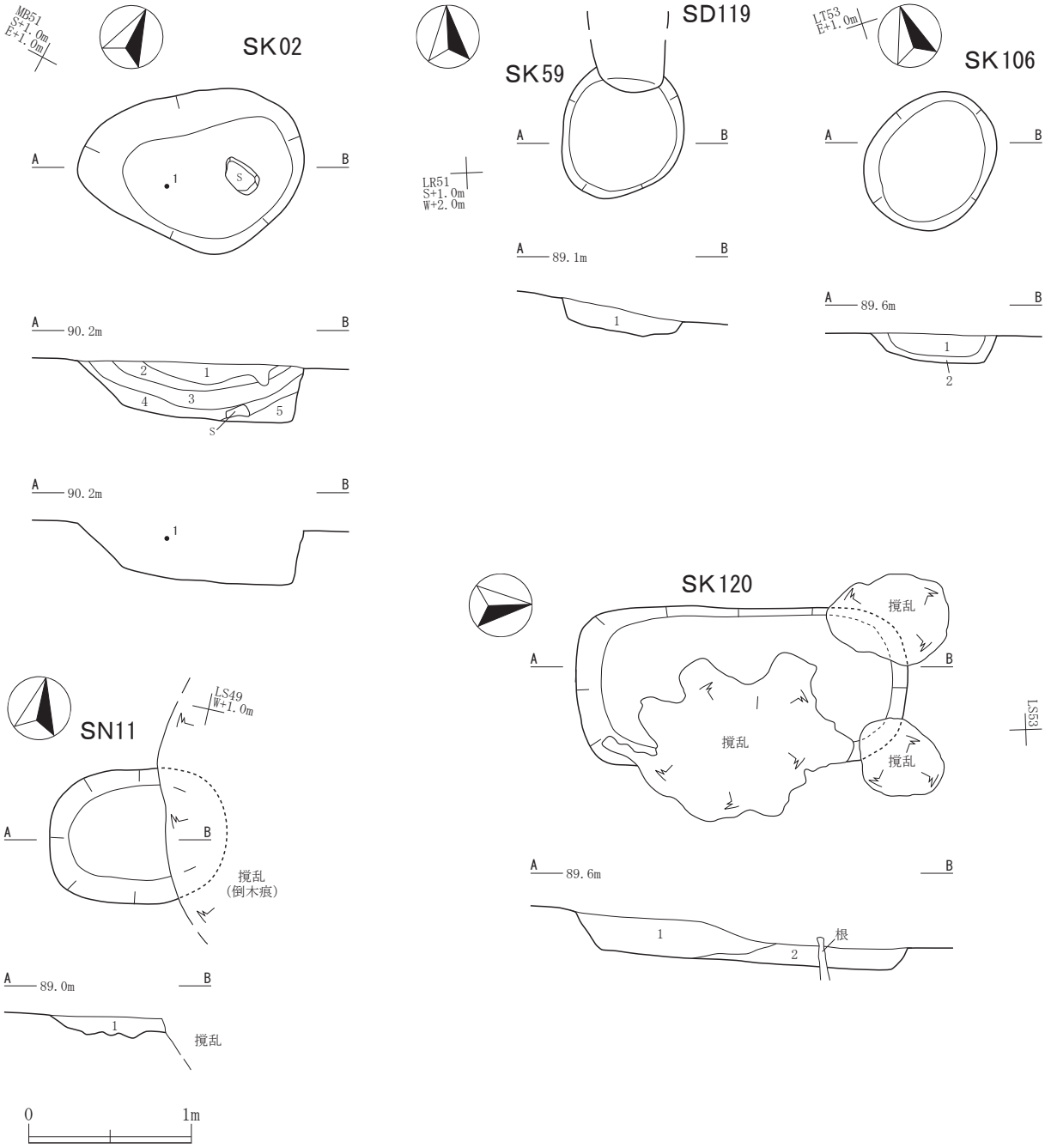
東部の尾根上で、現代の削土が著しい範囲の表土を除去し地山面の精査をしたところ、Ⅳ層上面で検出した。ＳＩ03竪穴住居跡とＳＩ38竪穴住居跡の間にあり両竪穴住居跡及びSK49土坑を切っている。本遺構の南西端、北東端ともに掘削や著しい撹乱により残存しない。残存部分の長さは165㎝、上端部の幅は約160㎝、深さ15㎝～25㎝の長く浅い土坑である。同種のSN46焼土遺構から類推すると本来は尾根全体を横断する長大な遺構であったと考える。長軸方向はSN46焼土遺構とほぼ同じＮ－39°－Ｅである。埋土には多量の炭を含む。底面と壁は強い被熱により焼土化している。遺物は出土しなかった。大規模な炭焼き遺構と推測する。時期は不明である。SN46焼土遺構の埋土中から鉄滓が出土したことから、本遺跡の近郊で行われていた製鉄や鍛冶に使用する炭を生産した遺構の可能性がある。

SN46焼土遺構（第89・92図、第８表、図版15）

平坦面南東端の第Ⅰ－ｃ層中でSD47溝跡とともに検出した。平坦面から南東に傾斜する斜面との肩部に沿って北東-南西方向に長さ11.5ｍにわたって延びる長大な遺構である。上端部の幅は約160㎝、深さは９㎝～24㎝である。ＳＩ58竪穴住居跡、ＳＩ57竪穴住居跡、SK56土坑、SK81土坑、SK84土坑、SK77土坑、SK78土坑を切っている。本遺構の西側にはSD47溝跡が沿っている。長軸方向はSN37焼土遺構とほぼ同じＮ－43°－Ｅである。埋土には多量の炭を含む。底面と壁は強い被熱により部分的に焼土化している。埋土中から鉄滓が１点出土した。第92図200は鍛冶滓と推定する。本遺構は大規模な炭焼き遺構と推測する。時期は不明である。埋土中から鉄滓が出土したことから本遺跡の近郊で行われていた製鉄や鍛冶に使用する炭を生産した遺構の可能性がある。

SN114焼土遺構（第89図、図版15）

平坦部中央西寄りの山裾に近い場所の第Ⅰ－ｃ層中で検出した。ＳＩ80竪穴住居跡の北側埋土上部を切っているが、本遺構の底面はⅡ層上位までしか達しておらずＳＩ80竪穴住居跡はほとんど影響を受けていない。基本土層51ラインの土層にも現れており、本来はSN46焼土遺構と同様の長大な遺構であったと推測する。残存する長さは3.2ｍ、幅は最大で82㎝であるが基本土層50ラインに断面が出ていることから推定長軸は6.9ｍ以上、推定幅は1.4ｍ以上となる。深さは４㎝～８㎝である。長軸方



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	混入土	地山	礫	火山灰	炭化物
SK02	1	黒色土(10YR1.7／1)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		中粒　1%		小粒　5%	
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	1	2	Ⅰc層土	Ⅲ層土	大粒　3%		小粒　2%	小～中粒　1%
	3	にぶい黄橙色土(10YR6／4)	LS	3	1	Ⅱa層土	Ⅱb層土			小粒70%	
	4	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱc層土		中粒　1%			
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	1	2	Ⅱc層土		大～極大粒　2%			
SK59	1	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		小粒　15%			小粒　1%
SK106	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		中粒　2%		2%	
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	Ⅱ層土　30%	小粒　5%		2%	
SK120	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大塊　30%	径5mm以下　5%	1%	極小粒　1%
	2	暗褐色土(10YR3／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土		大粒　10%	径10mm以下　5%	1%	大粒　1%

遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	火山灰	焼土	炭化物
SN11	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅱ層土	極小粒　5%			大塊　40%

第88図　SK02土坑、SK59土坑、SK106土坑、SK120土坑、SN11焼土遺構

向は山裾に沿った南北方向で、Ｎ－16°－Ｅである。埋土には多量の炭を含む。底面と壁は焼土化していない。遺物は出土しなかった。大規模な炭焼き遺構と推測する。時期は不明である。SN46焼土遺構との類似性から、同時期、同一目的の遺構である可能性がある。

３　配石遺構

SQ93配石遺構（第77・90図、第６表、図版15）

平坦面北東部のＩ－ｃ層中で検出した。SK106土坑と重複し、本遺構がSK106土坑の上部を覆っている。Ｉ－ｃ層から掘り込まれた北西－南東方向の長さ70㎝～90㎝、幅30㎝～50㎝、深さ31㎝～49㎝の土坑が長さ約2.8ｍの弧状に連なった溝の中に約40㎝×30㎝の亜角礫が集積している遺構である。周辺にもやや離れて４個の大礫がある。亜角礫はSQ104配石遺構、SD119溝跡Ｐ２内、SK73土坑内の礫と同種である。掘り込み内の埋土には地山土が多量に混じり火山灰や10㎝程度の亜角礫を含む。掘削土の掘り込み内から遺物は出土しなかった。構築時期は10世紀前半を上限と推定する。

SQ104配石遺構（第72・90図、第４・８表、図版15）

平坦面北側のＩ－ｃ層中で検出した。SK105土坑と重複するがSK105土坑の掘り込み面は本遺構より下位で直接の切り合いはない。Ｉ－ｃ層からⅡ－ｃ層上面にかけて、東西1.7ｍ、南北1.5ｍの範囲に約30㎝×20㎝以下の亜角礫が集積している遺構である。礫の周囲に明瞭な掘り込みは認められなかった。亜角礫はSQ93配石遺構、SD119溝跡Ｐ２内、SK73土坑内の礫と同種である。遺物は出土しなかった。構築時期は10世紀前半を上限と推定する。

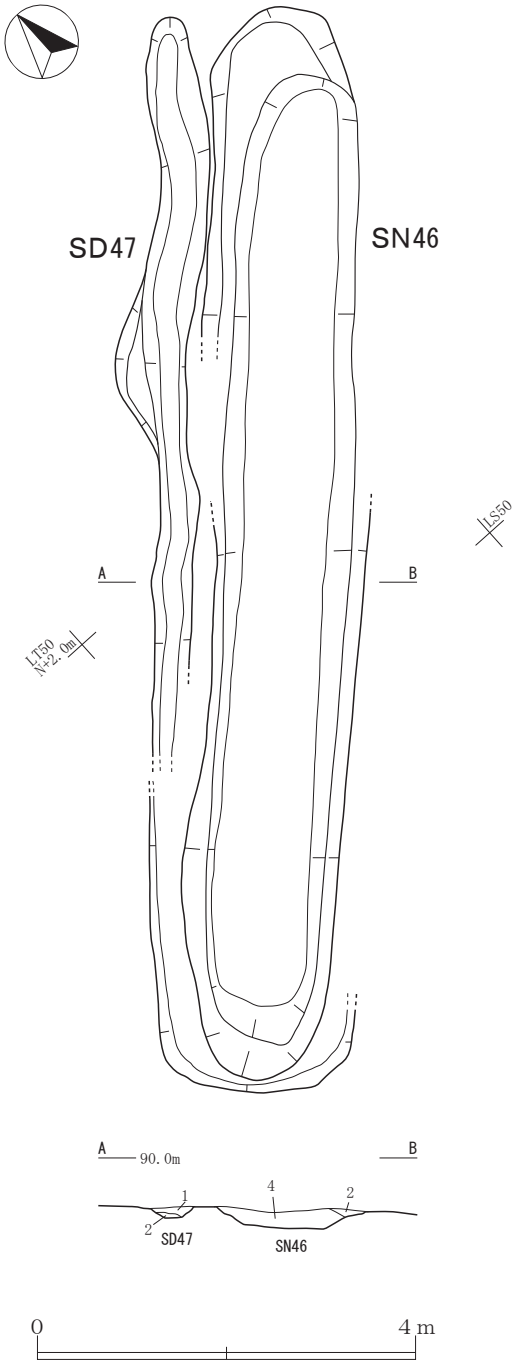
４　溝跡

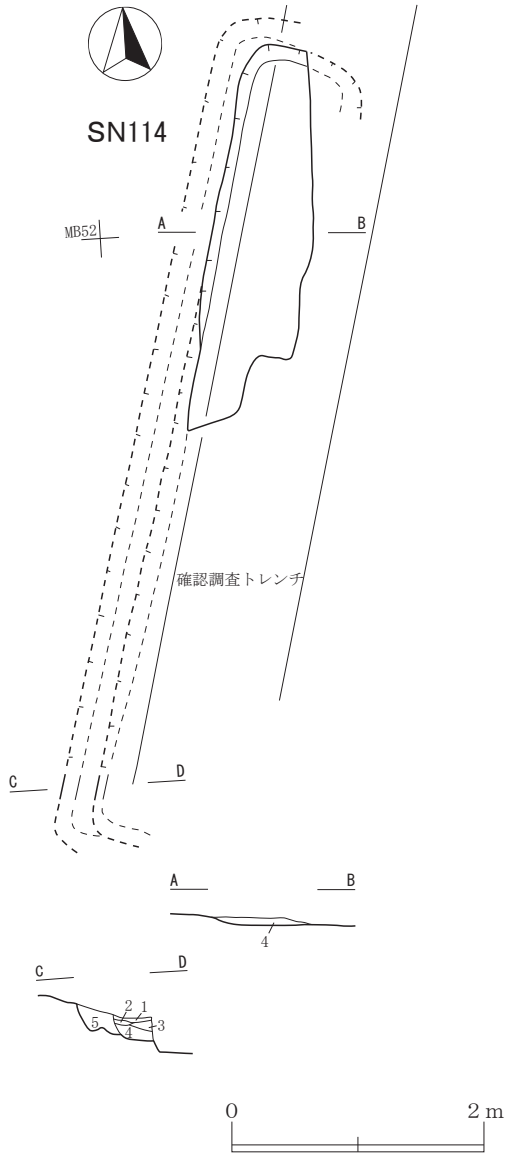
SD47溝跡（第89図、第８表、図版15）

平坦面南東端のＩ－ｃ層中でSN46焼土遺構とともに検出した。平坦面から南東に傾斜する斜面との肩部に沿って北東-南西方向に長さ9.2ｍにわたって延びる溝跡である。残存する深さは12㎝～23㎝である。ＳＩ58竪穴住居跡、ＳＩ57竪穴住居跡、SK77土坑、SK78土坑を切っている。埋土にはSN46焼土遺構由来の炭を多量に含む。本遺構は東側に隣接するSN46焼土遺構に伴う溝跡で、10世紀前半以降に構築されたと推定する。

SD119溝跡（第91図、図版15）

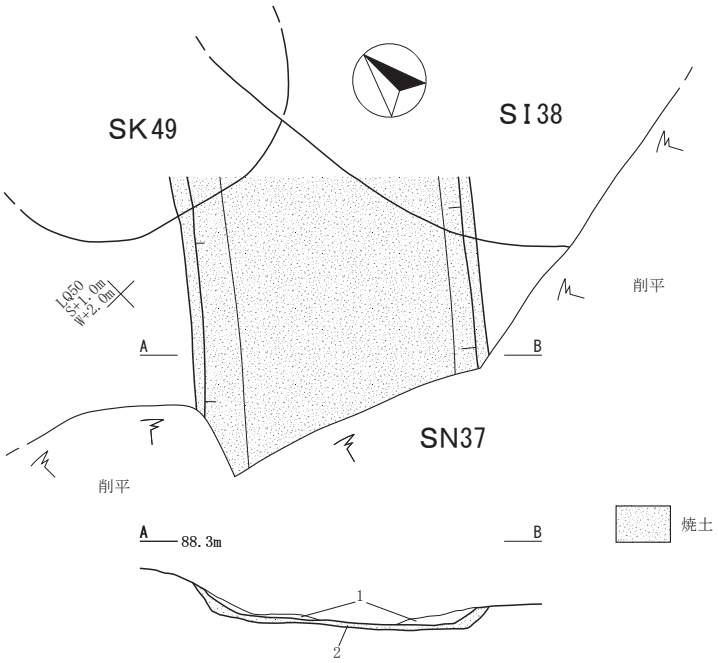
平坦面東端部のⅢ層上面またはⅣ層上面で断続的に南北方向に延びる溝跡を検出した。SK115土坑、SK88土坑、ＳＩ58竪穴住居跡、SK62土坑、SK59土坑と重複し、すべて本遺構が新しい。幅25㎝～50㎝、深さ21㎝～51㎝で、北側は比較的残存しているが、南側は地山面まで削平が及んでいて残存していないところもある。北端及び途中２か所に柱穴様ピットがあり、南端にはSK59土坑がある。溝跡はピット間を直線的に結んでいるが、ピットを境に方向がやや変化し溝跡全体では屈曲がある。柱穴様ピット間の距離は約3.2ｍである。Ｐ２は特に規模が大きく深い。深さは1.3ｍ以上あり、中心を除き周縁には約20㎝×15㎝の亜角礫が詰め込まれている。本遺構の周囲では平安時代以降のSK60土坑、SK73土坑、SK112土坑、SK120土坑が近接する。相互に関連する遺構の可能性がある。埋土はＩ－ｃ層土母材で地山土が多量に混じり火山灰を含む黒色～黒褐色土である。遺物は出土しなかった。本遺構は柱間を連結する板塀の跡で、Ｐ２が特に深く根固め石が入っていることから、Ｐ２の柱で全体を支える構造であったと推測する。構築時期は10世紀前半以降と推定する。



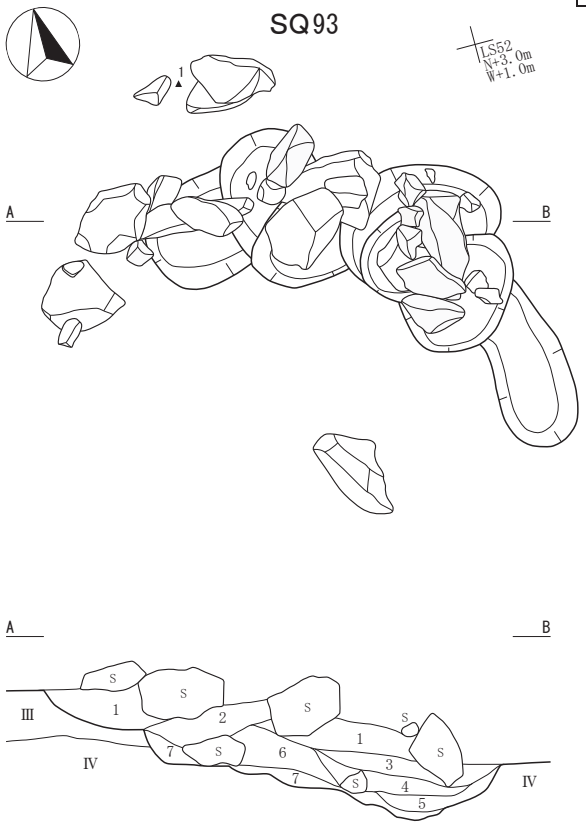


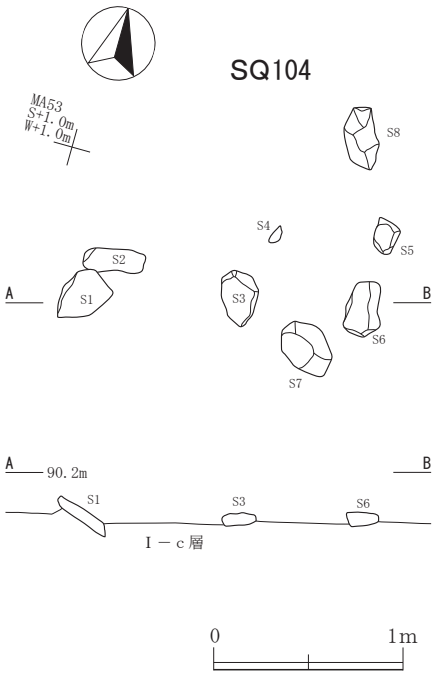
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	火山灰	炭化物
SD47	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰ－c層土	小粒　5%		小塊　15%
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅰ－c層土	中粒　10%		小塊　10%
SN46	2	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰ－c層土	小粒　2%		中塊　25%
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰ－c層土	大粒　5%		大粒　10%
SN114	1	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰ－c層土		2%	極小粒　1%
	2	黒褐色土(10YR3／2)	SiCL	2	2	Ⅱ－c層土	小粒　2%	1%	極小粒　1%
	3	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰ－c層土	極小粒　1%	1%	大塊　5%
	4	黒色土(10YR2／1)	SiCL	2	2	Ⅰ－c層土	小粒　2%	2%	中塊　7%
	5	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅱ－c層土	小粒　2%	1%	小粒　2%

第89図　SN46焼土遺構、SN114焼土遺構、SD47溝跡



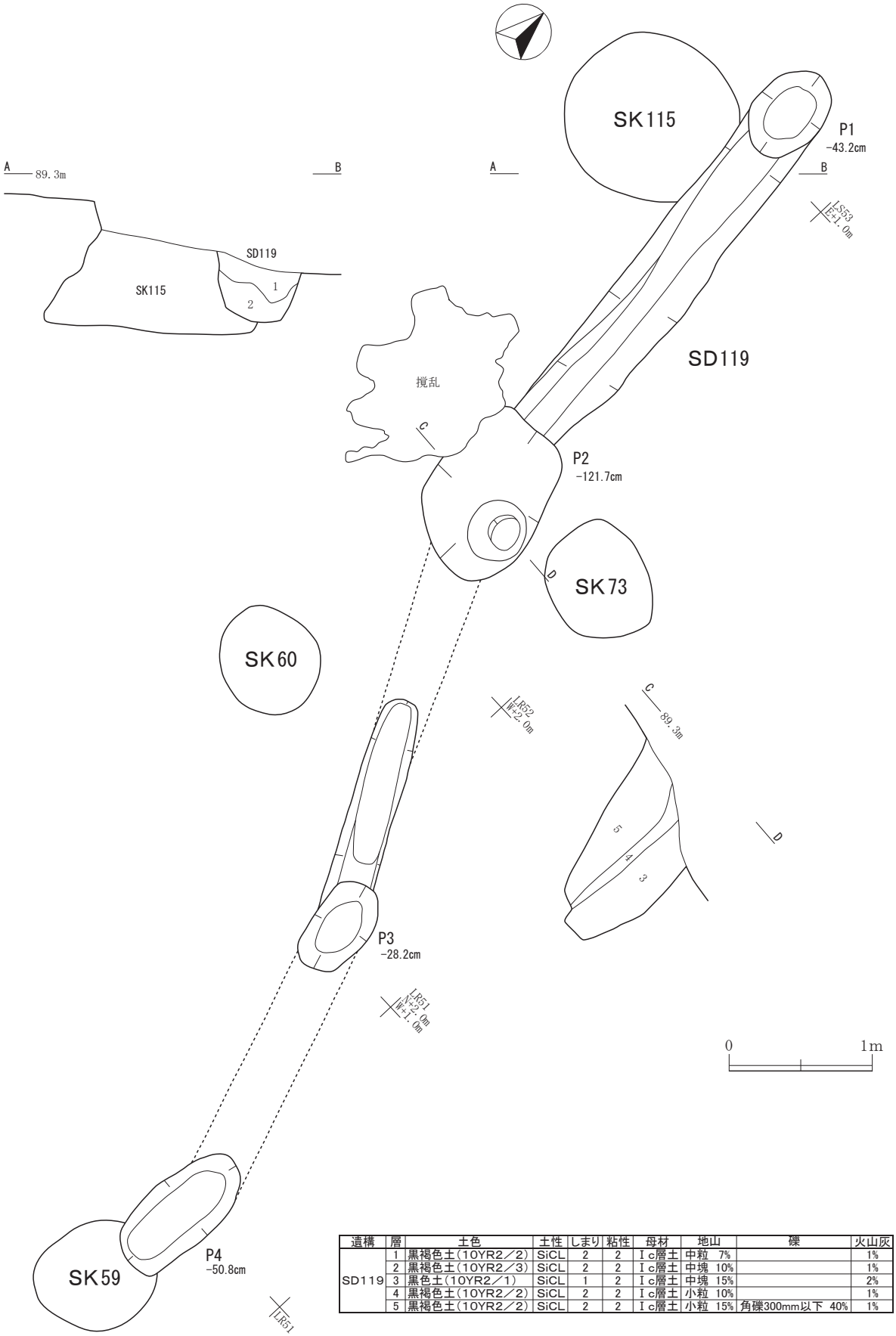
遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	焼土	炭化物
SN37	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	1	2	Ⅰc層土	小粒　10%		大塊　15% 小粒　30%
	2	赤褐色土（5YR4／8）	SiCL	4	1	Ⅳ層土		100%	





遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	礫	火山灰	炭化物
SQ93	1	黒色土（10YR2／1）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒　2%	亜角礫5mm以下　20%	1%	
	2	黒褐色土（10YR2／3）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	中粒　20%		1%	
	3	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	中塊　30%		1%	
	4	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒　10%	亜角礫100mm以下　40%	1%	
	5	黒褐色土（10YR2／2）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒　5%	亜角礫50mm以下　30%	1%	
	6	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大塊　40%		1%	
	7	暗褐色土（10YR3／3）	SiCL	2	2	Ⅰc層土	大粒　20%		1%	

第90図　SN37焼土遺構、SQ93配石遺構、SQ104配石遺構



遺構	層	土色	土性	しまり	粘性	母材	地山	礫	火山灰
SD119	1	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	中粒　7%		1%
	2	黒褐色土(10YR2／3)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	中塊　10%		1%
	3	黒色土(10YR2／1)	SiCL	1	2	Ⅰc層土	中塊　15%		2%
	4	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒　10%		1%
	5	黒褐色土(10YR2／2)	SiCL	2	2	Ⅰc層土	小粒　15%	角礫300mm以下　40%	1%

第91図　SD119溝跡

第５節　時代不明の遺構外出土遺物

主に表土から出土した製鉄関連遺物である。フイゴの羽口の小破片２点、炉壁や各種鉄滓が計20点出土した(第92図、図版23)。

第92図192、193はフイゴの羽口である。192は端部が溶融しガラス化している。193は外面のガラス化下部分の角度から差込み角は約37度と推定する。194は炉壁である。195は炉底滓、196は再結合滓と推定する。197、198は流動滓である。199は椀形鍛冶滓の一部、200も鍛冶滓と推定する。200は大型の炭焼遺構であるSN46焼土遺構から出土したもので、炭焼遺構の構築目的が製鉄や鍛冶と関連することを示唆する遺物である。

(146頁から)

11　SI03竪穴住居跡・SI38竪穴住居跡と重複するSK39土坑、SK49土坑・SK54土坑→SK48土坑はSI38竪穴住居跡廃絶後の造営であるが、少なくとも一部は近接するSK36土坑と同様にSI58竪穴住居の居住期間中に造営されたと推測する。

SI03竪穴住居跡と重複するSK17土坑、SK22土坑は、SI03竪穴住居跡廃絶後、SI38竪穴住居跡、SI58竪穴住居の居住期間中の造営と考える。南斜面のSI03竪穴住居跡の南西側にある一群、SK27土坑→SK34土坑→SK29土坑、SK13土坑→SK12土坑は、SK13土坑の埋め立て推定時期からSI03竪穴住居・SI04竪穴住居の居住期間中の造営と考える。SI03竪穴住居跡西側のSK43土坑→SK35土坑→SK21土坑は、SK21土坑の上限が後期末であるが、SK21土坑に切られるSK43土坑→SK35土坑は両方の可能性がある。

12　土坑埋め立て時期の前後関係が推定できるSK77土坑→SK78土坑→SK41土坑→SK19土坑・SK40土坑→SK20土坑変遷では南斜面上位から平坦面へ、SK67土坑→SK85土坑→SK86土坑→SK87土坑の変遷では平坦面周縁から平坦面中央寄りへ、SK42土坑→SK05土坑→SK23土坑・SK24土坑→SK06土坑→SK33土坑の変遷では南西斜面上位から平坦面周縁へと造営地点が移動していることがわかる。

13　後期末以降の土坑墓は重複が少なく、重複する場合でも周縁の一部が切り合っているに過ぎない。SK20土坑は先行するSK19土坑・SK40土坑・SK05土坑のちょうど中間に重複せずに構築されている。SK67土坑、SK85土坑、SK86土坑、SK87土坑も近接しつつ重複していない。このことから、平坦面上では先行する土坑墓の位置がわかる盛土、地山土の堆積、大礫など何らかの標識＝墓標が存在していたと推測する。

14　家ノ後遺跡検出土坑の遺物出土状況Ｂ類「ｃ．原形をとどめない多数の破片となって土器が埋土中位に土坑を覆うように広がっている。」に該当する報告書第２表に記載のSK63、SK66、SK99、SK109の４基。
秋田県教育委員会　『曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－家ノ後遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第229集　1992(平成４年)　48頁～52頁

第92図　遺構内外出土製鉄関連遺物

第２表　竪穴住居跡一覧表（１）

遺構番号	グリッド	規模・形態						壁		床面		柱穴	壁溝
		長軸(cm)		短軸(cm)		平面形	長軸方向	立ち上がり	残存高(cm)	状態	傾斜	数	有無
		現存	推定	現存	推定								
SI03	LQ49・50	6.52	7.5	3.48	5.8	楕円形	N-86°-W	ほぼ垂直	100 (西側)	平坦	ほぼ水平	なし	なし
	LR49・50												
	LS49・50								10 (北東側)				
SI04	MB47・48	5.76	-	2.51	5.0	楕円形	N-52°-W	ほぼ垂直	63 (西側)	平坦	ほぼ水平	1	なし
	MC47・48								10 (北東側)				
SI30	LS48	3.32	3.9	2.15	2.7	楕円形	N-51°-E	やや外傾	49 (北側)	平坦	北西から南東にわずかに傾斜	なし	なし
	LT48								29 (南西側)				
SI38	LP49・50	4.40	5.2	2.96	5.2	円形	―	ほぼ垂直	29 (西側)	平坦	西から東にわずかに傾斜	なし	なし
	LQ49・50												
SI55	LP51	2.70	5.0	4.04	4.2	楕円形	N-70°-E	ほぼ垂直	98 (西側)	平坦	北西から南東に傾斜	2	一部あり
	LQ51・52								10 (北東側)	(貼床)			
SI57	LS49・50	2.53	4.1	2.86	-	楕円形	N-47°-W	ほぼ垂直	9 (北西側)	凹凸顕著	北西から南東に傾斜	4	一部あり
	LR49・50												
SI58	LR51	2.80	2.7	2.60	2.7	円形	―	やや外傾	65 (西側)	平坦	周縁から中央に傾斜	なし	なし
									13 (東側)				
SI80	LT51	5.10	-	3.94	4.1	楕円形	N-76°-W	ほぼ垂直	55 (北西側)	平坦	周縁から中央に傾斜	20	一部なし
	MA50・51								40 (南西側)				
	MB51								11 (南東側)				

第３表　土坑一覧表（１）

時代	遺構番号	グリッド	上端						下端						底面	
			長軸(cm)		短軸(cm)		平面形	長軸方向	長軸(cm)		短軸(cm)		平面形	長軸方向	状態	傾斜
			現存	推定	現存	推定			現存	推定	現存	推定				
縄文	SK01	ME46	61	80		80	円形	―	164		144		円形に近い楕円形	N-64°-W	平坦	東から西にわずかに傾斜
	SK05	MA49	148		144		円形	―	130		118		円形	―	やや凹凸あり	水平
	SK06	MA49・50	146		124		円形に近い楕円形	N-63°-E	120			110	円形	―	やや凹凸あり	南西から北東に緩く傾斜
	SK07	MA・MB49	96		90		円形	―	94		80		円形に近い楕円形	N-85°-E	やや凹凸あり	南西から北東にわずかに傾斜
	SK10	MA48	132		108		円形に近い楕円形	N-10°-E	160		152		円形	―	平坦	水平
	SK12	LS48	138		121		円形に近い楕円形	N-87°-W	104		85		円形に近い楕円形	N-87°-W	凹凸あり	西から東に傾斜
	SK13	LS48	132		112	120	円形に近い楕円形	N-36°-W	127		119		円形	―	平坦	北西から南東にわずかに傾斜
	SK14	MA48	138		116		円形に近い楕円形	N-75°-W	98		88		円形	―	やや凹凸あり	西から東に緩く傾斜
	SK15	MB47・48	124	100	110	100	不整円形	―	160		156		円形	―	平坦	南から北にわずかに傾斜
	SK16	MA47・48、MB47・48	222	140	146	140	楕円形	N-43°-W	172		164		円形	―	平坦	北東から南西にわずかに傾斜
	SK16付属	MB48	58		46		円形に近い楕円形	N-84°-W	96		96		円形	―	平坦	水平
	SK17	LR・LS49	136		122		円形に近い楕円形	N-11°-W	164		152		円形	―	平坦	水平
	SK19	LS48	124		120		円形	―	106		104		円形	―	やや凹凸あり	水平
	SK20	LS48	94		86		円形	―	77		68		円形に近い楕円形	N-7°-E	平坦	北西から南東にわずかに傾斜
	SK21	LS49	172		154		円形に近い楕円形	N-65°-W	168		150		円形に近い楕円形	N-53°-E	平坦	北西から南東にわずかに傾斜
	SK22	LR49	147	150	147	150	円形	―	124	125		125	円形	―	平坦	水平
	SK23	MA・MB49	118		108		円形	―	134		130		円形	―	平坦	水平
	SK24	MA49・50	78		76		円形	―	84		80		円形	―	平坦	南西から北東にわずかに傾斜
	SK27	LS48	104	80	97	80	円形	―	95		88		円形	―	平坦	北西から南東に傾斜
	SK28	LS48	100		86		円形に近い楕円形	N-47°-E	62		61		隅丸方形	―	平坦	周縁から中央部に傾斜
	SK29	LS・LT48	162		148		円形	―	163		149		円形	―	平坦	北から南にわずかに傾斜
	SK31	MA48	65	70	66	70	円形	―	53		51		円形	―	凹凸あり	水平
	SK33	MA49・50	96		88		円形	―	96		92		円形	―	平坦	水平
	SK34	LS・LT48	130		123		円形	―	128		121		円形	―	平坦	周縁から中央部に傾斜
	SK34付属	LT48	76		73		円形	―	87		87		円形	―	平坦	東から西にわずかに傾斜
	SK35	LS49	170		140	150	円形に近い楕円形	N-60°-E	206		184		円形に近い楕円形	N-59°-E	凹凸あり	水平
	SK36	LP49	135	230	50	230	円形	―	135	230	50	230	円形	―	平坦	水平
	SK39	LQ50	135		76	120	円形に近い楕円形	N-80°-E	132		122		円形	―	平坦	水平
	SK40	LT05	112		108		円形	―	82		80		円形	―	やや凹凸あり	水平
	SK41	LT49・50	124		116		円形	―	134		126		円形	―	やや凹凸あり	水平

第２表　竪穴住居跡一覧表（２）

炉							遺物点数			重複遺構　（旧→新）	遺構番号
種別	形態	長軸(cm)		短軸(cm)		焼土厚	土器		石器		
		現存	推定	現存	推定	(cm)	破片数	個体数			
地床炉	楕円形	88	―	54	―	8	17	10	4	SI57→SI03→SK17・SK22・SK39・SK49→SK48→SN37 SI03→SK54→SK48→SN37	SI03
地床炉	楕円形	26	50	28	―	8	17	4	4	SI04→SK15・SK16	SI04
地床炉	楕円形	53	―	25	―	3	53	8	1	SI30→SK27→SK34 SI30→SK28→SK29	SI30
地床炉	楕円形	88	―	70	―	7	27	4	1	SI38→SK49→SK48→SN37	SI38
地床炉	円形	30	35	30	―	10	110	25	10	なし	SI55
地床炉	楕円形	77	―	58	―	8	0	0	0	SI57→SI03→SN37	SI57
地床炉	円形	50	―	50	―	8	3	2	0	SK91→SK83→SK82→SI58→SK62→SK112・SD119・SN46・SD47	SI58
石囲炉	長方形	68	―	50	―	6	228	72	26	SI80→SK89・SK90・SK117・SN121→SN122→SN114	SI80

第３表　土坑一覧表（２）

オーバーハング	深さ(cm)	底面標高(m)	遺物点数			重複遺構	掲載遺物	遺構番号
			土器		石器			
			破片数	個体数				
○	68.0	90.089	0	0	0	なし		SK01
○	62.0	89.140	0	0	0	SK42→SK05		SK05
○	69.8	89.193	5	2	2	SK06→SK33	第66図46、第67図62、第76図109	SK06
○	96.5	89.165	0	0	1	なし		SK07
○	113.7	88.545	14	4	0	なし	第66図47・48・49b	SK10
×	43.8	88.236	0	0	0	SK13→SK12		SK12
○	71.8	87.532	1	1	1	SK13→SK12	第58図16b、第76図110	SK13
○	53.1	89.125	13	1	0	なし	第66図49a	SK14
○	81.4	88.619	10	6	2	SI04→SK15	第66図50、第76図111	SK15
○	89.0	88.552	17	5	2	SI04→SK16	第66図49c・51・52・53、第76図112・113	SK16
○	62.7	87.936	0	0	0			SK16付属
○	88.0	87.860	2	2	3	SI03→SK17	第66図54、第77図115	SK17
○	67.2	89.033	7	3	0	なし	第67図55a・56	SK19
×	26.0	89.525	1	1	0	なし		SK20
○	93.8	88.238	5	2	1	SK43→SK35→SK21	第67図57・58	SK21
○	46.0	87.540	0	0	0	SI03→SK22		SK22
○	82.1	89.211	65	10	0	SK23→SN25	第67図59・60b・61・62・63・64、第68図65a・65b・65d	SK23
○	36.2	89.598	23	4	2	なし	第67図60a・60b、第68図65a・65c・66	SK24
○	28.6	88.264	0	0	0	SI30→SK27→SK34		SK27
×	65.3	88.355	0	0	0	SI30→SK28→SK29		SK28
○	29.4	88.634	4	2	1	SI30→SK28→SK29	第68図67a、第77図116	SK29
○	34.3	90.069	0	0	0	SK31→SQ09		SK31
○	60.9	89.194	1	1	0	SK06→SK33		SK33
○	43.3	88.308	7	4	0	SI30→SK27→SK34	第68図67b・68	SK34
○	64.1	87.844	0	0	0			SK34付属
○	60.9	88.646	0	0	0	SK43→SK35→SK21		SK35
○	19.6	87.164	5	5	0	なし	第69図74、第70図75・76、第71図77・78	SK36
○	44.0	88.980	0	0	0	SI03→SK39		SK39
×	38.6	89.307	10	6	0	なし	第67図55b、第68図69・70a・72c	SK40
○	71.6	88.904	11	4	1	SK77→SK78→SK41	第68図70b・71・72a・72b・72c・73b、第76図114	SK41

第３表　土坑一覧表（３）

時代	遺構番号	グリッド	上端						下端						底面	
			長軸(cm)		短軸(cm)		平面形	長軸方向	長軸(cm)		短軸(cm)		平面形	長軸方向	状態	傾斜
			現存	推定	現存	推定			現存	推定	現存	推定				
縄文	SK42	MA49	96		76		楕円形	N-20°-E	94		92		円形	—	やや凹凸あり	北東から南西に緩く傾斜
	SK43	LS49		120		120	円形	-	130		128		円形	—	平坦	北西から南東にわずかに傾斜
	SK48	LQ50	136		116	136	円形	-	136		114		円形に近い楕円形	N-85°-E	やや凹凸あり	水平
	SK49	LQ49・50	190		157	165	円形に近い楕円形	N-54°-W	188		182		円形	—	平坦	水平
	SK50	LT50	113		72	100	円形に近い楕円形	N-48°-E	96		64	76	楕円形	N-44°-E	やや凹凸あり	北東から南西に緩く傾斜
	SK51	MA49	94		90		円形	-	132		124		円形	—	平坦	水平
	SK52	LS50	104		92		円形に近い楕円形	N-14°-W	96		88		円形	—	やや凹凸あり	水平
	SK54	LQ05	112	125	120	125	円形	-	108		88	110	円形	—	平坦	水平
	SK56	MA49	156		128		円形に近い楕円形	N-21°-E	118		104		円形に近い楕円形	N-14°-E	やや凹凸あり	南から北に緩く傾斜
	SK61	LQ・LR50	98		94		円形	-	106		96		円形	—	平坦	水平
	SK62	LQ・LR51	142		138		円形	-	162		152		円形	—	平坦	水平
	SK63	LS51	102		98		円形	-	86		80		円形	—	平坦	水平
	SK64	LQ51、LR51・52	132		108		円形に近い楕円形	N-18°-W	164		152		円形	—	平坦	西から東に傾斜
	SK65	LS51	70		61		円形に近い楕円形	N-13°-E	48		41		円形に近い楕円形	N-77°-W	西側に凹部あり	水平
	SK66	LS51	100		92		円形	-	82		72		円形に近い楕円形	N-82°-W	平坦	水平
	SK67	LS・LT51	115		108		円形	-	148		132		円形に近い楕円形	N-70°-E	平坦	周縁から中央部にわずかに傾斜
	SK68	LR51・52	126		100		楕円形	N-52°-W	114		100		円形に近い楕円形	N-23°-W	平坦	水平
	SK69	LR51・52	100	124	118		円形	-	80	93	70	90	円形	—	平坦	南から北にわずかに傾斜
	SK70	LR52	136	170	142		円形に近い楕円形	N-10°-W	192		158		円形に近い楕円形	N-11°-W	南側が一段高い	水平
	SK70付属	LR52	74		50		楕円形	N-48°-W	54		44		円形に近い楕円形	N-42°-W	平坦	水平
	SK71	LR52	124		96		楕円形	N-60°-W	160		146		円形	—	平坦	北西から南東にわずかに傾斜
	SK74	MA50	82		77		隅丸方形に近い円形	-	78		72		隅丸方形に近い円形	—	平坦	水平
	SK75	MA50	84		82		円形	-	69		68		円形	—	平坦	水平
	SK77	LT49	150		74	120	楕円形	N-60°-W	111	136	123	136	円形	—	平坦	南から北にわずかに傾斜
	SK78	LT49	148		140		円形	-	151		142		円形	—	凹凸あり	南東から北西に傾斜
	SK79	LT51	100		96		円形	-	104		103		円形	—	平坦	水平
	SK81	LS49・50	121		112		円形	-	124		112		円形	—	平坦	水平
	SK82	LR51	124		104		円形に近い楕円形	N-65°-W	102		82		円形に近い楕円形	N-67°-W	平坦	西から東にわずかに傾斜
	SK83	LR51	160		150		円形	-	182		160		円形に近い楕円形	N-89°-E	平坦	水平
	SK84	LS49・50	122		108		円形に近い楕円形	N-81°-W	107		84		円形に近い楕円形	N-61°-E	平坦	水平
	SK85	LT51	108		90		円形に近い楕円形	N-21°-W	114		100		円形に近い楕円形	N-34°-W	平坦	水平
	SK86	LT51・52	116		104		円形に近い楕円形	N-80°-W	76		72		円形	—	平坦	水平
	SK87	LT52	80		74		円形	-	67		61		円形	—	平坦	南から北に傾斜
	SK88	LR51・52	140	156	128		円形に近い楕円形	N-0°-W	172		140		円形に近い楕円形	N-8°-W	平坦	水平
	SK88付属	LR51・52	60		44		楕円形	N-77°-E	102		81		楕円形	N-59°-E	平坦	水平
	SK89	LT・MA51	160		152		円形	-	168		156		円形	—	平坦	水平
	SK89付属	MA51	56		48		円形に近い楕円形	N-75°-W	84		62		楕円形	N-89°-W	平坦	水平
	SK90	MA50・51	128		120		円形	-	132		132		円形	—	平坦	周縁から中央にわずかに傾斜
	SK91	LR51	46	110	26	100	円形	-	28	100	64	90	円形	—	平坦	水平
	SK94	LT53・54	142		126		円形に近い楕円形	N-67°-E	128		120		円形	—	平坦	北東から南西にわずかに傾斜
	SK95	LS・LT53	168		106	164	円形	-	164		108	165	円形	—	平坦	東から西にわずかに傾斜
	SK96	LT53	150		112	140	円形	-	120	155	145		円形	—	平坦	水平
	SK97	LT・MA53	174		106	170	円形	-	212		117	186	円形に近い楕円形	N-72°-E	平坦	水平
	SK105	LT52	140		132		円形	-	70		60		円形に近い楕円形	N-71°-E	平坦	北東から南西にわずかに傾斜
	SK110	LR53	198		132		楕円形	N-65°-E	166		148		円形に近い楕円形	N-62°-E	平坦	南西から北東にわずかに傾斜
	SK115	LR52・53、LS52・53	114	124	116		円形	-	180		152		円形に近い楕円形	N-15°-W	平坦	西から東にわずかに傾斜
	SK117	MA51・52	106		98		円形	-	154		144		円形	—	平坦	水平
平安以降	SK02	MA50	142		100		楕円形	N-60°-E	104		70		楕円形	N-61°-E	平坦	西から東に緩く傾斜
	SK59	LR50	78	86	76		円形に近い楕円形	N-16°-E	72		68		円形	—	凹凸著しい	北東から南西に傾斜
	SK60	LR51	80		70		円形に近い楕円形	N-68°-W	52		38		楕円形	N-86°-W	平坦	水平
	SK73	LR52	86		72		円形に近い楕円形	N-87°-E	36		34		円形	—	平坦	北から南に傾斜
	SK106	LS52	90		76		円形に近い楕円形	N-63°-E	80		62		楕円形	N-42°-E	平坦	南西から北東にわずかに傾斜
	SK112	LQ・LR51	108		94		円形に近い楕円形	N-20°-E	92		86		円形	—	平坦	水平
	SK120	LR・LS52	206		102		隅丸長方形	N-1°-W	180		82		楕円形	N-02°-W	やや凹凸あり	南から北にわずかに傾斜

第３表　土坑一覧表（４）

オーバーハング	深さ(cm)	底面標高(m)	遺物点数 土器 破片数	遺物点数 土器 個体数	遺物点数 石器	重複遺構	掲載遺物	遺構番号
○	80.3	88.877	52	5	0	SK42→SK05	第72図79a・79b・79c・79d	SK42
○	77.2	88.597	0	0	0	SK43→SK35→SK21		SK43
○	75.3	87.333	0	0	0	SI38→SK49→SK48・SI03→SK54→SK48		SK48
○	75.6	87.372	0	0	0	SI38→SK49→SK48		SK49
○	32.9	89.218	11	6	0	SK50→SN26	第72図80・81a・82	SK50
○	85.3	88.991	6	6	2	なし	第72図83	SK51
○	20.9	89.272	2	2	0	なし	第72図84a	SK52
○	40.7	87.869	0	0	0	SI03→SK54→SK48		SK54
○	19.7	89.135	1	1	0	SK84→SK81→SK56→SN46		SK56
○	34.5	88.480	0	0	0	なし		SK61
○	64.0	88.318	36	10	2	SK91→SK83→SK82→SI58→SK62→SK112・SD119	第72図85・86、第73図93	SK62
×	48.2	89.028	0	0	0	なし		SK63
○	129.2	87.468	7	6	0	なし	第72図87・88	SK64
○	37.6	89.247	2	2	0	なし	第73図94	SK65
○	30.9	89.230	0	0	0	なし		SK66
○	74.8	88.843	3	2	0	なし	第72図89	SK67
○	52.0	88.375	0	0	0	SK88→SK69→SK68		SK68
○	40.0	88.528	0	0	0	SK88→SK69→SK68・SK69→SK73・SD119		SK69
○	96.0	87.560	4	2	0	SK70→SK71・SK70→SK73	第72図90a	SK70
×	12.0	87.415	0	0	0			SK70付属
○	94.0	87.816	1	1	0	SK70→SK71	第72図91	SK71
○	23.7	89.491	0	0	0	SK74→SK02		SK74
○	34.1	89.336	2	2	0	SK75→SK02		SK75
○	51.9	88.921	0	0	0	SK77→SK78→SK41→SD47・SN46		SK77
○	60.0	88.818	3	3	0	SK77→SK78→SK41→SD47・SN46	第68図71・73a	SK78
○	65.7	88.812	1	1	0	なし		SK79
○	50.5	88.855	9	5	1	SK84→SK81→SK56→SN46	第72図92	SK81
○	30.0	88.400	0	0	0	SK91→SK83→SK82→SI58→SK62→SK60・SK112・SN46・SD47・SD119		SK82
○	74.0	88.066	0	0	0	SK91→SK83→SK82→SI58→SK62→SK60・SK112・SN46・SD47・SD119		SK83
○	35.6	88.693	0	0	0	SK84→SK81→SK56→SN46		SK84
○	46.8	89.123	55	6	0	なし	第72図90b、第74図95a・95b	SK85
○	32.4	89.343	6	1	0	なし	第74図95c	SK86
○	31.1	89.288	1	1	0	なし	第74図95d	SK87
○	90.4	88.458	1	1	0	SK88→SK69→SK60・SK120・SD119	第74図96	SK88
○	44.3	88.015	0	0	0			SK88付属
○	77.8	88.858	25	20	1	SI80→SK89	第61図29a・29e、第74図97・98、第78図118	SK89
○	43.3	88.425	0	0	0			SK89付属
○	78.5	89.073	32	6	0	SI80→SK90→SK02	第62図31・32、第65図41a・41b	SK90
○	6.8	88.700	0	0	0	SK91→SK83→SK82→SI58→SK62→SK60・SK112・SN46・SD47・SD119		SK91
○	133.7	88.183	5	2	0	なし	第74図99a	SK94
○	164.7	87.605	0	0	0	なし		SK95
○	120.0	87.865	1	1	0	なし	第74図100	SK96
○	161.7	87.965	0	0	0	なし		SK97
×	133.4	88.295	0	0	0	SK105→SQ104		SK105
○	147.5	87.080	0	0	0	なし		SK110
○	60.0	88.180	1	1	0	SK115→SD119	第74図101	SK115
○	80.9	89.030	4	2	1	SI80→SK117	第74図102	SK117
×	49.9	89.450	1	1	0	SK74・SK75→SK02		SK02
×	14.6	88.600	0	0	0	SK59→SD119		SK59
×	23.2	88.992	0	0	0	SK91→SK83→SK82→SI58→SK60		SK60
×	66.0	88.180	0	0	0	SK88→SK69→SK68→SK73・SK70→SK73		SK73
×	22.3	89.234	0	0	0	SK106→SQ93		SK106
×	35.0	88.250	0	0	0	SK62→SK112		SK112
×	46.4	89.000	0	0	0	SK88→SK120		SK120

第４表　遺構内出土土器観察表（１）

遺物図	遺物番号	遺構	出土分布図		時期	分類	縄文	
							原体	回転方向
第56図	1ａ	ＳＩ03	第８図	△	中(円)	Ⅲ群３ａオ類	RL+LR	横
	1ｂ	ＳＩ03		△	中(円)	Ⅲ群３ａオ類	RL+LR	横
	2	ＳＩ03		◇	後	Ⅴ群４ａ類	LR(多)→R撚	斜(条横)
	3	ＳＩ03＋ＳＫ17		▽	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
	4	ＳＩ03	第９図	◎	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
	5	ＳＩ04			後	Ⅴ群１ｄ類	RL(多)+LR(多)	横
	6	ＳＩ04	第９図	○	後	Ⅴ群１ｃ類	－	－
	7	ＳＩ04			後	Ⅴ群３類	LR(多)	縦、横
	8	ＳＩ30	第10図	△	中(円)	Ⅲ群１ｃア類	LR	横
	9	ＳＩ30	第10図	a	中(円)	Ⅲ群４類	RL	横
	10	ＳＩ38	第11図	○	後	Ⅴ群３類	RL+LR	横
第57図	11	ＳＩ30	第10図	▽	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
第58図	12	ＳＩ38	第11図	◎	後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
	13	ＳＩ38		b	後	Ⅴ群４ｂ類	R撚	縦
	14ａ	ＳＩ38		a	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	縦
	14ｂ	ＳＩ55	第12図	a	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	縦、横
	15	ＳＩ55			後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
	16ａ	ＳＩ55	第12図	◎	後	Ⅴ群１ｄ類	－	－
	16ｂ	ＳＫ13	第31図	◎	後	Ⅴ群１ｄ類	LR(多)	横
	16ｃ	ＳＩ55	第12図	◎	後	Ⅴ群１ｄ類	RL(多)+LR(多)	横
	17ａ	ＳＩ55	第８図	□	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
	18	ＳＩ55	第12図	b	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
	19	ＳＩ55			中(大)	Ⅴ群４ａ類	LR	縦
	20	ＳＩ55	第12図	c	後	Ⅴ群４ａ類	LR(多)	横
	21ａ	ＳＩ55		◇	前初	Ⅱ群	RLLr	横
	22	ＳＩ58	第14図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
第59図	17ｂ	ＳＩ55	第12図	□	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
	17ｃ	ＳＩ55＋ＳＩ03	第８図、第12図	□	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
	23	ＳＩ55	第12図	○	後	Ⅴ群３類	RL(多)+LR(多)	横
第60図	24	ＳＩ80	第16図	△	中(円)	Ⅲ群１類	RL	横
	25	ＳＩ80	第17図	a	中(円)	Ⅲ群２ａオ類	RL	横
	26	ＳＩ80	第21図	e	中(円)	Ⅲ群２ａオ類	RL	横
	27	ＳＩ80		f	中(円)	Ⅲ群２ａイ類	RL	横
	28	ＳＩ80		g	中(円)	Ⅲ群１ｃア類	－	－
第61図	29ａ	ＳＩ80＋ＳＫ89	第18図	b	中(円)	Ⅲ群２ａキ類	LR	横
	29ｂ	ＳＩ80			中(円)	Ⅲ群２ａキ類	LR	横
	29ｃ	ＳＩ80			中(円)	Ⅲ群２ａキ類	LR	横
	29ｄ	ＳＩ80			中(円)	Ⅲ群２ａキ類	LR	横
	29ｅ	ＳＩ80＋ＳＫ89			中(円)	Ⅲ群２ａキ類	LR	横
	30	ＳＩ80	第21図	h	中(円)	Ⅲ群２類	RL	横
第62図	31	ＳＩ80＋ＳＫ90	第19図、第48図	c	中(円)	Ⅲ群２ａウ類	RL	斜(条縦)
	32	ＳＩ80＋ＳＫ90	第20図	d	中(円)	Ⅲ群４類	RL	横、斜(条縦)
	33ａ	ＳＩ80	第21図	i	中(円)	Ⅲ群３ｂウ類	RL	横
	33ｂ	ＳＩ80			中(円)	Ⅲ群３ｂウ類	RL	横
	34ａ	ＳＩ80		j	中(円)	Ⅲ群３ｂウ類	LR	横
第63図	35	ＳＩ80	第21図	l	中(円)	Ⅲ群３ｂカ類	LR	横
	36	ＳＩ80		m	中(円)	Ⅲ群３ｂカ類	RL+LR	横
	37	ＳＩ80	第24図	□	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
第64図	38	ＳＩ80	第24図	▽	中(大)	Ⅳ群	RL	縦
第65図	39	ＳＩ80	第21図	p	中(円)	Ⅲ群４類	RL	横
	40	ＳＩ80		q	中(円)	Ⅲ群４類	RL	横
	41ａ	ＳＩ80＋ＳＫ90		r	中(大)	Ⅳ群	RL	横
	41ｂ	ＳＫ90			中(大)	Ⅳ群	RL	横
	42	ＳＩ80	第24図	s	中(大)	Ⅳ群	－	－
	43	ＳＩ80		t	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
	44	ＳＩ80		u	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
	45	ＳＩ80		v	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
第66図	46	ＳＫ06	第30図	a	後	Ⅴ群１ｂ類	RL	横
	47	ＳＫ10	第31図	a	後	Ⅴ群１ａ類	RL(多)	横
	48	ＳＫ10		○	後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
	49ａ	ＳＫ14	第32図	◎	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	49ｂ	ＳＫ10	第31図	◎	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	49ｃ	ＳＫ16	第33図	◎	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	50	ＳＫ15			後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)	横
	51	ＳＫ16	第33図	b	後	Ⅴ群１ｃ類	－	－
	52	ＳＫ16		c	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	縦、横
	53	ＳＫ16		□	後末	Ⅵ群５類	－	－
	54	ＳＫ17	第34図	△	中(円)	Ⅲ群１ｂア類	LR	横

第４表　遺構内出土土器観察表（２）

文様	備考	遺物番号
横位結束羽状縄文	口唇外面にも縄文施文	1 a
横位結束羽状縄文		1 b
		2
		3
	壺形土器肩部	4
区画文内非結束羽状縄文充填、口唇２段刻み目文帯		5
無文、口唇２段刻み目文帯	波状口縁	6
縦位非結束羽状縄文（同一原体）	口唇平坦	7
口唇隆線貼付→縄文施文→口唇横Ｓ字短隆線・隆線貼付		8
		9
横位結束羽状縄文（同一原体）	口唇肥厚・平坦	10
口縁部隆線貼付、胴部３本一組の沈線文	キャリパー形、人面把手付	11
	口唇肥厚・平坦（内傾）	12
	横位回転施文痕跡あり	13
区画文内非結束羽状縄文充填	裏面・割れ口にアスファルト付着	14 a
区画文内非結束羽状縄文充填	裏面・割れ口にアスファルト付着	14 b
		15
無文、頸部屈曲部刻み目文帯		16 a
区画文内縦位非結束羽状縄文充填→斜格子目沈線、刻み目文帯		16 b
区画文内縦位非結束羽状縄文充填→斜格子目沈線、刻み目文帯		16 c
区画文内横位非結束羽状縄文充填		17 a
区画文内横位非結束羽状縄文充填	無文部やや薄い	18
	口縁外反	19
		20
直前段反撚り、口唇上面工具刻み目		21 a
		22
区画文内横位非結束羽状縄文充填	口唇肥厚・平坦（内傾）	17 b
区画文内横位非結束羽状縄文充填		17 c
横位非結束羽状縄文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	23
胴上部縦・横隆線貼付、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	24
胴上部縦・横沈線文	波状口縁、口唇肥厚	25
胴上部縦・横沈線文、波頂部隆線貼付	波状口縁の波頂部	26
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付、口唇Ｌ撚糸文施文	波状口縁	27
波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	28
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	29 a
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	29 b
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	29 c
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	29 d
胴上部３本一組の横位沈線文、波頂部のみ隆線貼付	波状口縁	29 e
胴上部２本一組の横位沈線文		30
胴上部２本一組の縦・横位沈線文、口唇鋸歯状沈線文	口唇肥厚	31
		32
口唇斜位工具刻み目	波状口縁、口唇肥厚	33 a
口唇斜位刻み目	口唇肥厚	33 b
口唇原体側面押圧斜位刻み目	波状口縁、口唇肥厚	34 a
口唇外面Ｒ原体横位側面押圧	折り返し口縁	35
横位結束羽状縄文、口唇外面Ｒ原体横位側面押圧	折り返し口縁	36
口縁部隆線貼付、胴部沈線文、口縁部横Ｓ字状隆帯貼付		37
口縁部隆線文	キャリパー形、波状口縁	38
		39
	底面網代痕	40
	底面網代痕	41 a
	底面網代痕	41 b
	底面網代痕	42
	底面周縁網代痕	43
		44
	底面周縁網代痕	45
	壺形土器肩部	46
区画文内縄文充填		47
	壺形土器肩部	48
	小波状口縁	49 a
		49 b
		49 c
区画文内縄文充填	口唇肥厚・平坦（内傾）、無文部やや薄い	50
刻み目文帯（４段以上）	口唇肥厚・平坦	51
区画文内非結束羽状縄文充填、赤色塗彩	壺形土器胴部	52
無文		53
口縁部隆線文貼付→縄文施文、口唇鋸歯状隆線文貼付	口唇肥厚	54

第４表　遺構内出土土器観察表（３）

遺物図	遺物番号	遺構	出土分布図		時期	分類	縄文	
							原体	回転方向
第67図	55ａ	SK19	第35図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横、斜(条横)
	55ｂ	SK40	第40図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	斜(条横)
	56	SK19			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	57	SK21	第36図	○	後末	Ⅵ群５類	－	－
	58	SK21		△	中(円)	Ⅲ群３ｂア類	LR	横
	59	SK23	第37図	◇	晩前	Ⅵ群３類	LR	横
	60ａ	SK24		ａ	後末	Ⅵ群２類	LR	横
	60ｂ	SK23＋SK24			後末	Ⅵ群２類	LR	横
	61	SK23		ｄ	後末	Ⅵ群２類	LR	縦、横
	62	SK23＋SK06	第30図、第37図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	63	SK23	第37図	ｃ	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
	64	SK23		ｂ	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	縦、横
第68図	65ａ	SK23＋SK24	第37図	□	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	65ｂ	SK23			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	65ｃ	SK24			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	65ｄ	SK23			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	66	SK24		ｅ	後	Ⅴ群１ａ類	－	－
	67ａ	SK29	第38図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	67ｂ	SK34			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	68	SK34		◎	後	Ⅴ群１ａ類	RL(多)	横
	69	SK40	第40図	◎	後末	Ⅵ群４類	RL	横
	70ａ	SK40		▽	中(大)	Ⅵ群４類	LR	縦、斜(条横)
	70ｂ	SK41			中(大)	Ⅵ群４類	LR	縦、斜(条横)
	71	SK41＋SK78		□	後末	Ⅵ群１類	LR	横
	72ａ	SK41		△	中(円)	Ⅲ群１ａイ類	RL	縦
	72ｂ	SK41			中(円)	Ⅲ群１類	RL	縦
	72ｃ	SK40＋SK41		△	中(円)	Ⅲ群１類	RL	縦
	73ａ	SK78			中(円)	Ⅲ群３ａイ類	RL	横
	73ｂ	SK41	第40図	ａ	中(円)	Ⅲ群３ａイ類	RL	横
第69図	74	SK36	第39図	◎	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横
第70図	75	SK36		○	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)+LR(多)	横、縦
	76	SK36		□	後	Ⅴ群１ａ類	LR	横
第71図	77	SK36		ａ	後	Ⅴ群２類	RL(多)+LR(多)	横
	78	SK36		ｂ	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
第72図	79ａ	SK42	第29図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横、斜(条横)
	79ｂ	SK42			後末	Ⅵ群４類	LR	横、斜(条横)
	79ｃ	SK42			後末	Ⅵ群４類	LR	横、斜(条横)
	79ｄ	SK42			後末	Ⅵ群４類	LR	横、斜(条横)
	80	SK50	第42図	ｂ	後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
	81ａ	SK50		ｃ	中(円)	Ⅲ群３ｂイ類	RL	横
	82	SK50		ｄ	中(大)	Ⅳ群	RL	縦
	83	SK51			中(円)	Ⅲ群１類	－	－
	84ａ	SK52	第43図	◇	早	Ⅰ群	－	－
	85	SK62	第44図	◇	弥前	Ⅶ群	R撚	斜
	86	SK62	第44図	△	中(円)	Ⅲ群１類	LR	横
	87	SK64	第45図	○	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
	88	SK64	第45図	△	中(円)	Ⅲ群２ａキ類	RL	横
	89	SK67	第46図	○	後末	Ⅵ群２類	LR	横
	90ａ	SK70	第47図	△	中(円)	Ⅲ群４類	RLR	横
	90ｂ	SK85	第48図	△	中(円)	Ⅲ群４類	RLR	横
	90ｃ	SQ104			中(円)	Ⅲ群４類	RLR	横
	91	SK71	第47図	□	中(円)	Ⅲ群２類	RL	横
	92	SK81	第43図	○	後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
第73図	93	SK62	第44図	○	後末	Ⅵ群１類	－	－
	94	SK65	第45図		後末	Ⅵ群１類	LR	横
第74図	95ａ	SK85	第48図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	95ｂ	SK85	第48図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	95ｃ	SK86	第49図	○	後末	Ⅵ群４類	LR	横
	95ｄ	SK87			後末	Ⅵ群４類	LR	横
	96	SK88	第49図	◎	後	Ⅴ群１ｃ類	－	－
	97	SK89	第27図	ｙ	後	Ⅴ群４ａ類	LR	横
	98	SK89		ｗ	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
	99ａ	SK94			弥後	Ⅷ群１類	LR	横
	100	SK96	第52図	▽	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
	101	SK115			後	Ⅴ群１ａ類	LR	横
	102	SK117	第21図	ｎ	中(円)	Ⅲ群４類	R｛LR.RL｝	横

第４表　遺構内出土土器観察表（４）

文様	備考	遺物番号
		55ａ
		55ｂ
		56
無文		57
口唇鋸歯状隆線文貼付	口唇肥厚、補修孔あり	58
口縁部羊歯状文	鉢形土器	59
入組帯状文	口縁外反、波状口縁	60ａ
入組帯状文	口縁外反、波状口縁	60ｂ
帯状区画文内縄文充填	小波状口縁	61
		62
区画文内非結束羽状縄文充填		63
区画文内非結束羽状縄文充填	壺形土器胴部	64
	鉢形土器	65ａ
	鉢形土器	65ｂ
	鉢形土器	65ｃ
	壺形土器	65ｄ
無文、横位沈線	壺形土器	66
	口縁やや内湾	67ａ
	口縁やや内湾	67ｂ
横位縄文帯	小型鉢形土器、口縁内湾	68
		69
		70ａ
		70ｂ
口唇連続貼り瘤文		71
胴上部横位沈線文、口唇RL（横）縄文施文	口唇肥厚	72ａ
胴上部横位沈線文		72ｂ
胴上部横位沈線文		72ｃ
口唇LR（縦・横）縄文施文	口唇肥厚	73ａ
	波状口縁	73ｂ
上半結節区画文、下半入組縄文帯、非結束羽状縄文充填	口唇突起４単位	74
結節区画文	口唇突起、台付鉢形土器	75
胴下半結節区画文、縄文充填	胴上半外反	76
横位非結束羽状縄文→多条沈線文、胴上半無文	台付鉢形土器、胴上半外反	77
	口唇肥厚、平坦（内傾）	78
		79ａ
		79ｂ
		79ｃ
		79ｄ
上部無文、沈線区画文内縄文充填		80
Ｒ撚紐押圧	波状口縁、波頂部肥厚	81ａ
原体開端結束痕あり		82
隆線文貼付、撚紐原体閉端刺突列		83
無文（貝殻によるナデ調整）		84ａ
横位ハケ目→斜位Ｒ撚糸文		85
隆線貼付→隆線上縄文施文		86
		87
横位平行沈線文、口唇縄文施文	口唇肥厚	88
横位縄文帯、無文帯内刺突文		89
		90ａ
原体開端結束痕あり		90ｂ
	粘土瘤残存	90ｃ
横位沈線文		91
	口縁内湾、口唇やや平坦	92
無文、口唇貼り瘤文		93
入組帯状文、貼り瘤列、胴部無文	波状口縁、装飾突起	94
	補修孔あり	95ａ
		95ｂ
		95ｃ
		95ｄ
口唇２段刻み目文帯	口唇肥厚・平坦（内傾）	96
		97
		98
		99ａ
縄文施文単位間隔広い、縦位帯縄文		100
区画文内縄文充填		101
原体開端結束痕あり		102

第５表　遺構外出土土器観察表（１）

遺物図	遺物番号	グリッド	層位	時期	分類	縄文原体	縄文回転方向
第79図	21ｂ	LT50	Ⅱ層	前初	Ⅱ群	RLLr	横
	21ｃ	LT51	Ⅱ層	前初	Ⅱ群	RLLr	横
	34ｂ	MB50	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ｂウ類	LR	横
	81ｂ	LT50	Ⅰ層、Ⅱ層、排土	中(円)	Ⅲ群３ｂイ類	RL	横
	84ｂ	LS51	Ⅰ層	早	Ⅰ群	－	－
	119	LR52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群１ａア類	RL	横
	120	LS51	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群１ｂイ類	LR	横
	121	LT48	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群１類	LR	横
	122	LT48	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群１類	LR	横
	123	MC50	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群１類	RL	横
	124	LQ49	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群１類	LR	横
	125	MA48	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ｂエ類	RLR	横
	126	LT52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ｂア類	RLR	横
	127	LP51	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群３ａア類	LR	横
	128	LT50	Ⅲ層	中(円)	Ⅲ群３ｂア類	LR異条	横
第80図	129	LQ52	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群２ａイ類	LR	横
	130ａ	LT51	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群３ａエ類	－	－
	130ｂ	LQ52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ａエ類	LR	横
	131	MB51	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ｂオ類	RL	横
	132	LQ52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群３ｂエ類	LR	横
	133	MB51		中(円)	Ⅲ群２ａキ類	RL	横
	134	LT48	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群２ａイ類	RL	横
	135	LP51	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群２類	RLR	横
第81図	136	LT50	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群２類	LR	横
	137	LT51	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群２類	RL	横
	138	MB48・MC49・MD48	Ⅰ層、排土	中(大)	Ⅲ群４類	LR	縦
	139	LT52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群４類	RLR	横
	140	LQ51	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群４類	LRL	横
	141	LP51	Ⅰ層	中(円)	Ⅲ群４類	L撚	縦
	142	LT52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群４類	RL	横
	143	LT52	Ⅱ層	中(円)	Ⅲ群４類	－	－
	144	LT51	Ⅰ層	中(大)	Ⅳ群	－	－
	145	MC49	Ⅰ層	中	Ⅳ群	－	－
	146	MC49	Ⅰ層	中(大)	Ⅳ群	LR	縦
第82図	147	LQ51・52	Ⅰ層、Ⅱ層	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)＋LR(多)	横
	148	MA49	Ⅱ層	後	Ⅴ群１ｂ類	RL(多)＋LR(多)	横
	149	MA48	Ⅲ層	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
	150	MA49	Ⅱ層	後	Ⅴ群３類	RL(多)＋LR(多)	横
	151	MA50	Ⅱ層	後	Ⅴ群４ａ類	RL(多)	横
	152	MA47	Ⅰ層	後	Ⅴ群１ｄ類	RL(多)＋LR(多)	横
	153	LQ52	Ⅱ層	後	Ⅴ群５類	－	－
	154	MA50	Ⅱ層	後	Ⅴ群４ａ類	RL	横
	155	表採		後	Ⅴ群５類	－	－
	156	LO49	排土	後	Ⅴ群５類	－	－
第83図	99ｂ	LT53	Ⅲ層	弥後	Ⅷ群１類	LR	縦
	99ｃ	MA50	Ⅱ層	弥後	Ⅷ群１類	RL	縦
	95ｅ	LT51	Ⅰ層	後末	Ⅳ群４類	LR	横
	157	LS51	Ⅰ層	後末	Ⅵ群２類	LR	横
	158	LT51	Ⅰ層	後末	Ⅵ群２類	LR	横
	159ａ	LT51	Ⅰ層	後末	Ⅳ群４類	RL	横
	159ｂ	LT51	Ⅱ層	後末	Ⅳ群４類	RL	横
	160	LT52	Ⅱ層	後末	Ⅳ群４類	LR	斜(条横)
	162	MA49	Ⅱ層	後末	Ⅳ群４類	LR	横、斜(条縦)
	163	LS50	Ⅰ層	後末	Ⅳ群４類	RL	横
	164	LR50	Ⅲ層	弥前	Ⅶ群	－	－
	165	LR52	Ⅰ層	弥後	Ⅷ群２類	L撚	斜
	166	LR52	Ⅰ層	弥後	Ⅷ群３類	L撚	縦
	167ａ	MD48	Ⅱ層	弥後	Ⅷ群３類	R撚	縦
	167ｂ	MD49	Ⅰ層	弥後	Ⅷ群３類	R撚	縦
	167ｃ	MC49	Ⅰ層	弥後	Ⅷ群３類	R撚	縦

第５表　遺構外出土土器観察表（２）

文様	備考	遺物番号
直前段反撚り		21ｂ
直前段反撚り		21ｃ
波頂部横位隆線貼付、口唇工具刻み目	波状口縁、口唇肥厚	34ｂ
口唇Ｒ撚紐押圧刻み目、横位隆線貼付、隆線上Ｒ撚紐原体側面押圧	波状口縁、波頂部肥厚	81ｂ
無文（貝殻によるナデ調整）		84ｂ
横位隆線貼付、口唇鋸歯状隆線貼付	波状口縁、波頂部肥厚	119
横位隆線貼付、口唇原体押圧刻み目	波状口縁、口唇肥厚	120
胴上部・縦・横・弧状隆線貼付		121
胴上部・縦・横・弧状隆線貼付		122
胴上部弧状隆線貼付		123
胴上部鋸歯状隆線貼付、隆線上縄文施文		124
胴上部隆線貼付、隆線上工具刻み目		125
口唇鋸歯状隆線貼付	折り返し口縁	126
口唇鋸歯状隆線貼付、隆線上縄文施文		127
口唇鋸歯状隆線貼付、隆線上工具刻み目	折り返し口縁	128
３本一組の横位沈線文、波頂部下沈線垂下、波頂部隆線貼付、口唇原体押圧刻み目	波状口縁	129
波頂部ボタン状貼付文、原体閉端刺突列	波状口縁	130ａ
口唇原体閉端刺突列	口唇肥厚	130ｂ
口唇上縄文施文	折り返し口縁	131
口唇上角棒状工具端刺突列横位２列	折り返し口縁	132
３本一組の横位沈線文、口唇上端縄文施文	口唇肥厚	133
横位沈線、口唇原体押圧刻み目	口唇肥厚	134
胴上部３本一組の縦位沈線文間に横位弧状の３本一組の肋骨状沈線文計６段		135
胴上部３本一組の縦位沈線文間に３本一組の横位肋骨状沈線文		136
２本一組の縦位沈線文間に２本一組の横位と弧状の肋骨状沈線文		137
		138
		139
		140
		141
		142
	底面網代文	143
口縁隆線貼付	鉢形土器	144
渦状沈線文	波状口縁	145
沈線区画文内縄文施文、刺突文、波頂部縦位隆線貼付	波状口縁	146
区画文内非結束羽状縄文充填	鉢形土器、口唇内面肥厚	147
区画文内非結束羽状縄文充填	壺形土器	148
沈線文		149
非結束羽状縄文	壺形土器	150
	壺形土器	151
横位刻み目文帯、台部横位非結束羽状縄文	台付鉢形土器	152
無文	台付鉢形土器	153
	高台あり	154
無文	上げ底	155
無文	口唇平坦調整、わずかに上げ底	156
帯状施文		99ｂ
帯状施文	底辺部突出、丸底気味	99ｃ
		95ｅ
入組帯状文、入組部刺突あり		157
入組帯状文	底辺部やや張り出し、わずかに上げ底	158
		159ａ
	わずかに上げ底	159ｂ
		160
		162
	底辺部稜不明瞭	163
変形工字文		164
		165
		166
		167ａ
		167ｂ
		167ｃ

第６表　石器観察表

図	番号	出土地点	層位	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	備考
75	103	SI03	埋土中	横型石匙	43	66	9	15.2	
	104	SI03		凹石	150	56	37	436.1	
	105	SI04		不定形石器	24	35	13	8.3	アスファルト付着
	106	SI04		縦型石匙	85	30	8	11.0	
	107	SI55	2	凹石	154	58	32	451.2	
76	108	SI80 SK117		磨製石斧	154	57	27	379.7	遺構間接合
	109	SK06		磨製石斧	38	35	11	21.4	
	110	SK13		縦型石匙	66	32	9	13.4	
	111	SK15	埋土中	不定形石器	33	19	6	3.4	上部折、石匙の一部か？
	112	SK16		二次加工のある剥片	43	26	14	11.8	ツールの基部
	113	SK16		縦型石匙	82	32	8	16.8	
	114	SK41		不定形石器	16	14	4	0.6	上部折
77	115	SK17		微小剥離痕のある剥片	65	40	13	18.2	アスファルト付着
	116	SK29		スクレイパー	104	76	30	174.7	
	117	SQ93		不定形石器	84	62	18	29.7	
78	118	SK89		凹石	113	84	55	595.7	
84	168	LQ52	Ⅱ	石鏃	25	15	4	1.1	
	169	LP51	Ⅰ	縦型石匙	98	29	17	22.1	
	170	LP52	Ⅰ	縦型石匙	55	29	13	10.1	
	171	LP51	Ⅰ	スクレイパー	73	38	13	27.9	
	172	LQ51	Ⅰ	不定形石器	24	37	4	3.3	
	173	LT48	Ⅰ	不定形石器	43	27	10	10.6	
	174	―	排土	不定形石器	57	53	19	50.8	
	175	LT49	Ⅲ	不定形石器	35	24	9	6.3	
	176	LR53	Ⅰ	不定形石器	33	37	9	10.9	
85	177	LT52	Ⅱ	不定形石器	40	73	11	30.8	
	178	LR49	Ⅰ	不定形石器	34	79	15	32.1	
	179	MA52	Ⅰ	不定形石器	66	49	23	65.1	
	180	LT51	Ⅱ	不定形石器	79	44	14	47.5	
	181	LP51	Ⅰ	不定形石器	60	41	14	23.8	
	182	LQ52	Ⅱ	不定形石器	31	53	11	13.8	
	183	MA50	Ⅱ	磨製石斧	67	36	8	33.9	
	184	MA50	Ⅰ	磨製石斧	46	26	10	19.7	
86	185	MA49	Ⅱ	石核	66	59	35	152.8	
	186	LR51	Ⅰ	石核	90	89	69	540.0	
87	187	LQ52	Ⅱ	礫器	84	113	36	380.0	
	188	MD47	Ⅱ	石錘	124	113	29	445.4	
	189	LT52	Ⅱ	凹石	187	86	32	701.9	
	190	LP51	Ⅰ	凹石	155	57	47	360.5	
	191	MA52	Ⅰ	石棒	210	101	86	2,140.0	

第７表　石器器種別出土点数一覧表

出土地点	剥片石器						剥片		石核	礫石器					合計
	石鏃	縦型石匙	横型石匙	スクレイパー	不定形石器	微小剥離痕のある剥片	二次加工のある剥片	剥片		磨製石斧	礫器	凹石	石錘	石棒	
SI03						2		1							3
SI04			1		1	2		1							5
SK06								1		1					2
SK07								1							1
SK13		1													1
SK15					1			1							2
SK16		1					1								2
SK17						1									1
SK21						1									1
SK24						1		1							2
SK29				1											1
SI30								1							1
SI38								1							1
SK41					1										1
SD47								1							1
SK51						1		1							2
SI55						1		7				2			10
SK62						1		1							2
SI80						4	3	16	2	1					26
SK81						1									1
SK89												1			1
SK117										1					1
SQ93					1										1
遺構内計	0	2	1	1	4	15	4	34	2	3	0	3	0	0	69
LO49								1							1
LP49						1		1							2
LP50							1	1							2
LP51		1		1	1							1			4
LP52		1				1		1							3
LQ51					1			1							2
LQ52	1				1			1			1				4
LQ53						1									1
LR49					1										1
LR51									1						1
LR52						1		1							2
LR53					1										1
LS49						1		2							3
LS52						1		1							2
LT47								1							1
LT48					1	1		1							3
LT49					1		2	2							5
LT51					1		1	3							5
LT52					1			3				1			5
MA48								3							3
MA49						2	1	10	1						14
MA50							2	6		2					10
MA52					1		1							2	4
MB48								1							1
MB49								1							1
MB50								1							1
MC50						1		1							2
MD47													1		1
排土					1										1
遺構外計	1	2	0	1	11	10	8	43	2	2	1	2	1	2	86
合計	1	4	1	2	15	25	12	77	4	5	1	5	1	2	155

第８表　同一個体土器の遺構間出土状況一覧表

遺物番号	遺物図	出土分布図		同一個体破片数　（太字は破片点数）					接合破片数　（太字は破片点数）	
1ａ・ｂ	第56図	第8図、第44図	△	ＳＩ03　**7**	ＳＫ112　**1**					
3	第56図	第8図	▽	ＳＩ03　**1**	ＳＫ17　**1**				ＳＩ03　**1**　＋　ＳＫ17　**1**	
11	第57図	第10図	▽	ＳＩ30　**26**	ＳＫ29　**2**				ＳＩ30　**26**　＋　ＳＫ29　**2**	
14ａ・ｂ	第58図	第11図、第12図	ａ	ＳＩ38　**1**	ＳＩ55　**1**					
16ａ・ｂ・ｃ	第58図	第12図、第31図	◎	ＳＩ55　**12**	ＳＫ13　**1**					
17ａ・ｂ・ｃ	第58図、第59図	第8図、第12図	□	ＳＩ03　**2**	ＳＩ55　**9**				ＳＩ03　**1**　＋　ＳＩ55　**7**	
21ａ	第58図	第12図	◇	ＳＩ55　**1**	ＳＫ51　**1**	ＳＤ47　**1**	ＳＫ79　**1**	ＳＩ80　**1**		
22	第58図	第14図	○	ＳＩ55　**1**	ＳＩ58　**2**					
25	第60図	第17図	ａ	ＳＩ80　**12**	ＳＮ121　**3**	ＳＮ122　**1**			ＳＩ80　**2**　＋　ＳＮ121　**3**	
29ａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅ	第61図	第18図	ｂ	ＳＩ80　**30**	ＳＫ89　**9**				ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ89　**5**	ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ89　**2**
31	第62図	第19図、第48図	ｃ	ＳＩ80　**3**	ＳＫ89　**1**	ＳＫ90　**9**	ＳＫ85　**1**		ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ90　**2**	ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ89　**1**
32	第62図	第20図	ｄ	ＳＩ80　**2**	ＳＫ90　**22**					
33ａ・ｂ	第62図	第21図	ｉ	ＳＩ80　**3**	ＳＮ121　**1**					
41ａ・ｂ	第65図	第21図	ｒ	ＳＩ80　**1**	ＳＫ90　**2**				ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ90　**1**	
49ａ・ｂ・ｃ	第66図	第31図、第32図、第33図	◎	ＳＫ10　**4**	ＳＫ14　**13**	ＳＫ16　**4**				
55ａ・ｂ	第67図	第35図、第40図	○	ＳＫ19　**4**	ＳＫ40　**1**	ＳＮ46　**1**				
60ａ・ｂ	第67図	第37図	ａ	ＳＫ23　**6**	ＳＫ24　**3**				ＳＫ23　**2**　＋　ＳＫ24　**2**	ＳＫ23　**4**　＋　ＳＫ24　**1**
62	第67図	第30図、第37図	○	ＳＫ23　**17**	ＳＫ06　**5**				ＳＫ23　**7**　＋　ＳＫ06　**1**	
65ａ・ｂ・ｃ・ｄ	第68図	第37図	□	ＳＫ23　**32**	ＳＫ24　**17**				ＳＫ23　**1**　＋　ＳＫ24　**3**	
67ａ・ｂ	第68図	第38図	○	ＳＩ30　**2**	ＳＫ29　**2**	ＳＫ34　**3**				
70ａ・ｂ	第68図	第40図	▽	ＳＫ41　**1**	ＳＫ20　**5**	ＳＫ40　**1**	ＳＮ26　**2**			
71	第68図	第40図	□	ＳＫ41　**2**	ＳＫ78　**1**				ＳＫ41　**1**　＋　ＳＫ78　**1**	
72ａ・ｂ・ｃ	第68図	第40図	△	ＳＫ41　**3**	ＳＫ40　**1**				ＳＫ41　**1**　＋　ＳＫ40　**1**	
73ａ・ｂ	第68図	第21図、第40図	ｋ	ＳＩ80　**7**	ＳＫ78　**1**	ＳＫ41　**1**				
90ａ・ｂ・ｃ	第72図	第47図、第48図	△	ＳＫ70　**2**	ＳＫ85　**1**	ＳＱ104　**1**				
95ａ・ｂ・ｃ・ｄ	第74図	第48図、第49図	○	ＳＫ85　**50**	ＳＫ86　**6**	ＳＫ87　**1**				
108	第76図	第28図	☆	ＳＩ80　**1**	ＳＫ117　**1**				ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ117　**1**	
―	―	第10図	▲	ＳＩ30　**2**	ＳＫ34　**2**					
―	―	第22図	あ	ＳＩ80　**11**	ＳＫ90　**1**				ＳＩ80　**1**　＋　ＳＫ90　**1**	
―	―	第22図	い	ＳＩ80　**12**	ＳＫ90　**1**					
―	―	第40図	お	ＳＫ41　**4**	ＳＫ78　**1**					
―	―	第42図	き	ＳＫ50　**1**	ＳＮ26　**1**					

第５章　まとめ

本遺跡の発掘調査では、縄文時代早期から弥生時代後期まで断続的に遺構、遺物が検出された。

第Ⅰ群土器は早期後葉の貝殻文系土器で、大館盆地での発見例が増えてきており、近接する下野Ⅱ遺跡での土坑墓発見とともに盆地西端にも行動範囲の広がりの痕跡を確認することができた。

第Ⅱ群土器は、大館盆地での土器編年研究においては資料が少ない前期初頭の土器で、該期の好資料を得ることができた。

本遺跡が居住地として利用されたのは中期後葉からである。丘陵上平坦面の最奥部にＳI80竪穴住居跡、南斜面にＳI30竪穴住居跡が構築される。どちらも廃絶時に床面に遺棄された遺物はなく、床面上に若干の埋め立て土が堆積した後で、原形を保った状態で大木８a式土器（第57図11、第63図37、第64図38）が遺棄されている。11と37が遺棄される直前まで竪穴住居の使用が推測されることから２棟が同時並存した時期があったと考える。

ＳI30竪穴住居跡では円筒上層ｅ式土器（第56図８）の破片が比較的広い範囲に分散した状態で出土し、11とほぼ同時の投棄と推測する。居住者が異型式土器を同時使用していたとまでは言えないが、廃絶直後の土器の遺棄、投棄行為において異型式土器が並存するものと考える。

ＳI80竪穴住居跡は、特殊ピットのある祭壇状遺構が奥壁に付属する楕円形の竪穴住居跡で、構造は円筒土器文化系の竪穴住居跡と考える。この竪穴住居跡では埋土下位から大木８a式土器の第63図37、第64図38が出土し、埋土中位から上位に形成されたSN122・SN121焼土遺構の周辺に円筒上層ｅ式土器の破片が散布していた。37、38の遺棄と第60図25、第61図29a～e、第62図31などの破片散布は同時の行為ではなく、それぞれの時点では異型式土器の並存はなかったと推測する。土器型式、竪穴住居跡埋没過程のいずれから見てもそれほど懸隔のない時期に、異なる土器文化をもつ人々がひとつの竪穴住居跡の窪地を前後して使用していたと推定する。

ＳI30竪穴住居跡出土の第57図11は、口縁部大突起内面に人面を模した文様が描かれた人面装飾付き深鉢形土器である。この種の土器は渡辺誠氏らの全国集成[註１]と目黒明彦氏、児玉準氏の県内例紹介[註２]があり、大畑台遺跡[註３]、萱刈沢貝塚[註４]に次いで縄文中期の土器では県内で３例目の出土である。大畑台遺跡、萱刈沢貝塚はともに円筒系と大木系の両方の土器が出土した遺跡である。両遺跡とも人面装飾付き土器は大木８a式の深鉢形土器の一部に人面が描かれたもので、本遺跡も同様である。

大畑台遺跡については冨樫泰時氏によって集落変遷の分析も試みられ、円筒土器文化から大木式土器文化への変容の具体相が提示されている[註５]。本遺跡では構造の異なる竪穴住居跡が同時並存し、廃絶後においてはＳI30竪穴住居跡で円筒上層ｅ式土器と大木８a式土器が共伴し、ＳI80竪穴住居跡では円筒上層ｅ式土器が大木８a式土器より後出的である。両竪穴住居跡での土器出土状況は、異なる土器文化の接触時における具体相の一例を示すものである。

なお、平坦面北端に並ぶSK95土坑、SK96土坑、SK97土坑、SK110土坑は、底径約２m、深さ1.5m以上と本遺跡検出土坑の中でも特に大型である。検出時の断面形は円筒形に近いが、開口放置により上部のオーバーハングする壁の崩落と周辺地表土の流入によって埋没が進んだことによるもので、本来は上端の開口部径が小さいフラスコ状土坑と推測する。形態と埋土が類似する例が萱刈

沢Ⅱ遺跡にあり[註６]、そのうちの１基では全体の４分の３ほどが埋没した後の窪地から大木９式並行土器が出土している。本遺跡のこれら４基の土坑は、中期後葉の集落に伴う貯蔵穴と推定する。土坑４基の前後関係や同時存在は不明である。本遺跡は中期後葉大木８a式期の竪穴住居２棟と貯蔵穴数基からなる集落であったと考える。

次に集落が営まれるのは後期中葉～後葉である。６棟の竪穴住居跡を検出した。

遺物出土状況から、廃絶時期は概ねＳＩ57竪穴住居跡・ＳＩ55竪穴住居跡→ＳＩ03竪穴住居跡・ＳＩ04竪穴住居跡→ＳＩ38竪穴住居跡→ＳＩ58竪穴住居跡の順と推定する。[註７] 存続時期もこの順に近く、後期中葉では同時存在は２棟～３棟、後期後葉ではＳＩ38竪穴住居跡とＳＩ58竪穴住居跡が並存する可能性はあるものの、ＳＩ58竪穴住居跡の廃絶時には単独棟であったと推定する。

また、ＳＩ58竪穴住居跡を切るSK62土坑では、破砕投入された十腰内Ｖ群の無文鉢形土器（第73図93）が出土し、十腰内Ｖ群期には集落が廃絶していたことがわかる。

遺跡内で多数検出された土坑の中には、後期の集落が継続していた間に構築された貯蔵穴もあると思われる。SK16土坑は廃絶後開口放置されたフラスコ状土坑であるが、半分ほど埋没した後に副葬土器と推測する深鉢形土器下半部（第66図53）を投入し埋め立てられている。当初は貯蔵穴として構築されたフラスコ状土坑の跡地が土坑墓に利用された例と考える。廃絶後に開口放置されたSK70土坑、SK71土坑、SK88土坑、SK89土坑、SK94土坑、SK115土坑も当初の構築目的は貯蔵穴と推定する。これらの中でSK16土坑、SK70土坑、SK88土坑、SK89土坑は底面に小土坑が付属する。本遺跡における後期中葉～後葉の貯蔵穴の特徴といえる。同様に小土坑が付属するSK34土坑も構築当初は同様の貯蔵穴であったと推測する。なお、SK34土坑、SK88土坑、SK89土坑もSK16土坑と同様に最終的には埋め立てられており、跡地を土坑墓として利用したと考える。

後期中葉～後葉の竪穴住居跡は、小規模なＳＩ57竪穴住居跡とＳＩ58竪穴住居跡が平坦面からやや下った縁辺部、規模が大きい４棟は斜面中位に構築されている。貯蔵穴は南斜面下部のSK16土坑、SK34土坑以外の６基は竪穴住居跡群よりも北側で、平坦面及びその縁辺部に馬蹄形に配列されている。SK70土坑とSK71土坑が重複するなど貯蔵穴どうしの変遷のほか、最終的に土坑墓として埋め立てられた土坑の中にも当初は貯蔵穴であった土坑がもっと多く含まれている可能性はある。

貯蔵穴以外の土坑は埋め立てによって埋没した土坑である。後期後葉の十腰内Ⅳ群土器５個体が出土したSK36土坑は、副葬土器を伴う土坑墓と推定する。SK36土坑はＳＩ38竪穴住居跡と推定範囲が重複する。SK36土坑出土の第69図74は胴下半部に襷がけ状区画文が描かれ本遺跡出土の十腰内Ⅳ群土器の中では最も後出的である。したがってＳＩ38竪穴住居跡廃絶後、あまり時間的懸隔を経ずに十腰内Ⅳ群期終末ころにSK36土坑が構築されたものと考える。[註８]

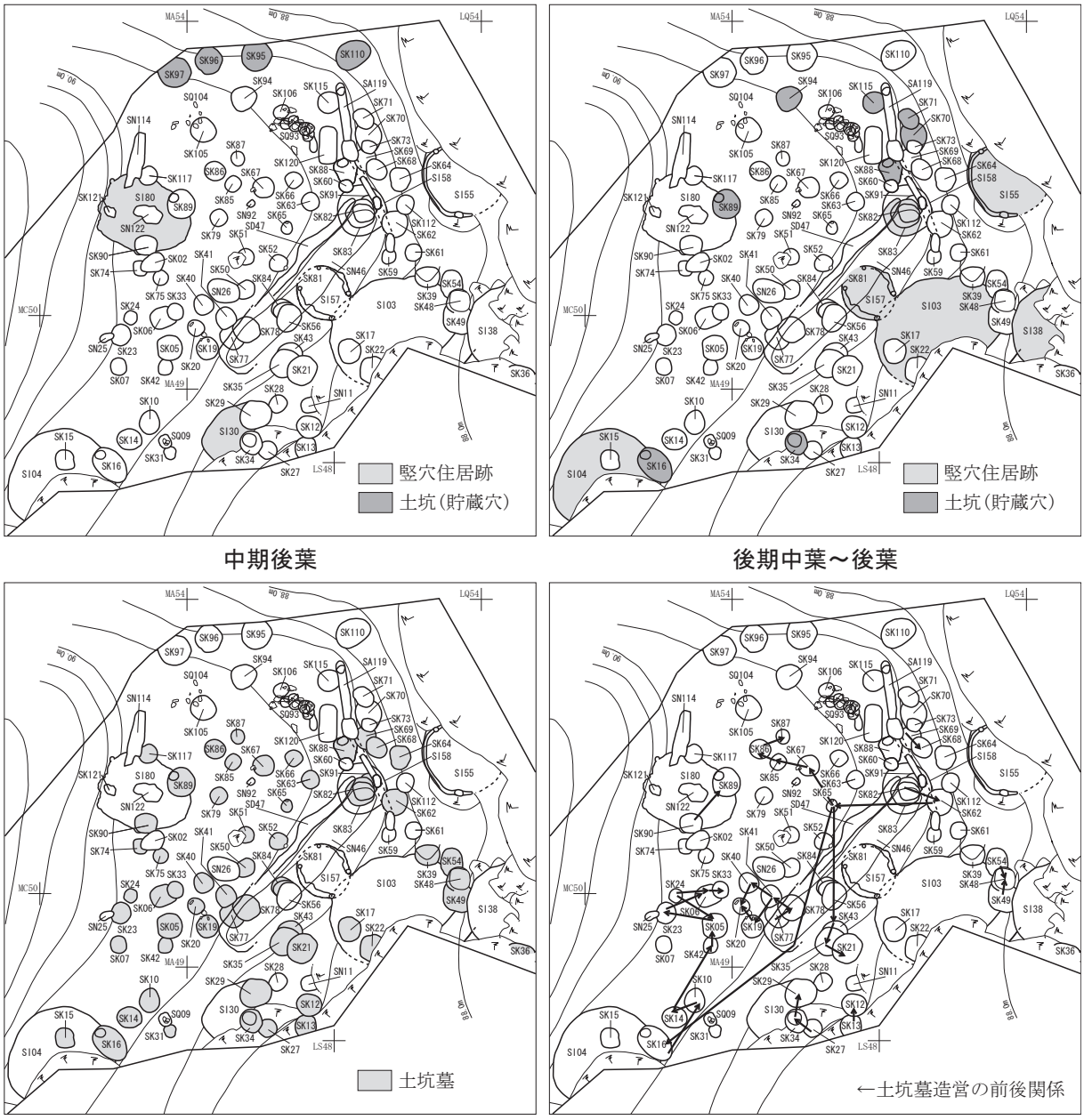
さらにSK36土坑が造営されたのは、ＳＩ38竪穴住居跡廃絶後も存続したと考えるＳＩ58竪穴住居の居住期間内である可能性が高く、ＳＩ58竪穴住居跡自体が、SK91土坑、SK83土坑、SK82土坑の変遷を経た位置に構築されていることから、これら３基の土坑がＳＩ58竪穴住居跡に先行するＳＩ38竪穴住居跡等の竪穴住居跡と並存した可能性もある。また、SK13土坑では埋め立て土にＳＩ55竪穴住居跡出土土器（第58図16a・c）と同一個体の破片（第58図16b）が混入することから、ＳＩ55竪穴住居跡廃絶後のＳＩ03竪穴住居・ＳＩ04竪穴住居の居住期間中に埋め立てられた可能性が高い。SK36土坑、SK91土坑、SK83土坑、SK82土坑、SK13土坑はいずれも土坑墓と推定されるので、ＳＩ03竪穴住

居・SI04竪穴住居の居住期間以降、SI58竪穴住居が廃絶するまで、居住地内埋葬が行われていたと考える。

SI58竪穴住居跡を最後に集落が廃絶した後、十腰内Ⅴ群期以降、晩期前葉大洞BC式期までには多数の土坑の構築・埋め立てが繰り返される。(註9) これらの土坑は、埋土や検出状況から土坑墓と推定する。(註10) 遺跡内から出土した晩期の精製土器で最も新しい土器がSK23土坑から出土した大洞BC式鉢形土器(第67図59)であることから、土坑墓造営の終焉も晩期前葉と推定する。

後期後葉の集落存続期間中に造営された土坑墓は竪穴住居跡と分布域が一致し、南斜面と南東尾根の南西斜面に造営されている。(註11) 生前に居住していた竪穴住居跡に近接して斜面中位に埋葬され、土坑墓の配列に規則性は認められない。

SI58竪穴住居跡埋め立て後、集落が廃絶し本遺跡が埋葬地に特化された後期末以降、居住地外埋



中期後葉　　後期中葉～後葉

後期後葉～晩期前葉(1)　　後期後葉～晩期前葉(2)

第93図　縄文時代時期別遺構変遷図

葬（＝埋葬地外居住）が行われようになると土坑墓の選地に変化が起こる。SK62土坑以降は、それまでの南斜面中位や南東部尾根上の南西斜面のように丘陵上平坦面から遠いところではなく、斜面上位、平坦面周縁部、さらに平坦面上にしだいに位置を移している。(註12)

晩期前葉、土坑墓群造営の終了時点では平坦面南側に径約4.5mの土坑空白域があり、それを取り囲む環状に土坑墓が分布する。個々の土坑墓を見れば当初から環状配列を意識した一定の順番で造営位置を移動させていったというよりは、斜面上位、平坦面周縁部から平坦面中央部に移る過程で初めは地形に由来した緩やかな半環状の分布から、重複を避けながら平坦面中央部に向って選地することで次第に造営可能な場所が狭まっていき、結果として環状配列となったと推測する。(註13)そして、中央部の土坑空白域が小さくなり、空白域を残して土坑墓を造営し続けることが困難になっていったのではないか。後期後葉の土坑墓造営当初はなかった環状選地規制が土坑墓を造営し続ける途中から顕在化し、祖先の故地への埋葬という目的＝規制よりも環状選地規制が優先されたことにより、それが困難になった本遺跡での埋葬を終了し、墓域の移転が行われたと考える。

本遺跡の土坑墓では、SK14土坑、SK23土坑、SK24土坑、SK42土坑、SK62土坑、SK85土坑における破砕土器片投入による埋め立てが注目される。類似例には、大館盆地南東端の丘陵に立地する家ノ後遺跡で、晩期土坑墓の埋土中位で敷き並べられたように破砕された土器片が出土した４基の土坑墓がある。(註14) 本遺跡例では土器片が埋土上位から下位まで分散しており、遺体上に敷き並べたのではなく、あたかも遺体上に破砕土器片を振り撒きながら埋め立てたような出土状況である。葬送に関わって使用した用具を日常生活の場に再び持ち帰ることを忌避し、遺体とともに送る目的を表現する祭祀行為として、積極的に土器を破砕し埋め立て投入土とともに墓坑に散布投入して遺体とともに埋納したとも考えられる。今後、土坑墓における土器副葬方式の一類型として、あるいは土坑墓認定の一要素として考慮されるべきと考える。

なお、本遺跡でも土器副葬、土器片破砕投入、大礫安置、土坑墓上部を地山土で覆うなど、各土坑墓の検出状況に若干のバラエティーが認められる。これは、埋葬に伴う祭祀の違いを反映したものと推測する。他の晩期墓域における埋葬方法のバラエティーと同様に、本遺跡においても被葬者の何らかの社会的ありかたの違いを反映したものと考えるが、具体的なことは今後の研究課題である。

本遺跡は後期中葉の十腰内Ⅲ群期以降に竪穴住居が造営され居住地となる。その後、竪穴住居の変遷はあるものの集落は継続する。後期後葉の十腰内Ⅳ群期には、竪穴住居と土坑墓が並存する居住地内埋葬が行われている。十腰内Ⅴ群期に至って竪穴住居が廃絶して、土坑墓のみが造営され、晩期前葉大洞ＢＣ式期まで墓域として利用が継続する。十腰内Ⅴ群期以降は、居住地と埋葬地が分離し、居住地外埋葬（＝埋葬地外居住）である。

この変化は、居住地かつ埋葬地であるもともとの場所から、現実的生活条件等により居住地を移動せざるを得ない場合でも、遺体の埋葬地としてかつての居住地に回帰し続けるということで、この地に居住した当人のみならず居住者を先祖とする子孫が先祖の故地を特別な場所として意識し続けていたことを意味すると考える。

本遺跡では、十腰内Ⅳ群期から大洞ＢＣ式期までで60基以上の土坑墓が造営されているが、長い年月の集積結果であり、土坑墓の造営機会＝死者の発生は、実時間にすれば相当に断続的であったと推測する。もともとが竪穴住居２～３棟に居住する小人数集団の葬送頻度としては妥当と考える。

また、本遺跡は後期～晩期の墓域でありながら、墓坑内外からの出土遺物はきわめて少なく、大量の遺物を包含する捨て場も形成されていない。大洞Ｂ式の精製土器はなく大洞ＢＣ式の精製土器も１点のみである。祭祀にかかわる土製品、石製品も出土しなかった。これは、本遺跡が個別の埋葬に伴う祭祀以外は行われない場所、埋葬地に特化された場所であったことを示唆する。本遺跡は、かつてこの地を居住地とした先祖を持つ小集団に断続的に訪れる埋葬機会に遺体とともに回帰する場所として、埋葬とそれに伴う祭祀のみを行って再び立ち去る場所として、長期間利用され続けたのではないか。家ノ後遺跡など、大量の遺物を包含する捨て場が形成される墓域の遺跡とは好対照である。

本遺跡発掘調査の意義は、縄文後期・晩期の居住・葬送・祭祀のありかたのシンプルな一典型例を知り得たことにあると考える。

註

1　吉本洋子・渡辺誠　「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究」　日本考古学第１号　1994(平成６)年　日本考古学協会　27頁～85頁

　吉本洋子・渡辺誠　「人面・土偶装飾付土器の基礎的研究(追補)」　日本考古学第８号　1999(平成11)年　日本考古学協会　51頁～85頁

2　目黒明彦、児玉準　「大畑台遺跡出土の人面装飾付深鉢形土器」　秋田考古学第47号　2001(平成13)年　秋田考古学協会　75頁～78頁

3　日本鉱業株式会社船川製油所　『大畑台遺跡発掘調査報告書』　1979(昭和54)年

4　八竜町教育委員会　『萱刈沢貝塚　山本郡八竜町萱刈沢貝塚発掘調査報告書』　1979(昭和54)年

5　冨樫泰時　「集落遺跡に視る土器文化の変容について－男鹿市大畑台遺跡の検討から－」あきた史記歴史論考集６　2007(平成19)年　秋田姓氏家系研究会編　秋田文化出版社　７頁～19頁

6　秋田県教育委員会　「一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡－」　秋田県文化財調査報告書第231集　1993(平成５)年

7　SI57竪穴住居跡の出土遺物はないがSI03竪穴住居跡に切られるので、SI03竪穴住居跡構築前には廃絶していた。また、SI03竪穴住居跡とSI38竪穴住居跡は近接し推定範囲が重なることから同時存在ではない。

　SI03竪穴住居跡の埋土下位から出土した破片第59図17cがSI55竪穴住居跡の埋土中位５層出土の17cと接合したことから、この破片がSI03竪穴住居跡の埋土下位に混入する時点ですでにSI55竪穴住居跡は自然流入により相当埋没していたと推定する。よって廃絶時期はSI55竪穴住居跡→SI03竪穴住居跡。

　SI04竪穴住居跡床面付近から出土した第56図５、６は十腰内Ⅲ群土器である。SI55竪穴住居跡の第58図16a・c、18、第58図17a、第59図17b・cも十腰内Ⅲ群土器であるが、床面よりやや上、廃絶後の流入土である９層より上位で出土した。したがって両竪穴住居跡ともに十腰内Ⅲ群期のうちには廃絶していたと推定する。土器出土層位の差から、SI55竪穴住居跡がやや先に廃絶したと推測する。よって廃絶時期はSI55竪穴住居跡→SI04竪穴住居跡。SI03竪穴住居跡とSI04竪穴住居跡は廃絶時期が近く、並存する時期があると推測する。

　SI38竪穴住居跡の埋土下位出土第58図14aと同一個体破片14bがSI55竪穴住居跡の埋土５層から出土したことから、この破片がSI38竪穴住居跡の埋土下位に混入する時点ですでにSI55竪穴住居跡は自然流入により相当埋没していたと推定する。よって廃絶時期はSI55竪穴住居跡→SI38竪穴住居跡。

　SI04竪穴住居跡の埋土下位に遺棄された第56図７は同種原体を回転方向を変えて施文した非結束羽状縄文で十腰内Ⅲ群土器、SI38竪穴住居跡の埋土下位に遺棄された第56図10は２種類の原体による非結束羽状縄文で十腰内Ⅳ群土器で、７より10が後出的である。よって廃絶時期はSI04竪穴住居跡→SI38竪穴住居跡。

　SI38竪穴住居跡出土第58図12は第56図10と破片が混在して出土した。12はSK36土坑出土粗製深鉢形土器第71図78と口縁や器壁のつくりが類似する。

　SK36土坑の第71図78と共伴のSK36土坑出土第69図74・第70図75・76と、SI04竪穴住居跡で第56図７と共伴した第56図５・６とを比べると、５・６は、区画文に充填される非結束羽状状文が２種類の原体を使用しており十腰内Ⅳ群的であるが、器形や文様は十腰内Ⅲ群である。第69図74、第70図75・76は十腰内Ⅳ群の主体的土器であり、74・75・76が後出的である。したがって、第58図12は、第56図５・６より後出的である。これは12と共

伴した第56図10が５、６と共伴した７より後出的としたことと整合する。

ＳＩ58竪穴住居跡はＳＫ62土坑に切られる。ＳＫ62土坑では破砕投入された十腰内Ｖ群土器の第73図93が出土した。したがってＳＩ58竪穴住居跡は十腰内Ｖ群期には廃絶し埋め立てられていたことがわかる。

ＳＩ58竪穴住居跡埋め立て土に混入していた第58図22はＬＲ単節斜縄文が横位回転施文された深鉢形土器の破片で、ＳＩ38竪穴住居跡廃絶後の埋土に混入している第58図12、14aよりも後出的であることから、廃絶時期はＳＩ38竪穴住居跡より下がり、十腰内Ｖ群期に廃絶したと推定する。よって廃絶時期はＳＩ38竪穴住居跡→ＳＩ58竪穴住居跡。

竪穴住居跡の立地や構造はＳＩ55竪穴住居跡とＳＩ57竪穴住居跡、ＳＩ03竪穴住居跡とＳＩ04竪穴住居跡が類似し、ＳＩ57竪穴住居跡がＳＩ03竪穴住居跡に切られることから、ＳＩ57竪穴住居跡とＳＩ55竪穴住居跡の構築が先行し、ＳＩ03竪穴住居跡とＳＩ04竪穴住居跡が後続すると考えられる。

廃絶はＳＩ55竪穴住居跡よりＳＩ03竪穴住居跡、ＳＩ04竪穴住居跡が遅く、ＳＩ03竪穴住居跡はＳＩ57竪穴住居跡廃絶後の構築が明らかであるので、ＳＩ57竪穴住居跡、ＳＩ55竪穴住居跡よりＳＩ03竪穴住居跡、ＳＩ04竪穴住居跡が遅いと推定する。さらにＳＩ38竪穴住居跡がＳＩ04竪穴住居跡より遅く、ＳＩ58竪穴住居跡がＳＩ38竪穴住居跡より遅いと推定することから、ＳＩ57竪穴住居跡、ＳＩ55竪穴住居跡→ＳＩ03竪穴住居跡、ＳＩ04竪穴住居跡→ＳＩ38竪穴住居跡→ＳＩ58竪穴住居跡の変遷を想定する。

8　本遺跡において後期後葉から晩期前葉にかけての土坑墓と推定する土坑から出土した土器にはＳＫ36土坑出土土器より古いものはないので、出土土器から見るとＳＫ36土坑が土坑墓群形成の端緒となった遺構である可能性がある。ただし、埋め立てによって埋没している土坑で帰属時期不明のものの中には、後期中葉から後葉に竪穴住居と並存して造営された土坑墓が含まれている可能性はある。

9　第４章第２節２土坑の註１、註２、註３、註６で個別に遺構・遺物の変遷を推定し、註７で出土土器の前後関係を推定した。これをもとに遺構の埋没時期を次のように推定する。

・後期後葉（十腰内Ⅳ群期）
　ＳＫ36土坑→ＳＫ91土坑→ＳＫ83土坑→ＳＫ82土坑→
・後期後葉（十腰内Ⅳ群期～十腰内Ｖ群期）
　→ＳＩ58竪穴住居跡→ＳＫ77土坑→
・後期末（十腰内Ｖ群期）
　→ＳＫ62土坑→ＳＫ78土坑→ＳＫ41土坑→
・後期末晩期初頭（十腰内Ｖ群期～大洞Ｂ式期）
　→ＳＫ65土坑→ＳＫ10土坑→ＳＫ67土坑→ＳＫ16土坑→ＳＫ14土坑→ＳＫ42土坑・ＳＫ85土坑→
・晩期前葉（大洞Ｂ式期）
　→ＳＫ05土坑→ＳＫ19土坑・ＳＫ40土坑・ＳＫ86土坑→ＳＫ20土坑・ＳＫ87土坑→
・晩期前葉（大洞ＢＣ式期以降）
　ＳＫ23土坑・ＳＫ24土坑→ＳＫ06土坑→ＳＫ33土坑

10　ＳＫ16土坑、ＳＫ36土坑、ＳＫ65土坑は副葬品と考える完形・半完形土器が出土した。ＳＫ19土坑、ＳＫ20土坑、ＳＫ33土坑、ＳＫ40土坑、ＳＫ41土坑、ＳＫ67土坑は抱石または墓標石として安置したと推測する大礫が土坑底面付近や埋土上面で出土した土坑である。ＳＫ31土坑も同様の礫が出土した。ＳＫ14土坑、ＳＫ23土坑、ＳＫ24土坑、ＳＫ42土坑、ＳＫ62土坑、ＳＫ85土坑は、埋め立ての際に土器を破砕しその破片を埋め立て土とともに投入する「破砕土器片投入」が行われた土坑である。ＳＫ05土坑、ＳＫ06土坑、ＳＫ33土坑、ＳＫ77土坑、ＳＫ78土坑は、検出面で埋土最上部にあたかも土坑に蓋をするかのように地山土を投入して埋め立てている土坑である。ＳＫ12土坑、ＳＫ21土坑、ＳＫ54土坑、ＳＫ68土坑、ＳＫ69土坑、ＳＫ81土坑、ＳＫ117土坑、貯蔵穴の跡地を再利用したＳＫ88土坑、ＳＫ89土坑も同様に地山土の堆積が認められた。以上の29基は土坑墓と考える。

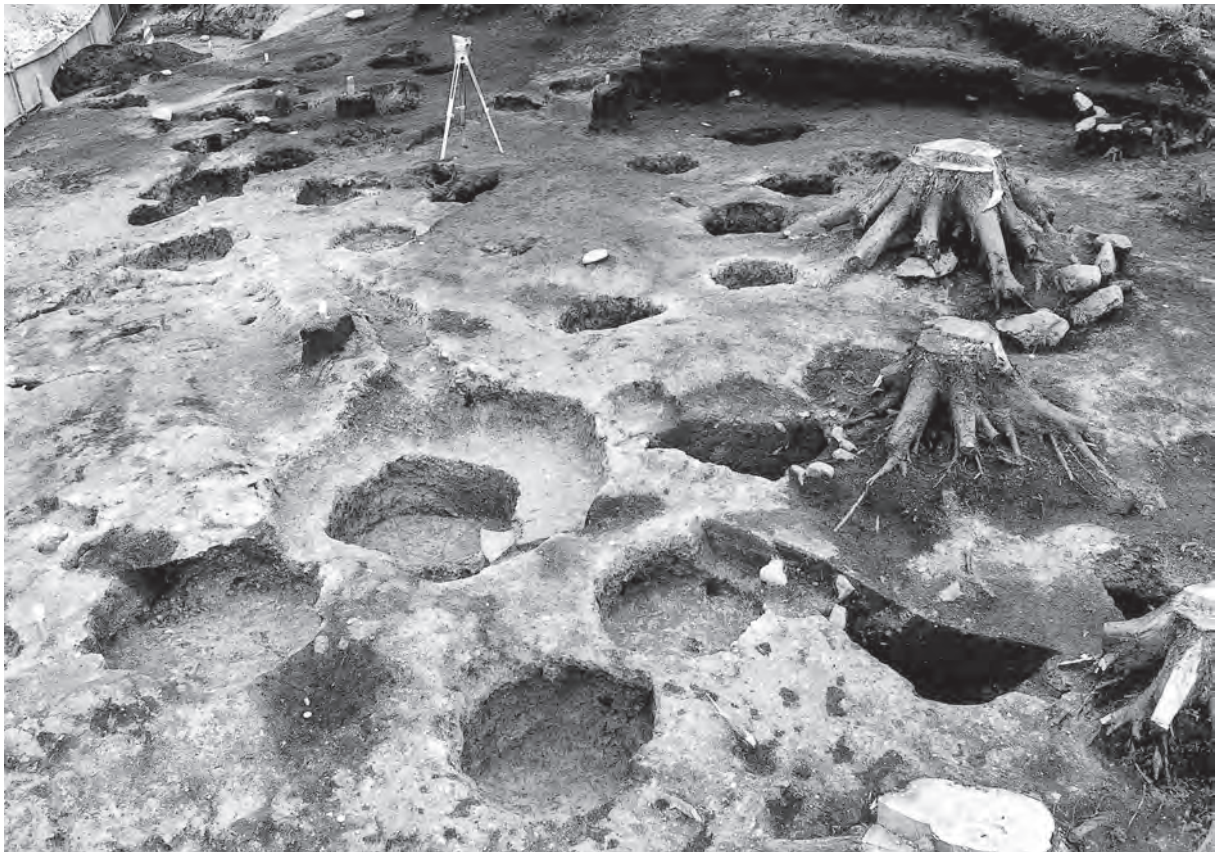
さらに、埋土全体が地山土で土坑掘削土の埋め戻しと推測するＳＫ39土坑、ＳＫ48土坑、ＳＫ49土坑、ＳＫ84土坑、ＳＫ91土坑、埋め立てによる埋没で規模、形態が土坑墓とした土坑と類似するＳＫ07土坑、ＳＫ10土坑、ＳＫ13土坑、ＳＫ15土坑、ＳＫ17土坑、ＳＫ22土坑、ＳＫ27土坑、ＳＫ29土坑、ＳＫ35土坑、ＳＫ43土坑、ＳＫ50土坑、ＳＫ51土坑、ＳＫ52土坑、ＳＫ61土坑、ＳＫ63土坑、ＳＫ64土坑、ＳＫ66土坑、ＳＫ74土坑、ＳＫ75土坑、ＳＫ79土坑、ＳＫ82土坑、ＳＫ83土坑、ＳＫ86土坑、ＳＫ87土坑、ＳＫ90土坑、貯蔵穴の跡地を再利用したＳＫ34土坑の計26基も土坑墓の可能性が高い土坑と考える。よって以上の合計60基を土坑墓と推定する。

（126 頁へ続く）

1　遺跡全景航空写真（南から）

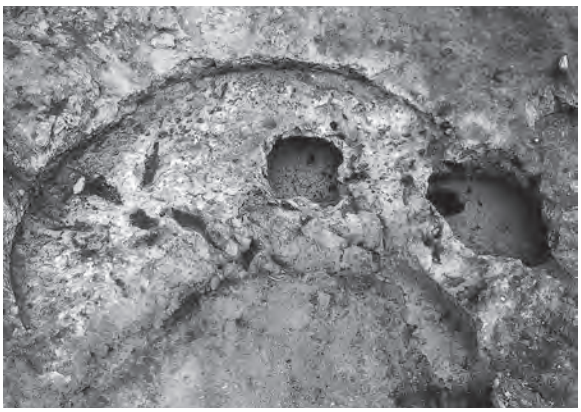
2　遺跡全景航空写真（北東から）

1　遺跡近景（東から）



2　土坑群検出状況（東から）

1　SI03竪穴住居跡完掘状況（南西から）



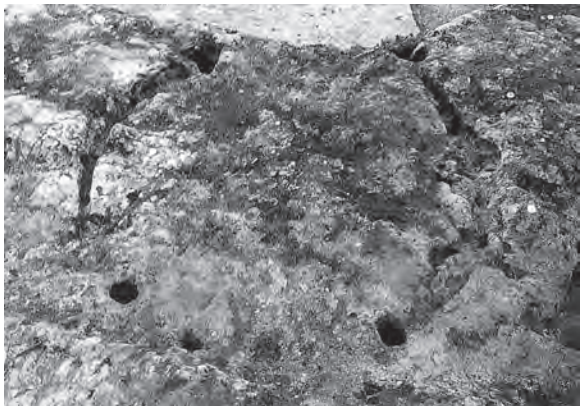
2　SI04竪穴住居跡完掘状況（南東から）

3　SI30竪穴住居跡完掘状況（南から）

4　SI04、SI30竪穴住居跡完掘状況（東から）

5　SI38竪穴住居跡完掘状況（南西から）

6　SI55竪穴住居跡完掘状況（東から）



7　SI57竪穴住居跡完掘状況（北西から）

8　SI58竪穴住居跡、SK82・83・91土坑完掘状況（南から）

1　ＳＩ80竪穴住居跡完掘状況（西から）

2　ＳＩ80竪穴住居跡検出状況（南から）

3　ＳＩ80竪穴住居跡炉跡完掘状況（南から）

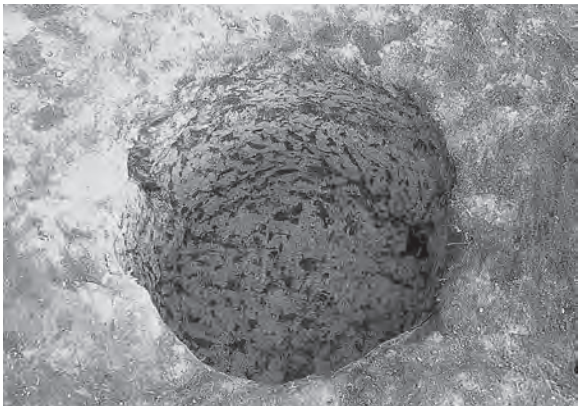
4　ＳＩ80竪穴住居跡祭壇状遺構完掘状況（東から）

5　ＳＩ80竪穴住居跡遺物出土状況（南東から）

1　SK01土坑完掘状況（東から）

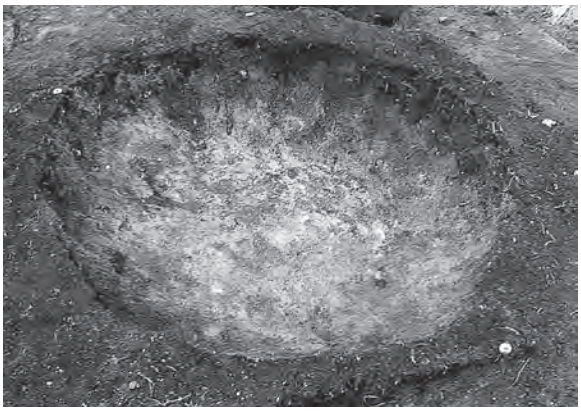
2　SK05土坑完掘状況（南東から）

3　SK06・33土坑完掘状況（北から）



4　SK07土坑完掘状況（南から）

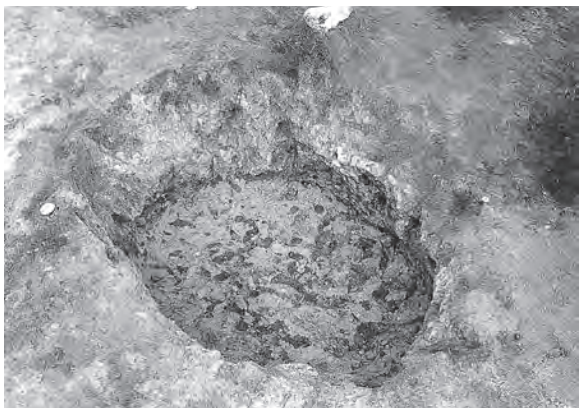
5　SK10土坑完掘状況（東から）



6　SK12土坑完掘状況（南から）

7　SK13土坑断面土層（南から）

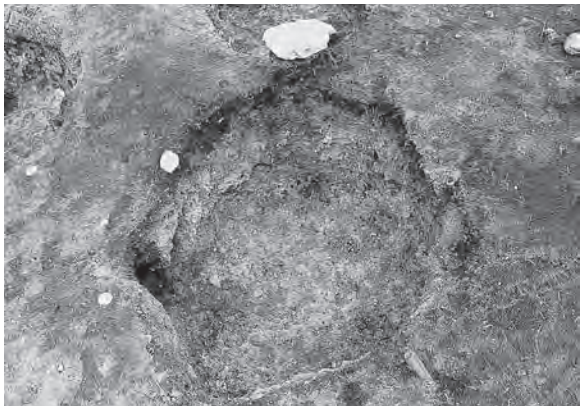
8　SK13土坑完掘状況（南から）



1　SK14土坑完掘状況（南東から）

2　SK15土坑完掘状況（南から）

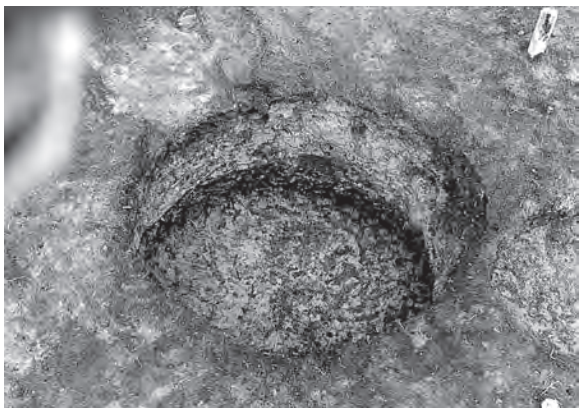
3　SK16土坑完掘状況（南東から）



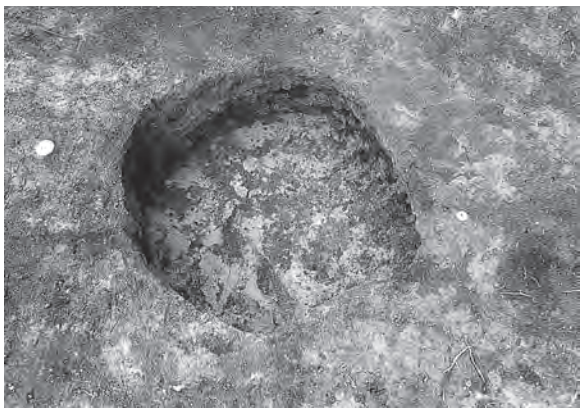
4　SK19土坑完掘状況（南東から）

5　SK20土坑完掘状況（北東から）

6　SK21・35・43土坑完掘状況（南東から）



7　SK23土坑完掘状況（東から）

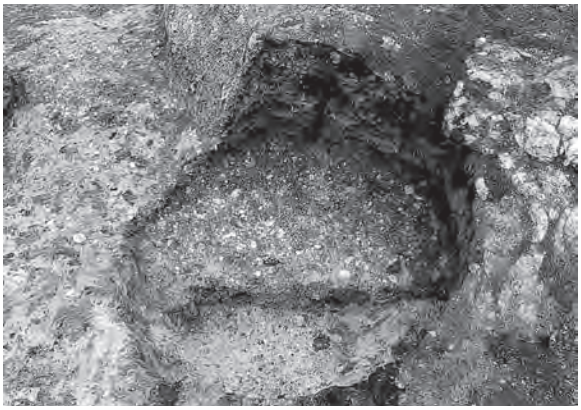


8　SK24土坑完掘状況（北東から）

1　SK27・34土坑、SK28・29土坑完掘状況（南から）

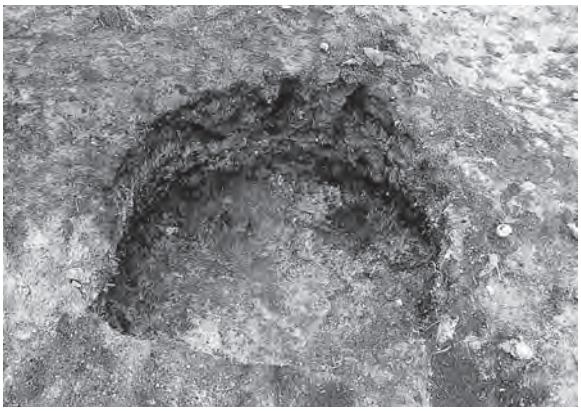
2　SK34土坑完掘状況（南西から）

3　SK36土坑遺物出土状況（南から）



4　SK39土坑完掘状況（東から）

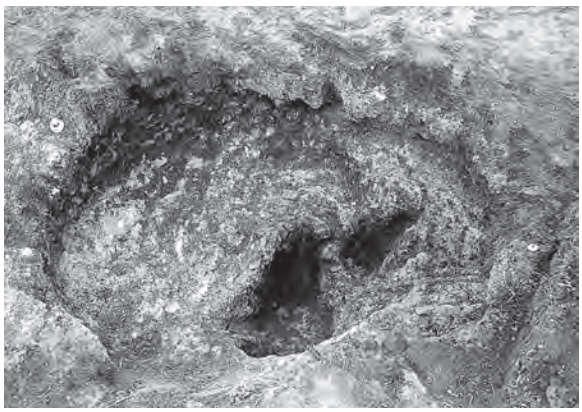
5　SK40土坑検出状況（北東から）



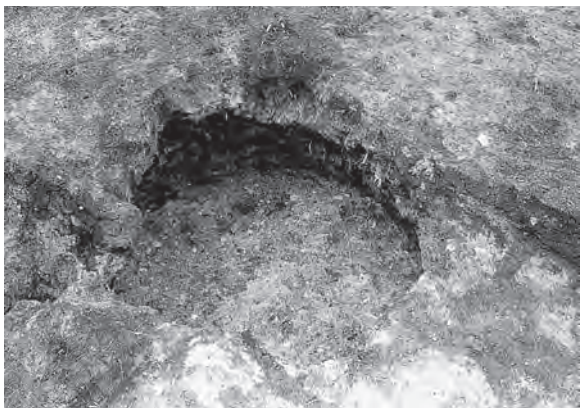
6　SK40土坑完掘状況（北から）

7　SK42土坑完掘状況（北から）

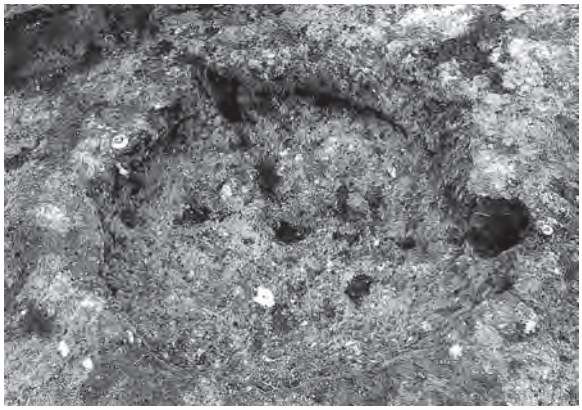
8　SK48・49土坑完掘状況（南東から）



1　SK50土坑完掘状況（東から）

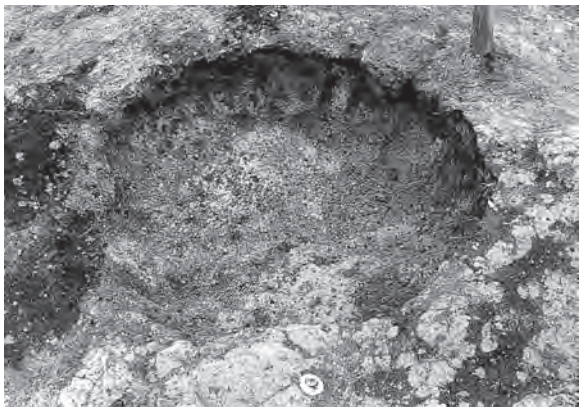


2　SK51土坑完掘状況（南東から）



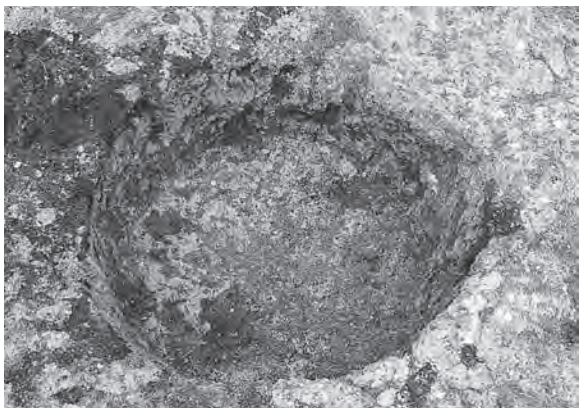
3　SK52土坑完掘状況（南西から）

4　SK54土坑完掘状況（東から）

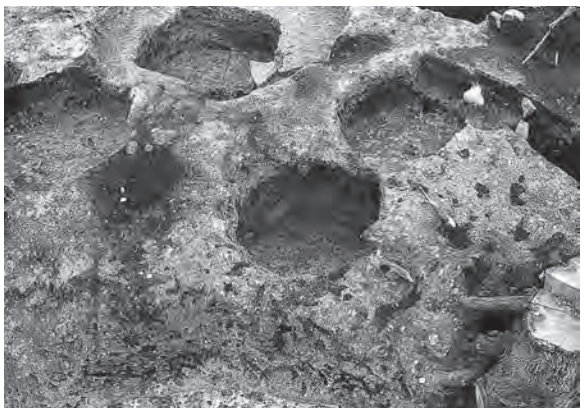


5　SK61土坑完掘状況（東から）

6　SK62土坑完掘状況（南東から）

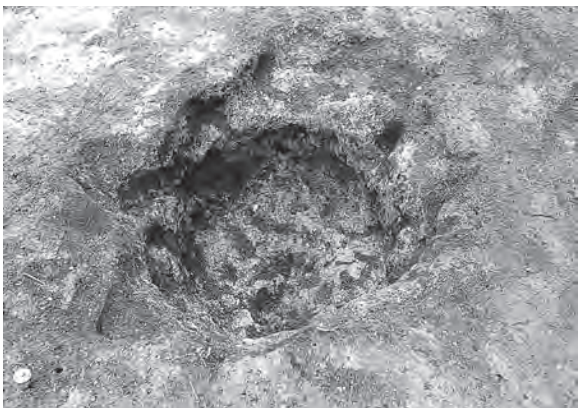


7　SK63土坑完掘状況（東から）



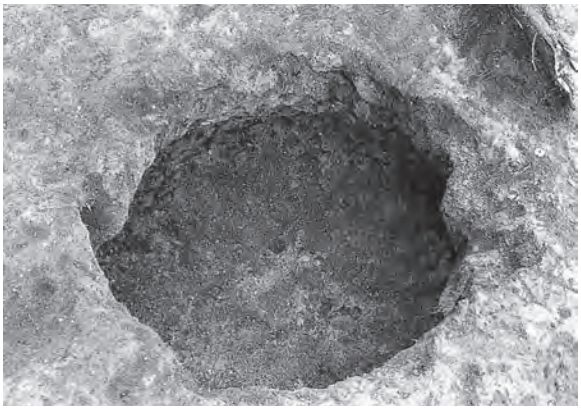
8　SK64土坑完掘状況（東から）

1　SK65土坑遺物出土状況（西から）

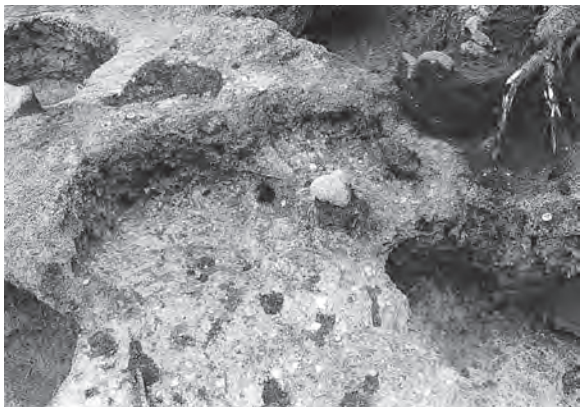


2　SK65土坑完掘状況（北から）

3　SK66土坑完掘状況（南から）

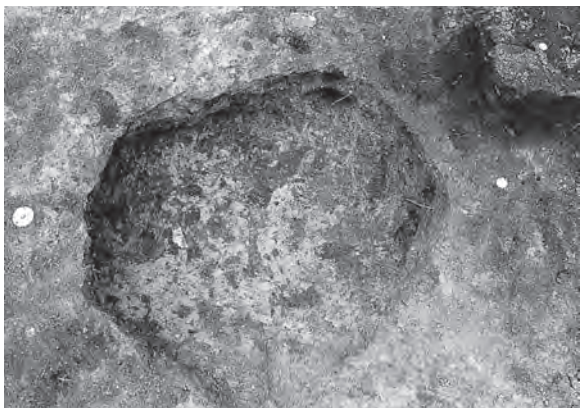


4　SK67土坑完掘状況（南から）

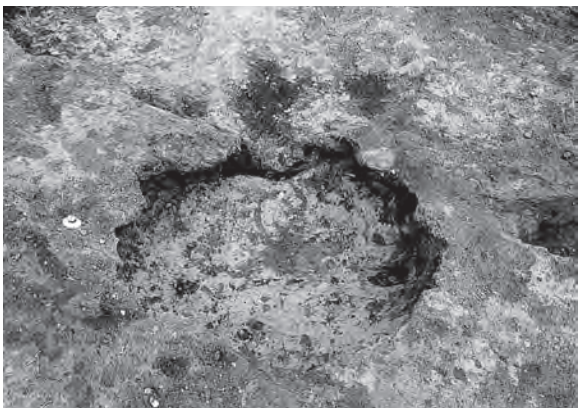


5　SK68・69土坑完掘状況（東から）

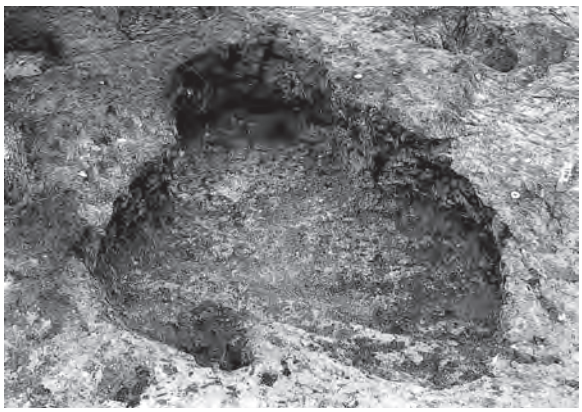
6　SK70・71土坑完掘状況（東から）



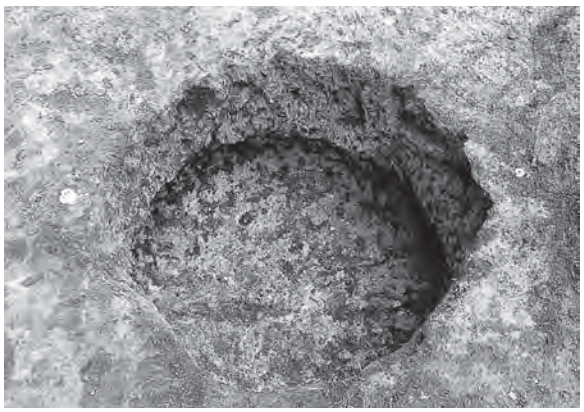
7　SK74土坑完掘状況（東から）



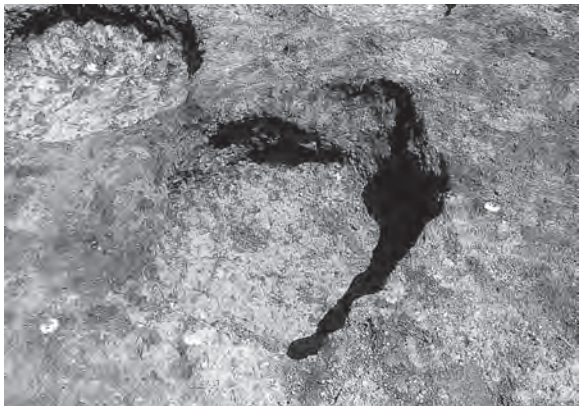
8　SK75土坑完掘状況（南東から）



1　SK77・78・41土坑完掘状況（南東から）

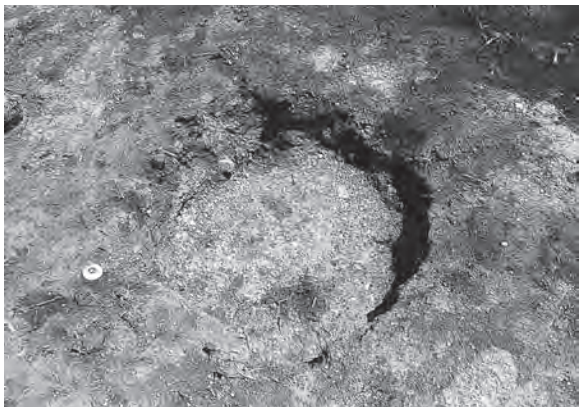


2　SK79土坑完掘状況（南から）



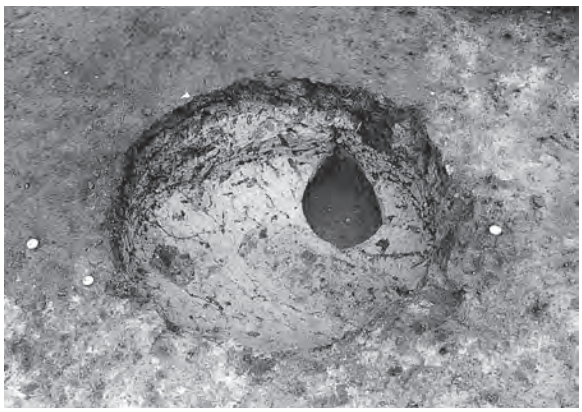
3　SK85土坑完掘状況（南から）

4　SK86土坑完掘状況（南から）

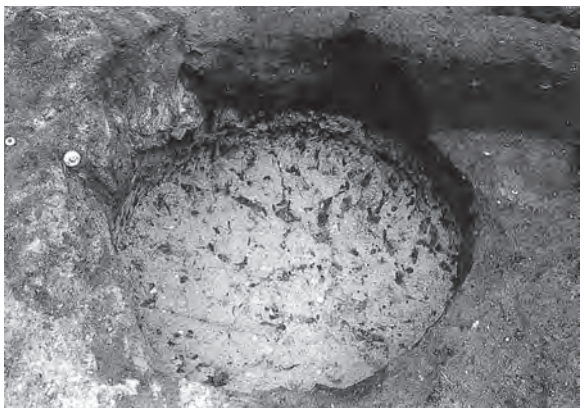


5　SK87土坑完掘状況（南から）

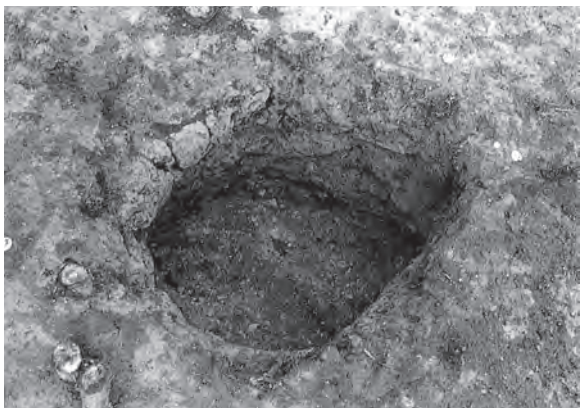
6　SK88土坑完掘状況（東から）



7　SK89土坑完掘状況（東から）



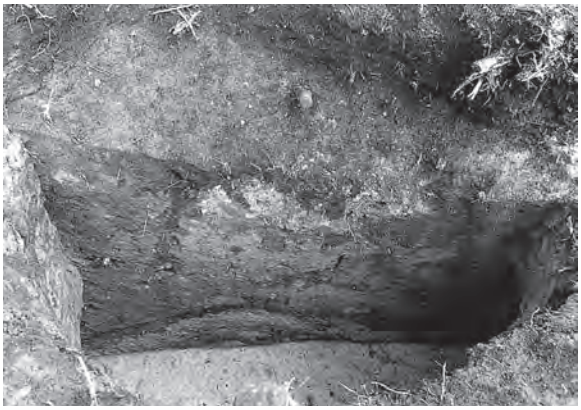
8　SK90土坑完掘状況（東から）



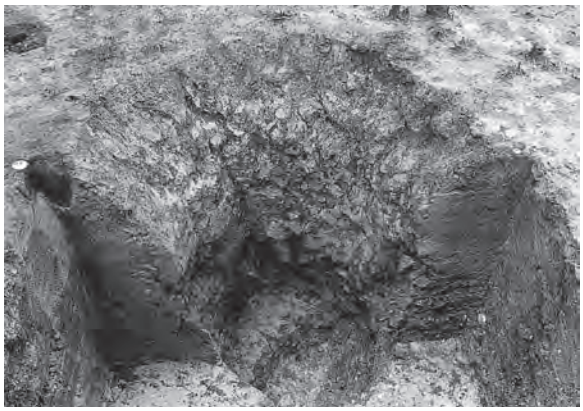
1　SK94土坑完掘状況（北西から）

2　SK95土坑断面土層（南から）

3　SK96土坑断面土層（南から）

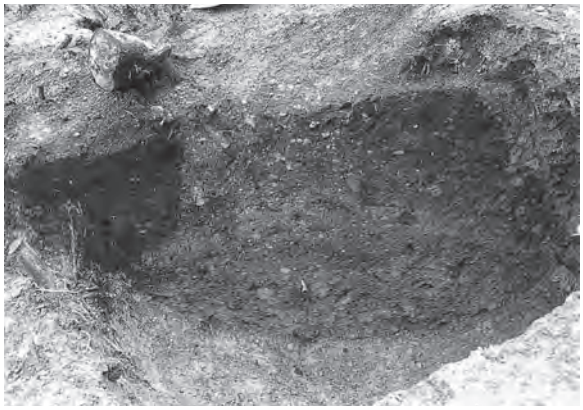


4　SK97土坑断面土層（南から）



5　SK105土坑完掘状況（東から）

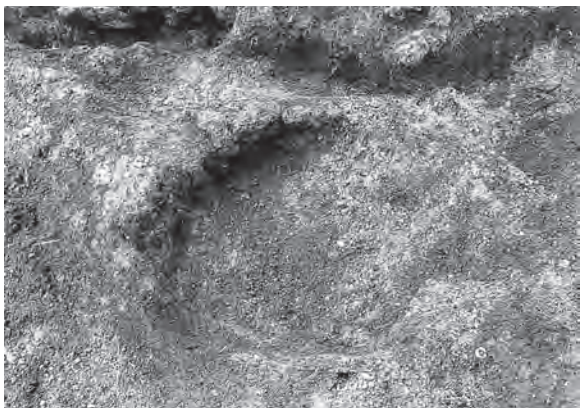
6　SK110土坑完掘状況（東から）



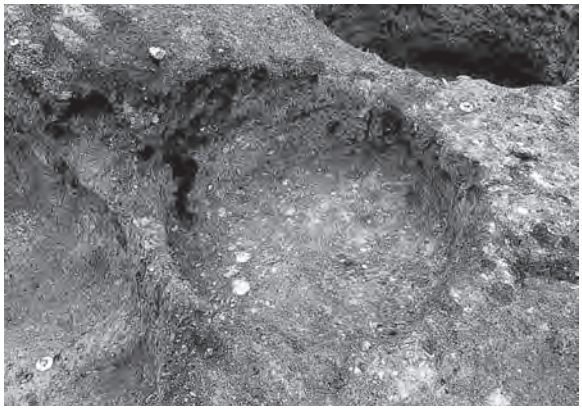
7　SK115土坑断面土層（北から）

8　SQ09配石遺構精査状況（東から）

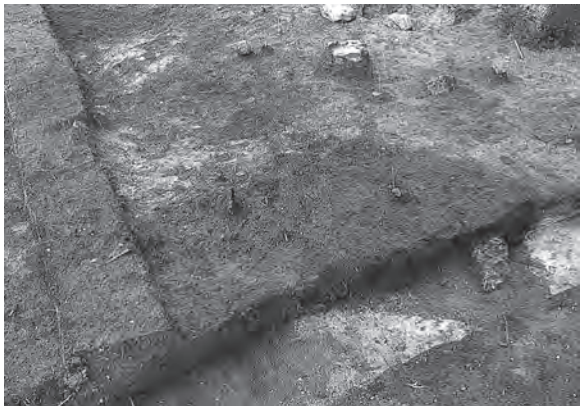
1　SK02土坑断面土層（南東から）



2　SK106土坑完掘状況（北から）



3　SK112土坑完掘状況（南東から）

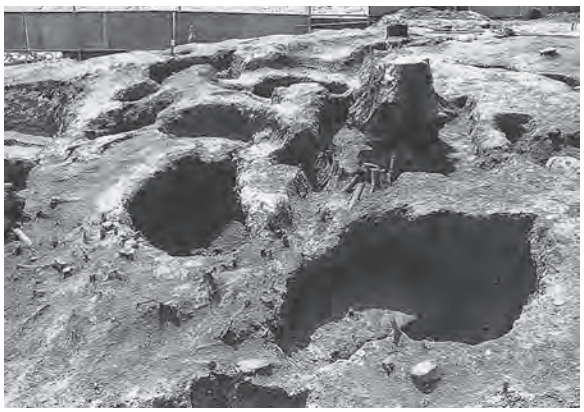


4　SN26焼土遺構検出状況（北から）

5　SN114焼土遺構断面土層（南から）

6　SQ93配石遺構精査状況（東から）

7　SQ104配石遺構精査状況（南から）



8　SD119溝跡完掘状況（北から）

1　SI04竪穴住居跡出土土器

2　SI38竪穴住居跡出土土器

3　SI30竪穴住居跡出土土器

4　SI30竪穴住居跡出土土器

5　SI55竪穴住居跡出土土器

6　SI30竪穴住居跡出土土器　人面突起

7　SI55竪穴住居跡出土土器

8　SI55竪穴住居跡出土土器

1　SI80竪穴住居跡出土土器

2　SI80竪穴住居跡出土土器

3　SK16土坑出土土器

4　SK23土坑出土土器

5　SK36土坑出土土器

6　SK36土坑出土土器

7　SK36土坑出土土器

8　SK36土坑出土土器

1　SK36土坑出土土器

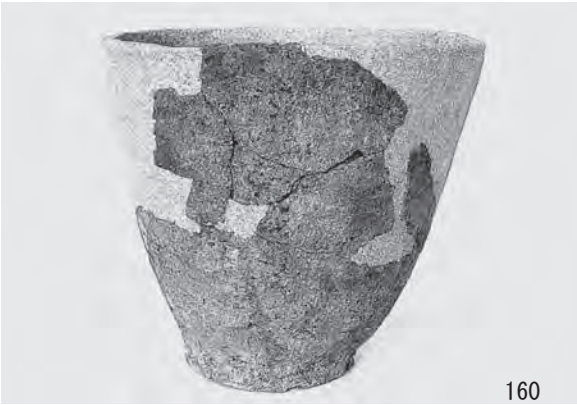
2　SK62土坑出土土器

3　SK65土坑出土土器

4　SK85土坑出土土器

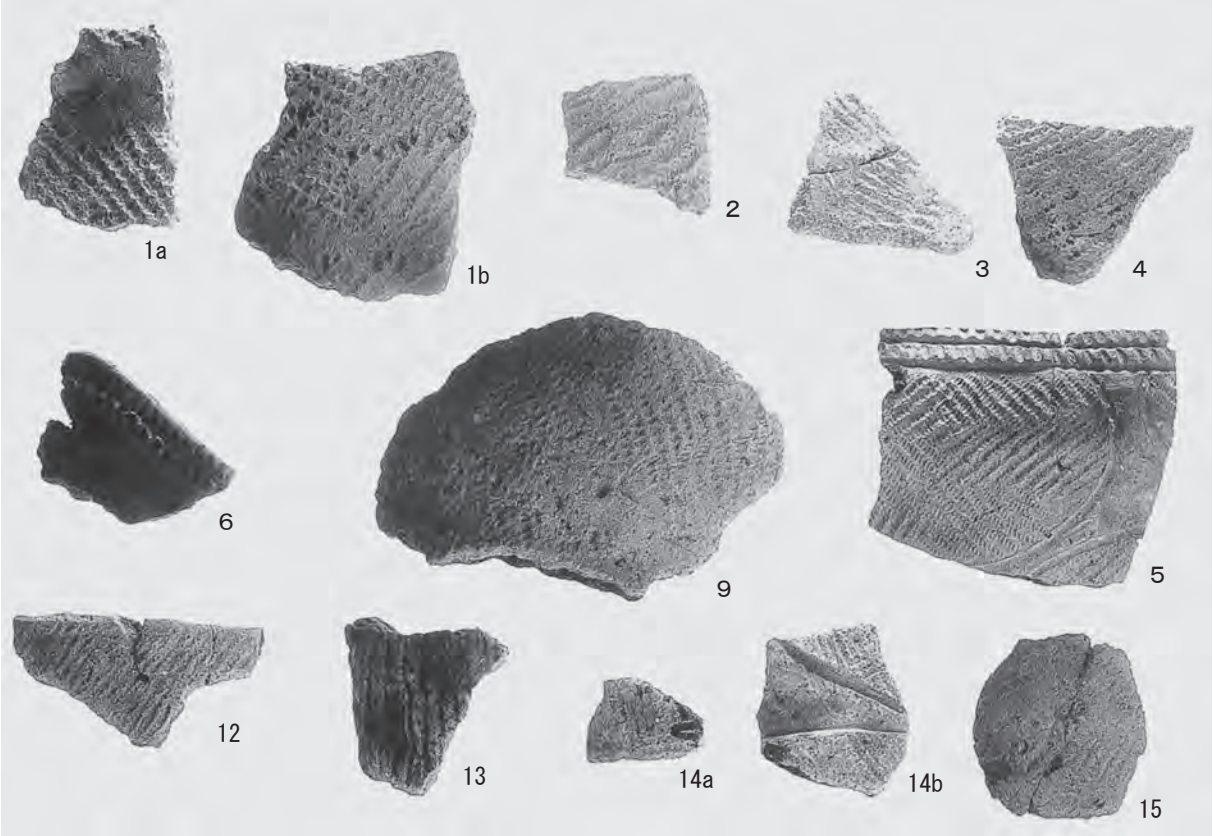
5　遺構外出土土器

6　遺構外出土土器

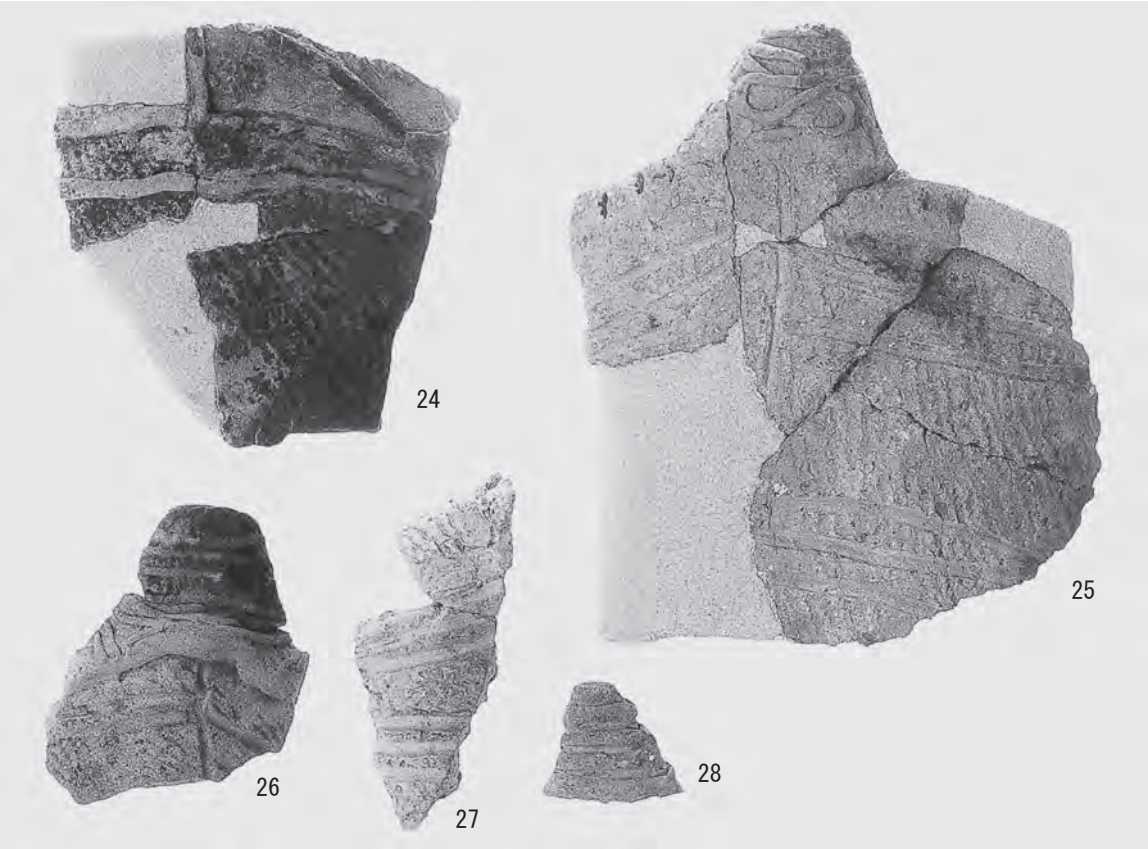


7　遺構外出土土器

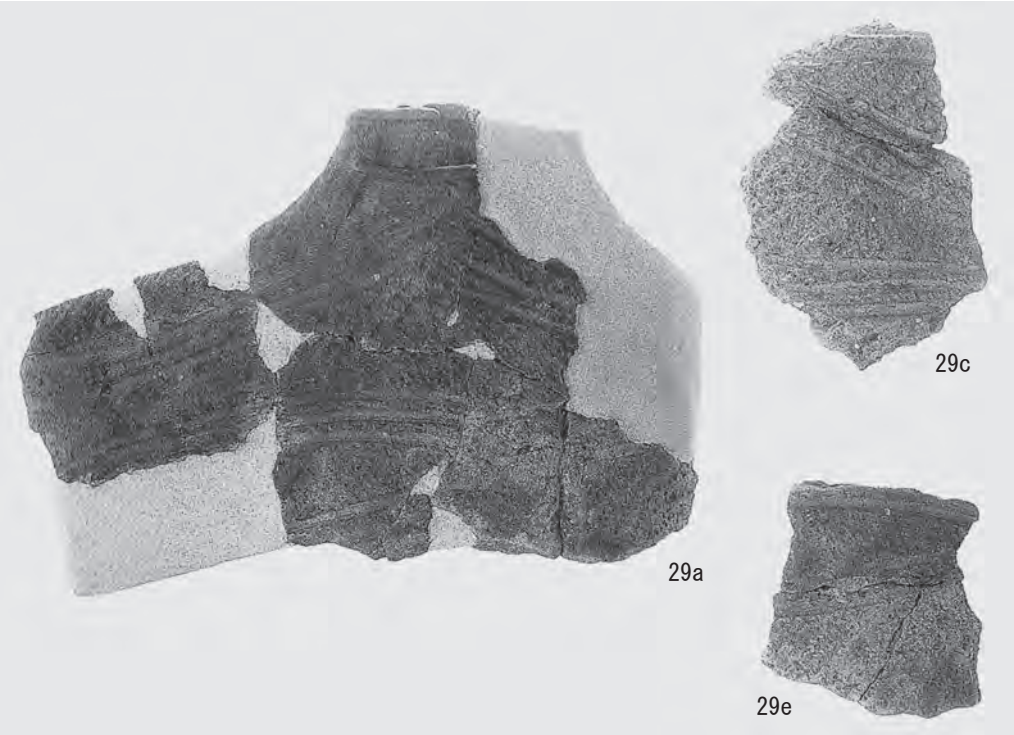
8　遺構外出土土器



1　遺構内出土土器（1）

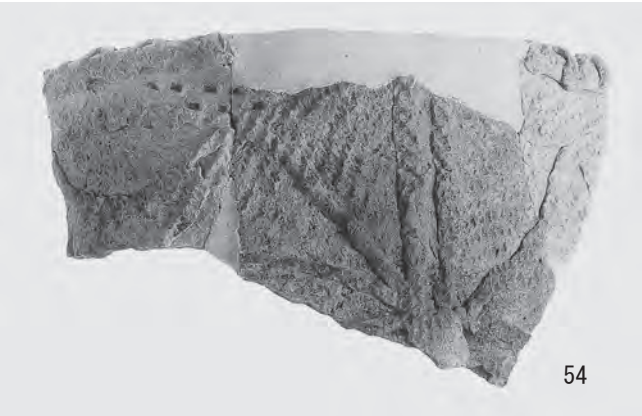


2　遺構内出土土器（2）

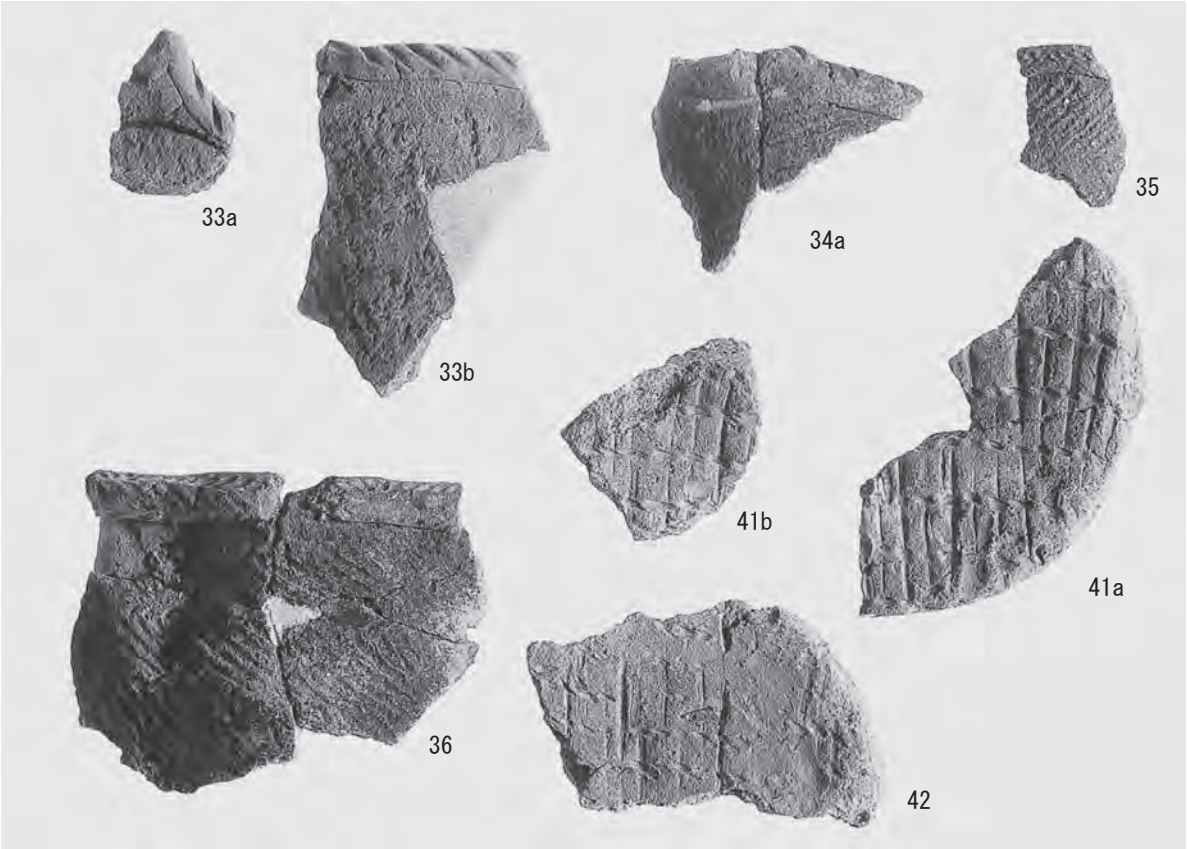


1　遺構内出土土器（３）

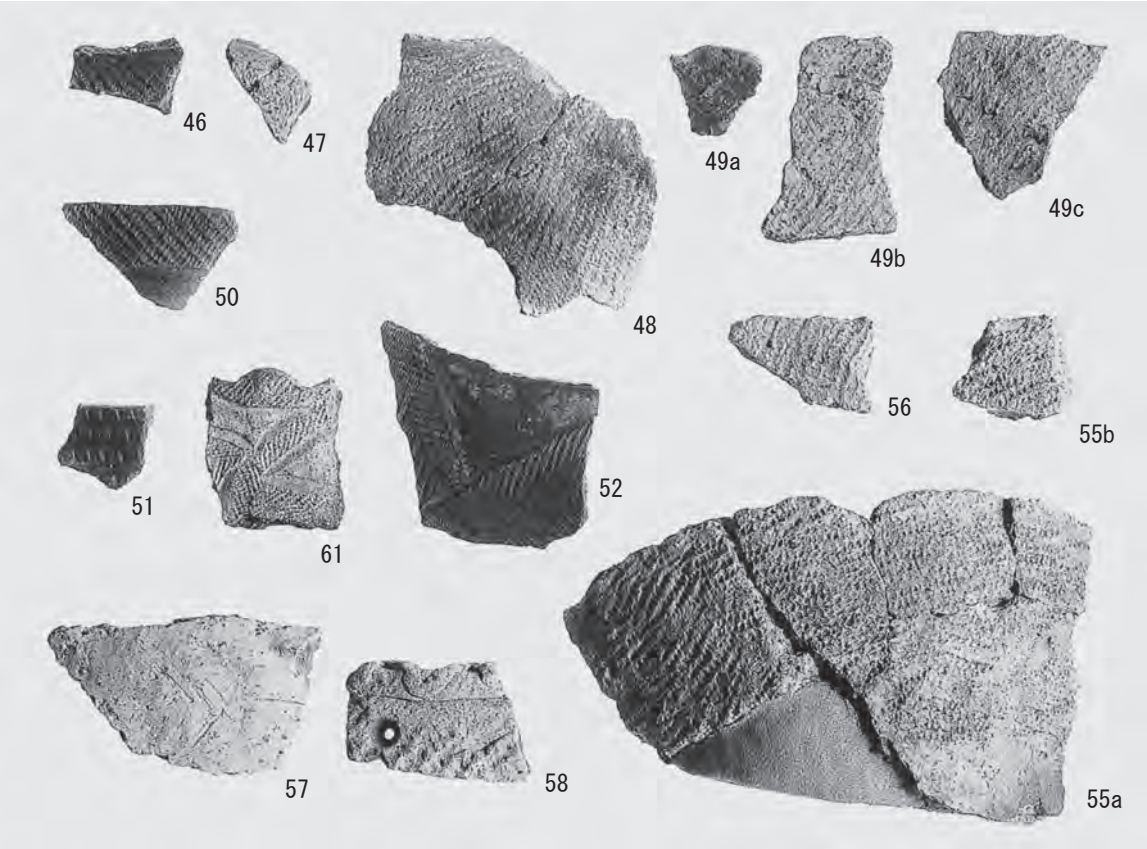
2　遺構内出土土器（４）



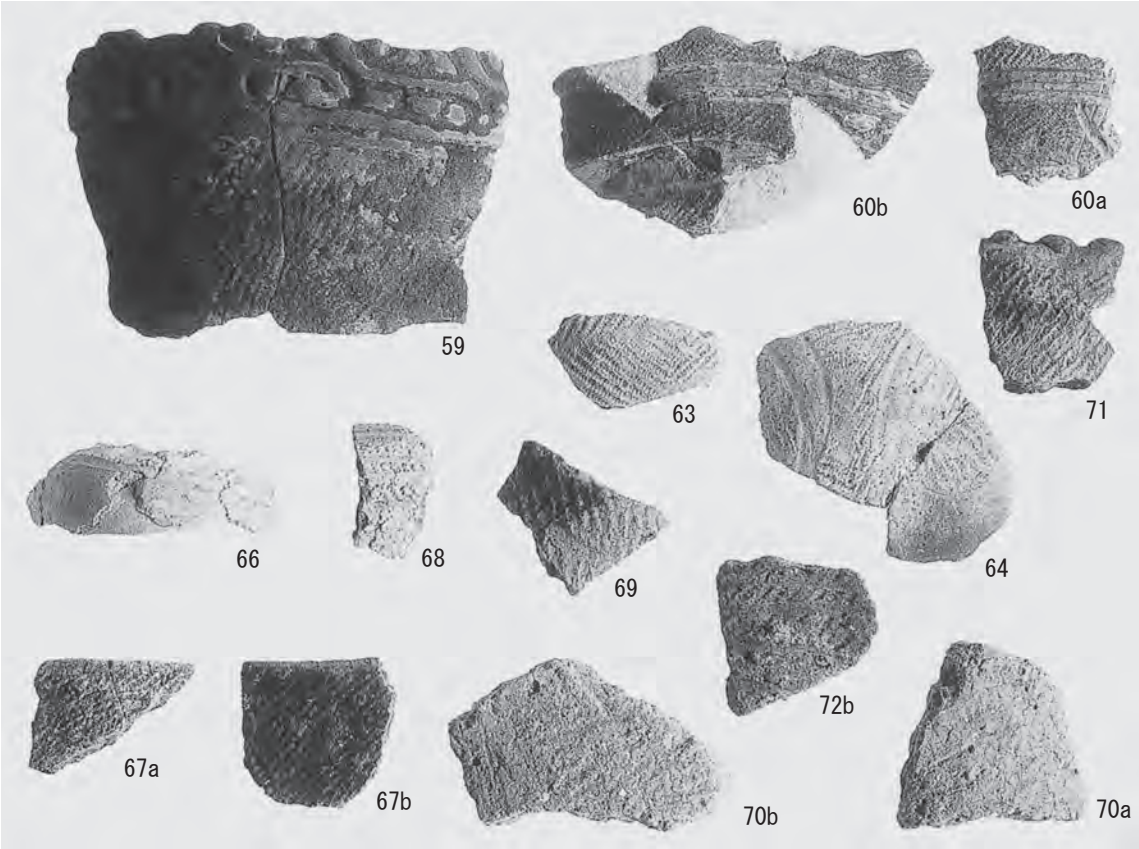
3　遺構内出土土器（５）



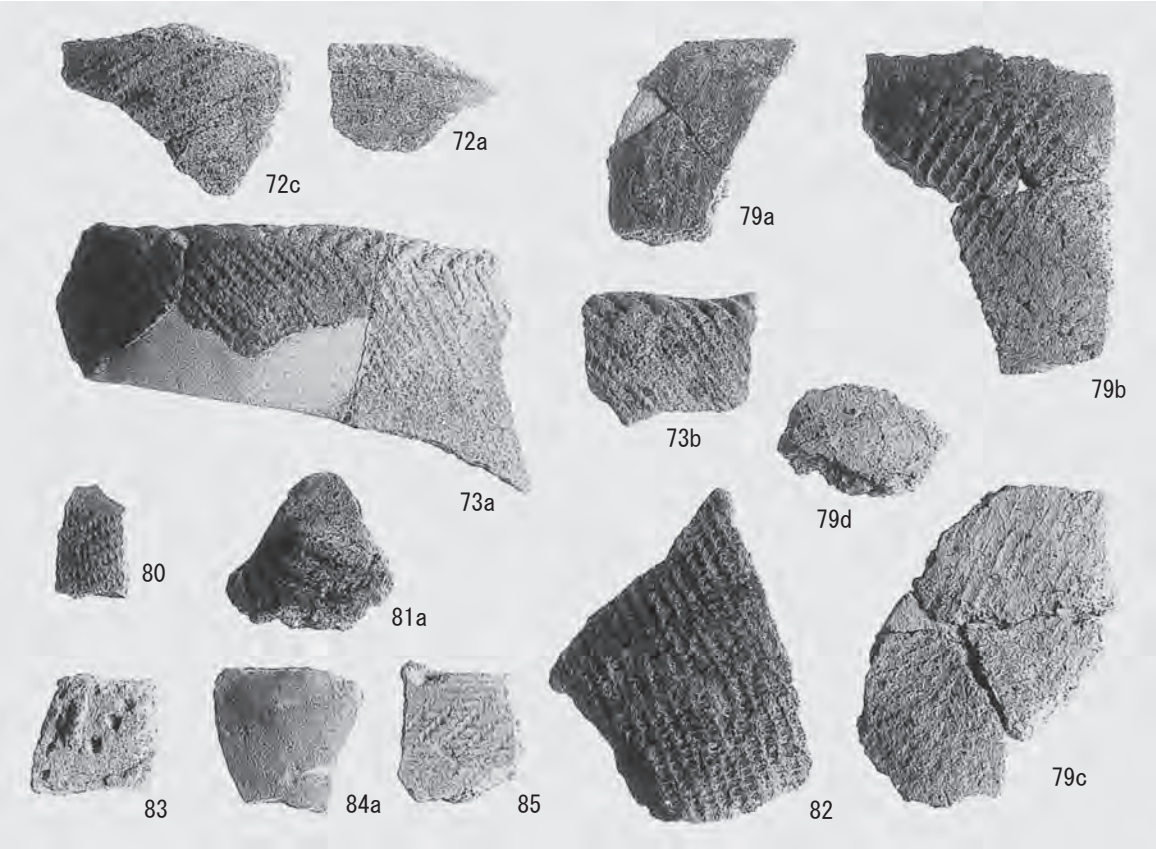
1　遺構内出土土器（6）



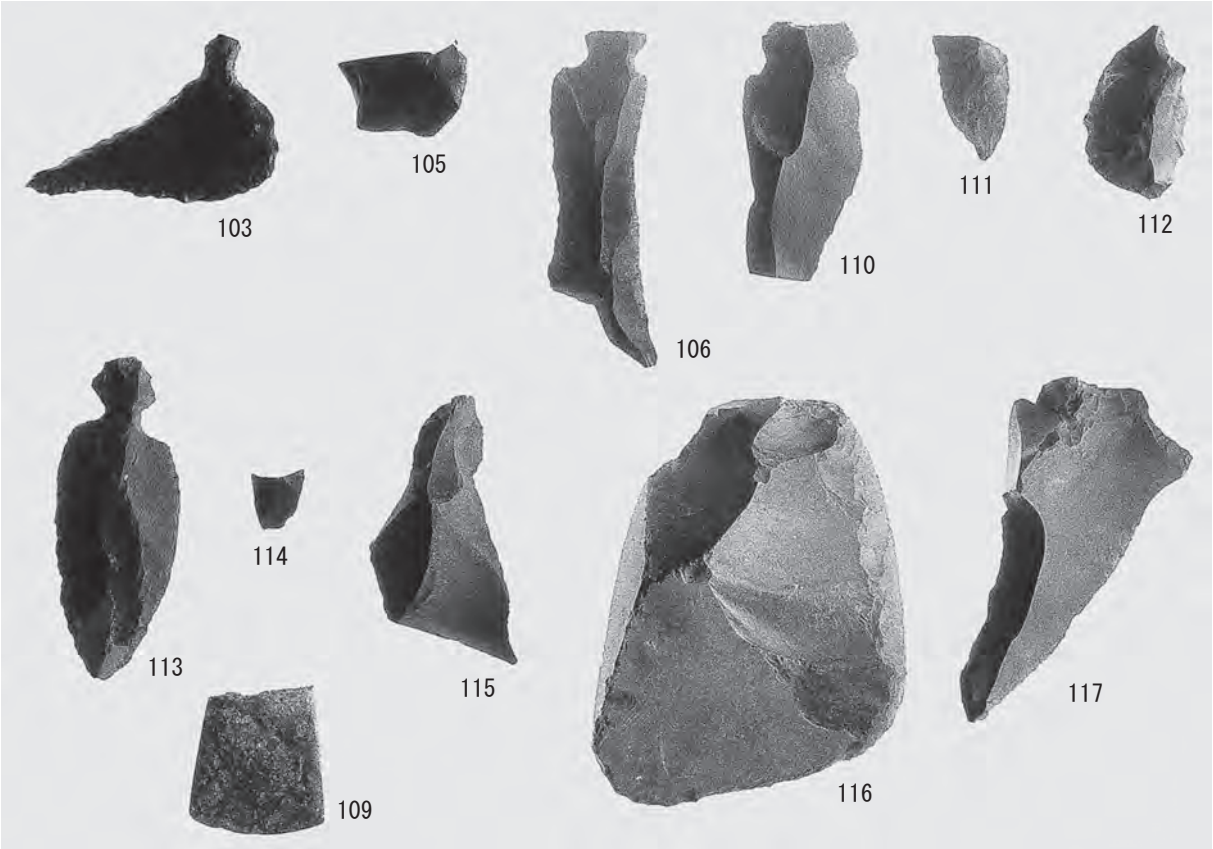
2　遺構内出土土器（7）



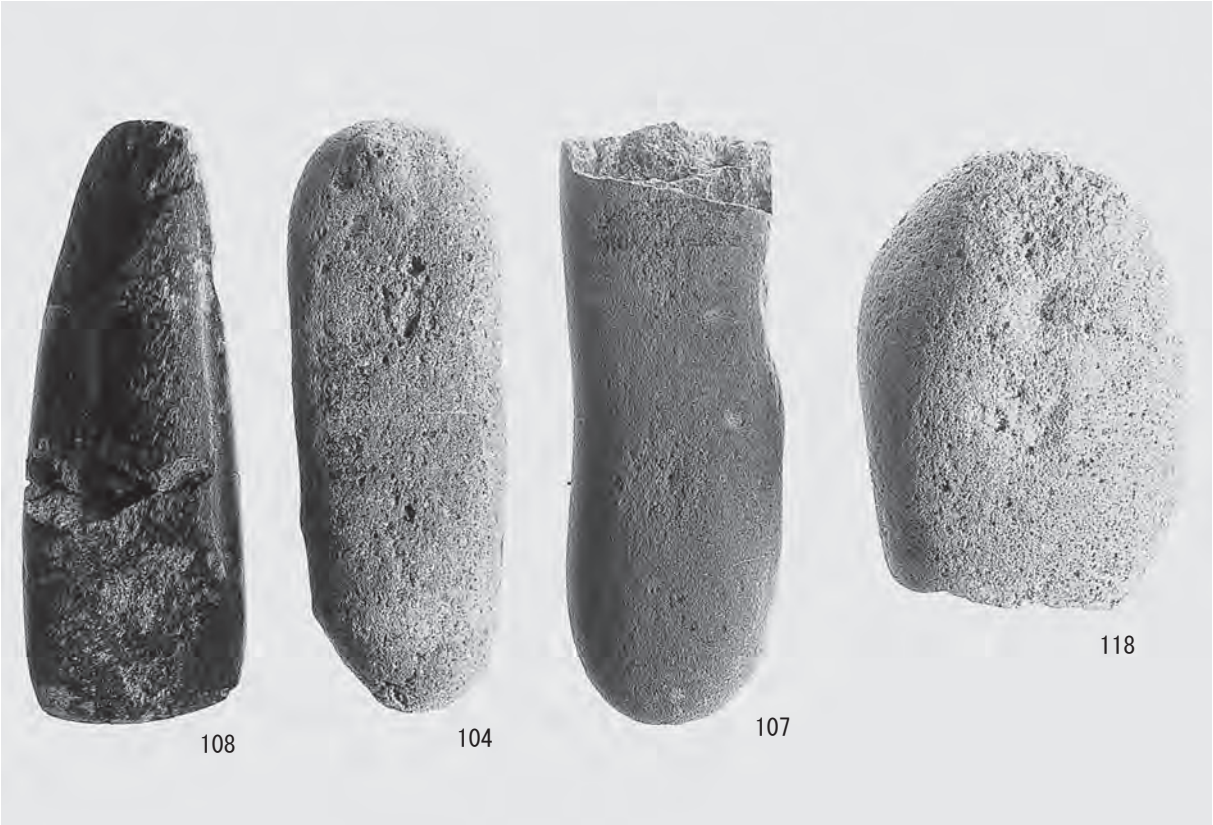
1　遺構内出土土器（８）



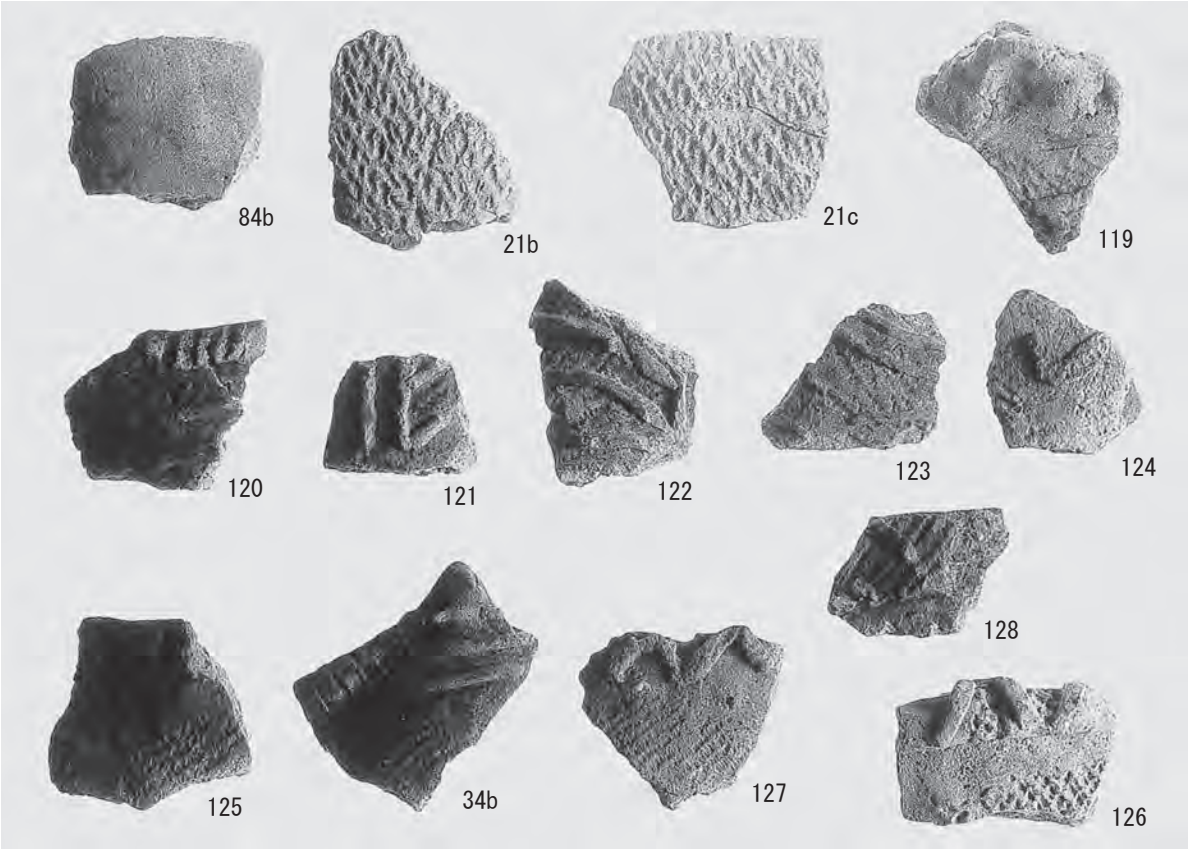
2　遺構内出土土器（９）



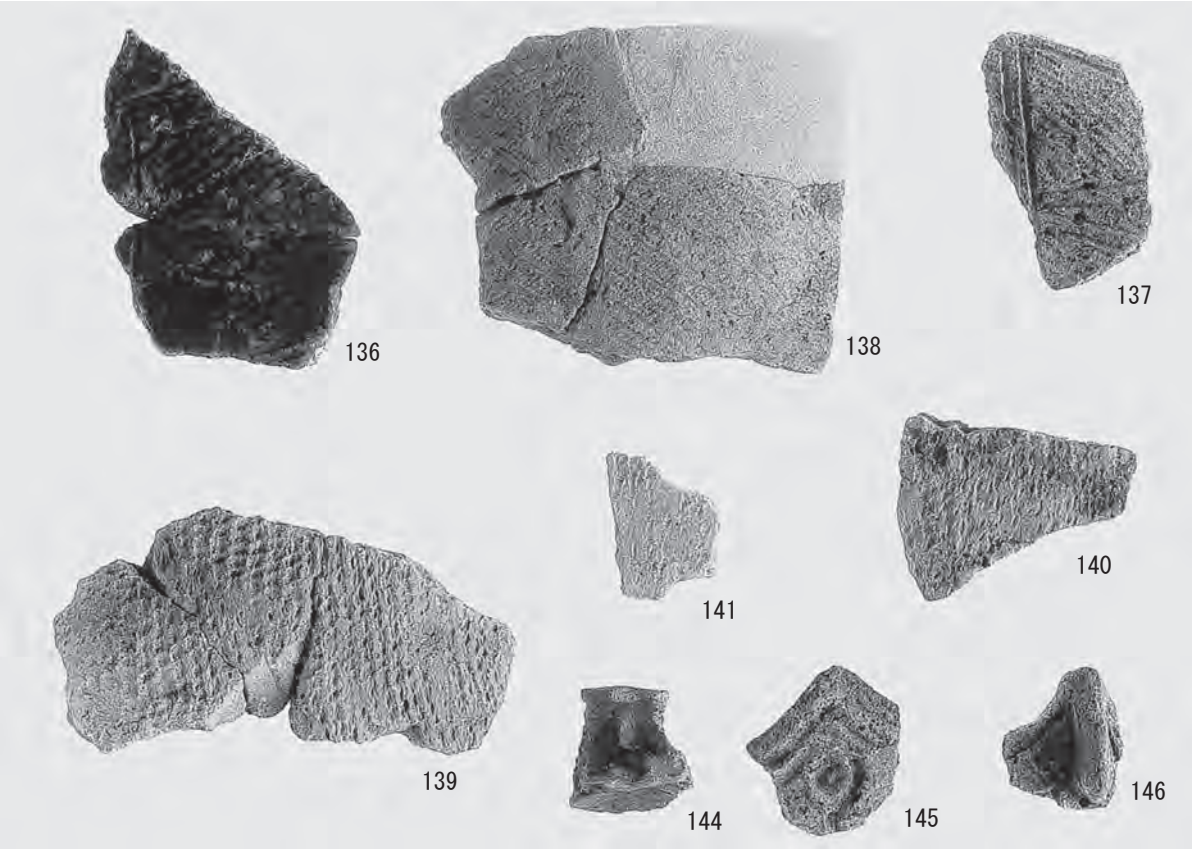
1　遺構内出土石器（1）



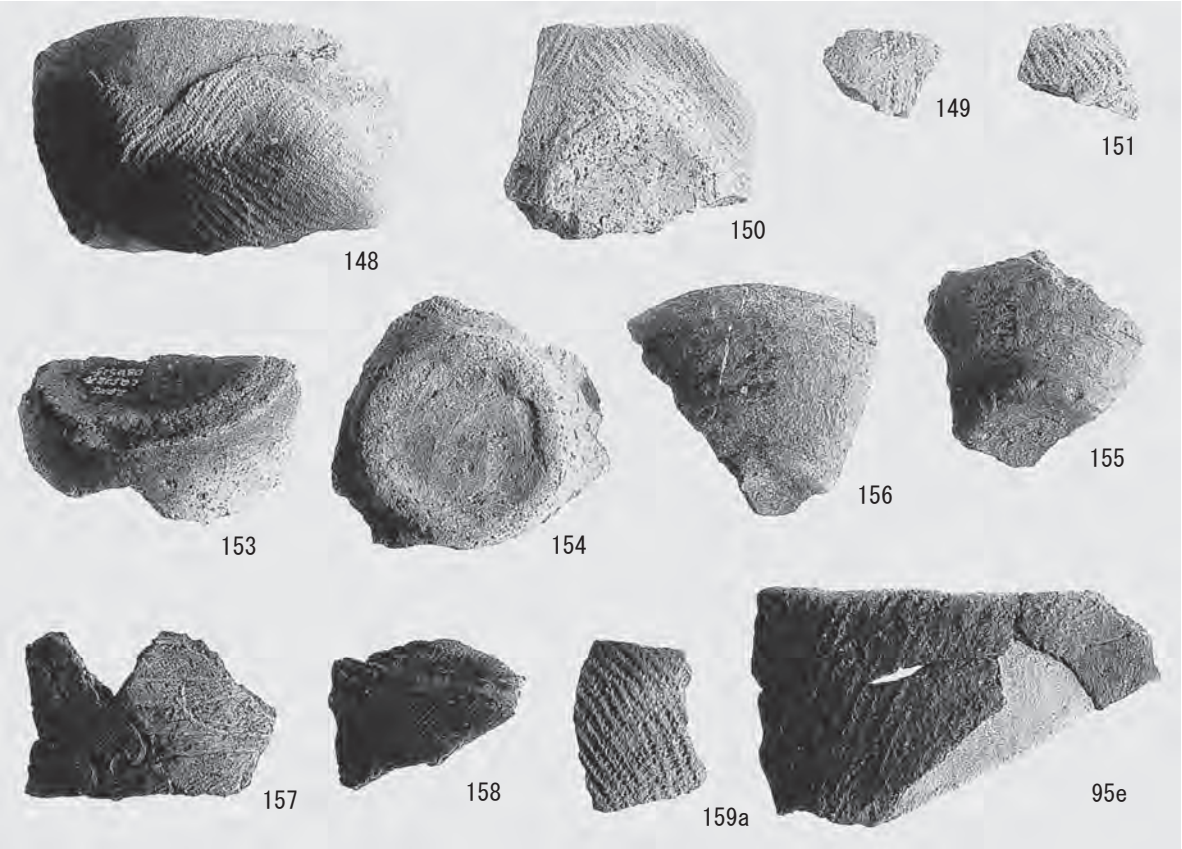
2　遺構内出土石器（2）



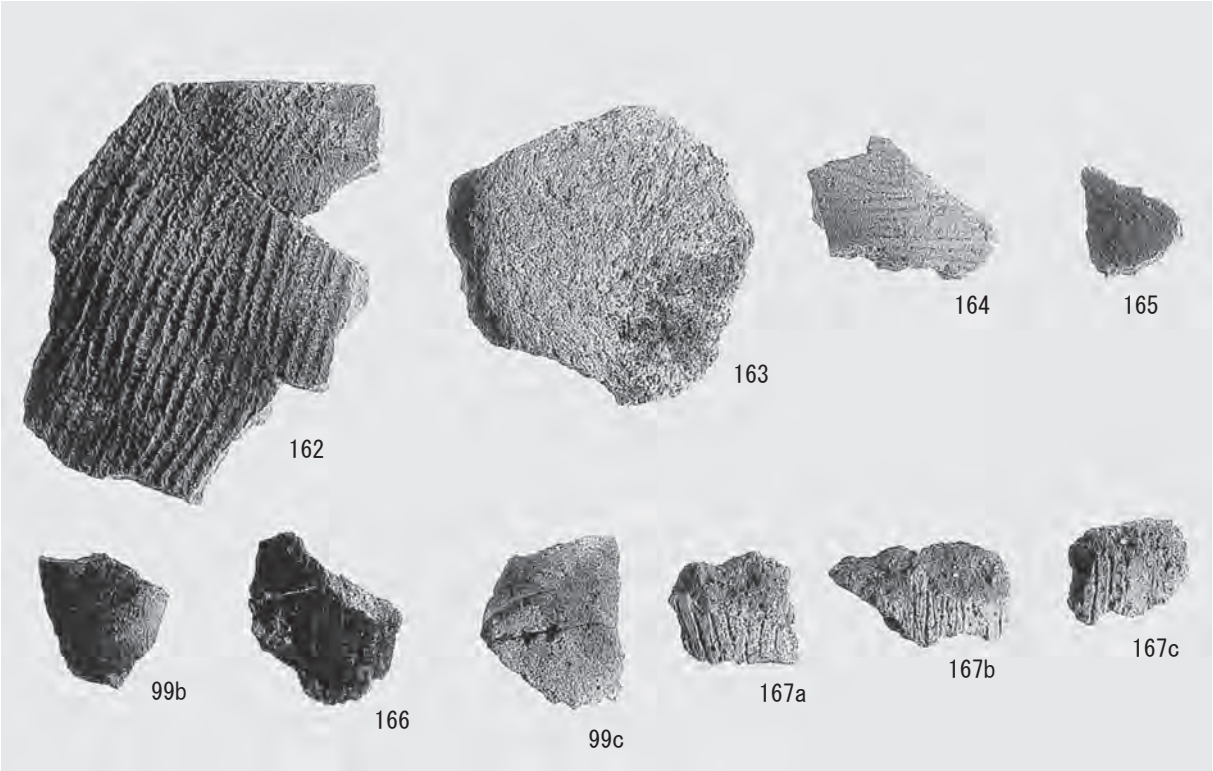
1　遺構外出土土器（1）



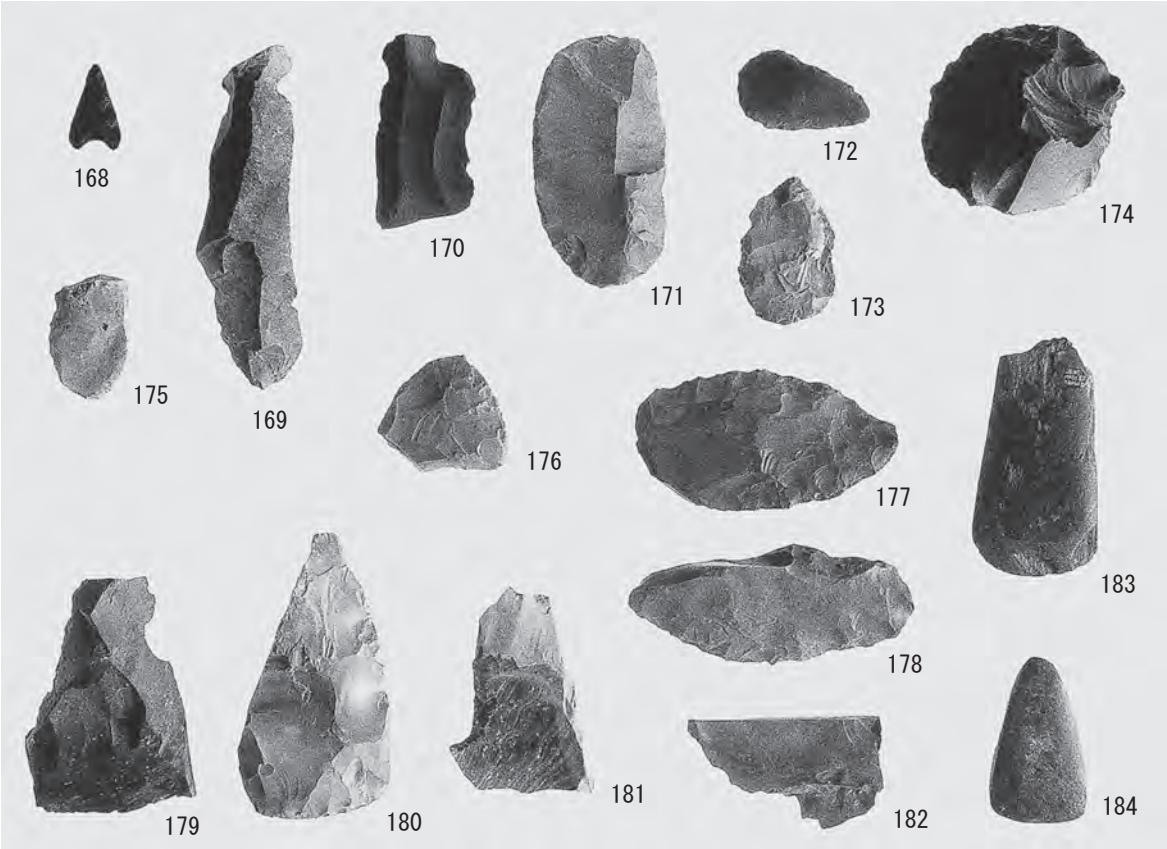
2　遺構外出土土器（2）



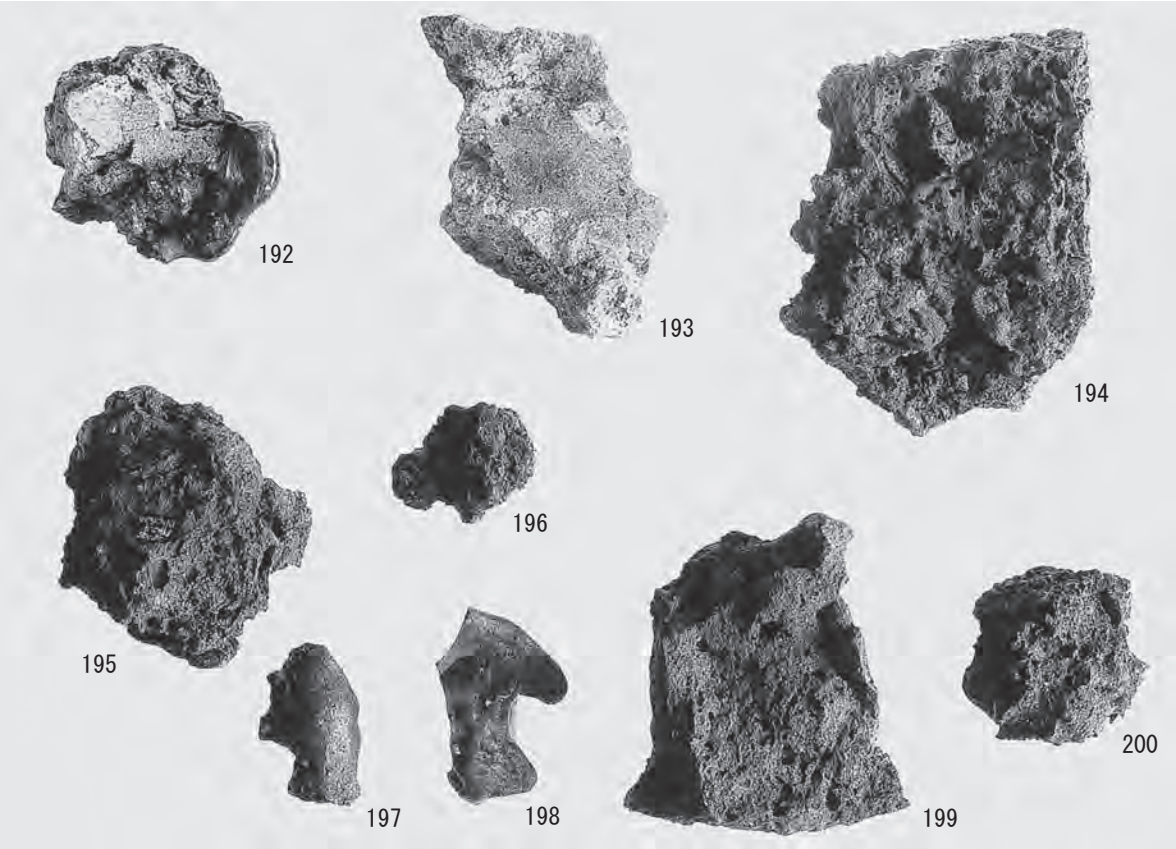
1　遺構外出土土器（3）



2　遺構外出土土器（4）



1　遺構外出土石器



2　遺構内外出土製鉄関連遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	どうのさわいせき
書　　名	堂ノ沢遺跡
副 書 名	一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第449集
編 著 者 名	谷地　薫　　長谷川幹子
編 集 機 関	秋田県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒014-0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　TEL 0187-69-3331
発 行 機 関	秋田県教育委員会
所　在　地	〒010-8580 秋田県秋田市山王３丁目１番１号　TEL 018-860-5193
発行年月日	西暦 2010年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
どうのさわいせき 堂ノ沢遺跡	あきたけんおおだてし 秋田県大館市 おおしないあざどうの 大子内字堂ノ さわ 沢53ほか	052043	204-4-165	40° 13′ 50″	140° 29′ 18″	20080521 ～ 20080805	850㎡	一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堂ノ沢遺跡	集落跡	縄文時代 時代不明	竪穴住居跡　8 土坑　72 焼土遺構　4 配石遺構　1 土坑　7 焼土遺構　5 配石遺構　2 溝跡　2	縄文土器 （早・前・中・後・晩） 弥生土器（前・後） 石器 フイゴ羽口 鉄滓	円筒上層ｅ式 大木８ａ式 十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群 大洞ＢＣ式

要　　約	縄文時代中期後葉円筒上層ｅ式期（竪穴住居跡２棟）、後期後葉十腰内Ⅲ群～Ⅳ群期（竪穴住居跡６棟）の集落跡である。集落内には土坑墓も伴う。集落廃絶後も土坑墓が造営される墓域として晩期前葉まで継続する。土坑墓には副葬土器があるもの、破砕土器片を投入して埋め立てたものもある。土坑墓の位置は、後期後葉では竪穴住居跡と同じく斜面中位であるが、時期が下るとともに斜面上位から平坦面縁辺部へと移り、晩期前葉には平坦面中央部に環状に選地する傾向が認められた。

秋田県文化財調査報告書第449集

堂　ノ　沢　遺　跡

－一般国道７号鷹巣大館道路建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－

印刷・発行　平成22年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地
電話（0187)69-3331　FAX（0187)69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580 秋田市山王４丁目１番２号
電話（018)860－3193
印　　刷　株式会社　大館印刷